

令和3年度

# 研究集録

付 研究論文集



『にげろ! うしだ!!』  
川島町立中山小学校 第1学年  
久保田陽晴さん



『来る日の御伽噺』  
入間市立西武中学校 第3学年  
浅沼舞さん

埼玉県連合教育研究会



ホームページ  
QRコード



## あいさつ

埼玉県連合教育研究会

会長 田 中 民 雄

日ごろ埼玉県連合教育研究会の各事業に対しまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本年度も、会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルスの感染症の猛威は収束せず、新たなオミクロン株の急激なまん延により、学校現場でも感染症対策等に日々ご苦慮されたことと思います。

本研究会におきましても、本年度は、教科等研究団体5団体が、全国大会・関東ブロック大会埼玉大会を開催したわけですが、日々変わる感染者数の推移や埼玉県としての動きを注視しながら、オンライン開催の中で如何にしたら多くの先生方に研究の成果を伝えられるか試行錯誤しながら取り組まれる姿がありました。また、地域教育研究団体におきましても、感染症拡大防止への取組を最優先に考え、集会形式事業規模の縮小や資料の事前送付後のオンライン等による会議等の開催、活動時期の変更等、昨年度の経験を生かし創意工夫を加え研究を推進してまいりました。

思い起こせば、昨年度は、各研究団体の活動の自粛や休止等により、『研究集録付研究論文集』のページ数が減ってしまったという現状でした。しかし、本年度は、教科等研究団体及び地域教育研究団体並びに研究論文入賞者の皆様のご協力により『研究集録付研究論文集』のページ数を一昨年度のページ数以上にし、年度内に刊行できましたことに心より感謝申し上げます。

本年度の『研究集録』は、コロナ禍において、全国大会・関東ブロック大会埼玉大会を開催された教科等研究団体5団体の大会記録をはじめ、各研究団体が団体長を中心にそれぞれに組織体としての知恵を出し合い手間暇を掛けて、研究を推進されてきた『価値のある記録』としてまとめられています。各研究団体が、昨年度1年間の経験を生かし、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期しながら、活動を自粛しながらも創意を生かし、少しでもできることから着実に研究の歩みを進めてこられた姿がこの『研究集録』には綴られています。

『研究論文集』には、本年度応募されました11編の中から、厳正な審査を経て入賞されました研究論文（入選・佳作・新人奨励賞）5編を掲載いたしました。応募されました研究論文は、GIGAスクール構想に先進的に取り組まれた研究や指導と評価の一体化に着目し授業改善を図る研究など、先生方の日々の課題解決に向けた継続的で実践的な研究論文でありました。

今後も会員の皆様におかれましては、積極的に研究論文にご応募くださることを期待しております。

会員の皆様には、是非、この『研究集録付研究論文集』に目を通していただき、変化の激しい中での新たな教育研究の在り方を模索する機会にもしてほしいと願っています。

なお、この『研究集録付研究論文集』は、各学校等に1冊ずつの配付となりますが、本研究会のホームページ【URL <https://sairinkyu.jp>】の「刊行物案内」からスマートフォン等でも気軽にアクセスすることができますので、ご覧いただき、日々の研究活動をより一層充実したものにしていだけますことを期待しております。

結びに、来年度の新型コロナウイルス感染症の収束を祈念しつつ、本研究会のために常に温かいご指導、ご支援を賜りました埼玉県教育委員会及びさいたま市教育委員会並びに公益財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部の皆様方に衷心より御礼申し上げ、刊行のあいさつといたします。

# 目 次

あいさつ…………… 埼玉県連合教育研究会会長 田中 民雄…………… 1

## 研究集録

### I 教科等研究団体等の研究

1	国語教育……………	埼玉県国語教育研究会……………	4
2	書写教育……………	埼玉県書写教育研究会……………	8
3	社会科教育……………	埼玉県社会科教育研究会……………	12
4	算数・数学教育……………	埼玉県算数数学教育研究会……………	16
5	理科教育……………	埼玉県理科教育研究会……………	20
6	音楽教育……………	埼玉県音楽教育連盟……………	24
7	図画工作・美術教育……………	埼玉県美術教育連盟……………	28
8	保健体育教育……………	埼玉県保健体育研究会……………	32
9	英語教育……………	埼玉県英語教育研究会……………	36
10	道徳教育……………	埼玉県道徳教育研究会……………	40
11	特別活動……………	埼玉県特別活動研究会……………	44
12	進路指導・キャリア教育……………	埼玉県進路指導・キャリア教育研究会……………	48
13	視聴覚教育……………	埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会……………	52
14	教育心理・教育相談……………	埼玉県教育心理・教育相談研究会……………	56
15	特別支援教育……………	埼玉県特別支援教育研究会……………	60
16	学校図書館教育……………	埼玉県学校図書館協議会……………	64
17	中学校技術・家庭科教育……………	埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会……………	68
18	小学校家庭科教育……………	埼玉県小学校家庭科教育研究会……………	72
19	生活科・総合的な学習の時間教育……………	埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会……………	76
20	本校の研究の取り組みについて……………	埼玉大学教育学部附属小学校……………	80
21	埼玉大学教育学部附属中学校……………	埼玉大学教育学部附属中学校……………	84

### II 全国教育研究発表大会・関東地区教育研究発表大会 埼玉大会の報告

1	第103回全国算数・数学教育研究(埼玉)大会、第76回関東甲信静数学教育研究埼玉大会……………	90
2	第65回全国特別活動研究協議大会埼玉大会、第13回関東地区特別活動研究協議大会埼玉大会……………	91
3	第50回関東甲信越中学校道徳教育研究大会埼玉大会、第60回埼玉県道徳教育研究大会幸手大会……………	92
4	令和3年度関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会埼玉大会、第71回関東甲信越地区放送教育研究大会 第68回関東甲信越学校視聴覚教育研究大会、第25回埼玉県メディア活用研究大会……………	93
5	第37回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会埼玉大会、第57回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会……………	94

### III 地域教育研究団体の研究

1	戸田市教育研究会……………	96
2	和光市教育研究会……………	98
3	上尾市教育研究会……………	100
4	川越市教育研究会……………	102
5	富士見市教育研究会……………	104
6	坂戸市教育研究会……………	106
7	三芳町教育研究会……………	108
8	小川班教育研究会……………	110
9	菅谷班教育研究会……………	112
10	秩父教育研究会……………	114
11	児玉郡本庄市教育研究会……………	116
12	深谷市教育研究会……………	118
13	行田市教育研究会……………	120
14	久喜市教育研究会……………	122
15	幸手市教育研究会……………	124
16	杉戸町教育研究会……………	126

## 研究論文集

### I 令和3年度研究論文入賞者・応募者等一覧…………… 130

< 入 選 >《個人研究》 器械運動の楽しさを味わい、主体的に運動に取り組む児童を育成する体育科授業の事例的研究 ～「評価」を助ける観察的評価法の開発と学習カード、ICTの活用に焦点を当てて～【体育】……………	132
三郷市立早稲田小学校 教諭 中嶋 圭一郎	
< 入 選 >《個人研究》 自尊感情・学級集団意識を向上させる体育授業の研究 ～「ゲーム修正論」「戦術アプローチ」を基にした「陣取り型ゲーム」の系統的指導 に関する検討と実践～【体育】……………	138
さいたま市立善前小学校 教諭 中村 直紀	
< 入 選 >《個人研究》 自らが主体的にいのちを守る力を育む防災教育をめざして ～中学校社会科地理的分野「地域調査の手法」の単元開発を通して～【社会】……………	144
久喜市立栗橋西中学校 教諭 青柳 慎一	
< 佳 作 >《個人研究》 入院中の生徒へのICTを活用した校外学習の取組 ～コロナ禍でもできる！ 体験的活動への試み～【総合的な学習の時間】……………	150
埼玉県立けやき特別支援学校 教諭 橋本 幹征	
< 新人奨励賞 >《個人研究》 外国語科における「話すこと」の思考力、判断力、表現力の育成 ～3ヒントクイズを通じて宣言的知識と手続き的知識を統合、活用する児童を目指して～【外国語科】……………	156
さいたま市立下落合小学校 教諭 有江 聖	

### II 令和4年度研究論文募集要領等…………… 162

## 令和3年度埼玉県連合教育研究会役員等名簿…………… 166

あ と が き……………	編集委員長 富田 敦……………	171
○ 表紙絵 「令和3年度身体障害者福祉のための第63回埼玉県児童生徒美術展覧会」埼玉県連合教育研究会会長賞受賞 ・「にげろ！ うした！」 川島町立中山小学校 第1学年 久保田 陽晴 さん ・「来る日の御伽噺」 人間市立西武中学校 第3学年 浅沼 舞 さん		
○ 表紙の題字 埼玉県連合教育研究会 上 丞 啓介 元会長		

令和3年度

# 研究集録

## I 教科等研究団体等の研究

1	埼玉県国語教育研究会	4
2	埼玉県書写教育研究会	8
3	埼玉県社会科教育研究会	12
4	埼玉県算数数学教育研究会	16
5	埼玉県理科教育研究会	20
6	埼玉県音楽教育連盟	24
7	埼玉県美術教育連盟	28
8	埼玉県保健体育研究会	32
9	埼玉県英語教育研究会	36
10	埼玉県道徳教育研究会	40
11	埼玉県特別活動研究会	44
12	埼玉県進路指導・キャリア教育研究会	48
13	埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会	52
14	埼玉県教育心理・教育相談研究会	56
15	埼玉県特別支援教育研究会	60
16	埼玉県学校図書館協議会	64
17	埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会	68
18	埼玉県小学校家庭科教育研究会	72
19	埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会	76
20	埼玉大学教育学部附属小学校	80
21	埼玉大学教育学部附属中学校	84

# 1 国語教育

## 埼玉県国語教育研究会

### I 研究主題と事業

#### 1 研究主題

「生活に生きて働く国語の能力の育成をめざす授業の創造」

#### 2 事業

- ・国語教育夏季研修大会（オンライン開催）
- ・国語教育研究発表大会（オンライン開催）
- ・地区別国語科授業研究会
- ・研究委嘱校授業研究会
- ・中学校国語学力向上対策事業（学力調査）
- ・「令和3年度国語教育研究集録」の発刊

### II 活動状況

#### 1 新旧合同理事研修会 ※書面議決による開催

- (1) 令和2年度会務報告
- (2) 令和2年度決算報告
- (3) 令和2年度監査報告
- (4) 新役員および常任理事の選出
- (5) 令和3年度研究主題案及び研究方針案についての審議
- (6) 令和3年度事業内容案及び事業計画案についての審議
- (7) 令和3年度予算案についての審議

#### 2 国語教育夏季研修大会提案者・司会者

打合せ会 6月29日(火)

#### 3 国語教育夏季研修大会 8月6日(金)

- (1) 分科会 小学校4 中学校1 分科会
- (2) 講演  
上智大学総合人間科学部教育学科  
教授 奈須 正裕 先生  
演題 「国語教育に期待するもの」
- (3) 参加者数 約300名

#### 4 地区別国語科授業研究会

- (1) 八潮市立大瀬小学校 11月19日(金)

(2) 富士見市立針ヶ谷小学校 12月3日(金)

(3) 川口市立根岸小学校 紙面発表

(4) 熊谷市立新堀小学校 紙面発表

#### 5 研究委嘱校研究発表会

・蕨市立西小学校 11月2日(火)

#### 6 国語教育研究発表大会発表者・司会者・指導者打ち合わせ会 12月15日(水)

#### 7 国語教育研究発表大会 2月9日(水)

(1) 分科会 小学校3 中学校1 分科会

(2) 講演

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事 近藤 正紀 先生

### III 研究内容

#### 1 国語教育夏季研修大会

(1) 提案者・提案主題名・指導者・司会者

○小学校 ①分科会

・提案者1

齊藤 悠 羽生市立羽生南小学校

「自ら学び、互いに高め合う児童の育成

～各教科を通して思考力・判断力・表現力を育むための指導の工夫～」

・提案者2

倉田 亜由美 所沢市立北秋津小学校

「主体的、協同的に学び合う児童の育成

～仲間と話し合いながら、文章を読む楽しさを味わう授業～」

・指導者 菊地 孝徳 戸田市教育委員会

・司会者 渡邊かんな 鴻巣市立鴻巣東小学校

○小学校 ②分科会

・提案者1

土田 凌平 杉戸町立西小学校

「自分の思いや考えをもち、豊かに表現できる児童の育成

～国語科を中心とした学習活動の工夫を通して～」

- ・提案者2  
伊藤理恵子 春日部市立武里小学校  
「確かな読みをもとに、豊かな学びを追求する  
児童の育成  
～効果的な言語活動と意図的な共有の場を設  
定することで児童の伝え合う力を高める～」
- ・指導者 小太刀 周 所沢市立和田小学校
- ・司会者 中村 洋敬 北本市立中丸小学校

#### ○小学校 ③分科会

- ・提案者1  
大野千帆子 北本市立石戸小学校  
「考えをまとめ、伝え合う児童の育成  
～言語活動の充実を図る取組を通して～」
- ・提案者2  
川田 翔人 川越市立南古谷小学校  
「自ら学び続ける児童の育成  
～できる喜びを感じる指導の研究～」
- ・提案者3  
強瀬加代子 深谷市立大寄小学校  
「思いや考えを生き生きと伝え合う児童の育成  
～主体的・対話的で深い学びを中心として～」
- ・指導者 大澤 美和子 加須市教育委員会
- ・司会者 飯野 有希野 久喜市立三箇小学校

#### ○小学校 ④分科会

- ・提案者1  
宮田 寛之 草加市立川柳小学校  
「学ぶ喜びを味わわせる国語教室  
～ユニバーサルデザインの視点を生かして～」
- ・提案者2  
田中 真司 滑川町立宮前小学校  
「確かな読みの力を育む国語科授業の研究  
～『鳥獣戯画』を読む』の実践を通して～」
- ・提案者3  
中村 雅樹 越谷市立越ヶ谷小学校  
「友と学び合い、心たくましく生き抜くことの  
できる越小っ子の育成  
～主体的・対話的で深い学びのある授業づく  
りの創造～」
- ・指導者 田辺 鉄章 深谷市立桜ヶ丘小学校
- ・司会者 市川 琴美 所沢市立明峰小学校

#### □中学校分科会

- ・提案者1  
町田 千尋 日高市立武蔵台中学校  
「自立した学習者の育成を目指す単元学習  
～日高市立図書館と連携した授業実践 武蔵  
台中書店開店「私の書店」を紹介しよう～」
- ・提案者2  
佐藤 美幸 行田市立埼玉中学校  
「確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ生徒を  
育成する授業改善  
～指導と評価の一体化に向けた授業展開の工  
夫～」
- ・指導者 大澤 聡 上尾市立大石南中学校
- ・司会者 加藤 拓海 ふじみ野市立葦原中学校

## 2 国語教育研究発表大会

### (1) 発表者・研究主題名・指導者・司会者

#### ○小学校 ①分科会

- ・発表者  
吉田 夏絵 行田市立荒木小学校  
「自分の思いや考えをもち、表現できる児童の  
育成  
～国語科「読むこと」における授業改善をと  
おして～」
- ・指導者 本橋 幸康 埼玉大学教育学部
- ・司会者 池山 通 朝霞市立朝霞第五小学校

#### ○小学校 ②分科会

- ・発表者  
小川祐太郎 熊谷市立新堀小学校  
「自分の考えが伝わるように書きたい！書け  
る！児童の育成  
～『書くこと』における深い学びを目指し  
た授業づくり～」
- ・指導者 熊谷 徹 東部教育事務所
- ・司会者 影森 里美 富士見市立みずほ台小学校

#### ○小学校 ③分科会

- ・発表者  
吉野学之紀 越谷市立新方小学校  
大森 千聖 越谷市立新方小学校  
「伝記への興味関心を高める国語授業の在り方  
『全文シート』による、文学的作品の深い学

びの実現化」

- ・指導者 阿部慎一郎 春日部市教育委員会
- ・司会者 鯨井 佳恵 熊谷市立江南南小学校

□中学校分科会

- ・発表者  
櫻井亜莉沙 越谷市立富士中学校  
「情報を集め、資料や機器を活用して伝える力・話し合う力を育成するための授業提案」
- ・指導者 藤間 昌子 加須市立北川辺中学校
- ・司会者 宇野 和歩 吉川市立東中学校

### 3 中学校国語学力調査 (第 62 回)

(1) ねらい

中学生一人一人の国語学力の実態や問題点を把握し、学習指導の工夫・改善に役立てる。

(2) 調査の分野・領域・資料文

①文学的文章の読解・鑑賞

- 1年『ヨンケイ!!』 (天沢 夏月)
- 2年『氷柱の声』 (くどう れいん)
- 3年『バケモンの涙』 (歌川たいじ)

◎文章中の登場人物の心情や展開を、表現に即して読み取る力を確かめる問題を出題した。

②説明的文章の読解

- 1年『植物のいのち』 (田中 修)
- 2年『私の顔はどうしてこうなのか』  
(溝口 優司)
- 3年『読書をする子は〇〇がすごい』  
(榎本 博明)

◎文章内容や構成、要旨等を、正しく読み取る力を確かめる問題を出題した。

③放送による問題 (会話を聞く)

- 1年 委員会の活動報告
- 2年 百人一首の遊び方についての話し合い
- 3年 ごみのポイ捨てをなくすための話し合い
  - ・話の概要を聞き取る問題  
(話題の中心・意見の根拠 等)
  - ・話の組み立て方の特徴や工夫をつかむ問題

④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関する問題

- 1年 主語を問う問題
- 2年 品詞の種類 (連体詞と形容詞) を問う問題

3年 助動詞の用法 (可能) を問う問題

なお、一昨年度より3年生のみ古典の問題を新設した。

主語、歴史的仮名遣い、内容を問う問題を出題した。

⑤漢字の読み書き

⑥作文

・事例や根拠を挙げて自分の考えを構成に注意して書く。

生徒にとって身近な話題や場面を設定し、資料から読み取ったこと等を踏まえて、自分の意見を述べる力について、その実態把握を目指した。

(3) 参加校状況

①参加校 12校

②地域別参加校数

- さいたま… 4
- 南 部… 2
- 西 部… 1
- 北 部… 2
- 東 部… 2
- 国県私立… 1

③参加生徒数 2,276名

④学年別参加生徒数

- 1年… 673名
- 2年… 786名
- 3年… 817名

(4) 改善点

○国の教育施策との関連

調査結果を国の教育施策 (全国学力・学習状況調査) と関連させ、「知識」を問う問題と「知識を活用」する問題を作成した。

考察結果を報告書に掲載した。

(5) 結果の報告

埼玉大学、県教育委員会の指導・助言を得て集計処理し、問題ごとの正答率、誤答分析、指導のための方策等を含めて報告を行う。また、報告書 (A4判) を実施中学校宛に送付する。

#### IV その他

令和3年度は、令和2年度の知見を生かし、新型コロナウイルスの影響を踏まえた上で、様々な行事を工夫して行うことができた。

具体的な成果としては、

- 理事による議案の決議を、書面を通して行うことができたこと。
- 委嘱校発表では、紙面発表や授業動画の公開、研究協議の仕方等を工夫することで開催することができたこと。
- 大会行事やそれに関わる打合せ等も、オンラインによって実施することができたこと。
- 特に令和2年度に中止となった夏季研修大会を実施できたことは大きな成果といえる。  
以下は参会者の声を抜粋したものである。
  - ・ 授業実践や研究内容を具体的に知ることができた。また、ICTの活用の様子も参考になった。
  - ・ 図書館と連携した授業の実践は、とてもよいと思った。生徒たちも一般の人に見てもらおうというのは、良い動機付けになり、意欲を高められると感じた。
  - ・ 他県での国語教育の取組を見る貴重な機会となった。地域を越えて、多くの先生方とつながることができてよかった。広く門戸を開けていただいたことに感謝している。
  - ・ 振り返りの大切さを改めて感じた。振り返りのポイントを知ることができた。
  - ・ 評価について、数多くの具体的実践事例を用いて説明されていたので、具体的なイメージをもつことができた。また、指導助言の内容が大変分かりやすく勉強になった。
  - ・ 奈須先生の御講演では、これまで多くの教員が当たり前のように行ってきた教育を変革することの意味を考えることができた。
  - ・ 国語科の課題や、ICTが主流になっていくこれからの国語科のことを多角的な方面からアプローチしたお話を聞くことができて、とても勉強になった。特に子供たちが、既習した事を使うことができるように指導しなければ意味がない、というお話に、はっとさせられた。本物を教えられるように精進していきたいと思う。また、ぜひ、このような研修会を開催していただきたい。
  - ・ 今回はオンラインでの開催であったため、大変参加しやすく、また、講演を聞きながらパソコンでメモ

を取れるというメリットもあった。

- ・ オンライン開催を夏休み期間にさせていただき、他県からでも時間的な余裕をもって参加することができた。場所は違えど、現場で奮闘されている先生方の実践を聞くことができ、また、御講演では、今後指導する際に気を付けなければならないことも知ることができた。
- ・ 今の時代に私たちが目指すべき国語科の学習指導について御講演いただき、大変勉強になった。「今までやってきたから」というだけの理由で慣習的に行っていた学習活動を一度見直すべきだと強く感じた。
- ・ この「夏の大会」が埼玉県とさいたま市の貴重な情報交換の機会であると考えている。今後も埼玉県そして、さいたま市からも多くの方に参加していただけることを願っている。
- ・ 授業や指導においては、何が目的で、そのために何が必要で何が不必要かをシンプルに整理していくことで、時間も生まれてくるのではないかと感じた。

一方で、オンラインならではの難しさも御指摘いただいた。

- ・ よい実践ばかりであったことを考えると、もっと分科会の時間を確保してほしい。
- ・ 直接質問するよさもあったと思う。今後、対面での実施があれば参加したい。
- ・ チャット機能をもっと活用して意見を交流できればよかった。また、そこから他校の先生とのつながりをつくっていくこともできたと思う。
- ・ 実践をより詳しく聞くために、提案者の人数をしばっていただきたい。
- ・ 分科会では、よりたくさんの先生方の意見が聞けるように、分科会に参加される先生方全員に指導案に則した内容で実践していることを事前に考えていただき、一人一人の意見が聞けるような場面をプログラムに組み込んでもよい。
- ・ オンラインであっても、協議をどのように充実させるかを検討していきたい。

こうした成果や課題を業務改善と併せて次年度に引き継ぎ、さらに県内の国語教育が発展していけるよう支援をしていきたい。



# 2 書 写 教 育

埼玉県書写教育研究会

## I 研究主題と方針

### 1 研究主題

「書字文化を育む書写教育」

### 2 主題設定の理由及び方針

新型コロナウイルスの流行に加え、現代は何が起こるか予測不可能なVUCA時代と言われています。世の中全体が転換期にあり、どの業界も変容が求められています。学校や教育界もしかりで、その在り方について社会の変化に対応しながら新たな形が模索されている今、その答えを切り拓いていかなければなりません。学校教育では、小学校及び中学校で新学習指導要領が全面実施となり、コロナ感染予防に配慮しながら各学校が学びに取組んでいます。高等学校におきましては、次年度からの実施となります。新学習指導要領国語科の書写では、授業改善や文字文化について触れられており、それらに視点を置いた学びの充実が求められています。また、国のGIGAスクール構想により、一人一台タブレットを使った学びが始まりました。「新しい学び方」に大いに期待が膨らむところです。一方で、書字の時間が減り書写教育が疎かにならないかと書写指導に携わる者にとっては懸念も高まっているのではないのでしょうか。これらを鑑みて、本年度の研究主題を「書字文化を育む書写教育」としました。

本年度も本研究会では、小学校低学年の水書用筆を用いた指導方法や、小・中学校で育む書写の力と高等学校芸術科書道へと繋げる書写教育を目指す実技研修会や授業研究会などを通して教員の指導力向上を図り、楽しさと喜びのある書写教育を推進する事業計画を立てました。しかしながら、上述の事業はコロナ禍で実施することができず、昨年度に引き続き、誠に残念な一年となりました。改めて次年度に期待を寄せております。

結びに、平素より埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会の先生方に御指導と御協力を賜り、また各地区の先生方の御協力に厚く御礼を申し上げます。先生方には、今後も本研究会の取組を書写教育の指導にお役立ていただければ幸いです。引き続きよろしくお願ひします。

※VUCA=「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」  
「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」

## II 活動状況

### 1 役員会の概要

- (1) 4月20日(火) 理事会 さいたま市民会館おおみや  
○県硬筆展覧会開催要項・審査規程審議
- (2) 5月14日(金) 総会・研究協議会・講演会 [中止]  
浦和コミュニティセンター  
○総会・研究協議会・講演会
- (3) 6月1日(火) 常任理事会 杉戸町西公民館  
○県硬筆展覧会本部・開催地区協議会  
○本部事務分担及び計画  
○県書きぞめ展覧会語句選定・開催要項案審議
- (4) 6月23日(水) 理事会 杉戸町西公民館  
○県硬筆展覧会作品審査会  
○県書きぞめ展覧会開催要項案審議
- (5) 10月5日(火) 理事会 県民活動総合センター  
○県書きぞめ展覧会開催要項・審査規程審議
- (6) 11月19日(金) 常任理事会 新座市役所  
○県書きぞめ展覧会本部・開催地区協議会  
○県硬筆展覧会語句選定・開催要項案作成
- (7) 1月26日(水) 書きぞめ審査会 新座市役所  
○県書きぞめ展覧会作品審査会

### 2 研究発表会の概要

- (1) 小中高等学校書写書道教育研究協議会 [中止]  
○期 日 令和3年5月14日(金)  
○会 場 浦和コミュニティセンター  
○研究発表者・発表テーマ  
①「楽しく学ぶ書写授業」  
三芳町立藤久保小学校教諭 奥富 浩 先生  
②「自分で意識して丁寧に書く力を育てる  
書写授業」  
新座市立第六中学校教諭 井浦 隆介 先生  
○講 演  
・講師 文教大学非常勤講師 荻田 哲男 先生

### 3 研修会の概要

- (1) 実技研修会 [中止]  
【熊谷地区】
- (2) 埼玉県書写教育研究会委嘱授業研究会 [中止]  
【日高地区】
- (3) 各地区書写実技研修会・授業研究会 [中止]

## 4 展覧会の概要

### (1) 第59回硬筆展覧会【誌上展】

○出品点数	・推薦賞	小学校	252点
		中学校	119点
	・特選賞	小学校	758点
		中学校	357点
	・優良賞	小学校	1,515点
		中学校	717点
		合計	3,718点

○課題 P.11参照

### (2) 第74回書きぞめ展覧会【誌上展】

○出品点数	・推薦賞	小学校	113点
		中学校	73点
	・特選賞	小学校	450点
		中学校	292点
	・優良賞	小学校	564点
		中学校	366点
		合計	1,858点

○課題 P.11参照

### (3) 令和3年度教職員書道展覧会 [中止]

## 5 研究刊行物

### (1) 「研究集録」第59号の発行

#### ※令和3年硬筆展覧会参考手本揮毫者

小1	嵐山町立玉ノ岡中学校	神田 貴裕 先生
小2	県立深谷第一高等学校	鷹啄 知美 先生
小3	嵐山町立玉ノ岡中学校	神田 貴裕 先生
小4	さいたま市立泰平小学校	齊藤 裕子 先生
小5	幸手市立上高野小学校	中島奈緒子 先生
小6	さいたま市立泰平小学校	齊藤 裕子 先生
中1	嵐山町立玉ノ岡中学校	福田 英正 先生
中2	春日部市立葛飾中学校	関根 祐介 先生
中3	県立越谷南高等学校	新井 和徳 先生

#### ※令和3年書きぞめ展覧会参考手本揮毫者

小3	所沢市立牛沼小学校	三上 陽照 先生
小4	さいたま市立泰平小学校	齊藤 裕子 先生
小5	北本市立東小学校	熊切 優子 先生
小6	北本市立東小学校	熊切 優子 先生
中1	嵐山町立玉ノ岡中学校	福田 英正 先生
中2	県立越谷東高等学校	野末 有紀 先生
中3	県立越谷南高等学校	新井 和徳 先生

## Ⅲ 研究内容

### 日高支部研究発表

研究テーマ 「漢字文化を育む書写教育」

## 1 はじめに

本年度の日高支部の研究課題は、「漢字文化を育む書写教育」である。校内授業研究会の際、指導者として日高市教育センター指導主事 澤田 秀一 先生にご指導いただき、お力添えをいただいたことに感謝申し上げます。

## 2 実践

### 小学校での取組

1 単元名 かん字の学しゅう 画の方こう

2 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ①姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くことができる。
- ②点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことができる。
- ③点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くことができる。
- ④進んで点画の書き方や文字の形に注意しながら学習課題に沿って、文字を正しく書こうとしている。

3 指導計画

第1時「左はらい」の方向の違いに気を付けて書こう。(本時)

第2時「おれ」「まがり」の方向の違いに気を付けて書こう。

第3時「そり」「点や画」の方向の違いに気を付けて書こう。

第4時 文字を比べて話し合おう。

4 本時の学習指導 (1/4)

(1) 目標

「左はらい」の方向の違いに気を付けて書くことができる。 〈知識及び技能〉

(2) 展開

- ①試し書きをする。
- ②本時の課題を知る。
- ③「左はらい」の方向の違いを比べる。
- ④練習する。(空→鉛筆→水筆)
- ⑤まとめ書き
- ⑥振り返り
- ⑦生かす

5 おわりに

本時の終了後、意識して文字を書こうとする姿勢が見られた。水筆についての取組は、本校で始まったばかりだが、今後も書写の授業で取り組んでいき、筆が表現するよさを体験させたい。

## 中学校での取組

中学校の書写では、行書の学習となる。目的や必要に応じて、楷書か行書を自らが選択して書くことができるようになることが求められる。さらに、第3学年では文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことのできる力を身に付けなければならない。

第1学年においては、初めて行書について学習をする。行書の特徴を知り、基礎的な書き方を理解した上で、身近な文字を実際に書き、学んでいくことにより、身近な文字を書く活動にも積極的に取り組む主体的な学習ができると考えられる。

### ◇配列を意識した指導

- 1 単元名 配列を意識して、硬筆の作品を書く
- 2 目標 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して楷書で書くことができる。
- 3 学習の流れ
  - (1) 手本で中心がどこを通っているのかを確認する。
  - (2) 文字の大きさ、中心について、縦、横のバランスについて、話し合う。
  - (3) 文字の大きさ、中心が通っている練習用紙を配付し、実際に書く。
  - (4) 学習のまとめを行う。

### 4 考察

1年生は初めてのペンの取り扱いとなるため、ペンの持ち方、姿勢、どのくらいの太さで書くと、どう見えるのかという指導から行った。全体的に細くなりすぎてしまい、余白がふえてしまう生徒が多かった。自ら書いた作品と手本を見比べ、自らの課題を明確にすることで、よりよい作品を仕上げることができた。また、縦、横や行の一文目と最後の文字の位置のバランスがうまくいかないことが多く、まずは一文目一文字の中心、書き出しの位置を確認するなど、お手本をよく見る指導を心掛けるようにした。

### ◇ICTを活用した授業

- 1 単元名 楷書と行書の違い
- 2 目標 漢字の行書体の基礎的な書き方を理解する。
- 3 学習の流れ
  - (1) 身の回りにある文字の書体について意識する。
  - (2) 日本語表記に使用される文字の歴史、変遷の経緯について理解を深める。
  - (3) 点画が連続し、省略される書体を『行書』ということを理解する。
  - (4) 楷書と行書の違いを比較する中で、相違点を理解し、行書の特徴を理解する。
  - (5) 本年度の書きぞめの手本「大切な命」を見て、

行書の特徴があるところを中心に話し合う。

- (6) 学習のまとめを行う。

### 4 考察

実際に映像や画像を示すことで、生徒の集中を高めることができた。実際に楷書の書き方と、行書での書き方の映像を見せることで、筆の穂先や、筆脈についての発見や気づきがたくさんあった。また、楷書と行書での書く際のリズムの違いについても、実際に見ることができるとも利点である。水黒板の使用や実際に書いて見せるのも効果的ではあるが、動画だと繰り返しや再生速度も調節でき、理解が深められると考える。実際に筆を持って書く前に、作品への理解が深められると、実践に活かしやすい。

## 3 成果と課題

小学校では、低学年を対象に漢字の点画の関係性や画の方向に着目して漢字の字形を整えて書くことをめざす研究を行った。字を書くことに低学年の時点から苦手意識が芽生えてしまう傾向があるという調査結果から、この時点で「字形の整え方」の基礎に着目させることは、その後の漢字学習への興味付けに寄与すると期待する。3年生からの毛筆の学習では、水書用筆と水書板を導入し、中学年への準備として、気軽に毛筆に親しめるよう工夫した点は、効果的であった。

中学校では1年生中心に、日常的に文字を書く上で行書を正しく使えるようになるための基礎を身に付ける指導を研究した。ICTを活用して、感覚的に行書の特徴を理解できるようにした点は効果的であった。

今後も、日高市教育研究会書写部の研究目標「漢字文化を育む書写教育」の基、児童生徒に書写学習を通じて、漢字に対する興味・関心を高める指導について実践的な研究を進めていきたい。小・中学校、各校が活発に交流を行い、円滑に研究が進められるようコロナ禍の沈静化を願う。また、小学校が導入している水書用筆と水書板は毛筆学習を手軽に行えるよい教具なので中学校にも導入を進めていきたい。

## IV 今後の課題

課題として、「水書用筆」を用いた書写指導の一層の普及と実践やタブレットを取り入れたこれからの学び等といった不易と流行を大切に書写指導の推進により、教員の指導力向上と児童生徒の学びの充実及び書写力の向上を図っていきたい。

# 令和3年度 硬筆・書きぞめ展覧会課題

第59回硬筆展覧会課題

小三 今田 万里  
六月十日(木)  
まさじゃくを使って、木のまわりの長さをはかりました。とてもべんりだと思いました。

小二 おち合 かよ子  
一年生と いっしょになかなかよし広場であそびました。楽しかったです。

小一 よこた 七き  
はる うめ さくら

小六 豊田 由美  
ごみの中には、もう一度資源として使えるものがあります。ごみを回収して、新しい素材に作り変えることを、「リサイクル」といいます。身近なリサイクル製品を探してみましよう。

小五 深田 結衣  
メダカは、たまごの中で少しずつ変化し、十日ほどでまくを破ってふ化します。ふ化する前のメダカは、たまごの中の養分で成長します。

小四 星野 順一  
満天の夜空に流れる天の川、今年のはなばたもおりひめとひこぼしが会えますように。

中二 高藤 郁也  
私はその人を帯に先生と呼んでた。だからこどもも先生と書くたけて本名はわからぬ。これは世間をはばかる遠慮というよりも、その方が私に自然だからである。私は、その人の記憶を呼び起すことに、すく先生といいたくなる。筆を執っても心持ちは同じ事である。よそよそしい顔文字などとは、使おう気にならぬ。私が先生と知り合っになったのは鎌倉である。

中2 田中 幹浩  
昭和初期に杉戸町と宮代町の商店会が協力して吉利根川に灯ろうを浮かべるイベントが行われていました。その後、一時中断していましたが、平成2年に「吉利根川流灯まつり」として復活しました。この灯ろうは、すべて手作りして組み立て細工の要領を用いて、ぎを使わずに作られます。川面を約1キロメートルにわたり光の帯が埋め尽くすさまは、まさに地上に降りた天の川のようにです。

中一 坂本 和美  
海や山が美しい季節になりました。消防署の皆様は、いかにお過ごしですか。さて、先日は職場体験学習のためにお時間をいただき、ありがとうございました。人々の命を救うために様々な訓練をしていることを知り私たちの街が皆様に支えられていることを実感しました。これからも暑い日が続きます。健康に気を付けてください。  
敬具

第74回書きぞめ展覧会課題

小三 西山友里 **こぶし**

小四 仲川良美 **友だち**

小五 真田里美 **新しい朝**

小六 大川由貴 **希望の光**

中一 田上弘之 **大切な命**

中二 畑山大地 **春告げ鳥**

中三 長田誉也 **自然の宝庫**

# 3 社会科教育

## 埼玉県社会科教育研究会

### I 研究主題と方針

- 小学校「社会がわかり、社会にかかわる子供を  
育てる社会科学習」
- 中学校「よりよい社会の創り手を  
育てる社会科学習」

社会科教育の今日的課題は、当面する社会的事象を自分のこととして受け止め、習得した知識や技能を活用して問題の解決にあたり、社会における自分の在り方を確かにしていく能力をいかに身に付けるかである。また、社会科の本質は、単に社会的事象に関する事項を覚えることではなく、社会的事象のもつ社会的意味を追究することによって社会認識を深め、自らの生活の在り方を確かなものにしようとするのである。

本県の社会科教育は、戦後まもなく全国に先駆けて発表された川口プランに始まり、その精力的な実践研究は今日に受け継がれ、数多くの成果を挙げてきた。本研究会は、社会科教育の今日的・本質的課題に対し、これまでの成果を生かして研究・実践を行っている。

小学校では、平成12年度に研究主題「人・夢・・・21世紀」と掲げ、「全国小学校社会科研究協議会」を開催した。平成17年度には研究主題を「ゆたかな社会をつくりだす、生きてはたらく力を育てる社会科学習」と掲げた「関東地区小学校社会科研究協議会」を開催し、それぞれ成果を挙げた。これらの研究を踏まえ、平成30年度に「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」を主題とし、10月25日(木)、26日(金)に川口市の4会場で、「第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会埼玉大会」を開催し、埼玉県から最新の研究を発信することができた。そして、本年度は、これらの成果を引き継ぎ、さらに深めるべく、ブロック別研究授業会や研究発表大会等を通して、県内の多くの先生方によって熱心な実践が行われた。

中学校では、平成13年度に研究主題を「生徒がつくり自ら学ぶ社会科学習の在り方」と掲げた「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」(加須市)を、平成21年度に研究主題を「学ぶ楽しさを味わい、わかる喜びを体感できる社会科学習」と掲げた「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」(熊谷市)を、平成29年度には、「追究する力を育てる社会科学習—主体

的・協働的に学ぶ学習の充実—」と掲げた「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」(川越市)をそれぞれ開催し、成果を挙げた。それをさらに発展させるべく、令和5年度に「よりよい社会の創り手を育てる社会科学習—社会的な見方・考え方を働かせた深い学びの追究と評価の一体化—」を主題に、本県を会場とする第41回関東ブロック中学校社会科教育研究大会(久喜大会)が計画された。研究部においては、川越関ブロ大会の成果を生かしつつ、来年度に予定しているブレ大会を見据え、さらなる研究の発展が期待されている。

### II 活動状況

#### 1 理事研修会

##### (1) 第1回理事研修会(オンライン開催)

- 期日 令和3年6月16日(水)
- 講師 文部科学省国立教育政策研究所  
教育課程調査官 中嶋 則夫 氏
- 演題  
「社会科における指導と評価の一体化の在り方」

##### (2) 第2回理事研修会

- 期日 令和4年2月15日(火)
- 会場 所沢市生涯学習推進センター
- 内容 令和3年度事業のまとめと令和4年度事業計画について

#### 2 現地研修会(中止)

#### 3 第54回小・中学校地域学習研修会(中止)

#### 4 第50回埼玉県社会科教育研究会研究発表大会

- 発表者(紙上発表に変更)  
「江戸幕府と政治の安定」  
さいたま市立神田小学校 池田 大河

#### 5 ブロック別授業研究会

- (1) 東部ブロック
  - 会場 越谷市立明正小学校
  - 授業者と単元名 小倉 和彦 4年  
「埼玉県と災害」
  - 会場 加須市立加須北中学校

- 授業者と単元名 鈴木 祐太 2年  
「日本の諸地域～関東地方～」
- (2) 西部ブロック
- 会場 所沢市立美原小学校
- 授業者と単元名 加藤 崇 4年  
「安心してくらせるまちに」
- 会場 滑川町立滑川中学校
- 授業者と単元名 太田 雄大 3年  
「民主政治と政治参加」
- (3) 南部ブロック
- 会場 上尾市立上平小学校
- 授業者と単元名 稲永 博 6年  
「江戸幕府と政治の安定」
- 会場 北本市立宮内中学校
- 授業者と単元名 吉村 岳史 2年  
「身近な地域の調査」
- (4) 北部ブロック
- 会場 熊谷市立熊谷西小学校
- 授業者と単元名 高木 裕介 6年  
「長く続いた戦争と人々の暮らし」
- 会場 上里町立上里中学校
- 授業者と単元名 岩田 哲哉 2年  
「日本の諸地域～中国・四国地方～」
- (5) さいたま市ブロック
- 会場 さいたま市立神田小学校
- 授業者と単元名 池田 大河 6年  
「地球規模の課題の解決と国際協力」
- 会場 さいたま市立大宮西中学校
- 授業者と単元名 高野 隼 2年  
「日本の諸地域～中国・四国地方～」
- (6) 指導者  
県立総合教育センター指導主事兼所員
- |                  |         |
|------------------|---------|
|                  | 大谷 直紀 氏 |
| 越谷市立蒲生小学校長       | 佐々木 清 氏 |
| 所沢市教育委員会指導主事     | 新井 祐紀 氏 |
| 滑川町教育委員会指導主事     | 岩田 信之 氏 |
| 小川町立西中学校長        | 寺井 貴弘 氏 |
| 埼玉大学教育学部附属小学校教諭  | 鈴木 一徳 氏 |
| 上尾市教育委員会主事       | 松林 剛志 氏 |
| 北本市教育委員会主幹兼指導主事  | 野田 周平 氏 |
| 上尾市立上平小学校長       | 山田 浩一 氏 |
| 北本市立石戸小学校長       | 吉澤 達也 氏 |
| 北部教育事務所指導主事      | 矢島 弘一 氏 |
| 北部教育事務所秩父支所指導主事  | 丸橋 直樹 氏 |
| 深谷市立上柴東小学校長      | 持田 倫武 氏 |
| さいたま市教育委員会主任指導主事 | 小林孝太郎 氏 |
| さいたま市教育委員会主任指導主事 | 吉野山 慎 氏 |

さいたま市太田小学校長 千明 勉 氏  
さいたま市立春野小学校長 大原 照光 氏  
さいたま市立七里中学校主査 井山 直之 氏  
埼玉県社会科教育研究会長、副会長、役員

## 6 小学校社会科学習指導法研修会

### ○内容

本事業は、平成30年度の「第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会埼玉大会」の成果を基に、研究委員の授業実践の積み重ねを通して、研究委員一人一人の社会科指導力の向上、さらには、本県全体の社会科教育の推進を図っていくことをねらいとしている。

令和4年2月、『小学校社会科実践事例集第13集』を完成させた。

委員長 清水 健治 (川口市立上青木南小学校長)

指導者 五十嵐和彦 (所沢市立宮前小学校長)

辻 英一 (和光市立広沢小学校長)

委員 風間 歩 (熊谷市立吉見小学校)

細野 友則 (寄居町立鉢形小学校)

菊地原真理 (さいたま市立善前小学校)

池田 大河 (さいたま市立神田小学校)

木滑 雅俊 (さいたま市立大宮小学校)

村橋 直樹 (八潮市立大原小学校)

小倉 和彦 (三郷市立瑞木小学校)

秦 健太郎 (小川町立八和田小学校)

又村 永吉 (飯能市立加治東小学校)

有山 和宏 (日高市立高根小学校)

松本 勇輝 (深谷市立岡部西小学校)

大久保尚郁 (神川町立青柳小学校)

船津 需遥 (さいたま市立つばさ小学校)

山崎 愛理 (久喜市立桜田小学校)

大熊 諒太 (加須市立礼羽小学校)

大沢 圭司 (上尾市立上平小学校)

鈴木 祐介 (川口市立戸塚北小学校)

持田 翔平 (小鹿野町立長若小学校)

堀 泰治 (さいたま市立高砂小学校)

金子 純一 (富士見市立針ヶ谷小学校)

入江 直人 (川口市立鳩ヶ谷小学校)

松田 伸幸 (三芳町立竹間沢小学校)

永嶋 邦博 (川越市立泉小学校)

海老澤成佳 (川口市立本町小学校)

森脇 秀幸 (朝霞市立朝霞第一小学校)

高木 裕介 (熊谷市立熊谷西小学校)

及川 恒平 (埼玉大学教育学部附属小学校)

鈴木 一徳 (埼玉大学教育学部附属小学校)

村知 直人 (埼玉大学教育学部附属小学校)

## 7 中学校基礎学力調査

生徒の基礎学力の実態を調査し、社会科指導の改善・推進の資料にすることを目的として実施する。当初計画では、令和2年度に51回目を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響により、本年度に延期の上、令和3年10月に実施した。

### (1) 基礎学力問作委員会

- 期日 令和3年 7月27日(火)  
8月6日(金)  
8月24日(火)

(第2回・第3回はオンライン開催)

### (2) 基礎学力分析委員会

- 期日 令和3年10月22日(金) 11月12日(金)
- 会場 さいたま市立大宮西中学校
- 内容

基礎学力調査事業において、思考力、判断力、表現力等を育む社会科の学習評価問題作成に取り組んできた。学習指導要領解説社会編(平成29年告示)に基づき、新たに地理5問、歴史5問、公民5問の計15問にわけ、3年間で作成をすることとした(実際には4年間で作成)。

問作委員の間で一定の定義や共通理解を図った後、問作委員の所属する学校の3年生で実施し、任意に抽出した生徒の応答傾向を分析・考察した。

調査実施後、学習指導要領掲載順に問題、応答結果、分析・考察をまとめ、今後の学習評価問題作成の例となるように冊子を2月に刊行する。

〈第51回基礎学力調査委員会〉

委員長 前島 一夫(さいたま市立大宮西中学校長)  
問作代表 清水 祐輔(深谷市立幡羅中学校)  
問作・分析委員

立川 敦史(久喜市立栗橋東中学校)  
駒田 哲朗(久喜市立久喜中学校)  
武正 貴裕(加須市立昭和中学校)  
浅田 清志(毛呂山町立毛呂山中学校)  
外山 洋太(東松山市立松山中学校)  
高沢 政宏(越生町立越生中学校)  
杉原 慎一(上尾市立原市中学校)  
保坂 暁人(北本市立東中学校)  
一之瀬雄介(草加市立瀬崎中学校)  
柴 奈保子(深谷市立深谷中学校)  
小杉 元(熊谷市立富士見中学校)  
清水 祐輔(深谷市立幡羅中学校)  
大越 一般(さいたま市立与野西中学校)  
渡邊 涼太(さいたま市立本太中学校)  
岡本 真東(さいたま市立大宮西中学校)

石高 吉記(埼玉大学教育学部附属中学校)  
細野 悠司(埼玉大学教育学部附属中学校)  
高橋 佑樹(埼玉大学教育学部附属中学校)

## 8 第41回関東ブロック中学校社会科教育研究大会研究部会

- 期日 令和3年8月3日(火)  
令和3年12月27日(月)

### ○内容

令和5年度の関東ブロック中学校社会科教育研究大会(久喜大会)開催に向けて、昨年度、研究推進委員会を発展させた研究部が組織された。

本年度は、本県の生徒の実態に基づく研究主題及び副題の下に、研究の基盤となる総論の骨子を固めるとともに、「GIGAスクール構想」の進展や高等学校学習指導要領改訂など新たな動きを踏まえ、地理・歴史・公民の分野ごとに基礎研究を積み重ねつつ分野論を固める作業に進んでいる。

現在の構想は、川越大会の研究成果と課題を踏まえ、平成30年度栃木大会、令和元年度千葉大会、令和3年度に開催された横浜大会及び東京大会、各都県市の実践から学び、3年間の指導実践を系統的に積み上げいくことである。本県の強みである、小・中学校の先生方が連携の視点をもって研究を進めていく組織を生かし、社会科7年間の系統性と、高等学校との接続まで見据えた研究成果を示すことができるよう、準備を進めている。

当日の発表では、「明日からの授業」に活用できるような提案を目指している。具体的には参会された先生方、特に次世代を担う先生方にとって、①容易に追試ができる ②「主体的・対話的で深い学び」の視点に立つ授業改善のポイントが明らかになるような授業実践につながる研究を進めていきたい。

〈令和3年度研究部会〉

研究部長 宮澤 好春(朝霞市立朝霞第十小学校長)  
研究副部長 清水 利浩(行田市立埼玉中学校長)  
鈴木 和博(さいたま市立上木崎小学校長)  
中台 正弘(越谷市立大袋東小学校長)  
研究主任 大竹 一史(深谷市立上柴中学校)

〈地理的分野〉

指導者 清水 利浩(行田市立埼玉中学校)  
吉澤 達也(北本市立石戸小学校)  
大原 照光(さいたま市立春野小学校)  
藤崎 顕孝(羽生市立新郷第二小学校)  
リーダー 岩田 哲哉(上里町立上里中学校)  
研究部員 青柳 慎一(久喜市立栗橋西中学校)  
黒崎 里奈(越谷市立中央中学校)

関根 雅哉 (行田市立行田中学校)  
鈴木 憲之 (川越市立城南中学校)  
山本 雅敏 (川越市立大東西中学校)  
小川紗世子 (川越市立山田中学校)  
浅野 志帆 (和光市立第二中学校)  
吉村 岳史 (北本市立宮内中学校)  
水村 友音 (戸田市立戸田中学校)  
黒澤 一慧 (深谷市立岡部中学校)  
甲斐 隼人 (さいたま市立大宮南中学校)  
津田 茂彦 (さいたま市立浦和中学校)  
小澤 晃司 (久喜市立栢間小学校)  
立川 敦史 (久喜市立栗橋東中学校)

#### <歴史的分野>

指 導 者 鈴木 和博 (さいたま市立上木崎小学校)  
増田 正夫 (加須市立不動岡小学校)  
リーダ 浅見 寿文 (皆野町立皆野中学校)  
研究部員 菅谷 優子 (加須市立加須平成中学校)  
中井 享 (川越市立川越第一中学校)  
嶋 叔乃 (所沢市立美原中学校)  
増田 拓真 (狭山市立入間野中学校)  
鬼塚 勲 (伊奈町立小針中学校)  
江畑 友規 (川口市立安行東中学校)  
長谷川亮介 (県立伊奈学園中学校)  
小杉 元 (熊谷市立富士見中学校)  
塚越 清香 (本庄市立本庄西中学校)  
市川 慶太 (さいたま市立白幡中学校)  
江森 大貴 (さいたま市立三室中学校)  
井瀬 拓哉 (深谷市立花園小学校)  
菊池 宏行 (越谷市立城ノ上小学校)  
大名 拓史 (久喜市立鷲宮東中学校)

#### <公民的分野>

指 導 者 中台 正弘 (越谷市立大袋東小学校)  
寺井 貴弘 (小川町立西中学校)  
佐藤 元治 (加須市立水深小学校)  
リーダ 長谷川義博 (所沢市立狭山ヶ丘中学校)  
研究部員 岩元 響 (吉川市立南中学校)  
神崎 士龍 (川越市立霞ヶ関東中学校)  
佐藤 裕理 (嵐山町立玉ノ岡中学校)  
高橋 賢徳 (滑川町立滑川中学校)  
中屋 啓子 (川口市立里中学校)  
小松 裕人 (上尾市立大谷中学校)  
久保田絃弥 (朝霞市立朝霞第二中学校)  
柿沼 直樹 (川口市立芝東中学校)  
久保 貴史 (熊谷市立富士見中学校)  
高野 隼 (さいたま市立大宮西中学校)  
佐藤 紗李 (さいたま市立指扇中学校)  
船津 需遙 (さいたま市立つばさ小学校)

駒田 哲朗 (久喜市立久喜中学校)

#### <事務局>

事務局長 石高 吉記 (埼玉大学教育学部附属中学校)  
細野 悠司 (埼玉大学教育学部附属中学校)  
高橋 佑樹 (埼玉大学教育学部附属中学校)

#### 9 研究刊行物

会誌43号

#### 10 その他

##### (1) 全国大会・関東ブロック大会

#### <小学校>

第59回全国小学校社会科研究協議会研究大会大阪大会

提案者 風間 歩 (熊谷市立吉見小学校)

令和3年度全国小学校社会科教育研究協議会研究大会佐賀大会

助言者 五十嵐和彦 (所沢市立宮前小学校長)

司会者 又村 永吉 (飯能市立加治東小学校)

提案者 金子 純一 (富士見市立針ヶ谷小学校)

#### <中学校>

第54回全国中学校社会科教育研究大会高知大会

第38回関東ブロック中学校社会科教育研究大会横浜大会

##### (2) 役員一覧

会 長 清水 健治 (川口市立上青木南小学校)

副会長 中台 正弘 (越谷市立大袋東小学校)

五十嵐和彦 (所沢市立宮前小学校)

山田 浩一 (上尾市立上平小学校)

持田 倫武 (深谷市立上柴東小学校)

高田信太郎 (さいたま市立宮前小学校)

幹 事 及川 恒平 (埼玉大学教育学部附属小学校)

鈴木 一徳 (埼玉大学教育学部附属小学校)

村知 直人 (埼玉大学教育学部附属小学校)

石高 吉記 (埼玉大学教育学部附属中学校)

細野 悠司 (埼玉大学教育学部附属中学校)

高橋 佑樹 (埼玉大学教育学部附属中学校)

#### III 今後の課題

これまでの研究を踏まえた授業づくりや、社会科の研究が若手教員を中心に広がってきている。さらに、本県を会場とする第41回関東ブロック中学校社会科教育研究大会が令和5年度に計画されており、令和4年度にはプレ大会を予定している。研究面及び運営面の一層の進展を図る必要がある。

これからは、社会情勢やGIGAスクール構想を踏まえた諸研修、ブロック別授業研究会、研究発表大会等を継続して実施し、研究に取り組んでいきたい。



# 4 算数・数学教育

## 埼玉県算数数学教育研究会

### I 研究主題と方針

学ぶ楽しさを味わう算数数学の学習をめざして、学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材研究を深め、指導内容の系統を明らかにし、数学的活動を重視した学習指導が展開できるようにする。そのとき、児童生徒の学習意欲を喚起し、数理的な処理のよさや数学的な見方・考え方のよさに気づき、活用できるよう学習過程や指導の工夫に努め、指導と評価の一体化を図る。

### II 活動状況

#### 1 小学校（主なもの）

##### (1) 総務部活動状況

- ①埼玉県算数数学教育研究会役員研修会  
・令和3年6月1日(火)  
ビデオ通話アプリ「Zoom」を使用し、オンラインにて開催  
・令和2年度事業報告、同決算報告  
・令和3年度役員について  
・令和3年度事業計画、同予算案 審議
- ②第103回全国算数・数学教育研究（埼玉）大会  
第76回関東甲信静数学教育研究埼玉大会  
ビデオ通話アプリ「Zoom」を使用し、オンラインにて開催  
・8月19日(木)、20日(金)、21日(土)、22日(日)
- ③日本数学教育学会総会（春期研究大会）  
・令和3年6月6日(日) オンライン開催（山梨大学）
- ④研究集録の発行  
令和3年度の研究成果を集約した研究集録として編集し発行した。本年度も日々の授業実践に活用できるよう、県内各小学校に1部ずつ配付した。
- ⑤算数教育研究発表会  
・令和4年2月1日(火)  
ビデオ通話アプリ「Zoom」を使用し、オンラインにて開催  
・講演  
「主体的に学ぶ力を育む算数授業の実現」  
埼玉大学 二宮 裕之 氏  
・研究発表  
「数学的な見方・考え方を働かせる算数指導」  
発表者 川口市立芝富士小学校 本橋 拓也 氏

- 司会者 川口市立柳崎小学校 小林 崇 氏  
「数学的に考える資質・能力を育てる算数指導  
～数学的活動の充実を通して～」  
発表者 狭山市立富士見小学校 大西 優輝 氏  
富士見市立水谷小学校 石川 真成 氏  
司会者 所沢市立松井小学校 齋藤 駿 氏  
「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた算数科の指導の改善」  
発表者 本庄市立北泉小学校 飯野 雅枝 氏  
司会者 本庄市立本庄南小学校 立花真紀子 氏  
「主体的・対話的で深い学びへと誘う算数指導の研究」  
発表者 熊谷市立中条小学校 新井 俊英 氏  
司会者 熊谷市立星宮小学校 田島 達也 氏  
「『できた』『わかった』を実感させる学習指導の充実」  
発表者 三郷市立立花小学校 杉山 雄哉 氏  
司会者 三郷市立幸房小学校 佐藤 翔馬 氏

##### (2) 研修部活動状況

- ①小学校算数教育研究協議会  
テキスト第54集を中心に県下10地区で研究協議をした。各地区の会場校等は次のとおりである。  
北足立南部 10月21日(木) 戸田市立新曾北小学校  
北足立北部 9月22日(水) 上尾市立富士見小学校  
さいたま市 11月9日(火) さいたま市立浦和別所小学校  
入 間 11月8日(月) 飯能市立加治小学校  
比 企 10月28日(木) 小川町立みどりヶ丘小学校  
秩 父 11月10日(水) 小鹿野町立長若小学校  
児 玉 11月24日(水) 上里町立上里東小学校  
大 里 1月28日(金) 深谷市立岡部西小学校  
北 埼 玉 11月17日(水) 加須市立北川辺東小学校  
埼 葛 11月30日(火) 吉川市立中曾根小学校
- ②算数教育夏季研修会  
・令和3年8月3日(火)  
ビデオ通話アプリ「Zoom」を使用し、オンラインにて開催  
・講演  
「学力・学習状況調査を活用した算数科における指導改善」

県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事 大河原 早菜江 氏

「算数科指導主事における主体的・対話的で深い  
学びの視点からの授業改善と新しい学習評価」

文部科学省 教科調査官 笠井 健一 氏

・研究発表

「分数の乗除における児童の統合的な考察につ  
いての研究」

令和2年度 埼玉県長期研修教員

熊谷市立星宮小学校 田島 達也 氏

「自ら問い続ける児童の育成を目指した算数科学  
習指導に関する研究」

令和2年度 埼玉県長期研修教員

秩父市立吉田小学校 保泉 拓都 氏

「児童の問題解決力を高める算数指導」

令和2年度 埼玉県長期研修教員

坂戸市立上谷小学校 内田謙太郎 氏

(3) 編集部活動状況

①算数教育研究協議会用テキスト第54集作成

「数学的活動を生かした算数指導」をテーマに掲  
げ編集を行った。

第1章の理論編では、第53集で埼玉大学教育学部  
教授の松崎 昭雄 先生に御執筆いただいた理論を  
基に、数学的活動を生かした算数指導とその充実  
について、目指すべき方向性を明らかにし、数学  
的活動を生かすための視点や手立てを具体的な事  
例を通して示した。

また、第2章では、各学年3編ずつ指導例を載  
せた。資料編では、付録として「『個別最適な学  
びと協働的な学びの一体的な充実』に向けて～こ  
れまでのテキストから示唆を得る～」を載せ、令  
和3年1月に取りまとめられた「『令和の日本型  
学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの  
可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的  
な学びの実現～(答申)」の内容のポイントを整理  
するとともに、過去のテキストの理論と実践を参  
考に、算数指導における個別最適な学びと協働  
的な学びの在り方についてまとめた。

(4) 調査研究部活動状況

①教員の意識調査

授業改善に向けた取組の一環として、教員の  
意識調査を行った。

②研究報告

小学校算数教育研究発表会全体会にて、教員  
の意

識調査を基に、研究報告を行った。

2 中学校(主なもの)

(1) 理事研修会

令和3年6月1日(火)

・令和2年度事業報告、会計報告、監査報告

・令和3年度役員、事業計画、予算案審議

・算数数学教育研究協議会について

・全国算数・数学教育研究(埼玉)大会について

※ ビデオ通話アプリ「Zoom」を使用し、オン  
ラインにて開催

(2) 研究委嘱校発表

令和2・3年度 加須市立騎西中学校

研究主題「主体的・対話的で深い学びの視点  
からの授業改善 ～1人1台の端末の活用をと  
おして～」

期 日 令和4年2月18日(金)

研究授業 1年2組 「平面図形」

授業者 小井戸 健太 氏

2年3組 「図形の調べ方」

授業者 内田 智之 氏

講演会 演題 「ICTを活用したこれからの数  
学の授業」

講師 文教大学教育学部教授

永田 潤一郎 氏

※ 参集及びオンラインで実施した。

(3) 数学教育研究協議会用テキスト第52集作成

「数学的な見方・考え方を働かせる学習指導」と  
いう主題を設定し、理論と実践の結び付きを図  
るよう編集したものである。

【理論編】

○数学的な見方・考え方を働かせる数学的活動

－「指導と評価の一体化」のための学習評価－

埼玉大学教育学部教授 二宮 裕之 氏

【実践編】

「理論編」で述べた考え方を基に、各学年の  
関数・データの活用領域の授業実践例を載せて  
いる。各学年で5編の実践例をまとめ、数学的  
な見方・考え方を働かせる数学的活動の具体を  
示し、その活動によってどんな力を育成するの  
かを明示した。また、学習指導において適切に  
振り返る場面を位置付け、学習活動と自己評  
価の一体化が図られていることを示した。

「題材について」は、主体的に問題解決する  
力を

育む具体的な活動を学年と領域の内容に即して明確に示した。

「本時の計画」は、「学習活動」「指導上の留意点」「評価と具体的な手立て」の3項目で、本時のねらいに示した観点について具体的に評価する場面をしばり、生徒の反応を評価し、どのようなフィードバックが目的達成に効果的かを明らかにした。

#### 【特集編】

今回の学習指導要領改訂において、充実が強調されている統計教育について焦点を当て、3か年計画での特集を構成している。1年次は指導要領や先行研究を基に、現代の統計教育において求められる資質・能力を明らかにしながら、データの活用領域の重点課題をまとめた。これらを受け、2年次にあたる本作では、具体的な授業実践に結び付けていくために、単元全体の構成を計画し、育成を目指す資質・能力と関連付けながら、指導案の形式にまとめた。

3年次は、育成を目指す資質・能力が適正に身に付けられたかを、どのように評価していくのかについてまとめ、データの活用領域における、評価の在り方について提案する。

#### (4) 数学教育研究協議会

(3)のような内容で作成された数学教育研究協議会用テキスト第52集を基にして、県内10地区で、実践授業を通して研究協議会を実施した。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、人数を制限しての縮小開催やオンラインによる動画配信、誌上发表等、各地区で工夫し実施した。会場校等は次のとおりである。

##### ○南部地区

- ・1月28日(金) 川口市立芝東中学校
- ・10月15日(金) 鴻巣市立鴻巣南中学校

##### ○さいたま市

- ・11月18日(木) さいたま市立本太中学校

##### ○西部地区

- ・11月16日(火) 日高市立高麗川中学校
- ・11月4日(木) 毛呂山町立毛呂山中学校

##### ○北部地区

- ・10月26日(火) 美里町立美里中学校
- ・11月12日(金) 秩父市立高篠中学校
- ・12月8日(水) 熊谷市立大原中学校

##### ○東部地区

- ・12月9日(木) 行田市立行田西中学校

#### (5) 数学教育研究発表大会

○令和4年2月9日(水)

○オンラインによる研究発表大会

3か年任期による数学教育研究推進委員会の2年次の発表である。五つの分科会に分かれ研究主題、研究仮説、実践例、今後の課題などを発表した。

○講演会

「教えづらいところわかりづらいところとのつきあい方」

浦和南高校・市立川口高校講師 石渡 勇人 氏

○分科会

・領域 問題解決部会

主題 生徒が主体的に問題解決する授業  
- 知識構成型ジグソー法を取り入れた授業展開を通して -

・領域 データの活用部会

主題 データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断する力を育成する指導  
- 四分位範囲・箱ひげ図の指導を通して -

・領域 活用・表現部会

主題 数学を活用する力の育成を目指して  
- 日常的な事象を数理的に考察し表現する活動を通して -

・領域 学習指導法部会

主題 ストラテジーを用いた深い学びを実現させる指導法の工夫  
- 可視化と対話による思考過程の認知と活用 -

・領域 数学的な考え方部会

主題 数学的な考え方を深めることができる生徒の育成

#### (6) 数学教育会誌の発行

令和2年度における会員の研究成果を集約した研究集録として編集し発行した。本年度も日々の授業実践に活用できるよう、県内各中学校に1部ずつ配付した。また、各情報については、部会ホームページを活用し、随時広報している。

## 4 全国大会に関する内容

令和3年8月19日(木)~22日(日)に、日本数学教育学会、関東甲信静数学教育研究連合会、埼玉県高等学校数学教育研究会、並びに本研究会主催として、第103回全国算数・数学教育研究(埼玉)大会、第76回関東甲信静数学教育研究埼玉大会を開催した。埼玉県での

開催は20年振りであったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点で、史上初の全面オンライン開催となった。以下、大会の概要を記す。

(1) 研究主題

主体的に学ぶ力を育む算数・数学の授業の実現  
－これからの時代に求められる資質・能力の育成を目指して－

(2) 日程

令和3年8月19日(木)～22日(日)

- ・19日(木) 講習会1日目
- ・20日(金) 講習会2日目
- ・21日(土) 本大会1日目 開会式 全体講演  
部会シンポジウム 部会講演  
高専・大学部会
- ・22日(日) 本大会2日目 各校種別分科会  
閉会式 大会事務引継会

(3) 講習会

[小学校部会]

- 講師：蒔苗 直道 (筑波大学)  
齊藤 一弥 (島根県立大学)  
日野 圭子 (宇都宮大学)  
笠井 健一 (国立教育政策研究所)  
中村 光一 (東京学芸大学)  
盛山 隆雄 (筑波大学附属小学校)

[中学校部会]

- 講師：新井 仁 (都留文科大学)  
鈴木 誠 (東京学芸大学附属世田谷中学校)  
佐藤 寿仁 (岩手大学)  
水谷 尚人 (国立教育政策研究所)  
大谷 実 (金沢大学)  
清水 宏幸 (山梨大学)

[高等学校部会]

- 講師：熊倉 啓之 (静岡大学)  
後藤 顕一 (東洋大学)  
岩田 耕司 (福岡教育大学)  
渡辺美智子 (立正大学)  
宮川 健 (早稲田大学)  
根上 生也 (横浜国立大学大学院)

(4) 全体講演

講師：高濱 正伸 氏 (花まる学習会代表, NPO  
法人子育て応援隊むぎぐみ  
理事長)

演題：「メシが食える大人に育てるための算数・数学教育」

(5) 部会シンポジウム

[幼稚園・小学校部会]

テーマ：主体的に学ぶ力を育む算数授業の実現

[中学校部会]

テーマ：学びに向かう力・人間性等を育む授業の実現に向けて

[高等学校部会]

テーマ：主体的に学ぶ力を育む算数・数学の授業の実現

(6) 部会講演

[幼稚園・小学校部会]

講師：清水 美憲 (筑波大学教授)

演題：「数学を創る」という視点からの算数科の授業改善 ～答えが出てから算数は始まるか～

[中学校部会]

講師：相馬 一彦 (北海道教育大学名誉教授)

演題：「考えることが楽しい」授業の実現と授業改善

[高等学校部会]

講師：長尾 篤志

(文部科学省初等中等教育局 主任視学官)

演題：高等学校数学科における課題

(7) 分科会

それぞれの校種に分かれ、幼稚園・小学校部会143本、中学校部会115本、高等学校部会88本、高専・大学部会21本の研究発表、研究協議が行われた。

(8) 参加者数

講習会：約650人 本大会：約1,400人  
合計2,000名程度が本大会に参加した。

# 5 理科教育

埼玉県理科教育研究会

## I 研究主題と方針

### 1 研究主題

「自然を主体的・科学的に探究する  
資質・能力の育成」  
～主体的・対話的で深い学びとそれを支える  
ICTの活用～

### 2 設定の理由及び方針

小学校においては、新小学校学習指導要領で示されている、学習の基板となる資質・能力「情報活用能力」に着目した。「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）においても、ICTの活用に関する以下のような基本的な考え方が示されている。

- ・「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、ICTは必要不可欠
- ・これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要
- ・ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意し、PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うことが重要であるとともに、健康面を含め、ICTが児童生徒に与える影響にも留意することが必要
- ・ICTの全面的な活用により、学校の組織文化、教師に求められる資質・能力も変わっていく中で、Society5.0時代にふさわしい学校の実現が必要

これまで、主に教師がICT機器を活用して授業実践をしてきた。本年度は、これまでの授業実践を基に、問題解決の過程で児童がどのようにICTを活用すれば、小学校理科で目指す資質・能力の育成につながるのか研究を進めている。

さらに、中学校では本年度の新学習指導要領全面実施に際して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業の実施とその改善方略を研究し、その成果を蓄積している。特に中教審答申や新学習指導要領の解説に示されている、以下の「『主体的な学び』、『対話的な学び』、『深い学び』の視点に立った授業改善の視点」を参考に研究を進めている。

- 『主体的な学び』の視点に立った授業改善  
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形

成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。子供自身が興味をもって積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。

- 『対話的な学び』の視点に立った授業改善

子供同士の協働、教職員や地域との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることなどを通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められる。

- 『深い学び』の視点に立った授業改善

習得・活用・探究という学びの仮定の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだし解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

子供たちが、理科の学びの過程の中で、身に付けた資質・能力の三つの柱を活用・発揮しながら物事を捉え思考することを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていくことを重視する。教員はこのような学びの過程の中で、教える場面と、子供たちに思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導していくこと目指す。

本研究会が具体的な授業の在り方、児童生徒の姿を明らかにし、全県に発信していくことが理科教育の発展につながると考える。

## II 活動状況（理事会・総会・委員会・研究発表会等）

### 1 事務局打ち合わせ会

期日：令和3年3月31日(水)

形式：Zoom MeetingsによるWeb会議

議題：年間事業計画、予算案の作成、総会準備

### 2 第1回常任理事研修会・総会

期日：令和3年6月16日(水)

形式：Zoom MeetingsによるWeb会議  
議題：令和2年度事業・決算報告、令和3年度事業・予算案審議、役員の承認、退任役員への感謝状贈呈

講演会：

- 演題 「新しい学習評価の考え方」
- 講師 十文字学園女子大学 人間生活学部児童教育学科 教授 塚田 昭一 先生

### 3 理科教育研究発表会（教員の部）開催

期日：令和3年8月18日(水)  
形式：Zoom MeetingsによるWeb発表  
発表会事務局：入間支部

### 4 第2回常任理事研修会

期日：令和3年8月25日(水)  
形式：Zoom MeetingsによるWeb発表  
議題：科学教育振興展覧会（中央展）の計画、理科教育研究発表会（教員の部）の反省、理科教育研究発表会（児童生徒の部）の計画

### 5 科学教育振興展覧会（中央展）開催

期日：令和3年10月22日(金)  
形式：Zoom MeetingsによるWeb発表  
発表会事務局：上尾支部

### 6 理科教育研究発表会（児童生徒の部）開催

期日：令和4年2月9日(水)  
会場：Zoom MeetingsによるWeb発表  
発表会事務局：北埼玉支部

### 7 第3回常任理事研修会

期日：令和4年3月1日(火)  
形式：埼玉大学に参集もしくはZoom MeetingsによるWeb会議

※今後の社会情勢により形式を変更する。

議題：科学教育振興展覧会（中央展）の反省、理科教育研究発表会（児童生徒の部）の反省、令和4年度事業計画

## Ⅲ 各種委員会活動

### 1 小学校理科指導法研究委員会

本年度は、「理科における資質・能力を育成する指導の工夫～GIGAスクール構想における1人1台端末の活用を通して～」をテーマに研究を進めてきた。県内の活用状況や活用方法を共有したり、単元ごとにとどのような使い方ができるのか検討したりした。

また、個人研究として、各自の実践を基に、研究内容の発表を通して協議し、深めることができた。委員の先生方に御執筆いただいた実践事例は、埼玉研のホームページにて紹介している。

<構成委員>

顧問 柿沼 宏充 県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事

岩崎雄二郎 さいたま市教育委員会学校教育指導1課主任指導主事

委員長 引間 和彦 さいたま市立尾間木小学校校長  
副委員長 箕輪 進司 深谷市立深谷西小学校長  
川口 石井 明輝 川口市立青木中央小学校  
八 蕨 野口 亮平 蕨市立中央東小学校  
草加 谷津香奈子 草加市立清門小学校  
鴻巣 高澤 佳那 桶川市立加納小学校  
委 上尾 高橋 恭之 上尾市立大谷小学校  
さいたま 新海 智哉 さいたま市立大宮北小学校  
さいたま 高野 智大 さいたま市立浦和大里小学校  
さいたま 八嶋 麗 さいたま市立上小小学校  
入間 市川 亮 所沢市立柳瀬小学校  
員 入間 大館 良明 所沢市立若松小学校  
比企 阿彦あかり 東松山市立新宿小学校  
秩父 北原 直 小鹿野町立三田川小学校  
児玉 石井 竜司 本庄市立児玉小学校  
大里 大工廻朝晴 深谷市立花園小学校  
▽ 北埼玉 木鋪 祐 加須市立岩瀬小学校  
埼玉 葛 鳥飼 貴司 吉川市立旭小学校  
幹 事 塩盛 秀雄 肥田 幸則 関根 達也  
(埼玉大附小)

### 2 中学校指導法研究委員会

本年度は、物理・化学・生物・地学の分野ごとに「資質・能力を育成する授業」について検討した。その後、各委員の学校で実践し、その成果と課題を明らかにした報告書を埼玉県理科教育研究会のホームページに掲載して、広く活用してもらうことを目指す。

<構成委員>

顧問 大澤 正樹 県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事  
岩崎雄二郎 さいたま市教育委員会学校教育指導1課指導主事  
委員長 引間 和彦 さいたま市立尾間木小学校校長  
副委員長 竹田 聡 川越市立霞ヶ関中学校長  
川口 折田 悠里 川口市立安行東中学校  
八 蕨 遊馬 大陽 戸田市立戸田中学校  
委 草加 宮川 遼大 草加市立草加中学校  
朝霞 入野 岳 朝霞市立朝霞第一中学校  
鴻巣 関口 正悟 鴻巣市立鴻巣南中学校  
上尾 志村 正好 上尾市立大石中学校  
員 さいたま 塚原 益夫 さいたま市立大谷口中学校  
▽ さいたま 大嶋 陽介 さいたま市立大成中学校  
さいたま 加茂 誠太 さいたま市立与野南中学校  
入間 堀口 輝樹 狭山市立堀兼中学校  
比企 大澤 悠 東松山市立北中学校  
秩父 町田 翔平 小鹿野町立小鹿野中学校  
児玉 樋口 拓哉 本庄市立本庄南中学校  
大里 富田 真人 深谷市立深谷中学校

北崎 齋藤 安彦 羽生市立東中学校  
 崎葛 高橋 修平 幸手市立幸手中学校  
 幹 事 山本 孔紀 谷津 勇太 伊藤 悠昭  
 (埼大附中)

#### IV 理科教育研究発表会

##### 1 教員の部

- (1) 期 日 令和3年8月18日(水)
- (2) 形 式 Zoom MeetingsによるWeb発表
- (3) 指導者 埼玉大学 小倉 康  
 県教育局義務教育指導課 柿沼 宏充  
 さいたま市教育委員会 赤地 芳輝

埼玉県理科教育研究会

引間 和彦 竹田 聡  
 小川 哲也 富田 英雄

- (4) 担 当 入間支部 (支部長 島津 芳久)

- (5) 発表テーマ・発表者一覧

##### ア 小学校教員の部

所属校・発表者名	発表テーマ
川口市立 青木中央小学校 石山 和之	学習する意義や有用性を実感させ 自ら課題を解決する能力の育成 ～小・中学校の系統的思考フロー チャートの作成・活用を通して～
さいたま市立 高砂小学校 亀山 愛友	学び続ける子どもをはぐくむ理科 教育の工夫改善 ～みんなが取り 組み、みんなで好きになる学びの 創造～
三芳町立 藤久保小学校 宮崎 大輝	一人一人が必要をもって課題解 決に向かう指導法
東松山市立 新宿小学校 權田 尚岳	理科の見方・考え方を働かせる地 域教材の活用
秩父市立 影森小学校 笠原 祐希	書く力の向上で、もっと理科が好 きになる！？ ～2年間の実践を 通して～
本庄市立 中央小学校 野村 晃一	ミライシードを活用した授業展開 の構想
深谷市立 川本北小学校 武井 一郎	理科好きな児童を育てる指導 ～ 第3学年の実践を通して～
加須市立 大利根東小学校 小口 義孝	全ての児童を主体的に観察・実験 に取り組ませる研究

##### イ 中学校教員の部

所属校・発表者名	発表テーマ
さいたま市立 指扇中学校 野口 祥太	プログラミング教育を組み入れた 中学校理科教育カリキュラムの開 発 ～理科とプログラミングを一 体的に学習するパラレルストー リー型カリキュラム～
所沢市立 中央中学校 島崎 仁志	主体的・対話的で深い学びの実現 につながる指導法の研究 ～多様 な考えから答えを導き出すジグ ソー法～
秩父市立 秩父第一中学校 針生 航太*	振り返りシートを活用した学習方 略の形成と向上
深谷市立 岡部中学校 本庄 秀行	パフォーマンス課題を意識した逆 向き設計による授業実践
八潮市立 八幡中学校 花岡 大輔	学ぶ意欲を高め、主体的に考えて 表現できる生徒を育成する理科授 業 ～建設的相互作用がもたらす 主体的・対話的で深い学び～

※校務の都合で当日発表なし

- (6) 参加者数

67名 (一般参加者42名)

- (7) 当日のようす

本年度は、オンライン会議ツールZoom Meetings  
を用いて、オンライン発表会として行った。発表者  
の作成した発表要旨を事前に研究会ホームページに  
掲載するとともに、発表者には当日に説明スライド  
を使って研究内容について発表していただいた。一  
般参加者については、オンラインであることによる  
参加のしやすさが好評であった。



##### 2 児童生徒の部

新型コロナウイルス感染症感染予防のため、昨年度  
と同様の形式 (発表時間15分前までに受付、発表・質  
疑応答後の退室可能) で、オンラインによる口頭発表  
を行った。

- (1) 期 日 令和4年2月9日(水)
- (2) 形 式 Zoom MeetingsによるWeb発表
- (3) 指導者 埼玉大学教員他

## V 科学教育振興展覧会

### 1 地区審査

#### (1) 出展数936点(小・中・高合計)

南部地区・さいたま地区・西部地区・北部地区・  
東部地区の五つの地区から優秀作品は中央展へ出展  
(小・中)

### 2 県審査

期 日：10月22日(金)

形 式：Googleクラスルーム上の作品を審査員に採点  
していただき、事務局が集約した。10月22日  
(金)15時より、Web会議システムZoomを使用  
して、オンライン審査会を行い、最優秀賞を  
選出した。

出品数：小・39点 中・42点 高・30点

審査員：埼玉大学教育学部

教 授 金子 康子 近藤 一史

富岡 寛顕

准教授 大朝由美子 中島 雅子

日比野 拓

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事 柿沼 宏充

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課

主任指導主事 能見 郁永

埼玉県理科教育研究会 副会長 簗輪 進司

埼玉県理科教育研究会 副会長 竹田 聡

#### (1) 受賞作品

##### ◎埼玉県知事賞

- ・ありの研究 PART6 トビイロシワアリの砂かけ  
行動の特徴 吉川市立北谷小学校 岡田 定久
- ・しなるバットの秘密

熊谷市立別府中学校 工藤 大輝

- ・錬金術師の夢の改良ーアルミ箔と界面活性剤を用  
いる方法ー 大妻嵐山高校 岸 優夏

##### ◎埼玉県議会議長賞

- ・地球にやさしいレジ袋の研究

上尾市立上尾小学校 海老原志穂

- ・小さなカブトムシの出会い

川越市立野田中学校 高野 愛

- ・一瞬の星空を見逃したくない！：自作赤外放射温  
度計を利用した夜間の雲量変化通知システムの開  
発 松山女子高校 黒澤 優菜

##### ◎埼玉県教育長賞

- ・蝶の鱗粉の役割を再考察してみよう！！

志木市立志木第二小学校 西本 明道

- ・都市環境に適應する生物の研究 チュウサギから  
始まった研究～未来への羽ばたき～part6

越谷市立千間台中学校 山田 陸眞

- ・クラリネットの音孔に関する研究

大宮高校 矢野 祐奈

#### (2) 備考

小学校の最優秀賞3点を全国児童才能開発コンテ  
スト、中学校の最優秀賞6点を日本学生科学賞へそ  
れぞれ推薦した。

例年は9月末～10月中旬ごろに県下10会場で地区  
展が実施され、選出された優秀な作品を10月末に集  
めて中央展を開催していた。出展作品は間口、奥行  
がそれぞれ1m、高さが2mの直方体に収まるパネ  
ル展示作品であった。本年度もコロナ禍の中でも、  
埼玉県やさいたま市との主催として実施することが  
できた。

実施形式については、コロナ禍を受けて昨年度の  
埼玉県小中学生科学コンクールに準じる形式で行っ  
た。まず、南部地区・さいたま地区・西部地区・北  
部地区・東部地区の5地区において地区審査を行っ  
た。その後、地区審査を通過した作品(小学校39点、  
中学校42点)を対象に県審査としてオンライン審査  
を実施し、上位大会に推薦する最優秀賞を決定した。  
出展作品はオンラインでの審査が可能のように、例  
年のパネル展示作品ではなく、A4判レポート形式  
とした。

## VII 今後の課題

本年度もコロナウイルス感染症の影響で様々な変  
更を余儀なくされた1年間であったが、小学校に続い  
て中学校でも学習指導要領が完全実施された。さらに、  
中教審の答申において令和の日本型教育、個別最適  
な学びをキーワードとしたVUCA時代に向けての新たな  
指導法の研究が急務といえる。本研究会から新たな理  
科教育を発信できるよう、各種委員会で研究を深めたり、  
総会で大学や教科調査官の先生の講演会を開催したり  
するなど、研究と発信の場をより確保していく必要がある。

また、昨今の働き方改革の流れも受けて、理科教育  
研究会の事業についても見直していく時期・段階に  
入ってきていると考えている。各事業について軽重を  
つけながら、運営面での見直しを行い、理科に携わる  
先生方、何よりも理科を学習する児童生徒にとって、  
よりよいものにしていく必要がある。本会で実施して  
いる行事についても、オンラインの利用など工夫しな  
がらの実施となったが、今回うまくいった部分とそ  
うでない部分を精査して、来年度以降に活かしてい  
きたい。行事の運営面での見直しを図り、まだ続くであ  
ろうWithコロナの中でのよりよい行事の在り方や働き  
方改革にも結び付けていきたい。

併せて、事務局の在り方についても見直し・改善を  
図る必要も出てきた。改革を進め、児童生徒のよりよ  
い学びに繋がる活動を考えていきたい。



# 6 音楽教育

## 埼玉県音楽教育連盟

### I 研究主題と方針

#### 1 研究主題

「伝わる音楽」

～音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して～

※来年度までに、新たに設定する予定

#### 2 研究主題について

##### (1) 「伝わる音楽」について

これまでの音楽科の授業の中で、表現領域において児童生徒が思いや意図をもって音楽表現を工夫する際に、その根拠が大切にされなかったり、思いや意図と音楽表現が適切に結び付いていなかったりする学習活動が見られた。また、鑑賞領域においては、「感じ取りましょう」「味わいましょう」と知覚・感受する視点が児童生徒任せになってしまう授業や、知覚・感受をする活動が重視されずに、教師から児童生徒に一方的に知識として教え込むような授業が行われることもあった。つまり、音楽の様々な特性から音楽美を感じし合う「音楽の共有」が十分にされないうまに、授業が展開されることが課題となっていた。

そこで、本研究では、協働的な学びを重視し、表現領域及び鑑賞領域で、児童生徒同士、教師と児童生徒が音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合うことを「伝わる」とし、「伝わる音楽」があふれて展開される授業の創造を目指すこととした。

表現領域において児童生徒が「伝わる音楽」を目指すとき、音や音楽に対するイメージを膨らませ自分なりの意図をもち、試行錯誤して表現することが大切であり、音楽表現と結び付け、そこに音楽に対する新しい価値を創造しようとする。その際、自分なりのイメージや表現意図を表すために、感性を敏感に働かせ、技能を高めながらよりよい音楽表現を求めていく。その過程は、思考・判断・表現を伴い、児童生徒の感性を豊かにしていく。

鑑賞領域においては、楽曲から音楽のよさや美しさなどについて、音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由を挙げながら言葉で表したり、その音楽が自分にとってどのような価値があるのかを明らかにしたりする活動をするとき、児童生徒は、音楽と言語を結び付けるために感性を働かせる。

こうした音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合う「伝わる」活動が、児童生徒の感性を豊かにすると考え、本主題を設定した。

##### (2) 「音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して」について

音楽を共有し、音楽を多角的に捉えたり、自分の感じたことを改めて捉え直したりする中で、児童生徒の音楽的感受性は豊かになる。音楽的感受性を高めるとき、児童生徒は、明確な思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽のよさや魅力をより味わって聴いたりすることにつながる。音楽活動から感得した音楽の価値を明らかにしたり、再認識したりすることを通して、本研究で目指す児童生徒の姿とは、次のとおりである。

- ・思いや意図をもって音楽表現を工夫し、新しい価値を創造することができる児童生徒
- ・音楽のよさや魅力を味わい、自分にとっての価値を見いだすことができる児童生徒

音楽的感受性、すなわち、音楽に対する感性を豊かにすることは、美しいものや崇高なものに感動する心を育む上で欠かすことができないものである。また、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考えたり、共感したり価値観の違いを認め合ったりすることのできる温かい心などを育むことにつながる。

以上の理由から、本研究の副主題とすることにした。

#### 3 研究の方針

本連盟の研究推進に当たっては、役員研修会、音楽会、実技研修会、会報（研究紀要）のそれぞれの場において実施されるようにした。昨年度に引き続き、本年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年とは異なる実施となった。それについては、以下のとおりである。

##### (1) 役員研修会

役員研修会は、本連盟における研究内容や方法についての共通理解が図られる、研究推進において重要な研修会である。事業内容の厳選にかかわる指導の下、年間3回（6月中旬、夏季休業中、1月中旬）役員研修会を開催している。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3回全てをオ

ンライン開催とした。

第1回役員研修会では全体会にて、昨年度の事業報告があった。また、本年度の活動内容について計画立案、報告があり、音教連の役員が一丸となって活動する方向を提示することができた。

第2回役員研修会では、埼玉大学教育学部芸術講座音楽分野准教授 森 薫先生を招いて講演会を開催した。その他、各部会の活動や研究委嘱に関する指導案検討や役割分担等を行った。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地区音楽会・中央大会が中止となったことから、全体会は実施しなかった。

第3回役員研修会では、本年度の活動の総括として各地区活動報告と来年度に向けて準備を行った。また、埼玉県立総合教育センター主任指導主事 佐藤 太一先生を招いて講演会を開催した。

## (2) 音楽会

音楽会は、主催元である埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会からの通知により、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした小・中学校等の臨時休業の影響を考慮し、中止とした。

## (3) 実技研修会

例年、本連盟で実施している実技研修会は、次のとおりである。

- 県内10地区ごとに行われる研修会  
(実施計画、運営は各地区に一任)
- 小学校管楽器指導に関する研修会
- 合唱指導に関する研修会

これらの研修会は、児童生徒一人一人が豊かな音楽経験を積むことができ、そのことを通して「音楽性」「豊かな感性」を確実に育てていくために、音楽教育に携わる教師の資質向上を目的として実施されるものである。

このことの共通理解を図りながら、実施内容や方法について研究を進めた。

## II 活動状況

### 1 役員研修会

#### (1) 令和3年6月16日(水)

会場：オンライン開催

- ・令和2年度事業・決算及び監査報告
- ・令和3年度役員について
- ・令和3年度事業案・予算案審議 等
- ・専門委員会

#### (2) 令和3年8月25日(水)

会場：オンライン開催

- ・専門委員会

#### ・教育講演会

講師 埼玉大学教育学部芸術講座

音楽分野准教授 森 薫 先生

「音楽科で育てるコンピテンシーを考える」

#### (3) 令和4年1月18日(火)

会場：オンライン開催

#### ・地区活動報告

#### ・専門委員会活動報告

#### ・教育講演会

講師 埼玉県立総合教育センター

主任指導主事 佐藤 太一 先生

「今さら聞けない新学習指導要領

～目指すべき音楽教育を考える～」

## 2 夏季地区研修会日程、内容、会場

### <さいたま市>

○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。

### <南部・南(旧北足立南部地区)>

#### 【川口市】

○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。

#### 【草加市】

○期 日 6月29日(火)

○会 場 草加市立高砂コミュニティーセンター  
<午前>

○講 師 佐藤 太一 先生  
(県立総合教育センター 主任指導主事)

○内 容 音楽科における評価について  
<午後>

○講 師 今井 規雄 先生  
(草加市教育委員会生涯学習課 主幹専門員)

○内 容 能楽ミニレクチャー

#### 【蕨市】

○期 日 11月12日(金)

○会 場 オンライン開催

○講 師 なし

○内 容 提供授業についての協議

#### 【戸田市】

○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。

#### 【朝霞市・志木市・和光市】

○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。

### <南部・北(旧北足立北部地区)>

○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。

#### <西部・南(旧入間地区)>

- 期 日 7月9日(金)
- 会 場 毛呂山町福祉会館
- 講 師 佐藤 太一 先生  
(県立総合教育センター 主任指導主事)
- 内 容 音楽科における評価について

#### <西部・北(旧比企地区)>

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。

#### <秩父地区>

- 期 日 10月26日(火)
- 会 場 オンライン開催
- 講 師 佐藤 太一 先生  
(県立総合教育センター 主任指導主事)
- 内 容 ICTを有効活用した授業について

#### <北部・西(旧児玉地区)>

- 期 日 8月4日(水)
- 会 場 美里町立美里中学校
- 講 師 原田 淳子 先生  
(みさとことの会 代表)
- 内 容 箏の奏法について

#### <北部・東(旧大里地区)>

- 期 日 7月1日(木)
- 会 場 深谷市川本公民館
- 講 師 佐藤 太一 先生  
(県立総合教育センター 主任指導主事)
- 内 容 今、音楽教育に求められるもの 指導と評価の一体化に向けた授業づくり

#### <東部・北(旧北埼玉地区)>

- 期 日 7月29日(木)
- 会 場 オンライン開催
- 講 師 佐藤 太一 先生  
(県立総合教育センター 主任指導主事)
- 内 容 指導と評価の一体化を目指した学習評価について

#### <東部・南(埼玉地区)>

- 期 日 7月29日(木)
- 会 場 久喜市立栗橋文化会館 イリス  
<午前>
- 講 師 蝦 真理子 先生  
(GIGAスクール構想アドバイザー)
- 内 容 音楽科におけるこれからのICT活用  
<午後>
- 講 師 長谷部 匡俊 先生  
(作曲家)
- 内 容 「クラッピングファンタジー」を用いた

指導法について

### 3 専門委員会

#### (1) 授業研究委員会

- 第1回専門委員会  
オンライン開催 6月16日(水)  
・今年度の役員紹介及び活動計画立案
- 第2回専門委員会  
オンライン開催 8月25日(水)  
・研究委嘱校研究概要の説明
- 研究委嘱校研究発表大会  
オンライン開催 11月30日(火)  
授業者 戸田市立笹目中学校  
菅野 泰史 教諭  
題材名 「曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう」  
指導者 川越市立川越第一中学校  
校長 小熊 利明 先生

#### ○第3回専門委員会

- オンライン開催 1月18日(火)  
・本年度の活動まとめ及び来年度の方向性

#### (2) 指導法研修委員会

- 第1回専門委員会  
オンライン開催 6月16日(水)  
・今年度の役員紹介及び活動計画立案
- 第2回専門委員会  
オンライン開催 8月25日(水)  
・音教連会報掲載の実践事例を互選により各地区から選出  
・教育講演会の運営
- 第3回役員研修会  
オンライン開催 1月18日(火)  
・本年度の活動まとめ及び来年度の方向性  
・教育講演会の運営

#### (3) 広報委員会

- 第1回専門委員会  
オンライン開催 6月16日(水)  
・今年度の役員紹介及び活動計画立案  
・教育講演会の運営
- 第2回専門委員会  
オンライン開催 8月25日(水)  
・会報58号の内容検討  
・小・中学校歌集編集作業
- 第3回役員研修会  
オンライン開催 1月18日(火)  
・本年度の活動まとめ及び来年度の方向性  
・会報58号の配付 (Web掲載)

### Ⅲ 研究

#### 1 令和3年度研究委嘱校研究発表大会

- (1) 期 日  
令和3年11月30日(火)
- (2) 会 場  
オンライン開催
- (3) 授業者  
戸田市立笹目中学校 菅野 泰史 教諭
- (4) 指導者  
川越市立川越第一中学校  
校長 小熊 利明 先生
- (5) 題 材  
「曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう」  
(第1学年 鑑賞)
- (6) 成 果  
○生徒の感性を引き出すように発問を工夫することで、豊かな発想で音楽を捉えさせることができた。  
○音楽を形づくっている要素に着目させながら学習を進めることで、本題材に限らず系統的な学習指導ができた。  
○1人1台端末を活用し、ワークシートをペーパーレスにすることで、生徒が集中して音楽を聴くことができた。
- (7) 課 題  
○生徒同士の話し合い場面において、思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を中心とした話し合いの場面が増えてくるとよい。  
○支援を要する生徒に対しては、細かい指示や具体的な発問による段階的な指導が必要である。



#### 2 第63回関東音楽教育研究会山梨大会

##### 【大会主題】

「確かな学び 広がる音楽」  
～知覚・感受をもとにした音楽的思考力・判断力・表現力等の育成～

##### 【期日】

令和3年11月26日(金)～12月17日(金)

※オンライン（オンデマンド）による開催

##### 【提案授業】

○第1分科会 小学校2学年

「旋律の組み合わせをたのしもう」

授業者 山梨大学教育学部附属小学校

入月 安奈 教諭

○第2分科会 小学校4学年

「日本の音楽でつながろう」

授業者 上野原市立秋山小学校 和智 宏樹 教諭

○第3分科会 中学校2学年

「俳句から得たイメージをもとにして旋律をつくろう」

授業者 富士川町立増穂中学校

小池 あゆみ 教諭

○第4分科会 中学校2学年

「箏の奏法を工夫し、音色の変化を生かしながら表現しよう」

授業者 甲州市立塩山中学校 竹川 美和 教諭

##### 【研究演奏】

○甲斐市立敷島小学校 合唱部

○甲斐市立敷島南小学校 吹奏楽部

##### 【指導者】

文部科学省教科調査官

志民 一成 氏

文部科学省教科調査官

河合 紳和 氏

### Ⅳ 今後の課題

今後は、小・中学校ともに全面実施となった学習指導要領の趣旨を踏まえ、新たな研究主題を設定するとともに、それに基づいて指導計画や評価計画を作成し、実践を行っていくことが必要である。

音楽活動における児童生徒の姿に、より一層の表現する喜びや音楽と関わる楽しさが現れるような授業を県内全体に広げていくことが、本連盟における次年度以降の課題である。

# 7 図画工作・美術教育

埼玉県美術教育連盟

## I 研究主題と方針

埼玉県美術教育連盟は創立73年を迎えた。この永きにわたる歴史は埼玉県の図画工作・美術教育の歩みでもある。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、このような状況下においても、子供たちの活躍の場と教員の図画工作・美術に関する研修の場をできるかぎり確保し、安全第一で運営していくという方針の基、様々な事業についての検討を行い、実行に移してきた。

造形教育研究大会も第63回を迎えた。大会を通じて研究の成果が県内各学校の図画工作・美術教育の進展に大きな役割を果たしてきた。

本年度の造形大会は、南部ブロックが運営を担い、開催され、夏季休業中にオンラインによるリアルタイム配信で実施した。本年度は日程を半日として、造形大会part1（授業実践研究会）のみの実施であったが、県内のレベルの高い授業実践を参加者が共有することで、満足度の高い研修の機会となった。また、コロナ禍における造形大会の在り方を考えるよい機会ともなり、時代に適合した運営、実施の仕方について議論がされた。今後も、オンラインによるリアルタイム配信についても検討をしていく。

今後も、先輩諸氏が長年にわたって築き上げてきた実践と研究が基盤となって本県の造形教育が発展してきたことを確認し合い、時代の流れを正確に捉えて改善をしていくとともに、図画工作・美術がもつ可能性を広げていきたい。

### 1 研究主題

「きらめく感性 つくりだす喜び  
～新時代への扉 Life with Art～」

(1年次)

#### ○ 新時代への扉

背景として以下の5点が挙げられる。

- ①デジタルイノベーション、デジタル文化の発展とテクノロジーの高度化
  - ・ Society.5、DX（デジタルトランスフォーメーション：進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をよりよいものへと変革すること）

#### ②アナログ文化の復権、原始の力

- ・ 自然欠乏症候群
- ・ 「原体験」（火、草、動物、石、水、木、土、ゼロ体験）の必要

#### ③地球的・宇宙的な時空観

- ・ 望遠顕微（ミクロからマクロまでを見通す目）
- ・ 地球時代（地球人としての視野）

#### ④人類が地球に与えている影響の深刻さ、人間中心主義への警鐘

- ・ 人新生（地質学）
- ・ 持続可能な社会 SDGs
- ・ 脱炭素革命、グリーンディール、グリーンリカバリー

#### ⑤新型コロナ禍からポスト「コロナ」へ

以上の背景から、「新時代」をいくつかの扉を開いていく時代として、①子供たち、若者たちが社会の変革を担う時代、②H Q（人間性知能）や「アートの思考」が求められる時代と定義している。

#### ○ Life with Art

Life with Artについて、以下の背景が挙げられる。

- ・ 「様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」（新学習指導要領 前文）
- ・ 「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童生徒に、生きる力を育むことを目指す」（新学習指導要領 総則）
- ・ 社会、生活との関わりが重視されるように
- ・ Life（生命、生活、人生）生きること、豊かな人生につながる造形教育へ
- ・ 様々な現代的課題に立ち向かい、高度なテクノロジーを調和的創造的に生かす力が必要である。
- ・ 造形活動の底流を成すプリミティブなもの（原始的、根源的、身体的、素朴な、実空間）の意義も再確認される必要がある。
- ・ アートの力、図工・美術教育の力、「造形的な見方・考え方」、「STEAM教育」、「アートの思考」「ESD教育」

これらの背景から、以下のことについて研究を進めていく。

#### 追究観点1「受け止めよう 子供の心」

- ①子供たち一人一人の心（感性、表現の思いなど）をしっかりと受け止め、励まし、豊かな心を培うこと。
- ②自分の心を見つめ、他者と心を通わせ合うことを大切にすること。

#### 追究観点2「育てよう 確かな力」

- ①「確かな力」を生きて働く力としてとらえ、育てたい力を具体的に明らかにし、学びを深めていくこと。
- ②造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質や能力を育成すること。

#### 追究観点3「深めよう 生き生き授業」

- ①子供たちの実態に適した授業、子供たちが生き生きと活動できる授業を構想すること。
- ②「主体的・対話的で深い学び」という視点も生かしながら、授業づくりのための手立てを豊かにすること。

**課題1** これまでの研究成果を継承、発展させ、未来社会を豊かに創造し、生きていく心と力を育む図工・美術教育を探究すること。

**課題2** 次代の図工・美術教育の担い手を育てるとともに、図工・美術教育のさらなる拡充と浸透を図ること。

**課題3** 造形教育研究大会の刷新を図り、年間の活動の在り方、進め方を整備すること。

以上の追究観点と課題を設定することで、研究を進めた。

## 2 活動方針

- (1) 研究テーマは、時代の要請を受けて設定する。
- (2) 本年度は、埼玉県造形教育研究大会で授業実践研究会のみ年1回（半日）、オンラインによるリアルタイム配信で夏季休業中に開催した。

また、昨年度に引き続き、美術教育連盟の事業の見直しを図りながら、造形教育の広がり発展を期す方法について模索した。

来年度は、造形教育研究大会の授業実践研究会と創造体験研修会のうち、創造体験研修会を年1回（1日）夏季休業中に開催する。開催地や開催方法は、令和5年度の関東甲信越静地区造形教育研究大

会埼玉大会に向けて計画的に決定・準備していく予定である。

- (3) 時代や社会の変化を見据えて、その要請に応える研究を推進する。

## II 活動状況

会則に基づき、次の事業を行った。

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 5月12日(水)                | 役員研修会（常任理事会）<br>開催方法：Zoomによるオンライン配信                              |
| 6月11日(金)                | 総会<br>開催方法：書面による開催   |
| 6月12日(土)                | 関東甲信越静地区造形教育連合<br>都県代表者会議 参加<br>開催方法：Zoomによるオンライン配信              |
| 8月3日(火)                 | 第62回埼玉県造形教育研究大会<br>開催方法：Zoomによるオンライン配信                           |
| 8月18日(水)                | 令和3年度身体障害者福祉のための<br>第63回埼玉県児童生徒美術展覧<br>会中央審査会<br>会場：埼玉県障害者交流センター |
| 10月12日(火)               | 郷土を描く児童生徒美術展中央<br>審査会<br>会場：サイデン化学アリーナ                           |
| 10月30日(土)<br>・31日(日)    | 令和3年度身体障害者福祉のための<br>第63回埼玉県児童生徒美術展覧<br>会<br>会場：加須市立大利根文化体育館      |
| 11月18日(木)<br>～25日(木)    | 第61回関東甲信越静地区造形教育<br>研究大会 静岡大会（オンデマ<br>ンド）参加                      |
| 12月25日(土)<br>・12月26日(日) | 第56回郷土を描く児童生徒美術展<br>会場：埼玉県立近代美術館                                 |
| 12月1日(水)<br>～2月6日(日)    | 第62回埼玉県小・中学校等児童生<br>徒美術展 県下10会場で開催                               |
| 2月18日(金)                | 役員研修会（理事会）<br>会場・実施方法：埼玉県立近代美<br>術館、Zoomによるオンライン配信<br>の併用        |
| 2月19日(土)<br>・20日(日)     | 第62回埼玉県小・中学校等児童生<br>徒美術展 第14回中央展                                 |

## III 研究内容

### 1 第63回埼玉県造形教育研究大会

- (1) 大会主題  
「きらめく感性 つくりだす喜び  
～新時代への扉 Life with Art～」
- (2) 趣旨  
本連盟では、参会される先生方が研修会の主体と

なり、子供たちと同じ目線で、新しい授業提案や題材開発につながるような授業実践発表会や実技研修会を計画して、本大会を実施、運営してきた。

平成27年度より、それまでは年2回に分けて開催していた「授業実践研究会」と「創造体験研修会」を夏季休業期間に1日半で実施した。しかしながら、コロナ禍や働き方改革により、本年度は「授業実践研究会」のみ、半日でオンラインによるリアルタイム配信で実施した。

子供たちが、つくりだす喜びにあふれる授業を実現したいとの思いで、子供たちの喜びの声や輝く顔を実現するための授業提案や、体験研修を企画し、後者では、様々な素材を基にした題材の表現の在り方や可能性を追求する目標に加えて、題材開発という視点だけでなく創造的な技能と創造する心を学ぶことを重視している。

従来は分科会ごとのテーマを設定し、参加される先生方がそれぞれの希望に応じて多様なコースを選択できるようにしているが、本年度はタイムテーブルを設け、全ての分科会に参加することができるようにした。

- (3) 主催 埼玉県美術教育連盟
- (4) 後援 埼玉県教育委員会  
さいたま市教育委員会
- (5) 期日 令和3年8月3日(火)  
授業実践研究会
- (6) 会場 オンラインによるリアルタイム配信
- (7) 授業実践研究会  
日程 受付 12:45～13:00  
開会行事 13:00～13:05  
授業実践研究会 13:05～16:25

【授業実践会内容】

分科会	分科会協議題
1 素材との対話	①くしゃくしゃにして、紙のさわり心地から発想を広げよう ～ギュッとしたいわたしの「お友だち」～ (小2) 提案者：白井 理恵 (さいたま市立中尾小学校) 指導者：丹後 雅博 (さいたま市立大宮西小学校) ②「観る」力を育てる地域に密着した制作活動 奇妙な動物園 ～観てひらめき 触れて感じる～ (中1) 提案者：赤岩 菜美 (秩父市立秩父第二中学校) 指導者：大谷 裕紀 (熊谷市立玉井小学校)

分科会	分科会協議題
2 自己との対話	①自分をみつめ、自分をかたる表現活動 ～私を連れ出す 世界にひとつだけの靴～ (中3) 提案者：酒井 真紀 (東松山市立白山中学校) 指導者：田中 晃 (川越市立大東中学校) ②自己と作品の変容を楽しむ表現活動 ～1ページ絵本をつくろう！～ (小5) 提案者：桑原 友希 (蓮田市立蓮田中央小学校) 指導者：中島 高広 (加須市立三俣小学校)
3 生活との対話	①人とのつながり 地域を活性化する表現活動 ～街にとけこめ！かきたオブジェ～ (小4) 提案者：木藤 龍一 (川越市立大東西小学校) 指導者：鈴木 勢津子 (所沢市立北中中学校) ②「伝えるアート つながるアート」 アートでこころ豊かな環境を ～POPではじまる 伝える楽しさ～ (中1) 提案者：谷 弘美 (春日部市立大沼中学校) 指導者：小林 昭生 (越谷市立千間台中学校)
4 作品等との対話	①SNS環境を模した相互の作品鑑賞活動 ～高見えグラム～ (中1) 提案者：高見 藍 (さいたま市立大宮国際中等教育学校) 指導者：金子 宜史 (さいたま市立城南中学校) ②創作意欲を高める鑑賞活動 ～いつでもどこでもアート～ (小2) 提案者：嶋田 弥栄 (熊谷市立佐谷田小学校) 指導者：木村 浩 (熊谷市立佐谷田小学校)

閉会行事 16:25～16:30

IV 関ブロ大会への参加

1 第61回関東甲信越静地区造形教育研究大会

静岡大会

- (1) 大会テーマ 「ときめき かかわり 未来へつなぐ 造形～自分の思いをもとに 豊かに表現する個～」
- (2) 期 日 令和3年11月18日(木)～12月2日(木)
- (3) 実施方法 オンデマンド実施
- (4) 日 程 11月18日(木) 配信開始  
・開会セレモニー

- ・記念講演
- ・公開保育、公開授業
- ・研究協議、校種別分科会

(5) 埼玉県の発表者

発表者	分科会テーマ
日高 大介 (さいたま市立 南浦和小学校)	ときめきかかわる造形 (小学校) A表現 造形遊び

## V 児童生徒美術展の開催

### 1 令和3年度身体障害者福祉のための

#### 第63回埼玉県児童生徒美術展覧会

- (1) 主催・共催  
主催 社会福祉法人  
埼玉県身体障害者福祉協会  
共催 埼玉県美術教育連盟
- (2) 地区審査  
県下10会場で地区審査が行われ、入選・特選作品が選ばれた。
- (3) 中央審査会  
令和3年8月18日(水) 埼玉県障害者交流センターで、地区審査特選作品750点の中から、特別賞の作品68点が選ばれた。
- (4) 展覧会会期・会場  
会期 令和3年10月30日(土)・31日(日)  
会場 加須市立大利根文化体育館
- (5) 表彰式  
新型コロナウイルス感染の観点から中止。

### 2 第56回郷土を描く児童生徒美術展

- (1) 主催・共催  
主催 埼玉県校外教育協会  
埼玉県  
埼玉県教育委員会  
埼玉県芸術文化祭実行委員会  
共催 さいたま市教育委員会  
埼玉県市町村教育委員会連合会  
埼玉県美術教育連盟
- (2) 地区審査  
県下10会場で地区審査が行われ、入選作品8,676点・特選作品1,009点が選ばれた。
- (3) 中央審査会  
令和3年10月12日(火) サイデン化学アリーナ(さいたま市)において、地区審査で選ばれた特選作品1,009点の中から、埼玉県知事賞等120点が選ばれた。

- (4) 展覧会会期・会場  
会期 令和3年12月25日(土)・26日(日)  
会場 埼玉県立近代美術館
- (5) 表彰式  
期日 令和3年11月14日(日)  
会場 埼玉会館

### 3 第62回埼玉県小・中学校等児童生徒美術展

- (1) 主催・共催  
主催 埼玉県教育委員会  
さいたま市教育委員会  
埼玉県美術教育連盟  
共催 埼玉県市町村教育委員会連合会
- (2) 会期 各会場において1月下旬～2月上旬に実施
- (3) 会場 県下10地区会場で開催
- (4) 第14回中央展  
①会期 令和4年2月19日(土)・20日(日)  
②会場 埼玉県立近代美術館  
③内容 平面作品100点・立体作品100点  
④表彰 県知事賞  
県議会議長賞  
県教育委員会教育長賞  
さいたま市教育委員会教育長賞  
⑤表彰式 令和4年2月20日(日) 13時30分～  
埼玉県立近代美術館

## VI 今後の課題

図画工作・美術科として、学力の重要な要素である①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力・人間性等の三つの資質・能力、そして、「造形的な見方・考え方」を重視した研究を推進していく。

また、「子供の心」「確かな力」という観点を生かしつつ、研究主題に位置付けて、追究観点を中心に、さらに「主体的・対話的で深い学び」を視点に研究を深めていく。



# 8 保 健 体 育 教 育

## 埼玉県保健体育研究会

本研究会は、小学校部会と中学校部会から成り立ち、互いに連絡を取り合いながら活動をしている。

以下、本年度の両部会の研究方針や活動状況について概略を報告したい。

### I 小学校部会

本部会の主な活動の中心は「県小学校体育研究協議会」である。本研究協議会は、決められた研究テーマに基づき、個人あるいは共同で研究した結果を発表し合って研究協議を重ね、より優れた体育科教育の指導法や資料を得ようとするものである。

従って、研究については実践的で、日々の指導に直接役立つものが求められている。

#### 1 研究主題の決定

理事会を年度当初に開催し、県教育委員会の指導をいただき、どの学校にも共通した課題として次のような研究主題と三つの領域を決定した。そして、領域毎に分科会を組織して研究協議を進めている。

#### 2 研究主題

##### 第1主題（運動領域）

「運動の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わわせ、資質・能力をバランスよく育む授業の工夫」

##### 第2主題（保健領域）

「健康・安全に関する内容を実践的に理解させる保健教育の工夫」

##### (1) 器械運動系

- ① 跳び箱を使った運動遊び (1・2年)
- ② 跳び箱運動 (3・4年)
- ③ 跳び箱運動 (5・6年)

##### (2) ボール運動系

- ① ボールゲーム (1・2年)
- ② ネット型ゲーム (3・4年)
- ③ ネット型 (5・6年)

##### (3) 保健

- ① 健康な生活 (3年)
- ② 体の発育・発達 (4年)
- ③ 心の健康 けがの防止 (5年)
- ④ 病気予防 (6年)

#### 3 研究主題と方針

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するためには、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向

かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱をバランスよく、確実に身に付けていくことが大切である。資質・能力を育成するためには、以下の視点を踏まえて授業実践を行うことが重要である。

① 児童の発達の段階、能力や適性、興味や関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決できるような授業が行えるようにする。

② 児童が身近な生活における健康・安全に関心を持ち、自ら考えたり、判断したりしながら、健康に関する課題を解決できるような授業が行えるようにする。

③ 学習規律の確立を図り、人間関係が温かく、助け合い、励まし合い、教え合い、高め合う学習集団を育て、安全で効率的に授業が行えるようにする。

このことにより、生涯にわたり運動やスポーツを日常生活に積極的に取り入れ、生活の重要な一部とすることや、現在及び将来の生活で、健康に関する課題に対して、自己の健康を保持増進するために的確に思考、判断するとともに表現することができるような資質・能力を目指そうとするものである。以上のことから、令和3年度の研究主題を設定した。

#### 4 活動状況

##### (1) 資料交換の実施

研究協議会の参加者が他地区の研究資料をHPよりダウンロードすることにより、研究を深め、よりよい協議ができるようになっている。

##### (2) 指導者・司会助言者打ち合わせ会

研究協議の内容を高めるため、また、運営を円滑にするために行っている。

##### (3) 研究協議会

協議会においては、意見交換や協議が充実できるように、分科会をそれぞれ小集団（9分科会）に分けている。ここでは、研究協議が深められ、実り多い討議ができるように工夫している。

##### (4) 指導者

- 県教育局県立学校部保健体育課指導主事
- 県教育局教育事務所指導主事
- 県総合教育センター指導主事
- さいたま市教育委員会指導主事
- 市町村教育委員会指導主事

○ 県小学校体育連盟役員

## 5 研究の視点

本年度は、各運動領域の次のことに視点を当てて研究を進め、協議する。

### (1) 器械運動系

器械運動系（「跳び箱を使った運動遊び」「跳び箱運動」）は、「回転」、「支持」等の運動で構成され、様々な動きに取り組み、自己の能力に適した技や発展技に挑戦して技を身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

「跳び箱を使った運動遊び」では、様々な動きに楽しく取り組み、基本的な動きや知識を身に付けたときの喜びに触れ、その行い方を知ることのできる運動遊びである。跳び箱を使った運動遊びの学習指導では、器械・器具の条件の下で、回転、支持、逆さの姿勢、手足での移動などの基本的な動きができるようになったり、遊び方を工夫したり、これらを友達に伝えたりすることが課題になる。

中・高学年の「跳び箱運動」では、技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びに触れたり、味わったりすることができる運動である。また、より困難な条件の下でできるようになったり、より雄大で美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びも味わうことができる。跳び箱運動は繰り返し系（繰り返し跳びグループ技）と回転系（回転跳びグループ技）を取り上げている。器械運動は、「できる」、「できない」がはっきりした運動であることから、全ての児童が技を身に付ける楽しさや喜びを味わうことができるよう、練習の場や段階を工夫したりすることができるようにすることが大切である。

### (2) ボール運動系

ボール運動系（「ボールゲーム」「ネット型ゲーム」「ネット型」）は、競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることができる運動である。

「ボールゲーム」は、主として集団対集団で、得点を取るために友達と協力して攻めたり、得点されないように友達と協力して守ったりしながら、競い合う楽しさや喜びに触れることができる運動（遊び）である。

ゲームの学習指導では、友達と協力してゲームを楽しくする工夫や楽しいゲームをつくり上げることが、児童にとって重要な課題となってくる。集団で勝敗を競うゲームでは、規則を工夫したり作戦を選んだりすることを重視して、基本的なボール操作と

ボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを一層楽しめるようにすることが学習の中心となる。

「ネット型ゲーム」は、ルールや作戦を工夫し、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。ボール運動の学習指導では、互いに協力し、役割を分担して練習を行い、ボール操作とボールを持たないときの動きを身に付けてゲームをしたり、ルールや学習の場を工夫したりすることが学習の中心となる。

「ネット型」は、ネットで区切られたコートの中でボール操作とボールを持たないときの動きによって攻防を組み立てたり、相手コートに向かって片手、両手もしくは用具を使ってボールなどを返球したりして、一定の得点に早く達することを競い合うことを課題としたゲームである。「ボール操作」は、サービス・パス・返球など、攻防のためにボールを操作する技能である。「ボールを持たないときの動き」は、空間・ボールの落下点・目標（区域など）に走り込む、味方をサポートするなど、ボール操作に至るための動きや守備の動きに関する技能である。

### (3) 保健

保健については、第3学年「健康な生活」健康な生活については、健康の大切さを認識するとともに、家庭や学校における毎日の生活に関心をもち、健康によい生活を続けることについての課題を見つけ、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考えたりできるようにする。

第4学年「体の発育・発達」体の発育・発達については、年齢に伴う変化及び個人差、思春期の体の変化などについて課題を見つけ、それらの解決を目指して基礎的な知識を習得したり、解決の方法を考えたりできるようにする。

第5学年「心の健康」心の健康については、心は年齢とともに発達すること及び心と体には密接な関係があることについて理解できるようにすること並びに、不安や悩みへの対処について課題を見つけ、それらの解決を目指して知識及び技能を習得したり、解決の方法を考え判断できるようにする。

第6学年「病気の予防」病気の予防については、病気の発生要因や予防の方法、喫煙、飲酒、薬物乱用が健康に与える影響などについて課題を見つけ、それらの解決を目指して知識を習得し、解決の方法を考え、判断できるようにする。

学習指導上の留意点として、学習のねらいと内容

を明確にすることが重要である。身近な健康の保持増進について話し合うことなど、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動を積極的に行うようにする。指導に当たっては、多様な指導方法の工夫を行うよう配慮する。

## 6 研究の推進

- (1) 県小学校体育連盟各支部においては、必ず2領域の研究に取り組む。なお、「保健」に取り組む支部は「器械運動系」「ボール運動系」のどちらかを合わせて2領域とすることができる。
- (2) 学校内・地域のグループ、支部等で組織的に取り組むことが望ましい。
- (3) 研究対象学年は、器械運動系とボール運動系は全学年、保健は第3～6学年の中から選ぶ。
- (4) 研究仮説を基に具体的な単元の学習指導計画を作成し、実践して結論を導くようにする。
- (5) 研究の結果については、単元の目標と評価規準に照らし合わせた指導の成果を踏まえ、児童の具体的な変容（数値等）を示して考察を進める。

## 7 令和3年度の新型コロナウイルス感染症防止等の対応

令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症防止のため研究協議会をオンラインで開催することとした。埼玉県立総合教育センターのサイトに研究資料を掲載していただき、その資料を基にオンラインで研究協議会を行った。

## II 中学校部会

本部会の主な活動である「県中学校保健体育研究協議会」では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校における保健体育指導の充実と一層の進展を期するため、教科保健体育の指導及び学校における体育・健康に関する指導上の諸課題から研究主題を設定し、各校の実践を通して得られた成果を持ち寄り研究協議をする。

このことにより、一層充実した研究実践を進め、心身共にたくましい生徒の育成を期するとともに、指導者の資質の向上を図ることをねらいとしている。さらに、県の研究協議会に至るまでの各学校における実践、各地区での資料の作成など研究活動の充実を図る上からも重要な研究協議会である。

### 1 研究主題の決定

本年度の研究主題は、学習指導要領に基づく体育授業の実践を目指し、昨年度のアンケート調査の結果を参考にし、研究常任委員会で検討を加え、その話し合いでの問題点を県教育委員会・県中学校体育連盟・県保健体育研究会の三者で調整を図り、次に示すように

決定された。

## 2 研究主題と方針

### 研究主題

「生徒一人一人を確実に伸ばす保健体育指導の実践」

#### <第1主題>

「陸上競技の特性に応じた効果的な学習指導の工夫」

##### (1) 研究の趣旨

陸上競技は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

第1学年及び第2学年では、「記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率の良い動きを身に付けることができるようにする」ことをねらいとし、第3学年では、「各種目特有の技能を身に付ける」ことを学習のねらいとしている。

学習指導要領の趣旨に基づき、生徒一人一人の自発的・自主的な運動への取組を引き出し、指導内容をバランスよく身に付けさせるとともに、運動の特性や魅力に触れる楽しさや喜びを味わわせるための学習指導の工夫をする必要がある。

##### (2) 研究の観点

陸上競技の運動種目は、競走種目（短距離走・リレー、長距離走又はハードル走）から1種目以上を、跳躍種目（走り幅跳び、または走り高跳び）から1種目以上をそれぞれから選択して履修できるようにすることとしている。特に3学年は、これらの中から自己に適した運動種目を選択できるようにするとともに、第1学年及び第2学年の学習を一層深められるよう配慮することが必要である。

これらのことを踏まえて、これまでの取組を見直すとともに、改めて各学校や生徒の実態を的確に把握し、生徒一人一人を確実に伸ばす「陸上競技」の学習指導について研究する。

##### (3) 研究協議の方向

研究の観点に基づき、研究の柱を焦点化して研究を進め、生徒一人一人を確実に伸ばす「陸上競技」の学習指導について研究協議を行う。

#### <第2主題>

「体づくり運動の特性に応じた効果的な学習指導の工夫」

##### (1) 研究の趣旨

体づくり運動は、自他の心と体に向き合って、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、心と体をほぐしたり、体の動きを高める方法を学んだりすることができる領域である。

第1学年及び第2学年では、体を動かす楽しさや

心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解するとともに、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようになることをねらいとし、第3学年では、体を動かす心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことを学習のねらいとしている。

学習指導要領の趣旨に基づき、生徒一人一人の積極的・主体的な運動への取組を引き出し、運動の特性や魅力にふれる楽しさや喜びを味わわせるための学習指導の工夫をする必要がある。

## (2) 研究の観点

体づくり運動は、各学年において全ての生徒に履修させることとされており、各学年の授業時数が7時間以上を配当されていることから、十分考慮して指導計画を作成する必要がある。また、評価に当たっては、「体ほぐしの運動」については技能の習得・向上をねらいとするものではないこと、第1学年及び第2学年の「体の動きを高める運動」については、ねらいに応じて運動を行うこと、第3学年の「実生活に活かす運動の計画」については、運動の計画を立てることが主な目的となることから、技能の評価規準は設定されていないことを踏まえた学習活動指導の展開が求められる。これらのことを踏まえて、新たな時代に求められる「体づくり運動」の学習指導の在り方について研究する。

## (3) 研究協議の方向

研究の観点に基づき、研究の柱を焦点化して研究を進め、生徒一人一人を確実に伸ばす「体づくり運動」の学習指導について研究協議を行う。

### <第3主題>

#### 「生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育てる保健教育の工夫」

## (1) 研究の趣旨

保健分野においては、社会の変化に伴う現代的な健康に関する課題の出現や、情報化社会の進展により様々な健康情報の入手が容易になるなど、環境が大きく変化している中で、生徒が生涯にわたって正しい健康情報を選択したり、健康に関する課題を適切に解決したりすることが求められる。そのため、現在及び将来の生活において、健康・安全に関する課題に対して、科学的な思考と正しい判断の下に意思決定や行動選択を行い、思考力、判断力、表現力等を育成する必要がある。

## (2) 研究の観点

小・中・高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、小学校における「身近な生活において実践的に理解する」という指導内容や学習状況を把握した上で、子供たちの発達の段階を踏まえて、指導内容を明確にすることが大切である。

指導に当たっては、資質・能力をバランスよく育成するために、自他の健康に関心をもてるようにするとともに、健康に関する課題を解決する学習を積極的に行うことが重要である。

これらのことを踏まえて、生徒の興味や関心を生かして主体的に活動させる指導方法や評価方法を工夫した保健教育の在り方について研究する。

## (3) 研究協議の方向

研究の観点に基づき、学校や地域における授業実践を通して、実践力を育てる学習指導の在り方について研究協議を行う。

## 3 活動状況

### (1) 資料交換会

埼玉県立総合教育センターのサイトに研究資料を掲載していただき、その資料をダウンロードできるようにした。

### (2) 指導者・司会者打ち合わせ会

研究協議の内容を高めるため、また、運営を円滑にするためにオンライン（Zoom）で開催した。

### (3) 研究協議会

分科会においては、意見交換や協議することが充実できるように、分科会をそれぞれ小集団（各3グループ）に分けている。ここでは、研究協議が深められ、実り多い討議ができるように工夫している。

### (4) 指導者

- 県教育局県立学校部保健体育課指導主事
- 県教育局教育事務所指導主事
- 県総合教育センター指導主事
- さいたま市教育委員会指導主事
- 市町村教育委員会指導主事
- 県中学校体育連盟役員

## 4 今年度の対応

本年度は、新型コロナウイルス感染症防止のためオンライン（Zoom）による開催とした。

## 5 今後の課題

○小学校や高等学校の研究協議会と連携するなど研究協議会の充実を図る。

# 9 英 語 教 育

## 埼玉県英語教育研究会

### I 研究主題と方針

#### 1 研究主題

「21世紀を逞しく生き抜く人材の育成を目指した英語教育 ～コミュニケーションを大切にする児童生徒の育成～」

#### 2 主題設定の理由及び方針

知識基盤社会化やグローバル化が加速度的に進展するこれからの社会において、子供たちが豊かに逞しく生きるために、語学を駆使し協力して課題を解決できるようコミュニケーション能力の育成が求められている。このような状況の中、昨年度からは小学校、今年度からは中学校で学習指導要領（H29告示）が全面実施され、小学校高学年で外国語が必修教科となり、それぞれの校種での到達目標が高度化されたことで、小学校・中学校ともに上級学校との連携を一層進めるとともに、上級学校での英語学習の土台作りを行い、学年が上がるごとに英語の学習意欲が向上するよう、コミュニケーションの必要性和楽しさを体得させる指導を計画的に進めることが求められている。

本県英語教育研究会においては、学習指導要領における外国語科の目標に照らし、これまでの実践を基に、児童生徒一人一人が主体的にコミュニケーションを大切にす英語教育を進め、21世紀を逞しく生き抜く人材の育成を目指すために本研究主題を設定した。

### II 活動状況および研究内容

#### 1 行事計画

- 6月16日(水) 理事・幹事会  
(年間の方針、総会提出議案等の審議)  
於：さいたま市プラザウエスト
- 6月16日(水) 総会・研究協議会  
(決算、予算、役員選出、事業報告、事業計画についての審議及び研究協議)  
於：さいたま市プラザウエスト
- 6月29日(火) 学力調査問題作成委員研修会  
(問題作成にあたっての研究協議①)  
於：富士見市立東中学校
- 8月2日(月) 学力調査問題作成委員研修会  
(問題作成にあたっての研究協議②)  
於：富士見市立東中学校

- 8月4日(水) 英語教員研究発表会  
於：比企支部管内
- 8月18日(水) 学力調査問題作成委員研修会  
(問題作成にあたっての研究協議③)  
於：富士見市立東中学校
- 10月1日(金) 第73回高円宮杯英語弁論大会埼玉県予選準備会  
(大会実施に向けての準備・役割分担)  
於：羽生市産業文化ホール
- 10月8日(金) 第73回高円宮杯英語弁論大会埼玉県予選(生徒による英語弁論大会)  
於：羽生市産業文化ホール
- 11月12日(金) 第45回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会茨城大会
- 11月24日(水) 英語学力調査問題例情報提供
- 3月4日(金) 常任理事会  
(年度末反省及び次年度全体研究)  
於：さいたま市プラザウエスト
- 3月7日(月) 埼英研だより発行(広報誌の発行)
- 3月31日(水) 研究紀要発行

#### 2 役員

選出された本年度の役員は以下のとおりである。

- ・会 長 青野 保(蓮田・黒浜西中学校)
- ・副会長 吉岡 章(小鹿野・小鹿野中学校)
- 伊藤 幸男(熊谷・熊谷東中学校)
- 笠井 誠司(草加・青柳中学校)
- 加藤 秀樹(北本・西小学校)
- 菅野 誠一(富士見・東中学校)
- 青木 伸広(越生・越生中学校)
- 内山 真二(久喜・栗橋西中学校)
- 福沢 仁恵(白岡・南中学校)
- 小林 正美(さいたま・大宮八幡中学校)
- 榎本 孝之(さいたま・大谷小学校)
- ・監 事 城崎 克恵(幸手・吉田小学校)
- 遠藤 敏恵(さいたま・城北中学校)
- ・支部長
- 北足立南部 及川 祐一(草加・両新田中学校)
- 北足立北部 池田 耕司(鴻巣・赤見台中学校)
- 入 間 北野 晃(入間・豊岡中学校)
- 比 企 茂手木直人(小川・東中教頭)

秩 父 板倉 邦弘（秩父・吉田中学校）  
 児 玉 早野 浩（美里・美里中教諭）  
 大 里 西澤 淳（熊谷・江南中教諭）  
 北 埼 玉 須藤 博文（加須・北川辺東小校長）  
 埼 葛 檜田 勝巳（八潮・八條小校長）  
 さいたま市 田村 浩司（さいたま・土屋中校長）

### 3 専門部組織

- ・行事部 総会、英語弁論大会担当
  - 部 長 深須 英昭（深谷・深谷中教諭）
  - 副部長 川端 洋子（北本・宮内中主幹教諭）
  - 副部長 直井 海斗（上里・上里北中教諭）
- ・研修部 教員研究発表会担当
  - 部 長 城 由美子（戸田・戸田中教諭）
  - 副部長 高橋 博将（上尾・大石南小教諭）
- ・調査研究部 学力調査問題作成、結果分析担当
  - 部 長 嶋村 淳（さいたま・美園南中教諭）
  - 副部長 小山 協子（狭山・柏原中教諭）
  - 副部長 栗原 雄三（春日部・豊野中教諭）
- ・広報部 研究紀要、広報誌担当
  - 部 長 出口 智康（行田・長野中教諭）
  - 副部長 笹川 陽子（蕨・第二中教諭）
- ・庶務部 庶務、会計等担当
  - 部 長 高橋 太一（埼玉大学附属中教諭）
  - 副部長 蓬澤 守（埼玉大学附属中教諭）

### 4 活動の状況

#### (1) 総会・研究協議会

- ・期 日 令和3年6月16日(水)
- ・会 場 さいたま市プラザウエスト

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため授業研究会を中止し、以下の内容について理事・幹事会において協議した。

- ①令和2年度事業報告および承認
- ②令和2年度決算報告
- ③監査報告および承認
- ④令和3年度役員の承認
- ⑤令和3年度活動方針案審議
- ⑥令和3年度事業計画案審議
- ⑦令和3年度予算案審議

次年度については、オンラインによる開催も検討したい。

#### (2) 英語学力調査

現行教育課程実施に伴う英語学力を調査して、その実態を把握し、学習活動の指針とするとともに、言語活動の在り方についての資料とすることを目的

に実施しているものである。調査は県内全域の中学生を対象とし、学年ごとに実施している。

本年度、調査自体は行わなかったが、新たな評価の三観点に基づく問題作成方針や出題の方向性について検討し、情報提供として全県の中学校にパフォーマンステスト例等の資料を配付し、その活用による授業改善をお願いした。

以下に、本年度作成した次年度開催要項（案）の要点を述べる。

- ・目的
  - ①日頃の授業で身に付けた英語の学力の実態を把握して、今後の学習指導に生かすとともに、学習指導要領に基づいた英語の指導と評価の在り方についての資料とする。
  - ②観点別学習状況の中で、特に「知識・技能」、「思考・判断・表現」、の達成状況を把握し、きめ細やかな指導と評価に活かす。
- ・実施期間 令和4年11月末～12月中旬
- ・出題方針 5領域（聞くこと・読むこと・話すこと〔やり取り〕・話すこと〔発表〕・書くこと）にわたり、観点別学習状況の「知識・技能」、「思考・判断・表現」の達成状況を把握できるように工夫している。
- ・結果分析 埼玉県英語教育研究会の学力調査結果分析委員が行う。学力調査参加校は、報告書作成のための資料として、以下のものを令和4年12月中旬に担当者宛に送付する。なお、I～IV部とスピーキングテストの実施日が異なる場合は、両方が終わりしだい送付する。
  - ①送付するもの
    - ア 筆記テスト
      - 実施学年最初の学級の男女別出席番号1番の男女生徒計2枚の答案用紙をコピーし、そのコピーを採点したものの計2枚
    - イ スピーキングテスト
      - 実施学年最初の学級の男女別出席

番号2番、3番の男女計4名分の個人成績表

・結果報告 令和5年1月末に結果分析速報を実施校に送付する。

令和5年3月末に結果報告書（本会研究紀要掲載）を県内全ての中学校に送付する。

(3) 英語教員研究発表会

英語教育に関する個人またはグループによる研究成果を発表し、県下英語科及び外国語活動担当教員の資質の向上をねらい、開催するものである。

・期 日 令和3年8月4日(水)

・会 場 比企支部管内

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。次年度については、オンラインによる開催も検討したい。

(4) 英語弁論大会

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインでの開催とした。高円宮杯全日本中学校英語弁論大会も同様にオンラインでの開催となった。以下に、県大会オンライン開催の詳細を述べる。

・趣 旨

①国際性豊かな青少年を育てるために、国際語である英語を熟達させるとともに、広くその普及を図り、併せて日本文化の発展及び国際親善に寄与する。

②中学校生徒の英語の話し方・聞き方能力の向上を図るとともに、諸言語活動の発表の場とする。県内中学生の英語を話す能力、聞く能力の向上を図るとともに、諸言語活動の発表の場とする。

・期 日 令和3年10月8日(金)

・会 場 羽生市産業文化ホール

・審査員 大東文化大学教授

静 哲人 先生

埼玉大学教授

及川 賢 先生

埼玉大学教授

武田ちあき 先生

大東文化大学准教授

淡路 佳昌 先生

埼玉大学英語教育開発センター教授

Stacey Vye 先生

埼玉大学英語教育開発センター准教授

Leander Hughes 先生

東京理科大学講師

Debjani Ray 先生

埼玉県県民生活部国際課国際交流員

Skookum Joshua 先生

・動 画

①静かな屋内で撮影し、スピーチが明瞭に聞こえるようにする。

②スピーチは動画中の最初の発声から5分間とする。超過した場合は審査ルールに基づいて減点の対象となる。

③カメラは正面を固定して撮影し、身体的理由等でやむを得ない場合を除き、原則として腰から上の上半身が映るようにし、カメラ目線でスピーチする。また、視覚に訴える道具の使用や立ち回る等の過度な演出・演技は禁止する。

④カンニングペーパー、プロンプターの使用は禁止する。

⑤撮影後のビデオ編集は禁止する。画質・音質等に問題がある場合には、スピーチ全体を撮影し直す。

⑥ビデオのファイル名を「題名・学校名（地区名）・学年・氏名」にして提出する。

⑦ビデオのファイル形式は「mov」・「mp4」・「wmv」のいずれかとし、動画サイズは最大上限容量500MBを超えないようにする。

・結果発表

ビデオ・原稿提出先と同様のGoogle Classroom上にて、10月8日(金)の夜に決勝進出者を、12日(火)の午前中に決勝の結果を発表し、第3位までの生徒の指導教諭にはメールで連絡する。

・表 彰

第1位～第6位まで（決勝進出者）を入賞者とし、賞状を後日送付する。

第1位の者は、本県代表として高円宮杯第73回全日本中学校英語弁論大会中央大会への出場資格を得る。

第2位、第3位の生徒には、後日、高円宮杯事務局より中央大会記念品が送付される。

・大会結果

1位 有賀 義訓 (Yoshinori Aruga)  
演題 “A Great Leader”

所沢市立柳瀬中学校 (3年)

2位 シレスタ スヒナ(Suhina Shrestha)

演題 “Bulletproof”

朝霞市立朝霞第三中学校 (3年)

3位 薛 思怡 (Shi Setsu)

演題 “Smart Phone, Smart Tool”

さいたま市立常盤中学校 (3年)

4位 澤田 桃佳(Momoka Sawada)

演題 “The Price of Chocolate”

所沢市立南陵中学校 (3年)

5位 西城 なずな (Nazuna Saijo)

演題 “For the Equality”

狭山市立中央中学校 (3年)

6位 姜 瑾嶸 (Kinryo Jan)

演題 “Not the Whole Picture”

さいたま市立浦和中学校 (3年)

(5) 第45回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会茨城大会

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインでの開催となった。以下に大会の概要を述べる。

・趣 旨

これまでの英語教育の実践及び英語教育の現状を見直し、英語教師自らの資質向上と授業改善・充実を図り、関東甲信地区英語教育に寄与する。

・主 題

グローバル社会を生き抜くために必要なコミュニケーション能力の育成  
～伝え合う力を育むための段階的な指導等の工夫を通して～

・記念講演

演題 「新学習指導要領における指導と評価」

講師 文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 外国語教育推進室

教科調査官 山田 誠志 先生

・埼玉県提案 (第1分科会)

分科会テーマ 小中連携の実践的な取組

提案者 所沢市立安松中学校

教諭 山井 葉里子

指導者 所沢市立教育センター

指導主事 東村 広子

初のオンライン開催に伴い、関東甲信地区中学校英語教育研究会理事会での協議の結果、以下のとおりに参加方法等を変更した。

・参加者の単位

個人申し込みではなく学校等の団体での申し込

みとした。

・参加費用

例年4,500円の参加費を1校3,000円とした。

・参会者資料

紙媒体ではなく、データでの配付とした。

オンライン開催に係る運営上の課題は複数あるが、特に県外参会者の先生方が協議の場において自由に発言し、複数での議論が難しいということが挙げられる。

(6) 研究紀要の発行

例年は、本会の活動の総括として以下のような内容の紀要を作成、発行するとともに、次年度以降の研究推進の基礎としているが、本年度は上記行事の一部のみの開催となったため、内容を精選して発行した。

○ 総会、授業研究会記録

○ 英語弁論大会結果と入賞者弁論原稿

○ 英語学力調査全問題、解答及び全学年分析結果

○ 教員研究発表会記録

○ 関東甲信地区中学校英語教育研究協議会  
埼玉県提案者発表資料

○ 大野政巳英語教育賞受賞論文

○ 埼英研だより等

### III 今後の課題

本年度から、中学校でも全面実施となった学習指導要領 (H29告示) の下での授業実践を踏まえ、学習指導と評価の一体に関する研究を進めていくとともに、令和6年度に控える全国英語教育研究団体連合会埼玉大会に向けての研究や準備も進めていく。

昨年度は、コロナ禍において本会事業のほぼ全てを中止としたが、本年度は、オンライン開催にするなどWithコロナ時代における活動の充実を図ることができた。

今後は、コロナ禍における「学校の新しい生活様式」についても可能な限り言語活動を充実させ、コミュニケーションを大切にする児童生徒の効果的な育成ができるよう、より一層県内英語科教員の資質・能力の向上を図っていきたい。



# 10 道 徳 教 育

埼玉県道德教育研究会

## I 研究主題と方針

### 1 研究主題

「人としての生き方について考えを深め、  
よりよく生きる児童・生徒を育てる  
道德教育の創造」  
～学習指導要領が求める道德教育の実践を通して～

### 2 研究方針

人間は、だれもが人間として生きる資質をもって生まれてくる。その資質は、人間社会における様々なかわりや自己の対話を通して開花し、固有の人格が形成される。その過程において、人間は様々な夢を抱き、希望をもち、また、悩み、苦しみ、人間としての在り方や生き方を自らに問いかける。この問いかけを繰り返すことによって、人格もまた磨かれていくと考えられる。人間は、本来、人間としてよりよく生きたいという願いをもっている。この願いの実現を目指して生きようとするところに道德が成り立つ。道德教育とは、人間が本来もっているこのような願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道德性を養う教育活動であるといえる。

本研究会では、このような道德教育本来の在り方を重視し、内なる自己との対話を通して他者や人間社会集団、自然、そして目に見えない崇高なものとの関係性においてよりよい生き方を求め、実践できる子供たちを育む視点を重視し、本主題を設定した。

特に学習指導要領が求める道德教育の実践を通して、「道徳科」が学校の教育活動全体で行う道德教育の要として、それらを補充、深化、統合する役割を果たすことから、「人間とは何か」ということや、人間としての生き方について、探求する機会としての「道徳科」の充実を模索していくこととした。

また、本年度、「第50回関東甲信越地区中学校道德教育研究大会埼玉大会」及び「第60回埼玉県道德教育研究大会幸手大会」を開催するに当たり、運営のための実行委員会を立ち上げ、「授業で勝負する埼玉県の道德教育」を合言葉に取り組んだ。

当日は、13授業の授業者によるプレゼンをメインとした授業研究、各都県からの10課題別分科会、文部科学省調査官による記念講演を実施し、大きな成果を得ることができた。

### 3 令和3年度組織

会 長：島方 勝弘（幸手市立幸手中学校長）  
副 会 長：藤澤美智子（さいたま市立本太小学校長）  
          関本 由美（杉戸町立杉戸第二小学校長）  
          藤間 隆子（加須市立加須西中学校長）  
監 事：須山恵美子（川口市立里小学校長）  
          閑野 千鶴（桶川市立日出谷小学校長）  
総務部長：森田 昌孝（熊谷市立江南南小学校長）  
授業開発部長：栗原 利夫（行田市立見沼中学校長）  
企画推進部長：寺井 次郎（加須市立騎西中学校長）  
事務局長：正籬 洋子（春日部市立八木崎小学校長）

## II 活動状況

### 1 本年度の主な事業

#### (1) 理事会（総会）・専門部会及び全体研究協議会

日時：令和3年5月25日(火) 13:45～  
会場：埼玉会館から幸手市東公民館に変更  
※まん延防止等重点措置区域に指定されたため  
出席者：役員（幹事を除く）  
研究協議会（講演）

演題 『令和の日本型学校教育と道徳』

講師 横浜商科大学商学部教授

東風 安生 先生

※総会資料の郵送送付により、本年度の計画等了承済み。

#### (2) 夏季研修会 【中止】

※ 緊急事態宣言が発出されたため  
日時：令和3年8月5日(木) 12:00～  
会場：鴻巣市文化センター（クレアこうのす）  
内容：教材吟味と学習指導案の作成（基礎基本、小学校低・中・高学年、中学校部会）  
指導講評（埼玉県教委、さいたま市教委）  
記念講演

講師 文部科学省初等中等教育局  
教育課程課教科調査官

浅見 哲也 先生

#### (3) 「第50回関東甲信越地区中学校道德教育研究大会埼玉大会」及び「第60回埼玉県道德教育研究大会幸手大会」

日時：令和3年10月22日(金)

会場：幸手市立幸手中学校

※オンライン（一部会場参加）開催に変更

内容：授業研究会（13ルーム）

課題別分科会（5分科会10ルーム）

記念講演

講師 文部科学省初等中等教育局

教育課程課教科調査官

飯塚 秀彦 先生

(4) 会報第102号編集発行（令和4年2月発行）

※掲載内容を精選し、6ページでの発行

(5) 道徳教育の研究第53集（道徳教育指導資料集35集）編集発行 ※【中止】

(6) 各研究大会への参加等

①全国小学校道徳教育研究大会鹿児島大会

（オンデマンド開催）

②全日本中学校道徳教育研究大会沖縄大会並びに九州地区中学校道徳教育研究大会沖縄大会

（オンライン開催）

③関東地区小学校道徳教育研究大会群馬大会

（誌上発表）

提案：幸手市立吉田小学校

④全国小学校道徳教育研究会研究発表会

（東京都2月10日(木) 参会・動画配信参加）

⑤全国小学校道徳教育研究会夏季中央研修講座

（オンデマンド開催）

### Ⅲ 研究内容

#### 1 総会・専門部会及び全体研究協議会（講演）

演題 『令和の日本型学校教育と道徳』

～GIGAスクール構想における個別最適

な学びと協働的な学びを通して～

講師 横浜商科大学商学部教授 東風 安生 先生

【講演の概要】

(1) 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～ 中央教育審議会答申（令和3年1月26日）を振り返って

①急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

②新学習指導要領の情報教育とICT活用のポイント

(2) 国の目指すもの

①時代のキーワード

②日本型教育のこれからの課題

③ICT活用に関する基本的考え方

④令和のICT教育

(3) ICTと道徳教育

①情報モラル教育

②令和の教育活動（端末活用が当たり前の授業）



<写真：東風先生 ご講演>

#### 2 委嘱校 幸手市立幸手中学校の研究概要

「第50回関東甲信越中学校道徳教育研究大会埼玉大会・第60回埼玉県道徳教育研究大会幸手大会」会場校となった幸手市立幸手中学校の取組

(1) 研究主題

「人としての生き方についての考えを深め、

よりよく生きる生徒を育てる道徳教育の創造」

～学習指導要領が求める

道徳教育の実践を通して～

(2) 研究主題設定の理由

学習指導要領完全実施の本年度であるが、本校では2年前から「特別の教科道徳」（道徳科）として、自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深める学習ができるよう研修を進めてきた。

進路指導・キャリア教育の観点からも「自己の生き方を考えられる生徒」、「目標達成のために努力できる生徒」を目指す生徒像として研修を進めてきた経緯もあり、自己を見つめ、よりよい生き方とは何かを考え、実践できる生徒の育成を目指し、本主題を設定した。

(3) 研究の仮説（要旨）

①教師が道徳的視点を明確にして意図的な指導を積み重ねることで、生徒は自らの生き方を多面的・多角的に考えることができるであろう。

②授業では、道徳的価値の内面的自覚を深化させる

展開や、振り返りの時間を確保することで、生徒は自らの生き方についての考えを深められるだろう。

- ③展開では、ねらいに迫る的確な発問と、意見交換の場の確保で、生徒の「主体的な学び」や「他者への思いやり」が身に付くであろう。

#### (4) 研究の重点（要旨）

- ①道徳的価値を意識した各教科・各教育活動の研究
- ②道徳的に学習ができる学校環境の研究
- ③プランニングシートを活用した効果的な授業
- ④1時間ごとの効果的な振り返りとカードの活用
- ⑤「意見交換」の活発化、そのためのICTの活用
- ⑥道徳教育における学校・家庭・地域の連携

#### (5) 研究の概要

研究組織は、以下の3部会を作り、教科部会である道徳部会と連携を図りながら研究を進めた。

##### ①授業研究部

- 校内授業研究会の計画・実施
- 指導法と評価の研究
- 授業形態、発表の仕方 ICT活用の研究
- プランニングシートの活用の研究
- 道徳オリエンテーションの提案
- 場面絵等、教材・教具の効果的な保存と活用



<写真：道徳オリエンテーションの実施>

##### ②環境整備部

- 教室や校舎内外の環境整備、掲示
- 道徳コーナーの設置（全教室・廊下）
- 季節ごとの詩の掲示
- 授業研究会の記録、指導案の保存、板書の記録、授業写真の保存

##### ③調査研究部

- 道徳アンケートの実施・集計・分析
- 「道徳通信」の発行、保護者、地域との連携
- 進路指導、キャリア教育の取組との連携
- 日常生活アンケートの実施・集計・分析
- 研究仮説の検証

#### (6) 研究大会（埼玉大会）における公開授業

幸手中学校における研究大会の公開授業は、事前に授業を録画し、その映像を活用しながら（同時にZoom配信をしながら）授業者が説明、発表するという形で実施した。授業を深めるために、特に意識化・重点化されたねらいは以下の七つである。

- ①ねらいとする価値に対する授業者の納得解
- ②授業で異なる学習テーマの提示方法
- ③呼吸するように書く活動の挿入
- ④効果的な話し合い活動の展開
- ⑤生徒の振り返りを生かす活動の工夫
- ⑥評価のための共通理解と方法の模索
- ⑦「励まし、伸ばす」積極的な評価の推進

##### 【公開授業 教材名】

- 1年1組 「釣りざおの思い出」
- 1年2組 「裏庭での出来事」
- 1年3組 「ネパールのビール」
- 1年4組 「箱根路を走る－柳俊幸－」
- 2年1組 「美しい母の顔」
- 2年2組 「キャッチボール」
- 2年3組 「蹴り続けたボール」
- 2年4組 「旗」
- 3年1組 「ねぶたを夢見て」
- 3年2組 「忘れられないご馳走」
- 3年3組 「二人の弟子」
- 3年4組 「二通の手紙」

特別支援学級 「OMOIYARIのえほん、世界を幸せにする魔法」

#### (7) 成果と課題

道徳教育研究大会は、オンライン発表と会場発表を組み合わせる形で実施された。リアルタイムでの授業公開ではなかったが、特別支援学級まで含めた全クラスでの発表は研究の大きな節目になった。一昨年から重ねた授業研究会、それに向けての指導案検討会によって、「プランニングシートを作成し授業のねらいを明確にする本校の授業スタイル」は、職員の間に着実に定着してきた。繰り返し示範授業をしていただいた、山西 実幸手市教育長をはじめとし、

大会に向けて御指導いただいた諸先生方には感謝に堪えない。しかし、仮説の検証等は未だ着手し始めたばかりである。生徒の変容の考察も未だ十分とは言えない。

今後は、この発表会をゴールとすることなく、引き続き本校の道徳科授業の質的改善に取り組むとともに、研究を継承していく所存である。



<写真：幸手市教育委員会教育長  
山西 実先生の示範授業>

### 3 「第50回関東甲信越中学校道徳教育研究大会埼玉大会・第60回埼玉県道徳教育研究大会幸手大会」記念講演

演題 『いま求められる道徳教育の推進』

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官 国立教育政策研究所

教育課程研究センター研究開発部

教育課程調査官

飯塚 秀彦

#### 【講演の概要】

#### (1) 令和の日本型学校教育

##### ○再認識された日本の学校の役割

学習機会と学力の保障や全人的な発達・成長の保障、身体的・精神的な健康の保障である。

・教育基本法第1条 「教育は人格の完成」

・学習指導要領 「人格の完成及び国民の育成の基盤となるのが、道徳性であり、その道徳性を養うことが道徳教育の使命である。」

##### ○急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

・令和3年答申 【一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること】

・そのような資質・能力を育むためには、新学習指

導要領の着実な実践やICTの活用が欠かせない。

・学習指導要領に記された道徳科の特質や道徳教育の使命を理解した上での実践が求められている。

#### (2) これからの道徳教育に求められること

○道徳教育の全体計画

○各教科における道徳教育

○道徳科の目標

○道徳科の内容

○令和の学校教育と道徳科

・教師の道徳的価値の理解が重要である。

・GIGAスクール構想の下での「特別の教科道徳」の指導



<写真：オンラインによる飯塚先生のご講演>

### Ⅲ 次年度にむけて

「第56回関東地区小学校道徳教育研究大会埼玉大会・第61回埼玉県道徳教育研究大会さいたま大会」

日時：令和4年11月11日(金)

会場：さいたま市立本太小学校

内容：公開授業、課題別分科会

記念講演

講師 文部科学省初等中等教育局

教育課程課教科調査官

浅見 哲也 先生

本年度も、コロナウイルス感染症拡大の影響により様々な変更を余儀なくされたが、研究大会（幸手大会）から新たな運営の在り方について考えることができた。

今後も内容や方法を模索し多くの先生方と学ぶ場を提供するとともに、本主題の研究を深め「授業で勝負する埼玉県の道徳教育」を発信していきたい。

# 11 特別活動

## 埼玉県特別活動研究会

### I 研究主題と方針

#### 1 研究主題

「よさや可能性を發揮し合い、  
確かな資質・能力を育む特別活動」

#### 2 主題設定の理由

世界は今、予測困難な時代を迎えている。日本の学校教育に目を向けると、昨年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う学校の臨時休業や分散登校、学校の新しい生活様式などこれまでの学校生活が一変した。子供たちは、先が見通せない不安や様々な制約の中、「いき苦しきさ」を感じている。また、「日本の子供たちは、自己肯定感や自己有用感が低い」と指摘されて久しい状況も続いている。この課題の解決のために学校教育においても様々な取組がなされ、成果を挙げているものの、変化の激しい社会を迎えている今、さらなる工夫が求められている。さらに、様々な教育的支援が必要な児童生徒が増加しているなど子供たちの教育的ニーズが多様化している現状がある。

これまでの日本の学校教育は、子供たちの短所の克服に力が注がれてきた側面がある。確かに「できない」ことを「できるようにする」ことは我々教師の使命である。しかしながら、子供たちが多様化する中で、「できない」ことだけに目を向けるのではなく、「できる」ことを伸ばすことが子供たちの資質・能力の育成につながるのではないだろうか。「長所はこれを發揮するに努力すれば、短所は自然に消滅する。」（『渋沢栄一訓言集』）これは、埼玉県深谷市生まれで、「日本の資本主義の父」と言われた渋沢栄一氏の言葉である。現代の言葉に直すと、「自分の長所を見つけて、それを伸ばすように努めれば、短所はいつの間にか、消えてしまう」という意味である。つまり、短所を直すより、長所を伸ばそうという教えである。

中央教育審議会は、令和3年1月に「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（答申）」を取りまとめ、令和の日本型学校教育として、個別最適な学びと協働的な学びが重要であるとした。指導の個別化、学習の個性化といった個に応じた指導を一層重視するとともに、「一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わ

さり、よりよい学びを生み出す」ために、多様な他者と協働することが重要であると示された。さらに、同答申では、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力として、「自己肯定感・自己有用感」「他者への思いやり」「対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力」「困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力」が示された。これらの資質・能力の育成には、特別活動が寄与するところが大きいと考える。

本会では、「私」「私たちの学級」「私たちの学校」を主語に、物事を語るができる子供の育成を目指し、育てたい資質・能力を明確にして研究を進めてきた。昨年度は、「よさや可能性を發揮し合う」ことに焦点を当て、確かな資質・能力を育成する特別活動の在り方について、研究を深める1年間とした。その成果として、①様々な活動が制限される状況においても、「よさや可能性を發揮し合う」という視点を大切に、活動を工夫することで、確かな資質・能力が育成されること、②よさや可能性を發揮している具体的な姿を明確にすることで、資質・能力の育成につながること、③よさや可能性を發揮し合うことが自己有用感の高まりにつながること、の3点が明らかになった。その一方、課題として、①子供が自分のよさや可能性に気付き、發揮し合うための手立てを明確にすること、②教師が子供一人一人のよさや可能性を見つける視点を明確にし、指導と評価の方法について工夫・改善することの2点が確認された。

これらを踏まえ、子供たちに確かな資質・能力を育むためには、一人一人のよさや可能性を、様々な集団活動の中で發揮し合えるようにしていくことが重要であると考えた。そこで、研究主題を「よさや可能性を發揮し合い、確かな資質・能力を育む特別活動」と設定した。

#### 3 研究の柱

研究主題に迫るため、次の2点を柱に研究を進めることとした。

- 一人一人のよさや可能性を發揮し合うための手立てについて明らかにする。
- 確かな資質・能力を育むための指導と評価の方法について明らかにする。

なお、本会として育成を目指す「確かな資質・能力」については「生活や社会における諸問題を見だし、多様な他者と協働しながら解決し、自分の人生や社会を拓いていくことのできる力」として捉えていく。この資質・能力は、子供たちにとっての社会である学級・学校を含め、将来歩んでいく社会で生きて働く実践力でなければならない。そして、「よさや可能性を發揮し合う」ためには、適切な教師の指導の下、特別活動で最も重要な特質である自主的、実践的な活動を展開することを中心に、計画的、継続的に実践していくことが不可欠である。その営みは、やがて子供たちに、経験したことのない状況をも乗り越えていける力を育てていく。それはまさに、今、求められている資質・能力であると考えます。

#### 4 研究の内容

研究を進めるに当たり、次に示す二つの内容を中心に、専門委員会ごとに研究の視点を設け、それぞれの実践において、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、その育成のための手立てについて研究を深める。

(1) よさや可能性を發揮し合い、確かな資質・能力を育むための指導計画

子供たちの今の実態と将来の姿を見据え、年間や学期、あるいは、各実践の中で、発達の段階に応じた活動を展開していくための指針となる指導計画について研究する。以下は、そのポイントである。

- |  |
|--|
| <p>① 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を踏まえた指導計画を作成する。</p> <p>② 一人一人が集団の中で役割を果たしたり、活躍したりできるような指導計画を作成する。</p> <p>③ 学年間・学校間での接合の在り方を考え、学びの蓄積が継続されるような指導計画を作成する。</p> |
|--|

(2) よさや可能性を發揮し合い、確かな資質・能力を育むための指導と評価の方法

指導については、集団活動のよさを生かしながらも、事前・本時・事後それぞれの活動における実践上の留意点にも目を向ける。また、評価については、一人一人の変容を見取るために、自己評価に留まらず、よりよい相互評価の方法にも重点をおいて研究する。以下は、そのポイントである。

- |   |
|---|
| <p>① 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を踏まえた指導と評価の在り方を考える。</p> <p>② 一人一人が集団の中で役割を果たしたり、活躍したりできるような具体的な手立てを工夫する。</p> <p>③ 一人一人の変容を見取り、次の実践への意欲を高める個人内評価や多様な評価方法を工夫する。</p> |
|---|

### 3 研究の方針

- (1) 各専門委員会を中心に、研究主題に関わる実践研究を深める。
- (2) 総会や講演会を通して、理論研究を深める。
- (3) 各支部活動を通して、地域に根ざした実践の情報交換を行うとともに、会報や研究集録を通して、県内への情報提供を行う。
- (4) 各種全国規模の大会との協力を通して、全国での情報交換を行うとともに、会報や研究集録を通して、県内への情報提供を行う。

## II 活動状況

### 1 支部長・専門委員長・理事等合同研究協議会

○日 時 令和3年5月6日(木)

15時10分～16時30分

○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、オンライン会議システムによる開催

### 2 定期総会並びに講演会

○日 時 令和3年5月19日(水)

15時10分～16時30分

○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、オンライン会議システムによる開催

○講 演

講師 筑波大学教授 藤田 晃之 先生  
演題 『特別活動におけるキャリア教育』

### 3 地区別研究協議会

○期 日 令和3年6月～令和4年2月まで

○実 施 各地区

### 4 役員研究協議会

(1) 第1回役員研究協議会

○日 時 令和3年5月25日(火)

15時10分～16時30分

○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためオンライン会議システムによる開催

○内 容 令和3年度の専門委員会等の研究・運営計画について

(2) 第2回役員研究協議会

○日 時 令和4年3月1日(火)

15時～16時30分

○会 場 さいたま市民会館おおみや

○内 容 令和3年度の専門委員会等のまとめ及び次年度の事業計画について

## 5 専門委員研究協議会

### (1) 第1回専門委員研究協議会

○日時 令和3年6月2日(水)  
13時15分～16時30分

○会場 国立女性教育会館  
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、役員・正副委員長・事務局員のみ会場に参集し、企画委員・専門委員はオンライン会議システムによる参加

○内容 研究主題についての共通理解と各専門委員会の研究の視点の確認

### (2) 第2回専門委員研究協議会

○日時 令和3年9月8日(水)  
14時10分～16時30分

○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、オンライン会議システムによる開催

○内容 本年度の研究方針に基づいた5分野の専門委員会による研究協議

### (3) 第3回専門委員研究協議会

○日時 令和4年1月19日(水)  
14時10分～16時30分

○新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、オンライン会議システムによる開催

○内容 本年度の研究方針に基づいた5分野の専門委員会による研究協議、本年度の研究のまとめ

## 6 全国特別活動研究協議大会埼玉大会

○日時 令和3年8月19日(木)  
12時50分～16時30分  
令和3年8月20日(金)  
9時50分～15時30分

○会場 埼玉会館  
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、参加者はオンライン会議システムによる参加

### ○講演

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策所教育課程研究センター教科調査官 安部 恭子 先生  
演題 『よさや可能性を發揮し合い、確かな資質・能力を育む特別活動』

○分科会 全12分科会による研究協議

## 7 研究集録

特別活動研究集録61集発刊

## 8 広報活動

会報「特活」第134・135・136号発刊

## 9 令和2・3年度研究委嘱校及び研究発表会

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、本会ホームページにて研究成果を発表

## 10 埼玉県特別活動研究会創立60周年式典

○日時 令和3年12月4日(土)  
15時00分～17時30分

○会場 さいたま市文化センター  
新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、役員・正副委員長・事務局員のみ会場に参集し、企画委員・専門委員には録画した動画をオンラインによる限定配信

### ○講演

講師 國學院大學人間開発学部

教授 杉田 洋 先生

演題 『特別活動が未来を拓く』

## Ⅲ 研究内容

### 1 専門委員研究協議会

#### (1) 特別活動経営専門委員会

##### 【研究協議の主な柱】

- ①特別活動の充実に向けた校内での広め方について
- ②若手教員の育成について

##### 【研究協議の主な内容】

#### ①について

- ・児童の資質・能力の育成に向けて、組織として取り組むことが極めて重要である。
- ・児童生徒の変容を共有し、各学級でのよりよい実践となるよう校内で研修をしていく。
- ・ICTを有効に活用することで、データの蓄積やオンラインでの交流等により充実した活動を行うことができる。

#### ②について

- ・授業を見てもらったり、特活の魅力を伝えたりして若手教員の育成にも力を入れていく必要がある。
- ・校内研修で模擬学級会を行うなど、教師が実際に体験することで児童生徒の思いを理解し、適切な指導・助言に生かしていく。

#### (2) 学級活動専門委員会

##### 【研究協議の主な柱】

- ①よりよい合意形成・意思決定・実践に向けて

②よりよい人間関係形成に向けて

**【研究協議の主な内容】**

①について

- ・提案理由、めあてを大切に話合い
- ・よりよい振り返りの方法
  - 学級集団の振り返り（学級のあゆみ）
  - 実践後「よかった点・もっとよくなる点」を話し合う。
  - 相互評価におけるタブレットの活用

②について

- ・児童生徒の相互評価、教師による称賛を積極的に行っていく。
- ・自分のよさを発揮する場面の設定
- ・日頃からの「よいところみつけ」の実施

(3) 児童会・生徒会活動専門委員会

**【研究協議の主な柱】**

①今できる活動

②児童生徒の意識を高める工夫

**【研究協議の主な内容】**

①について

- ・異年齢での活動ができていない
  - 縦割り活動では、内容を工夫して分散実施とする、外での活動を多くするなど工夫を行う。
  - ICTを活用し、直接会わなくても意見交換をしたり、連絡をしたりと活動しやすい環境を整える。

②について

- ・一部の児童生徒の活動とならないよう全校で取り組むために提案ポストを設置して思いを吸い上げる。
- ・小学校での活動を生徒から聞き、小・中学校の連携を意識しながら、中学校でも似たような活動を行うことで活動意欲を高めていく。

(4) クラブ活動専門委員会

**【研究協議の主な柱】**

①児童の主体性や自己肯定感を育む指導と評価の工夫

②指導の共通理解

**【研究協議の主な内容】**

①について

- ・クラブ活動黒板の活用
  - 黒板には、活動計画や次回のお知らせ、写真を使って活動報告をするなど、児童に活動の見通しをもたせる。
- ・クラブノートや評価カードの活用
  - 自己の変容を見取ることができるようなノート

の工夫をしたり、異年齢でよさや頑張り認め合えるようなカードを掲示したりする。ICTを使った振り返りもできる。

②について

- ・年度当初の職員会議などで「よさや可能性を發揮している姿」を具体的に示す。
- ・評価補助簿を作成し、学校全体で評価方法を統一する。また、毎時間評価することで評価を蓄積する。
- ・特活だよりを発行し、クラブ活動の様子を紹介したり、指導や評価の共通理解を図ったりする。

(5) 学校行事専門委員会

**【研究協議の主な柱】**

①児童生徒が集団への所属感や連帯感を高めるための工夫

②児童生徒が学校行事を通して、より充実した学校生活を送ることができるようにするための指導と評価の工夫

**【協議の主な内容】**

①について

- ・事前・本時・事後と長い活動となるため、児童生徒をどのように引き付け、関わり合えるようにするかが大切である。
- ・どこでどのような関わりをもたせるのか、しっかりと計画を立てることが必要である。

②について

- ・互いに見合うことが大切であり、それが認め合うことにつながる。
- ・掲示や言葉などで、今できる様々な方法を検討したい。ICTの活用も期待できる。



# 12 進路指導・キャリア教育

## 埼玉県進路指導・キャリア教育研究会

### I 研究の概要

#### 1 令和3年度研究の方向性

令和3年度も、新型コロナウイルスに翻弄された1年間であった。

キャリア教育を推進する上で、基礎的・汎用的能力の育成は基本中の基本となる目標である。この基礎的・汎用的能力における四つの能力の育成は、ここ十数年の研究会実践の拠りどころとなってきた。

#### 基礎的・汎用的能力

- 人間関係形成・社会形成能力
- 自己理解・自己管理能力
- 課題対応能力
- キャリアプランニング能力

実際に近年研究会より発表された研究紀要（下枠内参照）は、職場体験や社会人講演会等による人とのふれあい、基礎的・汎用的能力でいう『人間関係形成・社会形成能力』を幅広く網羅するものとなっている。



#### ■『学級活動を核とした中学校キャリア教育（2012年）』

- 基礎的・汎用的能力により、社会的・職業的自立を目指したキャリア教育を各校の実態により構成できる内容である。キャリア教育スタンダードと言える紀要である

25地区進路指導・キャリア教育研究協議会の実践を紐解いてみても、ここ十数年の研究実践は各校の実態を踏まえつつ、体験活動等を中心に据え、様々な人たちの交流を創意工夫しアレンジしたものが、その主流となっていた。

結果的に、基礎的・汎用的能力のバランスよい育成を図りつつも、「人間関係形成・社会形成能力」の育成に比重が置かれる取組が中心となり、児童生徒の職業観やコミュニケーション能力等を育てている事例が多い。

しかしながら、このコロナ禍の影響により、キャリア教育における直接体験を伴う体験活動が激減したことを想像するのは難しくはない。現に、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導センターによる職場体験実施調査も、経産省、厚労省、文科省によるキャリア教育アワードも、この2年間中止されている現状である。

このような状況下において、ここ2年間、研究会においての研究実践が停滞したのは、紛れもない事実である。

実際、研究の中心となる研究推進委員会の開催もままならず、令和2年度においては、研究会の中心的研究事業でもある『25地区進路指導・キャリア教育研究協議会』を次年度へ延期とした。研究会60年の歴史の中で中止・延期となったのは、初めてであり、委員一同忸怩たる思いであった。

研究が計画どおりに進まないなかではあったが、以下の2点については、研究に携わる先生方の強い思いにより創意を重ね、研究実践を進めることができた。

#### 令和3年度 研究の柱

- 25地区進路指導・キャリア教育研究協議会の再開
- 研究紀要／『明日へつなぐキャリア教育ベーシックプラン』の検証

顔を合わせながらのミーティング等の開催もままならないなか、できる範囲内での研究実践であるが、その概要について以下にまとめる。

#### 2 研究主題の考え方

昨年度一部改訂をした研究主題であるが、令和6年度の関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会埼玉大会も視野に入れ、同テーマで研究の深化を図る。

#### 令和3年度研究主題

- 未来を見据え、主体的に生き抜く力を育てる  
キャリア教育の推進  
—小中一貫を円滑に進めるための協働的な取組を通して—

#### 3 研究組織

会長・副会長・理事（管理職等）、事務局による理事会により実際の運営を司っている。研究実践においては、専門委員による専門委員会を組織し、さらに研究の中核となる研究推進委員による研究推進委員会を立ち上げた。これら専門委員、研究推進委員を4部会（1学年部会・2学年部会・3学年部会・小学校部会）に割り振り、学年の発達の段階の内容で調査研究を実施した。なお、各部会の委員等については近隣地域となるように組織している。

本年度については、開催と感染拡大増加のタイミングにより集会開催が困難を極めた。安定した運営を継続していくためにも、今後、積極的なICT活用等が必要となってくる。

#### 4 研究の推進

(1) 25地区進路指導・キャリア教育研究協議会

コロナ禍における状況により、昨年度は原則、発表校全校を令和3年度への開催延期（さいたま市2校のみ実施）とした。それにより、本年度は25地区すべてにおいて研究協議会を実施した。

ただし、各地域における様々な実態に配慮し、発表形式等は従前の「公開授業+研究協議」「参会者なしの研究授業」「誌上発表」等、各校に委ねるとともに創意あふれる研究に取り組んでいた（詳細については「Ⅱ研究の実践」にて示す。）。

(2) 研究紀要／『明日へつなぐキャリア教育ベーシックプラン』の検証

本年度の中学校新学習指導要領完全実施を見据え、今までの研究成果と「キャリア・パスポート」及び小中一貫をクローズアップした研究紀要を昨年度に作成した。しかしながら、実質の完成が本年度に遅れてしまったため、その普及と内容の確認、検証等について、本年度に実施したところである。

(3) 副読本『中学生生活と進路』埼玉県版改訂

令和4年度版『中学生生活と進路（埼玉県版）／実業之日本社』の改訂を実施した。一昨年度の全国版全面改訂を受けて県版でも大幅改訂を実施していることや、感染拡大防止の観点からの編集会議削減等もあり本年度もデータ等の変更に改訂を留めた。

(4) 令和6年度関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会埼玉大会等の準備

本会は本年度発会59年目を迎え、次年度には創立60周年となる。その2年後には、本県7回目の関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会を予定しており、本会にとってのここ数年は様々な節目が重なるタイミングでもあり、昨年度より、その準備の端緒についたところである。

しかしながら実状として、予算の確保等について事務局主体で進められているものの、コロナ禍の影響等により具体的進展が難しく「関プロの在り方」自体を考えなくてはならない。

#### 5 活動の状況

本年度の活動についても昨年度同様、感染拡大防止の観点から会員全体で集まる機会をすべて中止とし、事務局を中心とした対応に終始した。

例年参加している全国大会、関プロ大会、全国研修会等も延期となり、外部との連携機会は大きく減少したが、文科省や国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター等との連携は密に図って、情報収集は進められた。

## Ⅱ 研究の実践

このような状況下であっても、前述のとおりいくつかの研究について工夫を凝らしながら進めてきた。ここでは本年度研究の中心的取組である、「25地区進路指導・キャリア教育研究協議会」「研究紀要／『明日へつなぐキャリア教育ベーシックプラン』の検証」について記す。

### 1 25地区進路指導・キャリア教育研究協議会

令和3年度 25地区進路指導・キャリア教育研究協議会 開催校一覧	
<input type="checkbox"/>	①さいたま（東）／さいたま市立植竹中学校
<input type="checkbox"/>	②さいたま（西）／さいたま市立与野東中学校
<input type="checkbox"/>	③川口／川口市立岸川中学校
<input type="checkbox"/>	④蕨・戸田・鳩ヶ谷／蕨市立第一中学校
<input type="checkbox"/>	⑤草加／草加市立草加中学校
<input type="checkbox"/>	⑥朝霞・志木・新座・和光 ／朝霞市立第五中学校
<input type="checkbox"/>	⑦上尾／上尾市立上平中学校
<input type="checkbox"/>	⑧鴻巣・北本・桶川・伊奈 ／鴻巣市立鴻巣北中学校
<input type="checkbox"/>	⑨川越／川越市立砂中学校
<input type="checkbox"/>	⑩所沢／所沢市立向陽中学校
<input type="checkbox"/>	⑪狭山・入間／狭山市立中央中学校
<input type="checkbox"/>	⑫飯能・日高／飯能市立美杉台中学校
<input type="checkbox"/>	⑬坂戸・鶴ヶ島・越生・毛呂山 ／鶴ヶ島市立富士見中学校
<input type="checkbox"/>	⑭富士見・ふじみ野・三芳 ／ふじみ野市立花の木中学校
<input type="checkbox"/>	⑮比企郡市・東秩父／嵐山町立菅谷中学校
<input type="checkbox"/>	⑯秩父郡市（東秩父を除く） ／長瀨町立長瀨中学校
<input type="checkbox"/>	⑰本庄・美里・上里・神川 ／上里町立上里中学校
<input type="checkbox"/>	⑱熊谷／熊谷市立妻沼東中学校
<input type="checkbox"/>	⑲深谷・寄居／寄居町立男衾中学校
<input type="checkbox"/>	⑳行田・羽生・加須／加須市立加須平成中学校
<input type="checkbox"/>	㉑春日部／春日部市立春日部中学校
<input type="checkbox"/>	㉒越谷・八潮／越谷市立西中学校
<input type="checkbox"/>	㉓三郷・松伏・吉川／三郷市立瑞穂中学校
<input type="checkbox"/>	㉔久喜・蓮田・白岡／久喜市立久喜南中学校

(1) 25地区研究協議会の概要

昨年度、さいたま市以外は延期とした本研究協議会を2年振りに開催した。研究内容については各校の創意工夫により、自校の課題を解決するための発展的な取組となっている。大きなハードルとなったのはその発表、周知等の方法である。感染拡大防止を何よりも最初に考えなくてはならない現状において、その対応についても各校の方向性や配慮により進められた。実際には、「公開授業及び研究発表」

「研究授業のみ」「誌上発表」等と実態に応じたものとなっている。

上記25校のうち、授業公開・研究協議等（公開あり）を実施した学校は3校あり、研究成果を広く周知していただいた。また、それ以外にも公開はしないものの、校内研修の枠組で研究授業を実施し、指導者による指導等を受けた学校も多くあった。誌上発表においても、校内研修等による授業研究（公開なし）等の実践や、今までの研究の累積を評価し振り返るチェック機能を活かした研究も少なくなかった。

## (2) 本年度の25地区研究協議会の研究の特徴

本年度開催された25地区進路指導・キャリア教育研究協議会発表校の研究の特徴を以下にまとめる。

### ■キャリア教育授業の実践教科等は学級活動と道徳で、90%を占めている

授業公開のやりやすさという点もあると思われるが、今回の協議会授業においては、特別活動と道徳での授業展開が共に40%を越える状況であった。また、これまで多く見られていた総合的な学習の時間については、散見される程度となっていた。

キャリア教育は、教育課程のすべてで実施されるものなので学校の実情に合わせての実施でかまわないのだが、こここのところ道徳におけるキャリア教育の実践が目立つ傾向にある。もともと、道徳の内容項目とキャリア教育における価値観には共通点が多く、従前から取り上げられてきたが、ここ数年、道徳の教科書等においても、その資料をキャリア教育と分類し銘打つ出版社も多い。このような環境も、道徳においてキャリア教育を推進する一つの追い風になっていると考えられる。

### ■これまでに実践された体験活動等を、ICTの有効活用により、さらに実施させる

GIGAスクール構想によるICT環境の整備、コロナ禍におけるリモート授業等の活性化等、ICTに関する環境や機運は格段に高くなった。それに伴い、今まで直接体験で実施されてきた「職業人インタビュー」「卒業生に話を聞く会（囲む会）」「社会人講演会」等をリモートにより実践する学校が少なくない。このような現状が続く限り、今後もそのニーズは増加するものと考えられる。

### ■キャリア・パスポートを意識し、小中一貫を推進する

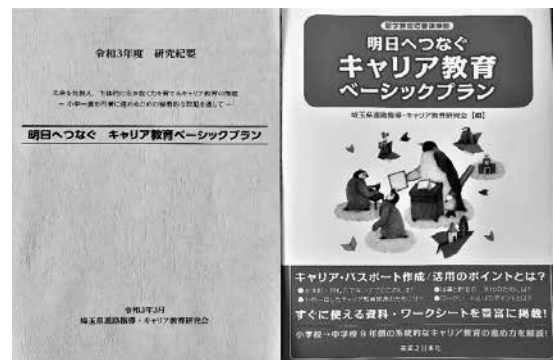
昨年度より本格実施された「キャリア・パスポート」であるが、各校ともその活用に研究を進め、今回の報告書にも、その一端を触れている学校は少なくない。

この「キャリア・パスポート」を小・中の学校間により共通理解を図り、小中一貫へのツールとして活用している学校が多かった。しかしながら、中高間における「キャリア・パスポート」の活用事例は確認できず、さらに教育的効果を得ることができる実践が課題となる。

このように、25校の研究実践から、この現状におけるキャリア教育の傾向を読み取ることができる。本会にとって、この25地区進路指導・キャリア教育研究協議会は生命線であり、今後とも、児童生徒に真に生きて働く実践研究として、どのような形態でも進めていきたいと考えている。

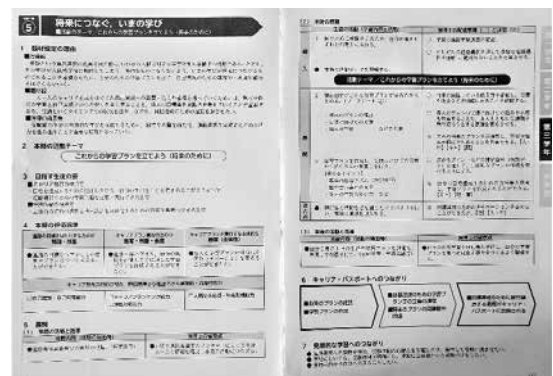
## 2 研究紀要／『明日へつなぐキャリア教育ベーシックプラン』の検証

昨年度末に、ほぼ完成を見た研究紀要であるが、本年度は、その内容の検証を展開している。まだまだ完結には至らないが、ここでは、その内容や構成等についてのストロング・ポイントを示していく。



▲写真左／研究紀要（埼玉県配付版）  
同研究紀要（全国展開版）／写真右▲

### ■キャリア教育の論理的構成を支える指導案+授業を支える展開例とコピーして使えるワークシート

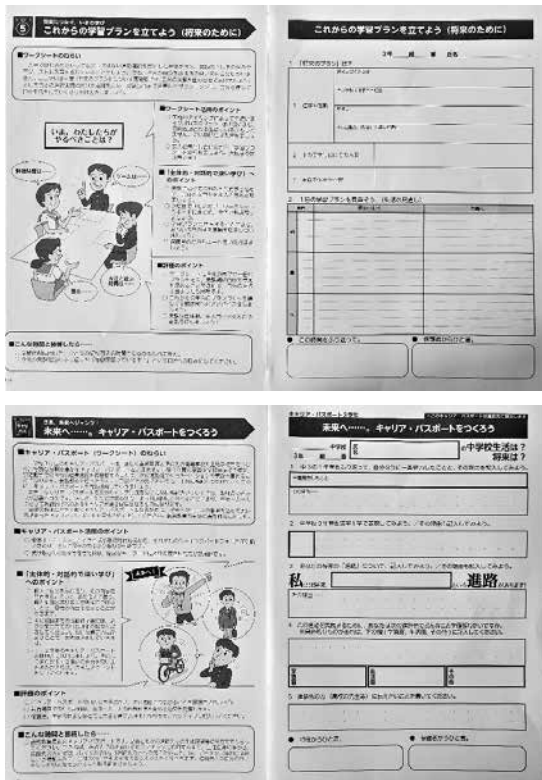


▲写真／本時の理論構成を支える指導案

▲写真／授業をイメージする展開事例とワークシート

1時間の展開をA4判／4ページ構成とし、その授業の論理的部分を支える指導案を掲載し、授業を深めたり、PDCA等で有効に活用したりできる。また、後半2ページはイラスト等も配置し、イメージとして授業の展開を児童生徒の視点で理解できるように工夫をしている。コピーにより、そのまま活用できるワークシートを添付しているの、授業のイメージづくりや展開が比較的容易である。

■キャリア・パスポートをさらに充実させるための展開例とカスタマイズ用の本研究会版「キャリア・パスポート」



▲写真左／「キャリア・パスポート」作成展開例  
オリジナル「キャリア・パスポート」／写真右▲

各校において、さらなる充実が課題となる「キャリア・パスポート」であるが、そのヒントとなるよう本研究会版の「キャリア・パスポート」そのものと展開例を示している。また、小・中・高の一貫性や継続等を考慮し、本紀要では小学校1年生から中学3年生までの「キャリア・パスポート」を例示した。カスタマイズが認められている「キャリア・パスポート」だけに、ただ単純な総括ポートフォリオにならずに、児童生徒のキャリア発達に直接的に作用する「キャリア・パスポート」としたい。

■小学校用キャリア・パスポートの例示



▲写真／小学校版「キャリア・パスポート」例示

小学校における「キャリア・パスポート」の本研究会版を全学年において掲載している。小学校における学年のつながりは元より、中学校との接続について意識し作成している。

研究紀要／『明日へつなぐキャリア教育ベーシックプラン』については、小・中学校で推進するキャリア教育の大きなヒントとなる。各校において積極的にご活用いただければ幸いである。

III 研究の成果と課題

コロナ禍を理由にはできないが、その対応が立ち遅れ冒頭に示したように研究の推進が後手に回ってしまったことは間違いない。25地区の会場校をはじめ、研究に携わる皆様にお詫び申し上げます。

しかしながら、25地区研究協議会をはじめ、成果を挙げた取組も多々あるので、その成果と課題について以下にまとめる。

□研究の成果

- 25地区進路指導・キャリア教育研究協議会の実践によるキャリア教育の前進
- ポストコロナにおけるキャリア教育の模索
- 研究紀要による小・中学校におけるキャリア教育連携の推進

■研究の課題

- ポストコロナにおけるキャリア教育の具体的な在り方の試行錯誤
  - ポストコロナにマッチした研究会組織の在り方
  - ポストコロナ時代における25地区進路指導・キャリア教育研究協議会や関プロ大会等の在り方
  - 小学校におけるキャリア教育の更なる推進
- 「ポストコロナ時代でもキャリア教育は絶対的に必要である」と断言はできる。しかしながら、対応する我々の意識改革が重要であることが明確となった。

# 13 視 聴 覚 教 育

## 埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会

- ・埼玉県学校視聴覚教育連盟
- ・埼玉県放送教育研究会
- ・埼玉県教育機器研究会

---

### 埼玉県学校視聴覚教育連盟

---

## I 研究主題と方針

国際化、情報化、少子高齢化など、社会が急激に変化する中、各学校では、新学習指導要領の基、法及び学校教育法その他の法令等の示すところに従い、人間として調和のとれた育成を目指し、心身の発達の段階や特性及び地域の実態を十分考慮して、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、生きる力の育成を目指している。

とりわけ、情報活用能力の育成にあたっては、ICT機器や情報通信ネットワーク等の環境整備、これらを適切に活用した学習活動の充実、各種視聴覚教材や教育機器の適切な活用等が不可欠である。高度情報通信社会を迎え、Society5.0の到来も視野に入れると、「授業でのICT活用」「教職員の指導力向上」「情報モラル、情報セキュリティの重要性」「プログラミング教育の推進」等々、学校の情報化に関わる教育課題は山積状態である。

以上のことから本連盟では、教育メディアを積極的に活用した学習を研究・展開することで、児童生徒に『自ら学ぶ力』と『主体的に問題を解決する力』を身に付けさせ、生きる力を育成することを方針としている。

これまで準備を進めてきた

『心豊かに、自ら学び、主体的に活動する力を育む教育メディアの活用を旨として  
～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～』

という研究主題で、他の研究団体と連携しながら、蓮田市を会場に関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会埼玉大会を開催した。

幼保・小・中・高・特支の5分科会に続く全体会にて研究成果を発表し、他都県からも情報を提供いただいた。

## II 活動状況

### 1 役員

顧問	宮内 一男 栗原 伸行 熊谷市立江南幼稚園
会長	安藤 義仁 蓮田市立黒浜中学校 校長
副会長	小山 悟 吉川市立吉川小学校 校長 菅野 昌司 所沢市立上新井学校 校長 関根 達郎 熊谷市立石原小学校 校長 西田 真吾 本庄市立旭小学校 校長 富田 勲 長瀨町立長瀨中学校 校長
事務局長	松本 直大 蓮田市立黒浜小学校 校長

### 2 主な活動

- 令和3年5月12日(水)  
埼玉県県民活動総合センター  
・埼玉県学校視聴覚教育連盟総会  
及び第1回役員・理事研究協議会  
・埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会  
理事研究協議会  
・関プロ埼玉大会第1回実行委員会
- 令和3年6月18日(金) オンライン開催  
・関放協・関視連第1回合同理事会
- 令和3年6月23日(水) 蓮田市総合文化会館  
・関プロ埼玉大会第2回実行委員会
- 令和3年8月25日(水) 蓮田市総合文化会館  
・関プロ埼玉大会第3回実行委員会
- 令和3年10月26日(火) 蓮田市総合文化会館  
・関プロ埼玉大会第4回実行委員会
- 令和3年11月11日(木) オンライン開催  
・関放協・関視連第2回合同理事会

- (7) 令和3年11月12日(金) オンライン開催  
(来賓・役員は参集)  
・関東甲信越放送視聴覚教育研究大会埼玉大会  
蓮田市総合文化会館

【分科会提案者】

蓮田市立黒浜中学校 教諭 小川 貴史  
「ICT機器の活用で主体的に学びを楽しめる生徒の育成」



【写真① 分科会 中学校部会】

【記念講演】

演題「“伝える”を考える」  
元NHKエグゼクティブアナウンサー  
宮田 修 氏

- 教師志望からNHKへ  
小さい頃から教師になることを期待されて育ち、自分自身もそれを目指して学生時代を過ごしてきました。埼玉大学に入学して教師になるために学んでいましたが、教育実習の初日で、「自分は教師に向いていない」ということを実感しました。就職時期を迎え、学生課に行ってみました。たくさんの募集要項の中にNHKの募集がありましたが、学生課の職員から「君には無理」と言われたことに奮起して、アナウンサーの一般公募に応募しました。そして昭和45年にNHKに入社して、40年間アナウンサーを務めてきました。
- 宮司としての道へ  
アナウンサーの仕事は、大きなストレスを抱えます。全国に顔が知られていることから、悪いことはできません。してしまったらアナウンサーとしての生命はおしまいです。また、常に時間というものを気にしなければいけません。それも、分や時間という単位ではなく“秒”という単位で、です。番組では、40秒・50秒・55秒と時計を意識しつつ「ニュースをお伝えしました。」でしっかり番組を終わらせなければなりません。

そこで、わたしはストレス解消のために過ごすセカンドハウスを千葉県の長南町に住む友人に探してもらいました。そのセカンドハウスで週末に野菜などを作ったりして息抜きをすることができました。そのセカンドハウスの大家さんが宮司さんで後継者がいなくて困っていて、「後を継いでくれ」というお願いをされました。そこで、通信教育で宮司の資格をとり、宮司を務めることになりました。

- アナウンサーは“伝える”ことが仕事  
アナウンサーは“伝える”ことが仕事です。伝えるべき事柄以外は伝えてはいけません。画面に映る自分の姿がいつもと違っていると、伝える事柄以外の情報を伝えることにつながるの、髪型や服装など常に同じにすることに心掛けました。姿の違いに気を取られてしまうと伝えるべきことが伝わりません。さらに、画面に映るということから、「美しい」ということが大事で、自分がもっともきれいに映るポイントをスタッフの協力のもとに探し出すということも重要な事でした。
- 日本の伝統文化“言挙げせず”  
アナウンサーの仕事は“言葉で伝える”ことでしたので、宮司の世界の“言挙げせず”(言葉に出して言わない)という考えにショックを受けました。宮司は日本の伝統文化に支えられています。その伝統文化は、日本の特徴である、島国であること、単一民族意識が強いこと、米作りの歴史、等から生まれてきたものです。米作りは共同作業が必要です。その共同作業をする中で地域共同体としての意識が生まれてきました。そして、それは言わなくても分かるということがよいこととされるようになりました。例えば「目を見れば分かる」「目は口ほどにものを言う」などの言葉などもあります。また、昔の人は「言葉に霊が宿る」と考え、よい言葉はいいが、よくない言葉を使うとよくないことが起こると考えられてきました。スルメ(スルはお金をなくすことにつながるの)をアタリメと呼んだり、梨←ナシ(無しにつながるの)をアリノミと呼んだりすることは、ここから来ています。
- “伝える”にはトレーニングが必要  
時代は大きく変化しています。  
“言挙げせず”という意識を脱して、しっかりと伝えることが求められている時代となりました。しかし、日本人は“伝える”ということが苦手です。こんな例があります。

放課後の学校で、

児童 「先生、カサ」  
先生 「カサが何？」  
児童 「無いの」  
先生 「どうして？」  
児童 「……………」

これは、その児童が「先生、帰ろうとしたらカサが無くなっているの、一緒に探してもらえませんか？」というべきところを、きちんと話す習慣が身に付いていないために起こった言葉のやりとりの例です。

今までの共同体の中では言わなくても分かってもらえるということが前提でしたから、言えないのです。現在、これでは駄目なのです。

また、街角である母子に会った際に、（子供に向かって）「Aさん、どこに行くの？」と尋ねたところ、母親が答えてAさんは黙っているということがありました（母親が先に口を出す）。

子供たちが、正しい言葉で話すという経験が不足しています。さらには、大人が子供をおもんばかって子供の言語発信能力の発育を阻害しているのです。小さい頃から、自分の言葉で適切に話すということを徹底的にトレーニングする必要があります。自分の言葉で相手に分かるように話すという経験を通して、言語発信能力、説明能力が育っていきます。

(8) 令和4年3月上旬

埼玉県県民活動総合センター

・埼玉県学校視聴覚教育連盟

第2回役員・理事研究協議会

### Ⅲ 今後の課題

現在の社会では、多くの情報が飛び交い流れ去る中から、自分の必要なものをつかみ取り精査して活用する能力が求められている。

また、遠隔地で情報をやり取りするためにGIGAスクール構想によって整備された環境が大変有用であるということから、個別最適化された多様な学びへ効果的に対応するためのツールとして、その活用について研究を深める必要がある。今後も、オンラインによる会議や録画資料を用いた授業研究会の増加が予想されるが、著作権・肖像権等に関わる配慮事項を含め、オンラインにおけるメリットをより広く共有し・デメリット・リスク等を回避する策を講じる等、効果的な利用について研究を推進することで、子供たちの学力

向上を目指すとともに、安心安全に学べる環境の構築を進める必要がある。



【写真② 記念講演】

## 埼玉県放送教育研究会

### I 研究主題

#### 1 研究主題

「だれもが考える力を育み

世界観をひろげる 埼玉の放送教育」

～ひろがる・つながる・深まる～

#### 2 活動内容

(1) 日々の授業や研究活動（授業研究）を充実させ、研究主題に迫る放送活用を推進する。

・放送番組の視聴をとおし、自分らしく考え自分らしく表現している 【ひろがる】

・放送番組と自分の知識や経験、友達の発言を関連付けて考えている 【つながる】

・学んだことを生かし、さらに深く考え、追究しようとしている 【深まる】

(2) 研究活動（授業研究等）の研究成果を広く発表していく。

(3) NHK杯全国中学校放送コンテストの県予選大会を通して、校内放送の普及・充実とその活用を図る。

(4) オンライン授業研究会、関ブロ大会を通して放送活用の普及・充実を図る。

(5) 他の県内外の情報教育関係研究会と連携し、組織改革を推進する。

(6) 冊子

『続 なぜ教室には テレビがあるのか！？

－学ぶ喜びのもてる放送教育－』

の編集検討をし、研究内容をより改善、深化させる。

## II 活動状況

### 1 役員

- 会長 清水 肇  
(さいたま市立大宮南小学校長)
- 副会長 石川 秀治  
(さいたま市立浦和別所小学校教諭)  
佐藤 寿朗  
(志木市立志木宗岡第四小学校教諭)
- 事務局長 四方 孝明  
(八潮市立八條小学校教諭)
- 次長 関口 麻理子  
(新座市立第二中学校教諭)  
武井 佑樹  
(川越市立霞ヶ関東小学校教諭)

### 2 主な活動

- (1) 定例会(毎月第3土曜日、リモート会議)
- (2) 授業研究会及び研究協議会(オンライン)
- (3) 関東甲信越放送視聴覚教育研究大会  
(埼玉大会、蓮田市)※オンライン開催
- (4) NHK杯全国中学校放送コンテスト
- (5) 放送教育研究会全国大会 1月22日(土)
- (6) 夏期研修(リモート)
- (7) 『視聴覚教育研究集録第48集』刊行 3月

### 3 活動様子

本年度は、コロナ禍のため、授業研究会は中止、定例会は、リモート会議で行われた。関プロ大会、全国大会、メディア研究大会については、紙上にて発表、報告を行った。1月現在で、リモート授業の実践を行っている。

## III 研究成果(大会発表、実践など)

### 1 関東甲信越ブロック大会

- (1) 日時、発表形式  
11月12日(金)…現地開催中止  
オンライン公開
- (2) 提案内容  
「心豊かに、自ら学び、主体的に活動する  
力を育む教育メディアの活用を目指して」  
～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～

### (3) 提案者

蓮田市立黒浜西小学校 寺田 温子 教諭  
国語 「かたかなで書くことば」  
番組視聴、タブレットPC活用



【写真③ 分科会 小学校部会】

## IV 今後の課題

### 1 コロナ禍でのオンライン授業の在り方

- (1) 放送活用の方法の模索
- (2) 授業実践の交流の仕方

### 2 令和4年度のメディア活用研究大会の実施について

- (1) 開催方法の検討
- (2) 実践報告の形式の検討
- (3) 今後の県視放の在り方について

県内で一人一台のタブレット配備が進みつつある状況であり、これまで以上に多種多様なICT機器や、放送教材等の教育メディアを積極的に活用した授業実践の準備が推進されてきた。

質の高い学習ができるよう、効果的な実践例を共有し、活用や指導の方法を考えて、児童生徒の学力向上に努めることが今後の課題である。

さらに、タブレットを活用した番組利用やGoogle Classroom、ミライシードなどのアプリケーションの活用法を研修しつつ、オンライン会議の実践を活かして、他県の先生方とも情報交換ができるように、活動の様子を広めていく。

---

埼玉県教育機器研究会

---

= 休会中 =



# 14 教育心理・教育相談

## 埼玉県教育心理・教育相談研究会

### I 研究主題

「通常の学級における発達障害児童生徒等の指導支援  
～社会性を育むスキル教育の実践と定着～」

### II 研究の概要

#### 1 主題設定の理由

- (1) 平成17年4月に発達障害者支援法が施行され、さらに平成18年度から通級による指導の対象として新たにLD、ADHDが加わったことにより、LD、ADHD、自閉症に対する発達障害・情緒障害通級指導教室の新設や増設が県内で進んでいる。

このような状況の下、発達障害のある児童生徒が、通常の学級に籍を置き学校生活を送るケースも増えてきた。

一方、指導支援する教職員にあっては、このような障害のある児童生徒に対する理解が十分とはいえ、  
「どのような学級経営を行ったらよいのか」、  
「児童生徒を支援する関係機関や支援員との連携協力の在り方について」などの課題が生じている。

これらの課題に対して、本研究会としてどのように取組を進めたらよいか協議を重ね、活動方針を固めるとともに、必要な資料収集や事例研修会を実施することになった。

- (2) 昨今の大幅な教職員の世代交代の中、教育相談主任の役割や教育相談室運営について知りたいというニーズが高くなっている。

本専門委員会ではこの現状を踏まえ、平成29・30年度に『教育相談主任の役割や教育相談室運営について』の資料集を作成した。

令和元年度からは、通常学級における配慮を要する児童生徒の対処法についての方策についてレシピ集を作成することになった。

本年度は、『困った時の対処法レシピ』を作成し、県内に広めることができた。

#### 2 研究方針

- (1) 通常の学級等において、発達障害を有する児童生徒をどう理解し、指導支援していくか、先行事例に学び、研究を深め、実践事例等を広める。
- (2) 社会性を育むスキル教育の実践と定着を図るため、各地区の事例や情報に基づいた研究を進める。

- (3) 定例の理事会・専門委員会において、教育心理・教育相談の課題等について研究協議を行う。

### 3 研究計画

- (1) 教育心理・教育相談講演会

教育心理及び学校教育相談等で活躍している専門家の講演会を通して、教師が、いじめの背景や具体的な対処法などを学び、望ましい人間関係や心を育む教育について理解を深め、実践に役立てる。

・夏季研修会（7月後半から8月前半に、東部、西部、南部、北部、さいたま市で実施）

・冬季講演会（11月の理事会の後に実施）

- (2) 理事研究協議会

本研究会の運営について協議するとともに、国や県内の動向を知り、各地域における学校の実態に応じた研究の在り方を検討する。また、有効な手立てや情報を各地域に持ち帰り、研究活動の啓発及び各学校に活かせる取組を行う。

- (3) 専門委員会

学級の中で、支援を要する児童生徒の割合が年々増加の傾向にあることを痛感しており、その対応に苦慮している学校も少なくない。そこで、専門委員会では、その困り感ごとの対応集『困った時の対処法レシピ』を作成することで、先生方の参考になることを目標として、レシピ集を3年計画で完成した。

### III 活動状況

#### 1 総会及び第1回理事研究協議会

- (1) 期 日 令和3年6月4日(金)
- (2) 会 場 埼玉県県民活動総合センター
- (3) 内 容

- ・令和2年度事業報告
- ・令和2年度決算報告及び監査報告
- ・令和3年度役員承認
- ・新役員紹介及びあいさつ
- ・令和3年度活動計画  
本年度の基本方針  
夏季研修会、講演会、理事会等の計画、専門委員会活動計画
- ・令和3年度予算案

- ・夏季研修会について
- ・地区別協議
- ・役員打合せ

## 2 令和3年度役員

会 長 大木 剛 (東松山市立南中学校 校長)  
 副会長 山根 明 (草加市立花栗中学校 校長)  
 金井 健治 (坂戸市立住吉中学校 校長)  
 清水 愛子 (熊谷市立江南北小学校 校長)  
 鈴木 恵子 (杉戸町立広島中学校 校長)  
 内山 一幸 (さいたま市立大谷場東小学校 校長)  
 監 事 塩原 憲孝 (吉見町立吉見中学校 校長)  
 田嶋 直美 (東松山市立白山中学校 校長)

代表幹事

南 部 川越 弘一 (草加市立新田中学校 教諭)  
 西 部 渡邊 由佳 (坂戸市立坂戸小学校 教諭)  
 北 部 笹岡 宏之 (深谷市立花園小学校 主幹教諭)  
 東 部 福島 陽子 (越谷市立北中学校 養護教諭)

さいたま 上村 朗 (さいたま市立大東小学校 教頭)  
 事務局 柿沼 泰之 (東松山市立南中学校 教諭)

### 専門委員

顧 問 小崎 賢司 (草加市立新田小学校 校長)  
 委員長 小沢 範子 (さいたま市教育委員会)

南 部 萩原 邦彦 (草加市立花栗中学校 教諭)  
 増田 聖子 (北本市立宮内中学校 教諭)  
 濱野 恵子 (上尾市立瓦葺中学校 教諭)  
 福嶋 智子 (北本市立北本中学校 教諭)

北 部 笹澤 友香 (本庄市立児玉小学校 教諭)  
 阿部 秀人 (寄居町立城南中学校 教諭)  
 浅見 将吾 (小鹿野町立小鹿野小学校 教諭)

西 部 徳永 智美 (ふじみの市立東原小学校 養護教諭)  
 小貫 晶子 (所沢市立泉小学校 教諭)

東 部 長 久代 (越谷市立大相模中学校 教諭)  
 佐藤 菜摘 (吉川市立美南小学校 教諭)

## 3 夏季研修会

### (1) 北部地区

- ①期 日 令和3年7月30日(金)  
 ②会 場 オンラインによる動画配信  
 ③内 容 講義
- 演題 『不登校児童生徒への理解と保護者支援の  
 実際』  
 講師 開善塾教育相談研究所  
 所長 藤崎 育子 氏



### (2) 東部地区

- ①期 日 令和3年8月3日(火)  
 ②会 場 オンラインによる動画配信  
 ③内 容 講義
- 演題1 『コロナ禍で考えるこれからの学級経営』  
 講師 文教大学教育学部 教授 会沢 信彦 氏  
 演題2 『コロナ禍における子供の現状と支援を考  
 える』  
 講師 文教大学教育学部  
 准教授 桑原 千明 氏

### (3) さいたま市 (夏季)

- ①期 日 令和3年8月5日(木)  
 ②会 場 さいたま市立教育研究所  
 ③内 容 講演会
- 演題 『解決志向アプローチ 強み、成長、希望  
 を引き出すカウンセリング』  
 講師 明治学院大学 教授 伊藤 拓 氏

### (4) さいたま市 (秋季)

- ①期 日 令和3年11月18日(木)  
 ②会 場 プラザイースト  
 ③内 容 講演会
- 演題 『コロナ禍での人間関係作りと保護者対応』  
 講師 明治大学 教授 諸富 祥彦 氏



#### 4 第2回理事研究協議会

- (1) 期 日 令和3年11月5日(金)
- (2) 会 場 埼玉県県民活動総合センター
- (3) 内 容
  - ・専門委員会活動報告
  - ・夏季研修会報告
  - ・冬季講演会について
  - ・研究集録について
  - ・夏期研修会諸経費について
  - ・地区別協議
  - ・役員打合せ

#### 5 冬季講演会

- (1) 期 日 令和3年11月5日(金)
- (2) 会 場 埼玉県県民活動総合センター
- (3) 講 師 東京理科大学  
教育支援機構 教職教育センター  
教授 中村 豊 氏
- (4) 演 題 『不登校といじめ問題  
—いじめ重大事態にかかる  
調査報告書からの知見—』



#### 6 第3回理事研究協議会

- (1) 期 日 令和4年2月3日(木)
- (2) 会 場 埼玉県県民活動総合センター
- (3) 内 容
  - ・令和3年度事業報告
  - ・令和3年度専門委員会報告
  - ・令和3年度会計報告
  - ・令和4年度事業計画
  - ・令和4年度専門委員会計画
  - ・令和4年度役員推薦について
  - ・研究集録について
  - ・地区別協議
  - ・役員打合せ

#### 7 代表幹事連絡会

- (1) 期 日 令和4年2月3日(木)
- (2) 会 場 埼玉県県民活動総合センター
- (3) 内 容
  - ・令和3年度事業報告
  - ・令和3年度専門委員会報告
  - ・令和3年度会計報告
  - ・令和4年度事業計画
  - ・令和4年度専門委員会計画
  - ・令和4年度役員推薦について

#### IV 専門委員会の活動

専門委員会では、平成29年度から、教育界の世代交代の中、教育相談主任としての役割と教育相談室運営などのニーズが高い現状を踏まえ、オリエンテーション版として、その指針となる趣旨の配付物を作成し、平成30年度、配付するに至った。

本年度、学校という場において、様々なトラブルの状態を把握し、カテゴリーごとに分類し、トラブルを起こす児童生徒に対して具体的な短期・長期の対処法を出し合い、対応レシピ集が完成した。



失敗させることは成長させること

なりたい自分になってみよう

名前 \_\_\_\_\_

どんな自分になりたいか(想像ができる自分、運動ができる自分)

やさしい自分になりたい

なにがひつようになるのかな?

ぶつたり、けつたりしない

どんなことができたらゴールかな?

友達におこらない、ぶつたりしないこと

1日1回できることを書いてみましょう

友達にぶつたりしないこと

【『困ったときの対処法レシピ』より】

## 1 第1回専門委員会

- (1) 期 日 令和3年6月4日(金)
- (2) 内 容
  - ・昨年度の活動内容確認と本年度の計画立案
  - ・本年度の活動内容確認

## 2 第2回専門委員会

- (1) 期 日 令和3年11月5日(金)
- (2) 内 容
  - ・教育相談主任としての役割と教育相談室運営についての情報交換
  - ・冊子発行のための準備

## 3 第3回専門委員会

- (1) 期 日 令和4年2月3日(木)
- (2) 内 容
  - ・本年度の反省と次年度の確認

## V 今後の活動



夏季のワークショップや講演会等を通して、発達障害を有する児童生徒への指導支援の重要性が認識されるとともに、具体的に学んだことを生かし、効果的な指導が実施されるようになっている。

各地区での研修会は、地区によってコロナ禍で実施できなかったが、多くの教員が参加をしており、教職員アンケートの結果や課題を検討する中で、「発達障害」「いじめ」「不登校」等への継続的な対応から、保護者とのコンサルテーション、教職員の世代交代に関わること、校内教育相談体制全般に関わること、その他多くの話題が報告された。どれも学校現場からの切実な背景が込められていた。

本年度配付した『困ったときの対処法レシピ』は、通常学級の中で、集団適応が難しい児童生徒への対応の仕方を、カテゴリごとに分け、項目を1ページずつで編集した特別編を発行する運びとなった。「教室を飛び出してしまふ子」「こだわりのある子」等、学校現場ですぐに役立つ『困ったときの対処法レシピ』が仕上がった。

本年度以降も、本研究会での活動が、本県の教育心理・教育相談分野の発展に寄与できるように研究を重ねていく。

## 『困ったときの対処法レシピ』 “目次”

<b>カテゴリ1 行動</b>		
・奇声をあげる	P 1	
・大声で泣く	P 2	
・暴力	P 3	
・暴言	P 4	
・頭を強く打つ	P 5・6	
・髪をかきむしる	P 7	
・耳をふさぐ	P 8	
・固まる	P 9	
・隠れる	P10	
・校外に逃げる	P11	
・とびだし	P12	
・離席する	P13	
・おしゃべりが止まらない	P14	
・忘れ物が多い	P15	
・異物を食べる	P16	
・給食を食べない	P17	
		
<b>カテゴリ2 情緒・心</b>		
・言葉の行間が読めない	P18	
・場の雰囲気把握できない	P19	
・会話がうまくできない	P20	
・コミュニケーションを避ける	P21	
・1人であることが好む	P22	
・人の気持ちが分からない	P23	
・無気力	P24	
・すぐ忘れてしまう	P25	
・こだわりが強い	P26	
		
<b>カテゴリ3 生活習慣</b>		
・昼夜逆転	P27	
・睡眠障害 (いつも寝ている)	P28	
<b>カテゴリ4 学力</b>		
・苦手意識が強く避ける	P29	

# 15 特別支援教育

## 埼玉県特別支援教育研究会

### I 研究主題と方針

#### 1 研究主題

「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、自立と社会参加につながる指導・支援の充実を求めて～全特連埼玉大会の成果のまとめ～」

#### 2 研究活動方針

令和の新たな時代を迎え、特別支援教育の推進は、特別支援学級・通級指導教室・特別支援学校ではもちろんのこと、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の全ての学校において、なお一層その重要性が増してきている。

平成の時代より、障害者の権利に関する条約が批准されるとともに、障害者差別解消法が施行され、共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育システム構築の動きが加速している。各学校においては、必要な幼児児童生徒に合理的配慮の提供が求められ、ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善の取組が進められている。

本研究会では、特別支援学級における教育課程や学級経営の在り方をはじめ、通常の学級に在籍する特別な支援の必要な幼児児童生徒への指導・支援などの課題を明らかにし、その解決方策について、研究協議を行ってきている。さらに、幼小中高特全ての学びの場において、全ての教職員が特別支援教育を理解し、実践できるように寄与したい。

これらのことを踏まえ、私たちはより高い専門性を身に付けるとともに、幼児児童生徒が志をもち夢と自信に満ちて社会で活躍できるよう、自立に向けた指導・支援を推進する必要がある。

本研究会は、これらの特別支援教育推進に係る諸課題解決に向け、学校及び教職員が抱える今日的課題を踏まえて研究を推進する。そして、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の一層の充実を目指して、全国大会の成果を活かし、教職員の指導力の向上と本県特別支援教育の振興に寄与する。

令和2年度で本研究会発足して70年となり、今まで積み重ねてきた特別支援教育に関する知見を活かし、これからの特別支援教育の在り方を提案していけるよう今後の研究活動につなげていきたい。

### II 活動状況

#### 1 研究組織

本研究会は、小学校・中学校の特別支援学級を母体とする本部と障害種・学校別の三つの部会（難聴・言語、発達・情緒、特別支援学校）で構成している。

#### 2 本部事業

##### (1) 令和3年度総会

[令和3年6月4日(金)～10日(木)]

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンデマンド方式のオンライン開催とした。パスワード管理した本会ホームページ上において、前年度事業報告、活動状況及び研究活動方針や事業計画、役員選出等を動画で公開し、Webフォームにおいて意見や質問の受付を行って審議した。

記念講演として、「特別支援教育の行方」という演題で山村学園短期大学 教授 宇田川 和久氏の講義を動画で公開した。

##### (2) 第60回埼玉県特別支援教育研究協議会

[令和3年8月24日(火)～9月10日(金)]

毎年夏に開催する重要な事業であるが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため昨年度は中止となり、本年度はオンデマンド方式のオンライン開催で実施した。特別講演では、植草学園大学 教授 名古屋氏より、本会の研究主題である「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、自立と社会参加につながる指導・支援の充実を求めて」という演題で貴重な御示唆をいただいた。

分科会では、資料とスライドをホームページ上に公開する形で実践に基づく提案がなされた。指導助言者として大学機関等の研究者を迎え、専門的な見地から特別支援教育における的確な御指導と貴重な情報を提供いただいた。

申 込 数 397名

内 容 全体会（講演会）、分科会

全 体 会 特別講演会

講 師 植草学園大学 教授 名古屋 恒彦氏

分 科 会 次ページの一覧で報告する

第60回埼玉県特別支援教育研究協議会 分科会一覧

分科会 No.	分科会名・テーマ	指導助言者		提案者	
1	学校経営 共生社会の実現を目指した学校づくり	埼玉大学教育学部 特任教授	櫻井 康博	草加市立花栗中学校 校長	山根 明
2	各教科等を合わせた指導 一人一人の意欲や生活する力を高める生活単元学習 専門相談員	埼玉大学教育学部附属 特別支援教育臨床研究 センター	高田 豊	県立川越特別支援学校 教諭	田中 琴絵
3	通常の学級における特別支援教育 すべての児童生徒が主体的に学ぶ 授業づくり	埼玉大学教育学部 教授	長江 清和	狭山市立広瀬小学校 教諭	加藤 智子
				県立所沢おおぞら特別 支援学校 主幹教諭	柳澤 真美
4	自立活動 障害の特性と本人の想いや願いを 理解し、豊かな生活を支援するた めに	淑徳大学 特任教授	鈴木 克俊	熊谷市立熊谷西小学校 教諭	杉浦 里奈
5	キャリア教育 共生社会の中で自立と社会参加に 向けた教育の充実	埼玉純真短期大学 特任教授	伊藤 道雄	県立羽生ふじ高等学園 教諭	笠井 直樹

(3) 提案者等の推薦

第55回関東甲信越地区特別支援教育研究協議会  
神奈川大会（8/19(木)：誌上発表）

①第10分科会

「教科別の指導①（国語、算数・数学）」

提案者 木村 雅昭（桶川市立桶川小学校）

②第18分科会

「重度重複障害のある児童生徒への支援」

提案者 小林 朋恵（県立ひばりが丘特別支援学校）

(4) 研究委嘱

年度	学校名	研究主題
2 ・ 3 年度	草加市立 新田中学校	将来の自立と社会参加を目指した 円滑な連携の在り方～共生社会の 形成に向けた特別支援教育の推進 (交流及び共同学習)～
3 ・ 4 年度	吉川市立 中曽根小学校	一人一人の学びを大切にする特別 支援教育の推進～交流及び共同学 習の研究を通して～
	久喜市立 清久小学校	全員が「わかる」「できる」を実 現できる授業づくり～一人一台タ ブレットの導入による個別最適化 の学習～
	川越市立 古谷小学校	すべての児童が安心して過ごしや すい学級づくり
	戸田市立 戸田中学校	気付き・考え・深める特別支援教 育～特別支援教育を科学する～
	戸田市立 戸田南小学校	「通常学級におけるインクルーシ ブ教育のあり方」～安全・安心の 学級経営を通して～

(5) 第50回埼玉県特別支援教育研究発表大会 **中止**

特別支援教育にかかわる実践研究の成果を公募し  
て研究実践を紹介しているが、本年度は中止とし  
た。

3 難聴・言語障害教育研究部会

(1) 研修の概要

難聴・言語障害教育研究部会では「児童生徒一人  
一人の教育的ニーズに応じた支援の在り方を求め  
て」を研修テーマに、研修会を企画した。埼玉県・  
さいたま市の69校、約140名の担当者にとって本研  
究部会は貴重な研修の場である。しかし、新型コロナ  
ウイルス感染症の影響により、研修方法を見直  
し、動画配信やメールを活用して情報共有の場を設  
けた。

(2) 具体的な研修内容

【第1回全体研修会】 **オンライン講演会**

期日 令和3年4月27日(火)

会場 Zoomオンライン会議

講演 「特別支援教育の現状と課題」

埼玉県教育局義務教育支援課

学びの支援担当指導主事 平井 悠一 氏

【第2回グループ別研修会】 **中止**

期日 令和3年6月15日(火)

会場 草加市立松原小学校

- ①構音グループ
- ②吃音グループ
- ③教室経営グループ協議
- ④難聴グループ

【第3回全体研修会】 オンライン講演会

期日 令和3年11月5日(金)  
 会場 Zoomオンライン会議  
 講演 「吃音について」  
 講師 島田 光子 先生

オンライン会議ツールを使用した講演の2週間後に、視聴期間を設け、YouTube限定公開による動画配信という形で行った。

吃音の基礎知識をはじめ、吃音児への指導について理解を深めることができた。

【役員研修会】 オンライン講演会

期日 令和4年2月18日(金)  
 会場 YouTubeでの限定配信  
 講演 「構音障害について」  
 講師 西田 立郎 先生

講演会の替わりとして、講師の先生による講義を動画配信により参観することとした。

#### 4 発達・情緒障害教育研究部会

(1) 活動の概要

新型コロナウイルス感染症の影響も相まって、本年度は研修会の実施を見送った。

これまで事務局は、長く所沢市立並木小学校に置かれてきたが、今後は、難聴・言語障害教育研究部会に倣って組織作りをし、埼玉県内の小・中学校で連携を取りながら研修の企画や運営を進めていけるような体制を整えるために、本年度は以下のような活動をした。

(2) 具体的な活動内容

- ①埼玉県内の各小・中学校に文書を送付し、通級教室、特別支援学級についての情報を入力してもらうように依頼した。
- ②グーグルフォームで寄せられた情報を一覧表にした(全国情緒障害 教育研究会 東京大会の案内のメール送付 などに利用)。
- ③第52回全国公立学校 難聴・言語障害 教育研究協議会  
 第55回全国情緒障害 教育研究会を合同で開催する、全国大会埼玉大会(令和5年度)に向けての、難聴・言語障害教育研究部会の話し合いに参加した。

- ④準備委員を募り、オンライン会議を行い、大会のテーマや分科会についての検討を行った。また、SNSを利用して、話し合いを重ねた。
- ⑤準備委員は、難聴・言語障害教育研究部会の準備委員と合流し、全国大会についての検討を行った。

#### 5 特別支援学校部会(九つの研究部会)

特別支援学校部会では、九つの研究部会に分かれ各研究テーマの基に活動しており、本年度のその活動概況は以下のとおりである。

(1) 国語研究部会

「生活を豊かにする国語の指導」

第1回 7月30日(金) 書面開催

○本年度の研究テーマ決定、活動計画の立案等

第2回 11月29日(月)

所沢市生涯学習推進センター

○谷ッ田 諭美 先生による講演

第3回 12月27日(月) 蓮田特別支援学校

○実践報告、質疑応答、情報交換 等

(2) 算数・数学研究部会

「新学習指導要領に基づいた指導法について」

第1回 7月 書面開催

○令和2年度活動報告、本年度の活動について

第2回 8月20日(金) オンライン開催

○講演：Sスケール(学習到達度チェックリスト)の理解と演習

第3回 11月17日(水) 久喜特別支援学校

○研究協議、本年度活動総括、来年度役割分担

(3) 自立活動研究部会

「一人一人の障害特性・ニーズを踏まえた自立活動の充実」

第1回 7月26日(月) 書面開催

○令和3年度研究テーマ及び活動計画について

第2回 10月19日(火) オンライン開催

○講演会 筑波大学人間系教授

下山 直人 氏

第3回 12月13日(月) オンライン開催

○事例報告会(川島ひばりが丘・深谷はばたきの取組)

(4) 体育研究部会

「コロナ対策を講じた体育授業について」

第1回 7月 書面開催

○令和3年度予定・研究テーマ・担当校

○各校の取組について

- 第2回 11月15日(月) さいたま桜高等学園  
○令和4年度活動計画・研究テーマ・実技研修 等
- (5) 日常生活の指導研究部会 「一人一人の意欲や生活する力話育む日常生活の指導」  
第1回 8月25日(水) 書面開催  
○本年度の担当確認・活動計画・研究テーマ 等  
第2回 1月25日(火) 熊谷特別支援学校  
○実践発表・研究テーマによる情報交換
- (6) 音楽研究部会 「主体的に音楽に関わり、豊かに表現できる力を育てる音楽教育」  
第1回 8月24日(火) オンライン開催  
○本年度の研究テーマの確認・活動計画の検討  
情報交換 等  
第2回 9月30日(木) オンライン開催  
○プレゼン及び動画編集のアプリを使った音楽  
教材づくり 等  
第3回 12月20日(月) オンライン開催  
○授業見学  
「研究授業(動画)」・質疑応答・情報交換
- (7) 作業学習研究部会  
「生徒の実態に即した作業学習」  
第1回 8月30日(月) 書面開催  
○協議  
体制、報告、研究について、活動計画  
第2回 12月15日(水) オンライン開催  
○研修  
「新設校の作業学習について」、諸連絡  
第3回 2月 オンライン開催  
○令和3年度活動報告  
○令和4年度活動計画、諸連絡
- (8) 図工・美術研究部会 「図工・美術における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組」  
第1回 7月12日(月) 書面開催  
○研究テーマの設定  
○活動計画・主査・副主査の決定 等  
第2回 7月30日(金) オンライン開催  
○永山 千洋 先生による講演  
第3回 12月17日(金) 環境科学センター  
○研究テーマに沿った実践紹介、次年度の研究  
テーマ 等
- (9) 生活単元学習研究部会 「各教科等を合わせた指導の特色を活かした、生活単元学習の授業作り」  
第1回 8月2日(月) オンライン開催  
○令和3年度の研究テーマ、各校の取組等につ  
いての情報交換 等

- 第2回 8月4日(水) オンライン開催  
○第60回埼特研研究協議会本庄大会の特別講演  
の視聴 等  
第3回 12月24日(金) 書面開催  
○本年度の活動の振り返り、令和4年度の研究  
テーマの確認 等

## 6 今後の課題

全ての教育機関において「特別支援教育」の必要性が叫ばれ、インクルーシブ教育システムの構築が課題となっている。

本会の研究協議会の参加者は、幼・小・中・高の校種、特別支援学級、特別支援学校、通常の学級の教員や管理職まで幅広い。

研究協議会での参加者アンケートや本年度見えてきた課題を併せ、今後も教育現場でのニーズに最も応えられる団体として、国や県の動向、状況等を把握しながら、さらに研究を推進していきたい。



# 16 学校図書館教育

埼玉県学校図書館協議会

## I 研究主題

「豊かな心と確かな学びを育む学校図書館の創造」

～主体的・対話的で深い学びを支える

学校図書館教育～

## II 主題設定の理由・方針

グローバル化や少子高齢化、Society5.0時代の到来など急激に変化する社会状況から、10年後を見据えて策定された新学習指導要領が順次全面実施されている。受身型から探求型の学習への転換が強く求められる中、学校教育のインフラである学校図書館は、「学校図書館法」で示されているとおり、教育課程の展開に寄与すること、児童生徒の健全な教養を育成すること、という二つの目的を有し、児童生徒の学びを支える重要な役割を担っている。これを受けて、学校図書館の基幹的な機能である、主体的な学びに必要な「学習センター」機能、探究活動に欠かせない能力を育む「情報センター」機能、読書体験・感動体験から豊かな心を育む「読書センター」機能、これら三つの機能を偏ることなく発揮できる学校図書館づくりと利活用が一層求められている。

また、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、社会のデジタル化とともに、学校においても「GIGAスクール構想」の実現に向けICT環境整備が加速されている。中教審は『「令和の日本型教育」の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』（答申）として、一人一台端末などのICTを活用した「個別最適な学び」と集団活動を通して子供たちの知・徳・体を一体で育む「協働的な学び」とを組み合わせた「令和の日本型学校教育」の理念を打ち出した。Withコロナ・Afterコロナの時代と言われ、新たな生活様式の導入など、私たちの生活は更に大きく変化していくことが予測される。未来社会を切り拓くための資質・能力の育成を求めた新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」についての理解と学校図書館の果たすべき役割について研究を深め、情報を発信していくことは焦眉の問題だといえる。

そこで本年度は、新学習指導要領の趣旨に基づき、「主体的・対話的で深い学びを支える学校図書館の創造」を最重要課題に設定し、読書感想文コンクールをは

じめとする諸事業の一層の充実を図ることとした。

## 1 活動方針

(1) 管理運営：学習・情報センターとしての学校図書館の充実

①学校図書館全体計画

②年間経営計画

③小中・地域連携全体計画の見直し

(2) 利用指導：学び方を学ぶ情報活用能力を育成する指導の在り方

①学び方指導計画、情報メディアを活用する学び方体系表

②利用指導年間指導計画の見直し

③学校図書館活用事例を付記した各教科等年間指導計画例の提案

(3) 読書指導：生きる力と豊かな心を育む読書活動の指導の在り方

①読書指導の全体計画体系表

②読書指導年間指導計画

③小中連携の系統表

(4) 地域連携：学校、家庭、地域社会等の連携による読書活動の推進の在り方

①学校・家庭・地域等（図書館ボランティア等）の連携の体系表

②家庭教育との連携

③公立図書館等との連携推進

## 2 各部の事業概要

(1) 事務局……事業の計画・実施・評価、各会議の開催手続、年度資料ファイル管理、一般会計、会計監査等

(2) 総務部……読書感想文コンクール、読書感想画コンクールの企画・運営、表彰式の企画・運営

(3) 研究部……活動方針と努力点の計画・実施、研究員協議会、研究大会、授業研究会の企画・運営・管理・記録、研究刊行物の再編集

(4) 情報部……広報誌のための基礎資料収集と速報版の発行

- (5) 出版部……研究集録・感想文集「真珠」の編集・発行、刊行物の企画・運営・管理等

### 3 活動状況

- 5月14日(金) 第1回本部役員研修会  
会場：吹上生涯学習センター
- 6月3日(木) 新旧役員研修会(総会)・理事会本部役員会・第1回研究員研究協議会  
会場：越谷市中央市民会館
- 7月26日(月) 埼玉県学校図書館研究大会  
会場：越谷市中央市民会館  
共催：埼玉県図書館協会
- 8月18日(水)～24日(火)  
関東地区学校図書館研究大会  
茨城大会へ参加(オンライン開催)  
発表者：鴻巣市立赤見台第二小学校  
分須 美智子 教諭  
内容：本の世界の扉をひらく  
－楽しいから始まる読書活動－  
発表者：越谷市立大相模中学校  
中井 美穂 教諭  
内容：国語科における利用指導の工夫  
～主体的に情報を扱う生徒の育成～
- 11月9日(火) 授業研究会(中学校)及び  
第2回本部役員研修会  
会場：熊谷市立大原中学校  
授業者：荒川 琴美 教諭  
指導者：埼玉SLA参事  
山田 万紀恵 氏
- 11月16日(火) 第67回読書感想文コンクール  
県中央審査会  
会場：さいたま市立与野本町小学校
- 1月19日(水) 第33回読書感想画コンクール  
県中央審査会  
会場：さいたま市立与野本町小学校  
来賓：毎日新聞さいたま支局  
支局長 坂本 高志 氏  
さいたま市教育委員会  
指導主事 江原 瑞貴 氏  
さいたま市立片柳中学校  
校長 中川 昇次 氏
- 2月10日(木) 読書感想文・感想画コンクール  
表彰式並びに第2回理事会  
第2回研究員研究協議会  
会場：越谷市中央市民会館(中止)

- 3月5日(土) 第2回本部役員会  
会場：吹上生涯学習センター
- ☆ 広報誌「埼玉SLA」発行(6月)
- ☆ 感想文・感想画集「真珠」発行
- ☆ 研究集録 発行(2月)

### III 本年度の主な研究内容

#### 1 埼玉県学校図書館研究大会

令和3年7月26日(月) 越谷市中央市民会館にて、埼玉県学校図書館協議会・埼玉県図書館協会の共催による「埼玉県学校図書館研究大会」を、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会の後援を受け開催した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、分科会のみでの半日開催となった。小・中・高校の司書教諭や学校図書館・公立図書館の関係者が参加し、有意義な大会となった。

#### 分科会A(管理運営)

「学習・情報センターとしての  
学校図書館の運営と充実」

#### 《提案発表者》

和光市立新倉小学校	土井 純子 校長
所沢市立小手指小学校	杉山 綾子 教諭
越谷市立富士中学校	櫻井亜莉沙 教諭
熊谷市立大原中学校	荒川 琴美 教諭
上里町立上里中学校	山崎 皓陽 教諭

#### 《主な内容》

- ・ 図書整理の仕方や利用案内の工夫
- ・ 学校図書館、市立・県立図書館との連携
- ・ 図書購入、図書委員会の活性化
- ・ 学習情報センターとしての工夫

#### 《指導助言》 埼玉SLA 対崎 美奈子 氏

「学校図書館ガイドライン」による「図書館資料」とは、「図書資料のほか、雑誌、新聞、視聴覚資料(CD、DVD等)、電子資料(CD-ROM、ネットワーク情報資源=ネットワークを介して得られる情報コンテンツ等)、ファイル資料、パンフレット、自校独自の資料、模型等の図書以外の資料」を指すことなど、図書資料についての考え方や、学習指導要領【総則】の内容に関して学校図書館との関連やこれから目指すべきことについてご指導いただいた。

学校図書館情報ツールとしてのデジタルコンテンツの特性を見極めて、活動に生かすことやタブレット端末、紙の資料の特性などそれぞれの資料の活用の仕方について助言をいただいた。

## 分科会B（利用指導）

「学び方を学ぶ情報活用能力を育成する指導の在り方」

《提案発表者》

三郷市立彦糸小学校	宮崎 正子 校長
越谷市立東中学校	古舘 恵里 教諭
本庄市立中央小学校	吉田 育代 教諭
川越市立南古谷小学校	森田 彩花 教諭
越谷市立大相模中学校	中井 美穂 教諭
志木市立宗岡第二小学校	朝倉みどり 教諭

《主な内容》

- ・国語科と関連させた授業と司書教諭の役目
- ・調べ学習のスキルや情報リテラシーを身に付けさせる指導法
- ・学校図書館の活用方法
- ・レファレンスブックの利用指導

《指導助言》 埼玉SLA 福満 芳枝 氏

年度当初の年間指導計画や系統表の確認、見直しをもって意図的に図書館を利用していくことが大切であること、司書教諭、学校司書が連携し、子供たちの意欲を喚起させることが大切であることなどをご指導いただいた。意図的・計画的に情報リテラシーを指導することの大切さを語られた。

## 分科会C（読書指導）

「生きる力と豊かな心を育む読書活動の指導の在り方」

《提案発表者》

久喜市立栗橋小学校	伊藤あゆみ 校長
川越市立霞ヶ関西小学校	八代 和泉 教諭
さいたま市立春岡小学校	澤浦 美砂 教諭
吉川市立美南小学校	齋藤 智香 教諭
川越市立南古谷小学校	富澤 浩子 教諭
さいたま市立美園中分教室	塚本 直子 教諭
さいたま市立新和小学校	吉田 紗恵 教諭
さいたま市立与野本町小学校	林 恵子 教諭
鴻巣市立松原小学校	平原 知子 教諭
鴻巣市立川里中学校	石井 麻美 教諭
羽生市立岩瀬小学校	佐久間瑞穂 教諭
狭山市立奥富小学校	小谷野真美 教諭
八潮市立柳之宮小学校	山口美奈子 教諭
戸田市立喜沢小学校	四辻美穂子 教諭
川越市立名細小学校	川合 奈穂 教諭
伊奈町立伊奈中学校	須江光咲季 教諭
熊谷市立成田小学校	清水 洋子 教諭

《主な内容》

- ・「並行読書」「ビブリオバトル」「ブックトーク」の手立てと指導
- ・新書の提示、魅力ある図書の紹介
- ・読書環境を整える重要性
- ・読書月間の取り組み方やスタンプラリーの取り組み方

《指導助言》越谷市教育センター 堀山 邦明 氏

コロナ禍の中でも読書活動を推進している熱意がうれしいこと、たくさんのレポートの中から実践してみたいことを見つけ、実践してほしいとお話いただいた。また、中学生までの読書習慣の形成が不十分であること、乳幼児から各時期の取組が大事であり、その中で読書習慣が育っていくことをご指導いただいた。

教科書の読書単元で何ができるかを考え、授業で読書指導をしていくことの必要性とともに、どんな実践が効果的だったのか、効果の記録をとって検証していくことが望ましいとのご意見をいただいた。



## 分科会D（地域連携）

「学校、家庭、地域社会等の連携による読書活動の推進の在り方」

《提案発表者》

羽生市立東中学校	中村美由希 教諭
吉川市立北谷小学校	清宮なつみ 教諭
三芳町立藤久保中学校	相原 正 教諭
川口市立安行小学校	高橋 義樹 教頭
三郷市立瑞木小学校	荒木沙 織 教諭
鴻巣市立田間宮小学校	手島 博美 教諭
三郷市立丹後小学校	八代 徳子 教諭

《主な内容》

- ・公共図書館との連携：ブックトーク、読み聞かせ、POPの掲示、団体貸し出しなど
- ・ボランティアとの連携：読み聞かせ、図書館整備など

ど

- ・民間書店との連携（未来屋書店）…POP掲示
- ・給食センターとの連携：絵本とメニュー
- ・家庭との連携：家族読書、家読ゆうびん、親子講座など

《指導助言》埼玉SLA 福田 孝子 氏

今後の社会では、子供たちを社会全体で支えていくことが大切であることと、その方法について助言いただいた。公共図書館との連携では、資料提供・団体貸し出し・ブックトークなど地域の図書館へ興味をもってもらうことが重要である。タブレット等を活用するとよい。家庭との連携では、読み聞かせの大切さの啓発をする。読み聞かせの有無によって語彙の差ができてしまうので、教員からの働きかけも大切である。ボランティアとの連携では、保険に入ってもらふこと、そして、読み聞かせや整備の作業についてよく話し合うこと、研修会、読書会を実施するのもよいことなどを教えていただいた。

## 2 授業研究会

期 日：11月9日(火)

会 場：熊谷市立大原中学校

内 容：本棚をひろげる

授業者：司書教諭 荒川 琴美 教諭

指導者：埼玉SLA参事 山田 万紀恵 氏



## 3 第67回読書感想文コンクール県中央審査会

期 日：11月16日(火)

会 場：さいたま市立与野本町小学校

最優秀賞受賞者

《読書感想文》

◎課題読書

小低 鶴ヶ島市立栄小学校 2年 大江みなみ

作品名 ジージーのねがい

小中 春日部市立武里小学校 3年 篠崎 惺空

作品名 たからものにかえちゃおう

小高 三郷市立吹上小学校 6年 阿部 晃成

作品名 世界をもっと広げよう

中学校 春日部市立武里中学校 3年 天野 耀優

作品名 人の心を考える

◎自由読書

小低 新座市立東北小学校 1年 並木 里奈

作品名 わたしのかさぶた

小中 新座市立大和田小学校 3年 笹川 稜央

作品名 ぼくの幸せ

小高 松伏町立松伏第二小学校 5年 野水 咲笑

作品名 親友のつくり方

中学校 越谷市立富士中学校 2年 安発沙友里

作品名 肩の力を抜いて

## 4 第33回読書感想画コンクール県中央審査会

期 日：1月19日(水)

会 場：さいたま市立与野本町小学校

最優秀賞受賞者

《読書感想画》

◎指定読書

小低 本庄市立中央小学校 2年 三浦 維翔

小高 川口市立新郷東小学校 5年 斎藤 采莉

中学校 春日部市立葛飾中学校 3年 野口優里奈

◎自由読書

小低 三郷市立彦糸小学校 3年 宇野沢結那

小高 川口市立戸塚南小学校 5年 菊川 仁実

中学校 上尾市立西中学校 1年 伴 椰紗

## IV 成果と今後の活動

新型コロナウイルス感染症防止の中での開催ではあったが、短時間・少人数で協議会を行った。

「主体的・対話的で深い学び」に果たす学校図書館と読書活動の役割について多様な視点から学ぶことができた。また、GIGA学習の進め方の一助となった。2月に感想文・感想画コンクールの表彰式と理事会を開催し、（本年度は中止）1年間のまとめと次年度に向けての準備を行った。

令和5年の関東地区大会に向けて、研究の推進と各部の活動の更なる改善が今後の課題である。役員・研究員のネットワーク化も、引き続き工夫改善の余地がある。

来年度も、各地区理事や研究員と綿密に連携し、学校図書館教育の充実をなお一層図っていきたい。

# 17 中学校技術・家庭科教育

## 埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会

### I はじめに

コロナ禍による参集制限等で活動がままならぬ中ではあったが、新学習指導要領に沿った技術・家庭科のねらいの具現化に向け、題材計画の検討及び題材の開発検討や実践研究を進め、その研究成果を県内各中学校の教育活動に広げ、生かすべく取組を行った。また、研究大会の全国大会と国内7ブロックの研究大会を中心とする教科研究と、生徒の学習成果の発表の場として設定されている「創造ものづくり教育フェア」の開催・運営を活動の両輪として教育実践を進める形が全国的な動きとなっている中で、本県でも同様に運営と広報の体制を整備し、フェア関係事業の拡張を意識した取組を行っている。

### II 研究主題

本県研究テーマ

「未来社会を切り拓くための資質・能力  
を育成する学習指導の研究  
～新学習指導要領に基づいた題材計画の検討～」

本年度は、これまで関ブロ大会等で積み重ねてきた研究を生かしつつ、新たに「未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する学習指導の研究～新学習指導要領に基づいた題材計画の検討～」というテーマを設定して研究を進めることにした。

### III 本年度の研究内容・活動状況

#### 1 研究方針・研究体制

- (1) 県内11支部からそれぞれ専門委員を選出し、指導内容等による分科会を配置して、情報交換、研究推進、成果の普及ができる体制作りを目指した。
- (2) 専門委員会の活動を中核とし、各支部が専門委員のリーダーシップにより技術・家庭科教育の充実を図る体制作りに着手した。
- (3) これまでの研究成果と課題を元に、新学習指導要領に沿った題材計画・配列や評価方法等の検討などを中心に行った。
- (4) 各校の授業実践に生かせる資料を可能な限り検討及び作成・収集する。
- (5) 部会<①材料と加工の技術部会、②生物育成の技術部会、③エネルギー変換の技術部会、④情報の技術部会、⑤家族・家庭生活部会、⑥衣食住の生活1（食生活）部会、⑦衣食住の生活2（衣・住生活）部会、⑧消費生活・環境部会>ごとに、新学習指導要領の読み込み及び分析を行い、それに見合った年間指導計画及び題材計画を作成し、授業実践・授業提案を行いながら、研究を進めるとともにそれぞれの部員の指導力向上を図った。

また、ものづくりフェア部会を別に設け、フェア運営の充実を図った。

#### 2 研究経過・活動の概要

##### (1) 専門委員会

###### ①第1回専門委員会

12月7日(火) オンライン開催

- 令和2年度 活動報告
- 令和3年度 研究概要の説明・周知
- 研究の検討及び進め方について

###### ②第2回専門委員会（研究主任会）

1月18日(火) オンライン開催

- 全体会  
今後の研究の見通しについて
- 各分科会の研究協議  
今後の研究の方向性・実践予定の検討

###### ③第3回専門委員会

2月18日(金) オンライン開催

- 全体会（確認事項及び事務連絡）
- 各分科会の研究協議  
（今後の研究について）

各地区・各部会で、集会が行い難い状況に加え、年度当初の異動等もあり、連携がとり難い状況がある。オンライン会議システムを使っているが、研究が滞っている場面も見られた。より効果的な研究方法、体制を工夫する必要がある。

##### (2) 支部長研修会

###### ①支部代表者会

5月28日(金) オンライン開催

- 理事会・総会
- 研究について

###### ②支部長研修会

9月16日(木) オンライン開催

- 関ブロ栃木大会に向けた準備

- 専門委員会について
- SAITAMA創造ものづくり教育フェアの運営について
- 研究会の運営組織について

③支部長研修会

3月8日(火) オンライン開催

- 令和3年度事業報告
- 令和3年度会計報告・監査報告
- 令和4年度事業計画

(3) S A I T A M A

創造ものづくり教育フェア



令和3年 10月～11月 オンライン開催

<後援>埼玉県教育委員会 さいたま市教育委員会

<趣旨・目的>

- ものづくりの発表を通して、生徒が知識や技術を習得・活用することにより、ものをつくることの喜びを味わう機会とする。
- 技術・家庭科で習得した知識や技術を生かし、生徒がつくる喜びや仲間と共同して競技をする喜びを味わう機会とする。また、発表の場を通して、他校生徒との交流を図り、併せて知識や技能の向上を図る。
- 「ロボットコンテスト部門」、めざせ!「木工の技」チャンピオン部門、「豊かな生活を創るアイデアバックコンクール部門」「あなたのためのお弁当コンクール部門」「生徒作品コンクール部門」共に、第21回全国中学生創造ものづくり教育フェアの埼玉県代表生徒・作品を選出する大会を兼ねるものとする。上記の第21回全国中学生創造ものづくり教育フェアの埼玉県

代表生徒・作品を選出する5部門と「生徒研究発表会部門」の計七つの部門からなる大会運営を実施した。県研究会のWebページや県専門委員会でのPR等の広報活動を行った。今後とも各部門での多くの参加者・出品数となるように研究会としても検討していきたい。

①生徒研究発表部門

審査会場：所沢市立南陵中学校

※写真及びレポートによる審査

身近な問題や、タイムリーな話題となっている事柄を研究テーマに設定し、担当の技術・家庭科教師による指導の下で各支部代表生徒による研究発表会が行われた。生徒が日々直面している生活の中から、疑問に思っている事柄の解明や生活する上での工夫等が多く取り上げられた。発表ではなく、写真・レポートでの発表となったが、実演時の写真を載せるなど、表現の工夫のあるレポートとなっていた。研究内容が受け手にわかりやすく伝わるよう各自で工夫を凝らし、しっかりと準備をしてこの会に臨んだ様子がうかがえた。

②埼玉ロボットコンテスト部門

本年度は、全国大会へつながるコンテストのみオンラインでつなぎ競技を行った。県内のみの部門は、開催中止となった。

**トーナメント部門** ※開催中止

**全国部門** オンライン開催

拠点校：越谷市立平方中学校

F 全国基礎部門 「Ace in the hole」

G 計測・制御部門

「ドキドキ！ロボット収穫祭

～「スマート農業」に挑戦！～

H 応用・発展部門

「ロボットレスキュー隊出動！！

～自律運搬ロボと協働で救助せよ！～

F・G・Hの各部門については部門ごとに3チームが、関東甲信越地区長野大会の代表として、それぞれ出場することになった。勝利至上主義に走らず、「互いのよさやアイデアを評価し合おう。」というスローガンを掲げ、勝敗にこだわらず、お互いのアイデアを認め、学び合いの場となるよう配慮している。

<各会場の様子>



<審査員>

越谷市立平方中学校校長 西村 稔 先生

③めざせ！「木工の技」チャンピオン部門

授業で習得した知識や技能を活用して、材料等の制約条件の中で作品を考え、構想図を基に製作した作品を募集したが応募がなかった。現行の学習指導要領において実践が難しいため、募集形式等の検討が必要である。

④生活を豊かにする

アイデアバックコンクール部門

これまで生徒が身に付けてきた知識と技術を生かして製作した作品とレポートを基に審査を行い、関東甲信越地区新潟大会への代表選考が行われた。上位2作品を選出し、関東甲信越大会へエントリーした。

⑤あなたのためのお弁当コンテスト部門

食材や献立を、お弁当を作る対象に合わせて思いやり、工夫して調理に当たるコンテストとなる。全国大会と同様に実際に調理を行い、審査を実施した。最優秀作品は全国大会へエントリーした。

<審査員④⑤>

県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事 笹島 京子 先生

川口市立仲町小学校校長 佐藤 朋子 先生

⑥生徒作品コンクール部門

全県から作品を募集し、県の研究会で全て審査し、県代表の選出を行なっている。技術分野と家庭分野で授業内製作作品（Ⅰ部門）、自主製作作品（Ⅱ部門）、家庭分野より合計5点を選出し、全国大会へエントリーした。よりよい作品が出品できるように質と量をどのように高めていくかは今後の課題である。

<審査員>

越谷市立枚方中学校校長 西村 稔 先生

三郷市立南中学校教諭 伊藤 誠 先生

元技術・家庭科教諭 中田 直樹 様

ものづくりフェア全般において、一昨年度は、商業施設をお借りして実施していたが、本年度は、コロナ感染症の影響もあり、オンラインの開催となった。フェアの様子を直接見ていただく機会が無かったため、技術・家庭科の取組を広く地域・社会に公開することができなかった。また、スタッフの確保等、運営が難しい状況にあった。今後、生徒の活躍を広く公開できるように、工夫する必要がある。

(3) 第21回全国中学生創造ものづくり教育フェア

関東甲信越地区大会神奈川大会

令和3年12月4日(土)・5日(日)

会場：湘南工科大学

<趣旨・目的>

○ものづくりの発表を通して、知識・技術を習得し活用することにより、ものをつくることの喜びを味わう機会とする。

○技術・家庭科で習得した知識・技術を生かし、ロボットの設計、製作を通して、つくる喜びや仲間と共同して競技する喜びを味わう機会とする。また、発表の場を通して、他校生徒との交流を図り、併わせて知識・技能の向上を図る。

○「創造アイデアロボットコンテスト」「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」共に、第21回全国中学生創造ものづくり教育フェアの関東甲信越地区代表を選出する大会を兼ねるものとする。

ロボットコンテスト、アイデアバッグコンクールの運営補助を行った。

(4) 第21回全国中学生創造ものづくり教育フェア

1月22日(土)・23日(日)

会場 武蔵野総合体育館 他6会場

<趣旨・目的>

- 中学生が知識や道具を駆使していろいろな条件の下に最適解を見つけ進んで生活を工夫し創造することを学んだ技術・家庭科の実践発表の場とする。
- 未来への飛躍を実現する人材を養成するために、多様な体験と切磋琢磨の機会を増大し、学習意欲やものづくりへの製作意欲の向上を図る。
- 優れた能力と多様な個性を伸ばす技術・家庭科の学習内容を広く国民に知らせるとともに、全国の技術・家庭科教員の指導力向上を目指す研修の場とする。

各都道府県の大会からブロック大会を経て、全国大会に至る一連の流れの最高位となるフェアの全国大会が東京都内7会場にて開催された。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインを活用した競技会を行った。盛大に技術・家庭科の学習成果発表ができた。

<埼玉会場の様子>



(5) 第62回 埼玉県発明創意くふう展

令和3年11月10日(水)～令和4年3月31日(木)

インターネット開催

本年度は、令和3年10月30日(土)に審査が行われ、

入賞した作品については、会期中HPで公開される。本研究会としては、審査また、埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会会長賞を8名に授与する形で携わった。

#### IV 成果と今後の課題

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じる中での活動となり、多くの開催を予定していたものがインターネットを利用したオンラインの開催となった。特に県内に研究の成果として広く伝える機会であった、ものづくりフェアや発明創意くふう展がオンラインでの実施となり、競技・審査を行うことはできたが、広く社会に発信するという観点では、大いに課題が残った。また、各研修会をオンラインで実施したり、実施に向けた環境を整備したりする形となった。不慣れな部分も多くあり、運営が滞ってしまうこともあったが、各部会で研究を進めることができた。オンラインでの研修会は、通信環境等に左右されるために諸条件の整備等で課題はあるが、移動時間の削減やペーパーレス会議に伴う印刷・丁合の準備時間が削減できる等、利点も多くあった。

逆に、異動等に伴いメンバーが代わって引き継ぎの連絡が取りにくいという課題があった。さらに、県内各地区における研修会や授業研究会等も中止となり、研究成果を共有することが難しくなったり、リモート会議では画面上での意思疎通が対面ほどうまくできず、意見のまとめに時間がかかったりする等の課題も確認された。

今後も、コロナ禍が続くことも考え、リモートによる研究会の体制づくりや研究を進める上で必要な、安定した通信を行うための環境を整備する必要がある。また、生徒の活躍を広く社会に発信したり、各地区の教職員に対して各部会で研究された内容、特に実践事例や評価の方法等を広範囲に伝達したりすることができるよう、有効なコンテンツを揃えて整理し利用できるようにしておくこと等の工夫が必要である。コロナ禍を好機と捉え、これまで研究会の在り方も見直していく。何より新学習指導要領に則り、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための教育活動が実践できるよう、研究を進めていく。



# 18 小学校家庭科教育

## 埼玉県小学校家庭科教育研究会

### I 研究主題と方針

#### 1 研究主題

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」  
-学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し  
実践する児童の育成-

#### 2 方針

本研究会は、昭和58年度に「第1回関東甲信越地区ブロック大会」、昭和63年度に「第25回全国大会、第6回関東甲信越地区ブロック大会」、平成11年度に「第17回関東甲信越地区ブロック大会」、平成24年度に「第29回関東甲信越地区ブロック大会」を開催した。その成果は年度を追って充実、発展しつつ今日に受け継がれている。

本年度は、「第37回関東甲信越地区ブロック大会」の研究発表大会の実施に当たり、昨年度までの本研究会の研究成果と課題を踏まえながら、豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育を目指し、研究を推進することとした。

#### 3 研究主題について（埼玉県研究主題）

##### (1) 児童の実態・保護者の願い・教員の実態と課題

児童の実態調査の結果から、およそ9割の児童が「家庭科が好き」と回答しており、学習意欲が高い。しかし、第5学年と第6学年を比較すると、第6学年になるとやや学習意欲が低下している。さらに、「好きではない理由」では、包丁やガスコンロ等の使用に関する回答の割合が高い。これは、学習が進むにつれて技能等に関する自己評価が低くなるためではないかと考えられる。保護者のおよそ9割が、「家庭科の学習が子供の将来に役立つと考えている」と答えており、その項目は「家庭での調理」「家族との協力」「家庭の仕事」であった。しかし、「地域の人々との関わり」に関する項目を答えた割合は極端に低く、「第5学年までに家庭で経験したこと」においても、「地域の人々との関わり」は低い結果となった。児童が、家庭科の学習を生かして、家庭で取り組んでいることにおいても、「地域の人々との関わり」「ミシンで製作」「手洗いで洗濯」は低い割合であった。

教職員へのアンケートでは、不安や苦手な項目で

「家庭や地域の人々との関わり」の工夫」「家族・家庭生活についての課題と実践」「生活を豊かにするための布を用いた製作」「環境に配慮した生活」が多く挙げられた。特に指導経験の少ない教員は「生活を豊かにするための布を用いた製作」を挙げている。

これらの実態から、学習指導要領の中で新設された内容「地域の人々との関わり」「家族・家庭生活についての課題と実践」「生活を豊かにするための布を用いた製作」に課題があると考えた。

##### (2) 研究主題の設定

上記の内容を踏まえ、研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育-学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成-」と設定した。「系統的・横断的な学びをつなぐ指導計画の工夫」「個と全体の学習をつなぎ、主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の工夫」「評価と指導をつなぎ、児童の実践力を高める評価の工夫」「家庭・地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫」の四つの視点で研究を進め、目指す児童像の実現を図った。

### II 研究概要について

#### 1 研究の方法

##### (1) 研究の基本的な考え方

研究主題及び副主題に迫る実践的な研究をする。

##### (2) 研究組織（埼玉大会運営組織）及び大会役員

【大会役員】		
大会長		池田智恵子
大会実行委員長		影山 葉子
会場校校長		若林 利明
研究推進委員長		小峰由紀子
研究推進委員	授業研究部	井上 千春
	調査資料部	永沼 清美
	紀要編集部	田野智恵子
運営推進委員長		酒本 希朱
運営推進部	運営部	田中 幸子
	庶務会計部	渋谷 恵子
【大会実行委員】		
研究推進委員会	授業研究部 ◎井上千春 ○布施喜美恵	(新座・陣屋)(久喜・栗橋南)(伊奈・小針北) (川口・戸塚北)(川口・木曾呂)(北本・西) (川越・仙波)(富士見・綾瀬)(本庄・児玉)
委員長	○斎藤和子	(熊谷・熊谷東)(加須・原道)(桶川・加納)
小峰由紀子	○長曾亜希子	(志木・宗岡第二)(草加・青柳)(新座・野寺)

	調査資料部 ◎永沼清美 ○棚村かおり	(さいたま・指扇)(熊谷・秦)(皆野・三沢) (朝霞・朝霞第一)(宮代・須賀)(三郷・新和) (小川・東小川)(松伏・金杉)(羽生・井泉) (本庄・藤田)(深谷・深谷西)(八潮・松之木)
	紀要編集部 ◎田野智恵子 ○佐藤朋子	(さいたま・馬宮東)(川口・戸塚南) (さいたま・上落合)(富士見・みずほ台) (行田・太田東)(新座・池田)(上里・神保原) (東松山・唐子)(飯能・美杉台)(北本・中丸)
運営 委員会 委員長 酒本希朱	運営部 ◎田中幸子 ○小笠原泰代	(入間・西武)(加須・高柳)(越谷・北越谷) (蕨・東)(戸田・戸田第二)(上尾・原市南) (鴻巣・鴻巣中央)(所沢・和田)(杉戸・西) (飯能・加治東)(日高・高麗川)(美里・松久) (鶴ヶ島・鶴ヶ島第一)(蓮田・平野) (嵐山・菅谷)(吉川・美南)(本庄・北泉) (秩父・荒川西)(春日部・桜川)(神川・渡瀬) (東松山・松山第二)(ふじみ野・さぎの森) (寄居・折原)(行田・下忍)(白岡・白岡東)
	庶務会計部 ◎渋谷恵子 庶務担当 ○長島クミ子 会計担当 ○高橋容史子	(和光・新倉)(越生・越生)(三芳・三芳) (ときがわ・萩が丘)(川島・つばさ南) (坂戸・勝呂)(深谷・川本南) (幸手・権現堂川)(吉見・東第二) (狭山・柏原)(所沢・西富)(埼大附属)

## 2 研究の内容

### <目指す児童像>

- 日常生活に必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けている子
- 自らの生活の中の問題を見だし、課題を設定し解決できる子
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫し、実践しようとする子

### <研究の視点と手立て>

**視点1** 系統的・横断的な学びをつなぐ指導計画の工夫(カリキュラム・マネジメント)

#### ①他学年や他教科等との系統的・横断的な学びのつながりを明確にした年間指導計画

横断的に題材を関連させ、相互の学習を想起させたり、課題づくりや課題解決の糸口にしたりして学習を積み上げることで、学びをつなぐことができると考えた。そこで、年間指導計画作成の際に、他学年・他教科等との関連を洗い出し、系統的・横断的なつながりを明確にした。横断的な学習においては、各教科等におけるねらいを教員が捉え、子供の思考の中で学びがつながることを意識した。本題材に至るまでの学びの積み重ねや学習のつながりを明確にし、算数、理科や社会、道徳などの学習と中学

校の学習につなげるよう意図して指導を行った。

#### ②家族や地域との関わりを大切にしたい題材

家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成の過程で、「実践したい」「実践することが大切」という意識をもたせるために家族や地域との関わりを含め、題材を構成した。さらに、第6学年では、家族の感想も含め家族や地域の人々との関わりを意識した題材名を工夫した。

**視点2** 個と全体の学習をつなぎ、主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の工夫～どのように学ぶか～

#### ①課題設定の工夫

学習過程を「生活の課題発見」「解決方法の検討と計画」「課題に向けた実践活動」「実践活動の評価・改善」「家庭・地域での実践」の一連の流れとし、主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、生活の中から課題を設定し、課題解決の達成感や実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組めるようにした。また、個とグループの課題をつなげるとともに、課題解決の流れや題材を貫く課題を設定した。製作の題材では、実際に使って評価・改善を行い、個の課題や題材を貫く課題を振り返り、今後の生活に生かす個の課題を確認した。

#### ②学びを深めるための学び合いやICTの効果的な活用の工夫

解決方法の検討と計画の場面において、グループや全体での話し合い、教師との対話など、互いの考えを比較検討し、他者の考えも踏まえて検討できるようにした。実践活動後の評価・改善の場面では、他者や家の人の意見も取り入れ、改善できるようにした。例えば他学年との交流会を振り返ってレポート作成したり、レポートを発表し合い新たな課題や次の学習への意欲につなげられるようにしたり、付箋を活用して話し合ったりするなどの活動を設定した。ICTの活用を図り、交流学年の様子を確認や布の大きさのチェックや型紙作り、ミシンの操作方法の確認等に活用した。さらに、実践活動の記録を基に話し合いをし、実践発表の資料とした。

#### ③自分の学習を振り返らせ、次の学びにつなぐ工夫

題材を通して生活に関わる見方・考え方の視点を意識させ、実践活動や最後の振り返りの際に考える場面を設定した。題材を通して学習したことを今後の自分の生活にどう生かすか、題材を貫く課題を基に学習を振り返ることで深い学びへとつなげた。

**視点3** 評価と指導をつなぎ、児童の実践力を高める評価の工夫～何が身に付いたか～

### ①主体的に学習に取り組む態度の評価方法の工夫

ポートフォリオ等を活用し、意図的に項目を設け、その記述内容から見取るよう工夫した。さらに、課題解決に向けての努力や自己評価の記述から、全体や個への支援策を考え、課題解決や実践の評価・改善が行えるようにした。うまくいかなかったことに対して粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整できるよう指導を工夫した。

### ②多様な評価方法の工夫

「知識・技能」については、変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能や様々な場面で活用できる知識として習熟・定着しているか、「思考・判断・表現」については、一連の学習過程の中で適切な観点での評価方法に重点を置き、ワークシートを観点ごとに評価できるよう工夫した。

### ③指導の改善につなぐ評価の工夫

指導計画の見直しや指導に生かすことができ、学習改善や指導改善につながるとして「指導に生かす評価」を設定し、「努力を要する」状況と判断された児童を把握し、その手立てを考え、その後の指導に生かすための評価場面とした。

## 視点4 家庭・地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫 ～実践するために何が必要か～

### ①学んだことを生活に生かす場の設定

家族や地域とのよりよい関わり方を学習し、家庭や地域活動でどのように生かすか、学習したことをどう生かすかを明確にし、具体的な場面を設定した。

### ②A(4)「家族・家庭生活についての課題と実践」の設定

他の項目との関連を図り、家族や地域の人々と関わりながら実践できるような題材の設定することは重要である。実践後は、課題解決に向けた一連の流れを振り返って評価し、更によりよい生活にするための新たな課題を見つけ、家族や地域での次の実践につながるような題材設定を工夫した。

### ③地域の特色や教育力を生かす学習の工夫

家庭科通信や学年だより等で、家庭科の学習内容や地域の方々はどう関わっていくかの考えを家庭や地域に伝え、地域の方や家の人からメッセージをもらうなど、学びと生活をつないでいく。また、地域の特産物や地域のプロの技に触れたり、学習ボランティアの方の力を借りたり、自分の住んでいる地域を学習に取り入れれたりすることで、自分事として学んだ知識・技能を生活に活用できるよう工夫した。

## 3 研究の成果と課題

### <研究の成果>

- 他教科等との関連を年間指導計画に位置づけ、各教科で学習する内容の効果的な関連付けにより「学びをつなぐ」視点が明確になった。また、他教科等とのねらいの違いも踏まえた上で、横断的な学習を進めることを意識できた。
- 児童・保護者・教員の実態から課題が見られた「家族や地域の人々との関わり」「生活を豊かにするための布を用いた製作」において、第5学年で幼児、第6学年で高齢者との関わりを位置付け、2年間で取り組む指導計画を作成し、研究を進めた結果、児童が家庭や地域から賞賛され認められる経験を積み重ねたことで、家庭や地域で実践する喜びを味わい自信をもって取り組むことにつながった。
- 題材で求められている資質・能力を考え「題材を貫く課題」を設定したことで、最後の題材の振り返りとこれからの生活に生かしていきたいことへのつながりができ、生活に関わる見方・考え方の視点も加え新たな課題を考えることに効果的であることが分かった。
- 主体的・対話的で深い学びへの働きかけとして、全体・個・グループの課題を明確にし、常に解決すべき課題を意識できるよう課題シートを作成し、自分の学習や課題解決の状況を把握しながら学習が進められるよう教師が意識的に声かけを行ったことで、課題解決に向けて粘り強く取り組む姿が見られた。また、学習カードやポートフォリオの記述からも見取ることができた。
- 主体的に学習に取り組む態度の評価においては、適切な評価場面を設定し、ポートフォリオに記入することを事前に説明したことで「うまくできなかったこと・うまくできたこと・できるようにがんばったこと」に分けて整理し、自分の学習を把握することができた。さらに、支援ツールを活用し自分の学習を調整しようとする姿がみえた。

### <研究の課題>

- 家庭・地域との連携を重視し指導計画を作成したが、「生活を工夫し実践していく」家庭科の特徴を発揮するためにも、さらに、実生活で生かせる家庭科の授業改善に取り組む必要がある。
- 題材の指導計画、授業の指導過程と評価を合わせてPDCAサイクルで見直すことが必要である。
- 本年度は、感染症対策等のため会場に多くの教員が集まり協議を行うことが困難であった。しかし、授業公開をオンラインにしたことから、よりよい授業

を広めたり授業実践の工夫や課題を共有したりすることの必要性を改めて感じた。

- 主体的に学習に取り組む態度をどの評価場面で、どのような学習カードやポートフォリオで見取っていくのか、長期的なスパンでどう評価していくのか等、大きな課題が残されており、さらに、実践を積み上げる中で継続して研究していきたい。
- 家庭科における学び合いや個別最適な学習におけるタブレット端末の効果的な活用方法を研究し、広めていくことが課題である。

### Ⅲ 年度埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動

#### 1 令和3年度 研究組織 ※年度当初役員

相 談 役	長島 淑子 (東部)	
会 長	池田智恵子 (東部)	
所属研究部	副会長 (部長)	監事 (副部長)
研 修 部	小峯由起子 (東部)	影山 葉子 (南部) 佐藤 朋子 (南部)
調査研究部	井上 千春 (南部)	棚村かおり (北部)
広 報 部	渋谷 恵子 (さいたま)	長島クミ子 (さいたま)
庶務会計部	酒本 希朱 (西部)	田中 幸子 (南部)
専門委員会	永沼 清美 (東部)	田野智恵子 (北部) 藤田由美恵 (南部)
	幹事 渡邊はるか 蓮井 望 吉岡 知世	

地区理事 63名  
(常任理事26名含 常任理事は研究部に所属する)

専門委員 14名

**研 修 部** 部長：小峯 由起子

- ・研修会の計画及び運営
- ・研究集録の編集及び発行

**調査研究部** 部長：井上 千春

- ・全国調査の協力

**広 報 部** 部長：池田 智恵子

- ・小家研会報の作成

**庶務会計部** 部長：酒本 希朱

- ・文書作成及び発送
- ・総会、常任理事会、研修会等の要項作成

**専門委員会** 委員長：永沼 清美

- ・学習指導の実践に関する研究

#### 2 研究会活動状況

- (1) 令和3年度役員研修会並びに講演会

令和3年6月9日(水)

<会場> 埼玉大学教育学部附属小学校

- ①役員研修会

(オンライン配信にて報告・議決の実施)

- ・令和2年度事業報告
- ・4部会・専門委員会の活動報告
- ・令和2年度決算報告・監査報告
- ・新役員の承認
- ・令和3年度事業計画、令和3年度予算案
- ・4部会・専門委員会の活動計画
- ・第37回関東甲信越ブロック大会について

- ②講演会 (中止)

- (2) 夏季研修会

令和3年7月30日(金)

- (3) 研究授業及び研究協議会

令和3年11月22日(月)

<会場> 新座市立新堀小学校

映像で記録・編集し、第37回関東甲信越ブロック大会で配信した。

- (4) 発明創意くふう展

審査会：令和3年10月30日(土)

- (5) 第37回関東甲信越ブロック大会

(オンライン配信にて開催)

令和3年11月30日(火)

<会場> 新座市市民会館 (大ホール)

- ①研究提案

- ②授業提案及び授業動画視聴 (映像による公開授業)

- ・題材名「共に生きる地域での生活～低学年とわたしたち～」

5年授業者 田中 久美子

- ・題材名「思いを形にソーイング～生活を豊かに～」

6年授業者 小島 桂子

- ③指導

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事 原田 千恵 先生

埼玉県立総合教育センター

指導主事 笹嶋 京子 先生

- ④全体指導・記念講演

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部

教育課程調査官 丸山 早苗 先生

- (6) 第2回役員研修会 (オンライン開催予定)

令和4年2月

<会場> 埼玉大学教育学部附属小学校

- ・令和3年度の反省と次年度の展望

# 19 生活科・総合的な学習の時間教育

## 埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

### I 研究主題と方針

「思考力・判断力・表現力を高める支援の工夫」

<方針①> 授業研究会の開催

本年度は、行田市立泉小学校、蕨市立南小学校、所沢市立東所沢小学校で研究を深めることを目的に授業研究会を開催する。

<方針②> 指導法の研究と指導事例集の刊行

「構造的な板書」「発話分析」「思考ツールの活用」の三つの視点を掲げ、生活科・総合的な学習の時間の事例を基に指導法の研究を行う。

### II 活動状況

#### 1 活動内容

(1) 事務局幹事打合せ会

○期日 令和3年4月2日(金)

○会場 埼玉大学教育学部附属小学校

○内容 常任理事会の原案作成  
各地区理事の調査用紙発送  
講演会の講師の依頼

(2) 常任理事会

○期日 令和3年5月14日(金)

○会場 Zoom会議

○内容 令和2年度決算報告  
令和3年度の役員案  
令和3年度事業計画及び予算案審議  
各地区理事の確認  
専門部の決定  
総会の開催について  
研究発表会の開催について  
授業研究委嘱校の研究授業について  
指導事例集の執筆について

(3) 講演会及び総会

○期日 令和3年6月11日(金)

○開催方法 Zoom会議

○内容

- ①総会 常任理事の決定  
専門部組織決定  
令和3年度の事業計画及び日程  
令和3年度予算案の決定

②講演会

演題 「これまでの生活・総合を振り返り、こ

れからの生活・総合を考える」

講演 元文教大学教授 嶋野 道弘 氏

(4) 第1回指導法研究委員会

○期日 令和3年6月18日(金)

○会場 Zoom会議

○内容 委員の委嘱  
研究の進め方

(5) 生活科・総合的な学習の時間研究発表会

○期日 令和3年8月3日(火)

○会場 Zoom会議

○内容 研究発表及び協議

(6) 第2回指導法研究委員会

○期日 令和3年8月17日(火)

○会場 Zoom会議

○内容 指導方法の研究

(7) 第3回指導法研究委員会

○期日 令和3年10月29日(金)

○会場 Zoom会議

○内容 指導方法の研究

(8) 授業委嘱校研究発表会

○期日 令和3年10月15日(金)

○会場 行田市立泉小学校

○内容 詳細は、P.77を参照

(9) 授業委嘱校研究発表会

○期日 令和3年11月12日(金)

○会場 蕨市立南小学校

○内容 詳細は、P.78を参照

(10) 授業委嘱校研究発表会

○期日 令和3年11月30日(火)

○会場 所沢市立東所沢小学校

○内容 詳細は、P.79を参照

(11) 常任理事会

○期日 令和4年2月16日(水)

○会場 Zoom会議

○内容 令和4年度の役員案  
令和4年度事業計画及び予算案審議  
各地区理事の選出  
専門部の確認  
授業研究委嘱校について

(12) 事務局幹事打合せ会

○期日 令和4年3月11日(金)

- 会場 埼玉大学教育学部附属小学校
- 内容 令和4年度事業計画について  
令和4年度指導法研究委員会について

## 2 運営組織

本研究会の事業は、三つの専門部会において、具体的に進められている。それぞれ、各地区理事が所属し、生活科・総合的な学習の時間教育の発展に大きな役割を果たしている。

### (1) 総務部

- 地区活動全体の総轄
  - ・総会・理事会・講演会の計画及び実施
  - ・通知文書の発送・受理
  - ・予算案・決算書の作成

### (2) 研修部

- 生活科・総合的な学習の時間研修に関する総轄
  - ・研究発表会の計画及び実施
  - ・授業研究会の計画及び実施
- 研究会編集物に関する総轄
  - ・研究集録の作成

### (3) 指導法研究部

- 生活科・総合的な学習の時間教育の指導法に関する総轄
  - ・指導法の研究
  - ・研究成果の編集

## Ⅲ 研究内容

### 1 生活科・総合的な学習の時間指導法研究委員会

生活科・総合的な学習の時間の授業における指導方法の研究と各単元における指導の在り方について研究し、学習指導に役立てることを目的とする。

研究の視点として、「構造的な板書」「発話分析」「思考ツールの活用」の三つの視点を基に、生活科・総合的な学習の時間の事例を基に研究を深めた。

その成果物として、「生活科・総合的な学習の時間指導事例集 第30集」を発行した。

### 2 生活科・総合的な学習の時間研究発表会

- 期日 令和3年8月3日(火)
- 会場 Zoom会議
- 内容

#### (1) 実践発表

- ①川口市立鳩ヶ谷小学校 教諭 小竹 朋子 氏  
テーマ「主体的に対象に関わり、自ら働きかける児童の育成」
- ②所沢市立宮前小学校 教諭 木下 智実 氏  
テーマ「動画づくりを通じた探究的な学習の在り

方を考える～「何を、どう伝えるか」をめぐる子どもの姿から～」

- ③加須市立礼羽小学校 教諭 林 大輔 氏  
テーマ「浅い知識から深い学びへとつなげる整理・分析の研究～総合的な学習の時間6年「鷲宮の魅力再発見」の実践から～」

#### (2) 指導講評

共栄大学教育学部 特任教授 若手 三喜雄 氏

## 3 生活科・総合的な学習の時間教育研修委員会

役員一覧、生活科・総合的な学習の時間指導事例集、研究組織一覧、支部だより、事業報告などを主な内容として編集した。

○研究刊行物 「生活・総合」 第32号

## Ⅳ 授業研究委嘱校の発表概要

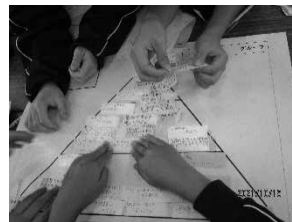
本年度は、行田市立泉小学校、蕨市立南小学校、所沢市立東所沢小学校の3校に授業研究の委嘱をした。

それぞれの公開授業等の概要について紹介する。

### 行田市立泉小学校

- 1 日時 令和3年10月15日(金)
- 2 授業者 第6学年1組 田村 歩美 教諭
- 3 単元名 「目指せ！！ふるさと行田観光大使」
- 4 授業の概要

本単元は、自分たちの郷土行田市を様々な面から見つめ直すことで、行田市に対する理解を深め、児童が郷土



に対して愛着をもつことができるようにしたいと願い、この単元を設定した。詳しく調べるとインターネット検索ばかりに頼りがちになる傾向がある。電話取材や現地調査、散策、施設見学などで校外に出て活動したり、実際に人と会って直接話を聞いたりすることで多様な情報収集活動を経験させ、話を聞き、携わる人々の思いに触れることでより郷土への愛着をもち、行田市のよさや魅力を伝えることができるのではないかと考えた。そこで本時は、これまでに調べたことからパンフレットに載せたい行田市の魅力についてグループごとに内容を整理し、他の課題グループへ説明するという活動を行った。



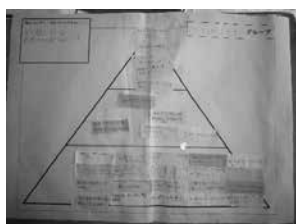
## 5 授業を振り返って

○個々で内容を整理したことにより、グループでの話し合いがスムーズに且つ活発に行われた。

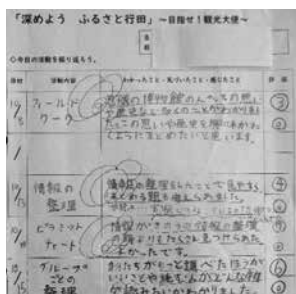


○グループ内で付箋の色を変えたことにより、自分の考えと友達との考えとの比較が視覚的にもわかりやすく、また、同じ意見を重ねても自分の考えが貼ってあるという満足感をもつことができた。

○内容の精選の際にピラミッドチャートを使うことで、内容の優先順位が視覚的にも分かりやすかった。これは、当グループだけでなく、ペアグループに発表する際にもペアグループにとってわかりやすかった。



○グループごとに決めたコンセプトに沿って内容を話し合うようにさせ、その理由も伝えるようにしたところ、聞く観点も明確になり、話し合いがスムーズに進められた。



○他の課題グループとの交流により、自分たちの内容の足りないところや、疑問点、問題点に気付くことができた児童が多かった。

## 6 指導講評（元文教大学教授 嶋野 道弘 氏）

○ピラミッドチャートを使用する際、カテゴリーで分類しておくことで視点がより明確になった。

○どの子も探究的な学びができています。

○友達に貼った付箋を見ることで、他の考えに気づき、交流の時に書いている児童がいた。その場での気づきもよく、新しい考えもあってよい。

○活動の最後に振り返りをする際に、気持ちだけで終わってしまうことが多いが、更なる疑問が生まれるとよい。

○課題は色々あってもよい。

○思考ツールを使っていたが、全ての教科等で使っていけるとよい。まずは、形を学び、その型を使うか、自分たちで形を変えていけるとよい。

○アクティブな授業。グループでの話し合いも活発であり、他グループへの発表、また、それに対す

る質問の場面もよく活動していた。

○能力差が大きいときは、手立てを考えておく。教員の準備も大切である。

### 蕨市立南小学校

1 日時 令和3年11月12日(金)

2 授業者 第2学年1組 横田 愛 教諭

3 単元名 「ぐんぐん育て わたしの野さい」

#### 4 授業の概要

本単元は、小学校学習指導要領生活科の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や



成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする」を受けて設定されたものである。

児童はこれまでに、生活科の学習で朝顔とチューリップを育て、花がきれいに咲いたときの喜びを感じていた。2年生になり、植物を育てたいという気持ちを児童から聞き、自分だけのミニトマトを育て、グループでは、かぶ・にんじん・枝豆を、学年でサツマイモを育てることにした。育てていく過程で、喜びを感じたり、命を育てることの難しさに気付いたりしながら、どの植物にも生命があることや、日々生長していることに気づき、生き物への親しみをもち、生命を大切にしようとすることをねらいとしている。その中で、友達と交流しながら、それぞれの野菜の育ち方の違いに着目させ、それぞれのよさを出し合うことで、気づきを深められるようにしていった。

#### 5 授業を振り返って

本時では、野菜を育てる前と後でどう気持ちの変化があったかを考える活動をした。授業の導入では、育てる前の正直な気持ちを思い出して観察日記集を基にワークシートに書き込み、育てた後の今の気持ちと比較しながら、友達と相違点を探した。土いじりをしたことがない児童がほとんどだったため、始めは、「めんどくさい」や「こんな



花壇で本当に野菜が育つのだろうか」という気持ちが多かった。世話を続け、育ててきた今では、「命の大切さを知った」や「頑張ったから育ってくれて嬉しかった」という気持ちの大きな変化が見られた。児童は、実際に畑作りから始め、種から全て育て、上手くいくこととそうでないことがあることを知り、植物の命を守るためにどうすべきかを考えながら活動することができた。

直接体験を積み重ねることによって、学ぶことの必要性を感じた。

## 6 指導講評

川口市立舟戸小学校教頭 山口 由美子 氏  
生活科の学習では、「気付き」が重要になってく



る。そこで発見と気付きは全く違うので、気を付けていきたいところである。今回の授業では、植物の立場に立った見方・考え方ができるとよりよい気付きになっていくので、大切にしていきたい。心が育っている途中なので、今わからなくてもよいが、植物という対象との関わり方を振り返ることが重要である。植物を育てるという経験をたくさんさせていることがよかった。すべて、種から育てるといことがよい経験になったと思う。必要なのは、児童の考えを認め、支援することである。

### 所沢市立東所沢小学校

- 1 日時 令和3年11月30日(火)
- 2 授業者 第1学年1組 紀伊野 健人 教諭
- 3 単元名 「たのしい あき いっぱい」
- 4 授業の概要

本単元は、学習指導要領内容(5)「季節の変化と生活」(6)「自然や物を使った遊び」を受けて設定したものである。本授業では、クラスや学年の友達と一緒に校庭や東所沢公園などの身近な自然を観察したり、秋の自然の中で存分に遊んだりすることで、季節による自然の様子の変化を体感し、理解することをねらいとした。指導においては、自然の面白さや不思議さを実感できる児童を育てるために、まず、諸感



覚を使って十分に秋を楽しむ活動を取り入れた。また、ICT機器や「とっておきカード」「いいね付箋」を活用して自身の発見を整理したり、友達と伝え合ったりする活動を充実させた。これによって自身の気付きだけでなく、友達の気付きも取り入れた多面的な視点で秋を捉える力を伸ばせるようにした。さらに、親子で諸感覚を使って秋を感じ取る体験ができるように、子供たち一人一人に配付された「chromebook」を期間限定で家庭に持ち帰って写真を撮る活動も取り入れ、学びを広げ、深めていった。



## 5 授業を振り返って

本時では、「とっておきカード」に自身の見つけた秋のおすすめポイントを事前に記入し、自身の発見を整理することができるようにすることで、スムーズにグループでの発表ができるようにした。また、代表児童と担任とで「おすすめポイントの発表」→「友達の写真にいいね付箋をつける」という流れを例示することで児童が活動の見通しをもてるようにした。児童は「付箋のおかわりできる？」と活動に意欲的であった。



発表の場面においても、どのグループも意欲が途切れなかったが、一部には「自分の写真を発表したい、友達の写真にコメントをつけたい」といった児童のそれぞれの気持ちが前に出すぎて、雑然としてしまったグループがあった。発表の順序をより整理する工夫が必要であると感じた。

## 6 指導講評 元文教大学教授 嶋野 道弘 氏

児童は視覚、嗅覚、聴覚など、諸感覚を使って意欲的に学習に取り組むことができていた。ただ、写真を撮って紹介するだけでは、教材としての深まりが足りない。今回の授業では、自身の撮影した写真の中からとっておきの1枚を選んでいった。そこには児童一人一人の写真に対する思いが生まれる。さらに、そこに友達からのリアクションをもらうという段階を踏むことで、より深い教材となっていた。

授業のまとめにおいては、学び合ったことの整理や確認として十分に時間をとって全員で行うことが重要になる。この時、めあてと正対していることを意識し、教師の指導・助言の下に児童の納得できる答え(納得解)にたどり着くことが重要である。



# 20 本校の研究の取り組みについて

埼玉大学教育学部附属小学校

## I 本校の研究概要

### 1 研究主題

「学びをつくる」（2年次）

～自覚と自己決定～

### 2 研究主題について

#### (1) 主題設定の理由

「学びをつくる」とは、児童が問題解決の過程で主体的に取り組み、よりよく問題を解決することである。

本校は、令和元年度まで思考力、判断力、表現力等に絞って研究を行ってきた。その際、思考力、判断力、表現力等を用いて問題を解決できるだけでなく、その過程で自ら進んで問題を発見したり、試行錯誤しながらねばり強く取り組んだりするなどの主体性や、効率よく解決したり、他者と関わりながら考えを深めたりするなどのよりよく問題を解決することについての課題が見られた。また、主体性やよりよく解決することは学習指導要領で求める「学びに向かう力、人間性等」に当たるものとして、これからの教育課題に沿ったものであると考えた。そこで、本研究主題を設定した。

#### (2) 「学びをつくる」児童の姿

進んで問題を見だし、  
よりよい解決に向けてねばり強くやり抜く子

児童は、学習活動の中で問題と出会い、思考を巡らせて解決に向けて進んでいく。本研究では、この問題解決の過程において、進んで問題を見いだしたり、ねばり強くやり抜いたりする主体的な姿や、見通しをもって取り組んだり、他者と関わったりしながらよりよく問題解決したりする姿であると捉えている。

#### (3) 研究1年次（令和2年度）の取組

「学びをつくる」児童の姿が見られるようにするためには「学びに向かう力、人間性等」が必要である。これらは元々、人間の内にあるものであるが、「学びをつくる」児童の姿に変容する過程で何が必要であるかを考えた際に、「内的動機付け・外的動機付け」「学習目標志向」であると捉えた。

そこで、研究1年次では、「内的動機付け・外的動

機付け」「学習目標志向」を高める手立てを打つことで、「学びをつくる」児童の育成に取り組んだ。

また、手立ての有効性については、児童の具体的な姿の変容から行う質的評価と質問紙調査から行う量的評価により検証していくこととした。

#### ①「内的動機付け・外的動機付け」

知的好奇心や達成感、挑戦心など自分自身の内的な要因・本人以外の外的な要因や条件によって誘発されるものであり、主に児童の主体的に取り組む姿に関わるものとして捉えている。

#### ②「学習目標志向」

粘り強さや協同性、競争心など学習に対して促進的に作用する目標志向であり、主に学習をよりよく進めるための力であるとして捉えている。

#### ③「質的評価・量的評価」

質的評価とは、授業を通して継続的に児童の姿を記録し、具体的な児童の姿から変容を捉えていくことである。また、量的評価とは、本校独自の質問紙について得点化し、その得点から変容を捉えていくことである。量的評価については、質的評価を補助するものとして活用していく。そのために、視覚的には捉えにくい内面の部分について問う児童用質問紙を作成した。「内的動機付け・外的動機付け」や「学習目標志向」を構成する観点について問い、四件法でそれぞれの項目を得点化し、量的に児童の変容を捉えている。

## 3 研究内容について

### (1) 本年度（前期）の取組

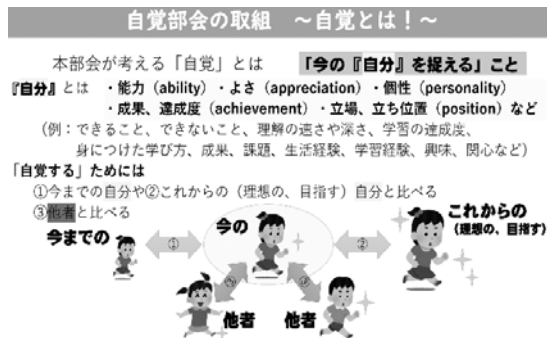
1年次の授業実践、質的評価の中から「自覚」と「自己決定」というキーワードが見えてきた。そこで「学びをつくる」ための視点として『「自覚」と「自己決定」をくりかえすこと』を設定した。本年度も授業実践を通して、「自覚」している姿、「自己決定」している姿、それをくりかえす姿を質的に見取っていくことに取り組んだ。また、質的に見取った姿と質問紙調査の量的な見取りとの関連を図り、「学びをつくる」姿を示すことができるようにした。

そこで、本年度の前期は、「自覚部会」「自己決定部会」「分析部会」という三つの部会に分かれて

研究に取り組んだ。

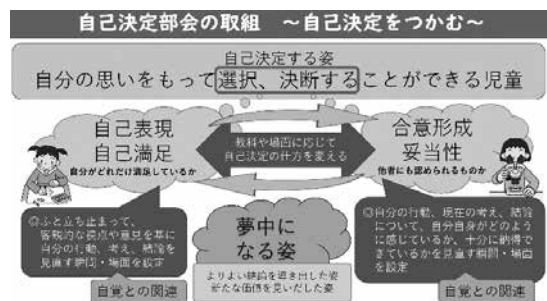
### ① 自覚部会の取組

自覚部会では「自覚」を「今の『自分』を捉えること」とした。「自分」については、「できること」「できないこと」「理解の速さや深さ」「学習の達成度」「身に付けた学び方」「成果」「課題」「生活経験」「学習経験」「興味・関心」など、広く捉えている。また、多くの実践に取り組む、協議する中で、児童が「自覚」するためには、今までの自分やこれからの自分と比べたり、他者と比べたりすることが必要であると考えた。



### ② 自己決定部会の取組

自己決定部会では、「自己決定」を「自分の思いをもって選択、決断できること」とした。特に「自分の思いをもって」という点を重視した。自分の思いをもつためには、解決したくなる問題や課題があること、自己表現が認められる場があることが求められる。また、自分の行動、現在の考え、結論について、自分自身がどのように感じているか、十分に納得できているかを見直す瞬間・場面や、ふと立ち止まって、客観的な視点や意見を基に自分の行動、考え、結論を見直す瞬間・場面を設定することも必要であると考えた。つまり「自覚」との関連は大きく、切り離せるものではないという考えに至った。

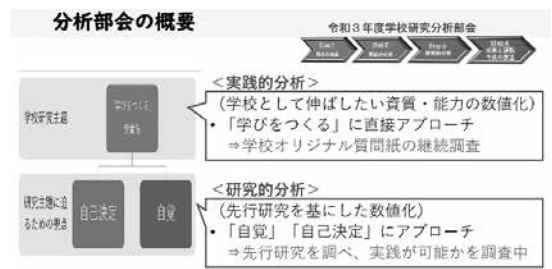


### ③ 分析部会の取組

分析部会では、大きく二つの分析に取り組んでいる。一つ目は、研究1年次に作成した質問紙調査による分析である。この調査は、学期ごとに実

施をしている。これにより、「学びをつくる」児童の傾向を探り、授業を参観する際の視点として活用したり、授業を通して見取った児童の姿(質的評価)を数値を用いて(量的評価)補ったりすることができた。

二つ目は、授業を参観する際に活用する分析シートである。質問紙調査は、大きな傾向はつかめるものの、この授業でどんな「自覚」や「自己決定」があり、どんな学びをつくったのかを見取ることは難しい。そこで、児童の発言や行動、変容などを分析し、授業レベルで数値化できないかを試みている。



実践+研究の双方から分析することで学校研究の妥当性を明らかにすることを目指した

(なお、前期の取組については、右記のQRコードより確認していただくことができる。ダウンロードも可能となっている。)



### (2) 今年度(後期)の取組

後期は、部会を越えて全体で協議を行い、これまでの成果や課題を確認しながら、改めて共通の認識をもって取り組むことから研究を開始した。その中で、以下の点を確認した。

○それぞれの部会で捉えたことが、他部会の視点で見るときに理解・納得できるものになっているかどうか。

○授業を通して見取った姿と、分析によって見取った姿に関連は見られるかどうか。

○「自覚」と「自己決定」をくりかえすことで学びをつくることのできる、という視点について、「くりかえす」という捉えでいいのかどうか。

この3点をポイントに、後期は計7回の授業提案を行い、「学びをつくる」児童の姿、授業モデルを示すことができた。また、分析によって学習調整・粘り強さ・学び合い・挑戦心などに関する質問の数値が高い児童は学びをつくる姿が見られる傾向がありそうだということが分かってきた。

今後も、児童の思いを大切にし、教員が主体的に研究に取り組んでいくことが求められる。

## II 活動内容

### 1 第89回小学校教育研究協議会について

- (1) 期 日 令和3年10月19日(火)、20日(水)
- (2) 会 場 埼玉大学教育学部附属小学校  
(オンラインによる開催)
- (3) 主 題 「学びをつくる」(2年次)  
～自覚と自己決定～
- (4) 趣 旨  
教科や自身の研究テーマに基づいて公開授業を行い、研究協議を通して小学校教育の充実を図る。
- (5) 後 援  
埼玉県教育委員会 さいたま市教育委員会  
埼玉県連合教育研究会  
埼玉県公立小学校校長会
- (6) 公開授業 26授業提案
- (7) 分科会

本年度は、研究2年次として個人分科会を設定した。学校研究主題と各教科等の研究主題、個人研究のテーマを基に、具体的な方策を考え、授業を通して提案し、研究協議を行った。

#### ◎教科の研究主題

- ①提案者 ②公開授業 ③指導者 ④司会者

#### 【国語科】

##### ◎未来を拓く言語能力を育成する学びのプロセスの構築

- ①吉野 竜一 ②5年「事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう」
- ①笠原 雅広 ②2年「そうぞうしたことをもとに『お手紙』」
- ①波戸内友基 ②6年「表現を工夫して発信しよう」
- ③埼玉大学・戸田 功、山本 良  
県教育局・近藤 正紀
- ④久喜・太田小・小林 久乃  
熊谷・別府小・山崎 優美  
富士見・針ヶ谷小・川畑 那由昂

#### 【社会科】

##### ◎社会がわかり、社会にかかわる児童を育てる指導の工夫

- ①及川 恒平 ②6年「わたしたちのくらしを豊かにする政治」
- ①鈴木 一徳 ②3年「店ではたらく人  
～人と人をつなぐお店～」
- ①村知 直人 ②5年「環境を守るわたしたち」
- ③埼玉大学：桐谷 正信 県教育局：伊藤 敏郎
- ④川口・鳩ヶ谷小・入江 直人  
熊谷・熊谷西小・高木 裕介

#### 【算数科】

##### ◎進んで問題を見だし、数学的な表現を高める児童を育てる指導

- ①神谷 直典 ②5年「単位量あたりの大きさ」
- ①関口 泰広 ②6年「比例と反比例」
- ①藤田 明人 ②2年「かけ算」
- ③埼玉大学・二宮 裕之、松寄 昭雄  
県教育局・大河原早菜江
- ④熊谷・熊谷東小・金井 大典  
三郷・立花小・杉山 雄哉  
さいたま・大砂土小・天野 翔太

#### 【理科】

##### ◎自然事象を通して、科学を語る児童を育てる指導の工夫

- ①塩盛 秀雄 ②6年「大地のつくりと変化」
- ①肥田 幸則 ②5年「流れる水の働き」
- ①関根 達也 ②4年「雨水の行方と地面の様子」
- ③埼玉大学・小倉 康、中島 雅子  
県教育局・柿沼 宏充
- ④深谷・深谷小・秋元 祥広  
さいたま・高砂小・濱谷 知世  
川口・青木中央小・石山 和之

#### 【生活科】

##### ◎学びを自らの生活に生かす生活科の学習指導

- ①横田 典久 ②1年「こうえんを、たんけんしよう」
- ①鈴木 康平 ②2年「やさいよ 大きくなあれ」
- ③埼玉大学・宇佐見 香代 県教育局・小峰 元
- ④鳩山・亀井小・豊田 淳喜  
蕨・東小・千ヶ崎 絵里花

#### 【音楽科】

##### ◎自らの視点をもって音楽に向き合う児童を育てる指導と評価の工夫

- ①納見 梢 ②5年「和音の移り変わりを感じ取ろう」
- ①三橋 博道 ②2年「せいかつの中にある音を楽しもう」
- ①遠山 里穂 ②4年「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」
- ③埼玉大学・森 薫 県教育局・大木 まみこ
- ④戸田市・笹目東小・肥後 漱一郎  
上尾市・尾山台小・斉藤 麻理子

#### 【図画工作科】

##### ◎自己との対話を活性化することで、つくりだす喜びを味わう児童を育てる指導と評価の工夫

- ①坂井 貴文 ②6年「スクール アート プロジェクト」
- ①安藤 健太 ②1年「ごちそう・サラ！」
- ①荒川 祥輝 ②3年「アイル ビー パック」
- ③埼玉大学・高須賀 昌志 県教育局・采澤 敬
- ④蓮田・蓮田中央小・桑原 友希  
戸田・戸田東小・上廻 哲也

## 【家庭科】

### ◎生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、主体的に課題解決に取り組む児童を育む指導の工夫

- ①渡邊はるか ②5年「物を生かして住みやすく」
- ①蓮井 望 ②6年「思いを形にして生活を豊かに」
- ③埼玉大学・亀崎 美苗 県教育局・原田 千恵
- ④新座・野寺小・古澤 優美

## 【体育科】

### ◎全ての子供が運動への自信を高められる指導の工夫

- ①首藤祐太郎 ②4年「ネット型ゲーム」
- ①浅間 聖也 ②3年「マット運動」
- ③埼玉大学・石川 泰成 県教育局・河野 裕一
- ④桶川・朝日小・山口 裕太郎  
三郷・吹上小・山田 啓史

## 【健康教育】

### ◎生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培う指導の工夫

- ①渡邊 法子 ②5年「心の健康」
- ①岡田亜由美 ②4年「健康すくすく大作戦」
- ③埼玉大学・戸部秀之、七木田文彦  
県教育局・澤村文香、森奈緒子
- ④所沢・狭山ヶ丘中・畑中 結季  
さいたま・沼影小・出水 紀寛

## 2 校内授業研究会について

個人の研究主題を基に、授業を通して検証を試み、全員で研究協議を行った。研究会には、文部科学省及び埼玉大学から指導者を招聘した。本年度は、各教科で授業研究会を7回実施した。

①教科等(学年) ②授業者 ③研究主題 ④指導者

- (1) 令和3年6月7日(月)
  - ①理科(5年) ②肥田 幸則
  - ③自然現象をよくみる児童を育成するための指導の工夫
  - ④埼玉大学・近藤 一史
- (2) 令和3年6月10日(木)
  - ①社会科(3年) ②鈴木 一徳
  - ③社会がわかる児童を育てる指導の工夫
  - ④埼玉大学・桐谷 正信
- (3) 令和3年6月14日(月)
  - ①理科(4年) ②関根 達也
  - ③理科を学ぶ意義や有用性を感じる児童の育成
  - ④埼玉大学・小倉 康
- (4) 令和3年6月24日(木)
  - ①図画工作科(1年) ②安藤 健太

- ③試行錯誤を繰り返すことで、児童が作り出す喜びを十分に味わう指導の工夫
- ④埼玉大学・小澤 基弘
- (5) 令和3年6月28日(月)
  - ①生活科(1年) ②横田 典久
  - ③表現活動の充実を図り、気付きの質を高める指導の工夫
  - ④埼玉大学・宇佐見 香代
- (6) 令和3年7月8日(木)
  - ①特別の教科 道徳(1年) ②納見 梢
  - ③本校の指導法改善に関わる授業研究
  - ④文部科学省・浅見 哲也
- (7) 令和3年11月11日(木)
  - ①体育科(3年) ②浅間 聖也
  - ③児童が自ら進んで運動に取り組む姿になる指導の工夫
  - ④埼玉大学・石川 泰成

## Ⅲ 今後について

本年度は、第89回小学校教育研究協議会や校内授業研究会において、学校研究主題を具現化した授業を提案することができた。主な成果は、以下のとおりである。

- 「自覚」と「自己決定」について、共通の認識をもつことができた。
  - 授業の見取りと質問紙調査・分析シートの見取りが合致したことで、質と量の両面から「学びをつくる」姿を示すことができた。
  - 実践と研究を結び付ける役割を分析部会が担うことで、研究が深まり、指導法の改善にもつながった。
  - 教科ごとの授業モデルを示すことができ、具体的な手立てが明らかになってきた。
  - 教科を越えて協議できたことで、より大きな視点で授業を捉えることができた。
- これらの成果を、より分かりやすく、より確かなものにし、発信をしていくことが次年度に向けた課題である。

また、教員が所属する部会を自己決定できるようにしたり、研究の進め方を部会に委ねたりしたことで、研究の時間以外にも自主的に協議するなど、学校研究に主体的に取り組む教員の姿が見られた。

教員が「学びをつくる」ことを体現していたといえる。こうした研究の進め方そのものを成果として、よりよい研究を目指していきたい。

# 21 埼玉大学教育学部附属中学校

## I 研究主題と方針

### 1 研究主題

「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善による資質・能力の育成（最終年次）～資質・能力を育成する指導と評価の一体化の充実～」

### 2 方針

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編の改訂の経緯において資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を高める授業改善の取組を活性化していくことが求められている。そのために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を推進することが今の学校教育に求められている。本年度は、そのような「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、特に指導と評価の一体化による授業改善を行い、生徒の資質・能力の育成を図ることとした。

具体的には、下記の研究の視点により、生徒の資質・能力の育成を図り、本校の学校教育目標である「自主的人間の形成」をめざした。

視点1：思考力、判断力、表現力等を中心とした資質・能力の育成とその評価の在り方を考え、実践する。資質・能力の育成と評価の一体化を目指した単元・題材計画を考え、実践する。その際、思考・判断・表現の場面設定における知識・技能、主体的に学習に取り組む態度との関連を明らかにする。

視点2：生徒が自らの学習の評価を基に、学習を改善していくことができる形成的評価の在り方を考え、実践する。単元・題材計画への教師からのフィードバック及び生徒自身（自己評価）、生徒相互（相互評価）の効果的な形成的な評価の位置付けにより、生徒の学習を改善させるとともに自己肯定感・自己有用感の醸成を図る。

## II 活動状況および研究内容

### 1 令和3年度中学校教育研究協議会

- (1) 発表主題（上記研究主題と同様）
- (2) 主催 埼玉大学教育学部附属中学校
- (3) 後援 埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会  
埼玉県連合教育研究会  
埼玉県中学校長会・さいたま市中学校長会  
埼玉県市町村教育委員会連合会
- (4) 期日 令和3年5月25日(火)・26日(水)

### 【国語科】

研究主題「実社会や実生活に生きて働く国語の資質・能力を育成する授業の創造」

指導者 埼玉県教育局 御菩薩池 好行 先生  
埼玉大学 飯泉 健司 先生

本年度は以下の3点を重点として、研究・実践を行った。

#### ①実社会や実生活につながる場としての言語活動の設定

指導要領に記載の言語活動例を元に、資質・能力を育成するために効果的な言語活動を設定し、実践を通しての在り方を考察した。

#### ②各領域のペーパーテストの記述式問題

授業によって育成された「思考・判断・表現」の資質・能力を活用することで解くことができ、適切に評価可能な問題作成に取り組んだ。単元に身に付けた力を定期テストで適切に測るための資料文選定や設問作りを追究した。

#### ③年間を通した語彙を豊かにする指導の改善・充実

生徒が収集した語句を使用することが必要な単元を構想し実践することで、語句の意味や使い方に対する認識を深め、語感を磨き、語彙の質を高められるようにした。

成果としては、主に次の3点が挙げられる。

#### ①実社会や実生活につながる場として、具体的な文脈や状況を意識して言語活動を行うことで、既存の知識を積極的に活用し、試行錯誤して課題に取り組み、資質・能力を高めようとする姿が見られた。

#### ②定期テストに初出の文章を出題することで、授業中に生徒が学習用語を主体的に理解しようとしたり、教師が付けたい力を明確化したりするなどの効果が見られた。

#### ③年間を通して語句を収集する活動を取り入れ、新聞記事を用いたり、創作活動を取り入れたりと、収集した語句を用いた単元を構想することで、言葉への自覚を高めることができた。

課題としては、言語活動を設定する際に、具体的にどのように生活の場に生かすことができるのか、単元によっては曖昧になってしまったことが挙げられる。本年度の成果と課題を踏まえ、今後も効果的な言語活動を追究していきたい。

### 【社会科】

研究主題「公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科学習～資質・能力を育む指導と評価

の一体化の在り方～」

指導者 埼玉県教育局 藤井 真仁 先生  
 埼玉大学 谷 謙二 先生  
 清水 亮 先生  
 高橋 雅也 先生

本校社会科部では研究主題を受け、研究を深める具体的な手立てとして次の二つについて取り組んだ。

- ①「逆向きの授業設計」を用い、資質・能力の育成のための単元・題材計画の作成を行う。
- ②社会科「学びの地図」を活用した、生徒の学習改善に生かす形成的評価の実践を行う。

①については、育成すべき資質・能力を構想した学習活動に後付けし、強引に結びつけてしまうことのないように、前述した「逆向きの授業設計」の手法を用いて、その単元でどのような資質・能力を育成するかを明確にし、3年間を見通して単元を構想していく。「逆向きの授業設計」を行うことで、育成したい資質・能力を単元の中にどのように位置付けていくか、教師側が見通しをもつとともに、生徒も見通しをもつことができた。

②については、生徒の変容を「社会科学びの地図」というポートフォリオ形式のワークシートを活用することとした。小単元ごとに、生徒が一枚作成したワークシートを評価し、ファイルにとじこんで蓄積させた。「社会科学びの地図」には、学習の内容、学習後の振り返り等を記述させた。小単元が終わるごとに評価を行い、生徒の記述に教師が学習を支援する記述等を書き込み返却し変容を見取った。生徒の変容を教師が把握し、学習の支援を適切に行う形成的評価の役割をもたせるよう、工夫・改善を行ってきた。

これらを研究の柱として、第1学年 歴史的分野「古代までの日本」、第2学年 地理的分野「日本の地域的特色と地域区分」、第3学年 公民的分野「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」を題材に研究授業に取り組んだ。

**【数学科】**

研究主題「論理的、統合的・発展的に考察する力を育成する数学学習指導 ～指導と評価の一体化に焦点を当てて～」

指導者 埼玉県教育局 松本 信寿 先生  
 埼玉大学 二宮 裕之 先生

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、研究主題及び副題を設定した。

研究を進めていく上での手立てとして、次の二つを柱とした。一つ目は、思考力、判断力、表現力等を中心とした資質・能力の育成のための単元・題材計画の作成をした。具体的には、①単元における重視したい学習過程を明確にする単元計画の作成、②「学びの足跡シート」の活用、③パフォーマンス課題の実施を行った。

二つ目は、生徒が自らの学習の評価を基に、学習を改善していくことができる形成的評価の実践を行った。具体的には、①「学びの足跡シート」の活用による「主体的に学習に取り組む態度」の評価、②パフォーマンス課題の実施による「思考・判断・表現」の評価を行った。

本研究を通し、資質・能力の育成につながる指導と評価の一体化につながる成果と課題が得られた。

**【理科】**

研究主題「評価を活用した理科の学習と授業の改善～評価の機能と資質・能力の育成との関係に焦点を当てて～」

指導者 埼玉県教育局 大澤 正樹 先生  
 埼玉大学 中島 雅子 先生

本年度の研究は、OPPA論の「学習と指導の機能を持つ評価」に注目して、学習者の生徒の資質・能力を育成する評価を活用した授業の在り方を明らかにすることを目的とし、以下の方法を用いて行った。

順	方法の概要
1	対象単元におけるOPPシートを作成
2	1で作成した「本質的な問い」を踏まえた単元指導計画を作成
3	2で作成した計画に基づき、授業を実施 その際、OPPA論に基づき、学習者自身による学習の「自己評価」を促す手立てとして以下の点を重視 ①単元や授業の前後で、単元や授業の本質に迫る「問い」について考える機会を設ける。 ②グループでの話し合いでは、考えや価値観が対立するもの同士を組み合わせ、対話を促す。 ③授業で扱う教材や実験の意味を、学習者に考えさせる機会を設ける。 OPPシートの学習者の記述に対してコメントを付して返却するとともに、その内容に基づき、適宜、授業改善を行う
4	学習者のOPPシートの記述内容を分析し、OPPシートを活用した授業が学習者の資質・能力の育成にもたらす効果を考察

これらから、①「一番大切だと思うこと」の問いにより、学習者と教師の思考や認知過程の内化・内省・外化が双方向性をもって促される。

②「学習履歴」の記述を基にした個別のかつ具体的な働きかけが、学習者の「学習目標」の形成を効果的に促すと考えられた。

**【音楽科】**

研究主題「表現と鑑賞の相互関連を図り、思考力、判断力、表現力等を効果的に育成する学習指導と評価の工夫」

指導者 埼玉県教育局 大木まみこ 先生  
 埼玉大学 森 薫 先生

本年度は、以下の二つについて研究・実践を行った。

- ①本校の音楽科における生徒に身に付けさせたい資質・能力について、思考力・判断力・表現力等を重点として、それらを効果的に育成するための指導と評価の工夫について研究すること。
- ②「A表現」と「B鑑賞」の相互関連を図った題材や、「我が国の伝統音楽」を教材とした「A表現」と「B鑑賞」の相互関連を図った題材を設定し、生徒の学習意欲を高め自ら課題に取り組みたくなるような効果的な導入や指導法、生徒の思考の変容を見取ることのできるワークシートの工夫やその評価方法について研究すること。

成果として、〔共通事項〕を要として「A表現」領域と「B鑑賞」領域を組み合わせた題材を設定することにより、音楽表現と鑑賞の両者が相乗的に深まっていき、生徒の思考力・判断力・表現力等を効果的に育成できたことや、生徒が思考・判断の変容についてワークシートを視覚的に工夫することによって生徒の思考の場面がわかりやすくなり、生徒の思考・判断の過程や変容をより具体的に見取ることができるようになったことが挙げられる。

課題として、指導と評価について、ワークシートの記述だけで留まるのではなく、協働的な学びにおける言葉、音、音楽など、記述以外の要素も含めたより客観的で信頼のおけるものにしていく必要があることや、音楽文化と豊かに関わっていく資質・能力を育むために、三年間に渡って計画的な題材構成を工夫していく必要があることが今後の課題として挙げられた。

今後は、身に付けさせたい思考力、判断力、表現力等が、生徒の思考・判断にどのように関連し合い、題材におけるどの活動によって育成されたのか、また、それらが関連することで、どのような相乗効果があるのかについても研究していきたい。

#### 【美術科】

研究主題「表現と鑑賞を一体化させながら資質・能力を育成する学習指導の工夫」

指導者 埼玉県教育局南部教育事務所

興野 邦孝 先生

埼玉大学

石上 城行 先生

研究に当たっては、造形的な見方・考え方を働かせている場面を一連の流れと考え、活動内容ごとに分け、ワークシートの工夫などで生徒の活動を見取ることができるようにし、造形的な見方・考え方が明確になるように研究を進めた。

また、「思考力、判断力、表現力等」は「発想や構想に関する資質・能力」と「鑑賞に関する資質・能力」双方で育成される資質・能力であるため、授業改善の工夫として、表現による発想や構想の場面と鑑賞の場面を相互に関連させ、活動の中で一体化を目指し

て研究を行った。

成果として、「造形的な見方・考え方」の基本となる造形的な視点を明確にすることができ、他教科や学校行事、日常生活の中で、様々な視点から自分の中に新しい価値をつくり出すことができる生徒を育成することができた。

#### 【保健体育科】

研究主題「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

指導者 埼玉県教育局

内藤 将智 先生

埼玉大学

有川 秀之 先生

細川江利子 先生

石川 泰成 先生

本校保健体育科では、研究主題を「『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善』～資質・能力の育成に資する指導と評価に着目して～」とし、資質・能力の三つの柱の育成を助ける評価を実現することで生徒の力は伸びると考え、次の3点について研究した。

1点目は、知識に関する詳細な評価規準表を作成し、他の二つの資質・能力に汎用できる知識を整理して授業を行った。

2点目は、課題解決学習における思考力、判断力、表現力等の評価規準を作成し、課題解決に重要な働きをする知識や話し合いの仕方に関する知識等と課題解決のつながりを整理して授業を行った。

3点目は、主体的に学習に向かう態度について単元を通して教える内容を具体的に整理して授業を行った。

成果として、知識及び技能の評価に関する実践例を示すことができた。また、授業の中で意図的・計画的に身に付けた知識を生かして、対話をしていくことで思考力・判断力・表現力等の育成につなげることができた可能性を示すことができた。さらに、形成的評価を的確に用いていくことで、生徒の自己肯定感を向上することができた。今後は実践を重ね、さらに研究の成果の検証を行っていく。

#### 【技術・家庭科】

研究主題「社会で生きる資質・能力を育成する学習指導～思考力、判断力、表現力等を育む学習指導と評価の工夫～」

指導者 埼玉県教育局

原田 千恵 先生

埼玉大学

吉川はる奈 先生

技術・家庭科では、育成すべき資質・能力が、最終的に生活や社会の中で生きるものであることに着目し、「社会で生きる資質・能力を育成する学習指導」という研究主題で研究を続けてきた。本年度は「思考力、判断力、表現力等」を中心とした資質・能力をより効果的に育成することを目指し、「指導と評価の一体化」に焦点を当て研究を進めることにした。そこ

で、題材計画の中に観点別学習状況の評価の記録場面を精選して示す工夫や、振り返りシートを用いて形成的評価の工夫を行うことで検証した。生徒は自らの学習状況を把握し、教師は指導の改善に生かしたり、生徒自身が学習したことの意義や価値を実感できるよう教師がフィードバックを行ったりした。

次年度以降の研究では、振り返りシートの形式や扱い方等をさらに検討するなどし、生徒一人一人が自らの学びの成長を実感できるよう指導と評価の一体化をより一層意識して実践を行っていききたい。

### 【英語科】

研究主題「コミュニケーションの質の向上を図る学習指導の工夫 ～対話的な学びを通して思考力、判断力、表現力等をのばす～」

指導者 埼玉県教育局 二口 法子 先生  
埼玉大学 及川 賢 先生

英語科では、前年度に引き続き学校研究主題から、「コミュニケーションの質の向上」に関する研究を基盤として、学習指導をより効果的にするための指導法の工夫・改善について、実践研究を進めた。

具体的には、生徒のコミュニケーションの質の向上を図る指導の手立てとして、「対話が必要となる状況を作り出す「問い」の工夫」と「授業を通して生徒の思考力、判断力、表現力等が育成できたことが分かる工夫」という二つの視点から研究主題に迫った。前者は、「タスクにおいて、意図する事柄を伝えることに焦点が置かれている、何らかのギャップが存在する、言語手段を学習者が選択する、成果が明確に設定されていること」を柱とした。後者は、「対話的な学びにおいて、ペアやグループでの活動の際に、個人で達成できたものと他者との協働によってできたものとを、生徒自身も授業者も確認できるようにすること」を柱とした。

研究の成果として、伝えたい内容について生徒が適切な言語手段を選択したり、相手がより理解しやすいように言い換えたりする場面が多く見られるようになってきた。今後の課題として、コミュニケーションの中で自身の意見や考えがどのように変容していったのか、振り返りを行うことができる段階的な展開の設定や、ワークシートの工夫をする必要がある。

### 【学校保健】

研究主題「生きる力を育むための指導の工夫」

指導者 埼玉県教育局 澤村 文香 先生  
埼玉大学 七木田 文彦 先生

本校の研究主題を受け、学校保健では、上記の研究主題を設定した。目まぐるしく変化する現代社会において子供たちに必要な力は、こうした社会を生き抜く力（生きる力）である。

本年度は、保健の「学び」を生み出すため、生徒が課題の解決に取り組む中で、科学的な根拠に基づいて

知識を深めていけるような単元計画を立てた。また、教師による適切な機会や場面における支援のため、授業内での観察の視点やワークシートの評価を明らかにし、生徒の学習状況を適宜確認して効果的なフィードバックを行うなど指導の工夫をしてきた。

成果として、生徒が、課題を追究していく過程で知識を繋ぎ、理解を深めていることが発言やワークシート等から確認できた。また、具体的な評価の機会や方法を明確にすることにより、教師の指導に生かすことができた。

課題として、観点別の学習状況の記録の場面を精選していけるよう、ワークシート等の工夫が必要であることが挙げられた。

今後とも、生涯にわたって、心身の健康を保持増進していくことのできる生徒を育成することを目指し、授業改善や指導の工夫を行っていく。

## 2 令和4年度の研究概要

### (1) 研究主題

「挑戦心を育む『令和の日本型学校教育』の実現」  
～挑戦心を引き出す学習指導と生徒の個別最適な学びの在り方～

### (2) 研究内容

各教科等の中学校学習指導要領（平成29年告示）解説を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を進める中で、以下の手立てを基に全教科等共通事項として研究を推進している。

手立て1：挑戦心を引き出す学習指導の工夫 手立て2：個別最適な学びの工夫
---

### (3) 研究経過

#### ①研究全体会

全教員で研究内容について議論を重ね、共通理解を図った。年間で5回実施し、研究の基礎理論、研究主題の設定、研究推進の実務について検討した。

#### ②研究情報の収集

国立大学附属学校等の研究発表や「教育展望セミナー」などへの参加を通して、研究情報を集めた。

#### ③夏季教員研修会（オンライン講演会）

期日 令和3年8月20日(木)

講師 横浜国立大学名誉教授 高木 展郎 先生  
演題 「資質・能力を育成する学習評価」

#### ④校内授業研究会

第1回 音楽 荒井 瞬 令和3年7月1日(木)

第2回 数学 師岡 洋輔 令和3年12月2日(木)

第3回 家庭 大関さわ子 令和4年1月27日(木)





令和3年度

# 研究集録

## Ⅱ 全国教育研究発表大会 関東地区教育研究発表大会 埼玉大会の報告

- 1 第103回全国算数・数学教育研究（埼玉）大会  
第76回関東甲信静数学教育研究埼玉大会 ……………90
- 2 第65回全国特別活動研究協議大会埼玉大会  
第13回関東地区特別活動研究協議大会埼玉大会 ……………91
- 3 第50回関東甲信越中学校道德教育研究大会埼玉大会  
第60回埼玉県道德教育研究大会幸手大会 ……………92
- 4 令和3年度関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会  
埼玉大会 ……………93
- 5 第37回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会  
埼玉大会  
第57回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会 ……………94



103 回全国算数・数学教育研究  
(埼玉) 大会  
第 76 回関東甲信静数学教育研究  
埼玉大会

## 1 研究主題

「主体的に学ぶ力を育む算数・数学の授業の実現  
－これからの時代に求められる資質・能力の育成を  
目指して－」

2 期日 令和3年8月19日(木)・20日(金)・21日(土)・  
22日(日)

3 形式 オンライン  
(ビデオ通話アプリ「Zoom」を使用)

## 4 大会の概要

新しい学習指導要領で掲げられた「主体的・対話的で深い学び」の中でも、特に「主体的な学び」に焦点を当て、子供たちが意欲をもって学習に取り組むこと、子供たちがめあてを意識して学習に取り組むことなど学習者の『主体性』をキーワードとした。

【講習会】(8月19日(木)・20日(金) 9:30~16:30)

講習会では、小・中・高合わせて18名の講師の先生方に、大変充実した内容の御講義をいただいた。

【全体講演】(8月21日(土) 10:10~11:30)

講師 高濱 正伸(花まる学習会代表、NPO法人子育て応援隊むぎぐみ理事長)

演題 「メシが食える大人に育てるための算数・数学教育」

【部会シンポジウム】(8月21日(土) 12:40~14:30)

(1) 幼稚園・小学校部会

テーマ 「主体的に学ぶ力を育む算数授業の実現」

コーディネイター

山本 良和(昭和学院小学校)

シンポジスト

岡田 紘子(お茶の水女子大学附属小学校)

鈴木 純(学習院初等科)

高井 淳史(東京都小平市立小平第七小学校)

樋口万太郎(京都教育大学附属桃山小学校)

森本 隆史(筑波大学附属小学校)

(2) 中学校部会

テーマ 「学びに向かう力・人間性等を育む授業の実現に向けて」

コーディネイター

加々美勝久(元お茶の水女子大学)

シンポジスト

天野 秀樹(広島大学附属東雲中学校)

小岩 大(東京学芸大学附属竹早中学校)

野口千津子(埼玉県ときがわ町立都幾川中学校)

水谷 尚人(国立教育政策研究所)

山崎 浩二(日本大学)

(3) 高等学校部会

テーマ 「主体的に学ぶ力を育む算数・数学の授業の実現」

コーディネイター

高城 彰吾(学習院高等科)

シンポジスト

阿原 一志(明治大学)

田中 紀子(愛知県立旭丘高等学校)

須田 学(筑波大学附属駒場中高等学校)

齋藤 教雄(埼玉県立浦和高等学校)

荻野 大吾(東京都立日比谷高等学校)

各シンポジストから主体的に学ぶ力の育成やその授業づくりについて、具体的な子供の姿を取り上げながら、授業実践や教材、子供の活動等の事例を発表された。

【部会講演】(8月21日(土) 14:50~16:40)

(1) 幼稚園・小学校部会

講師 清水 美憲(筑波大学 教授)

演題 「「数学を創る」という視点からの算数科の授業改善-答えが出てから算数は始まるか-」

(2) 中学校部会

講師 相馬 一彦(北海道教育大学名誉教授)

演題 「「考えることが楽しい」授業の実現と授業改善」

(3) 高等学校部会

講師 長尾 篤志

(文部科学省初等中等教育局主任視学官)

演題 「高等学校数学科における課題」

【分科会】(8月22日(日) 9:00~16:10)

小・中・高合わせて47の分科会が行われ、今までの会場で行う分科会と変わらない熱心な議論が交わされた。

## 5 成果と課題

本大会は、東京オリンピック・パラリンピックの日程が1年間延期になった影響で、当初の予定より3週間繰り下げでの開催となった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、日本数学教育学会100余年の歴史の中で初めてとなるオンライン開催により実施した。前例の無い多くの準備を進めざるを得ない状況の中で、何とか無事大会を終えることができた。さらに、オンライン開催のメリットを生かし、海外からもご参加いただくなど、これまでに無かった形での全国大会になった。

## 第 65 回全国特別活動研究協議大会埼玉大会 第 13 回関東地区特別活動研究協議大会埼玉大会

### 1 研究主題

「よさや可能性を発揮し合い、確かな資質・能力を育む特別活動」

### 2 期 日

令和 3 年 8 月 19 日(木)・20 日(金)

### 3 会 場

1 日目 埼玉会館 大ホール・オンライン

2 日目 埼玉会館 各会議室・オンライン



【写真① 1 日目 全体会】

### 4 大会の概要

#### (1) 主題設定の背景

「みんながって、みんないい」この言葉でも形容されるように、人は誰もが、一人一人価値のある存在である。それぞれに、元々もっているよさがあり、大きな可能性を秘めている。そのよさや可能性を認識し、発揮することで、私たちは様々なことに挑戦することができるようになるのである。そして、それは多様な他者との出会いや関わりの中でこそ生み出されるものと言える。幼児が無邪気に笑うその先に家族がいるように、落ち込んだときに励ましてくれる仲間がいるように、子供であっても大人であっても、様々なつながりの中でこそ人は生かされるものである。

そのような中であって、今、学校教育が大切にしていけるべきこと、私たち教師に求められていることは、変化する社会に応じて、個性を発揮する力、新たな価値を創造する力、チームで働く力、思いやりや優しさなどを、子供たちに育んでいくことである。いかに便利で、いかに発展した世の中になっていったとしても、社会を形成し、生きていくのは人であり、ツールを使うのは人なのである。改めてこの視点に立ち、子供たちにとっての社会である学級・学校において、一人一人が自他のよさや可能性に気づき、発揮し合える活動を通して、確かな資

質・能力を育むことが重要である。

これらを踏まえ、子供たちに確かな資質・能力を育むためには、一人一人のよさや可能性を、様々な集団活動の中で発揮し合えるようにしていくことが重要であると考えた。そこで、大会主題を「よさや可能性を発揮し合い、確かな資質・能力を育む特別活動」と設定した。なお、「確かな資質・能力」については「生活や社会における諸問題を見いだし、多様な他者と協働しながら解決し、自分の人生や社会を拓いていくことのできる力」として捉えていく。この確かな資質・能力は、子供たちが将来歩んでいく社会で生きて働く実践力でなければならない。

#### (2) 研究の目標

特別活動において育成を目指す資質・能力を明確にし、その資質・能力の育成を目指し、一人一人のよさや可能性を発揮し合うための特別活動の在り方について研究を深める。

#### (3) 研究の内容

①各校の実態に応じた、特別活動において育成を目指す資質・能力を明確にする。

②よさや可能性を発揮し合い、確かな資質・能力を育むための指導計画や指導と評価の在り方について研究を深める。



【写真② 2 日目 分科会での研究協議】

### 5 成果と課題

本大会における成果としては、子供たち一人一人のよさや可能性を発揮し合う場の設定や、資質・能力を明確にした指導や評価の在り方について、全国の500名を超える参会者の方々とともに協議を深めることができたことである。また、各分科会の指導者による的確な見解をご指導いただき、実りある研究協議大会とすることができた。

課題としては、今回の研究を深めていくとともに、本大会で学んだことを埼玉県内外に広く発信し、さらなる特別活動の充実を進めていくことである。

**第 50 回関東甲信越中学校道德教育研究大会  
埼玉大会**  
**第 60 回埼玉県道德教育研究大会幸手大会**

**1 研究主題**

「人としての生き方についての考えを深め、  
よりよく生きる生徒を育てる道德教育の創造」  
～学習指導要領が求める道德教育の実践を通して～

**2 期 日**

令和3年10月22日(金) オンライン開催

**3 会 場**

幸手市立幸手中学校

**4 大会概要**

人間は本来、人間としてよりよく生きたいという願いをもっている。この願いの実現を目指して生きようとするとともに道德が成り立つ。道德教育は、人間が本来もっているこのような願いや、よりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道德性を養う教育活動であるといえる。

このような道德教育本来の在り方を重視し、内なる自己との対話を通して、他者や人間社会集団、自然、そして、目に見えない崇高なものとの関係性においてよりよい生き方を求め、実践できる子供たちを育む視点を重視し、本大会の研究主題を設定した。

**【開会行事】**

- 関東甲信越中学校道德教育研究会会長あいさつ
- 来賓祝辞

**【公開授業】**

ブレイクアウトルーム（Zoom）による13授業での協議（VTRによる授業公開、授業者による授業解説、協議、指導等）

**幸手中学校研究の重点（要旨）**

- 道德的価値を意識した各教科・各教育活動の研究
- 道德的に学習ができる学校環境の研究
- プランニングシートを活用した効果的な授業
- 1時間毎の効果的な振り返りとカードの活用
- 「意見交換」の活発化、そのためのICTの活用
- 道德教育における学校・家庭・地域連携



＜公開授業：ブレイクアウトルームによる協議会＞

**【分科会】**

**第1・2分科会** 道德科における多様な指導方法

- 提案：東京都府中市立府中第四中学校
- 埼玉県吉見町立吉見中学校
- 神奈川県綾瀬市立綾瀬中学校
- 埼玉県加須市立加須西中学校

**第3・4分科会** 道德科におけるの評価の工夫

- 提案：群馬県邑楽町立長柄小学校
- 茨城県桜川市立桃山学園
- 栃木県那珂川町立馬頭中学校
- 埼玉県さいたま市立木崎中学校

**第5分科会** 学校の教育活動全体を通して行う道德教育

- 提案：山梨県上野原市立上野原西中学校
- 埼玉県春日部市立豊春中学校

**【記念講演】**

演題 『いま求められる道德教育の推進』

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課  
教科調査官 国立教育政策研究所  
教育課程研究センター研究開発部  
教育課程調査官 飯塚 秀彦 様

**【閉会行事】**

- 大会実行委員長、会場校校長あいさつ
- 次期開催県紹介・あいさつ（群馬県）

**5 成果と課題**

本大会は、オンライン参加と会場参加という新たな形での開催となった。関東各地から多数の参加をいただき、本研究大会で求めていきたい道德教育の充実のための視点に沿って、各分科会で熱心に協議を深めることができた。各地の道德教育の状況や様々な実践について情報を共有できたことは大きな成果である。

GIGAスクール構想に基づき道德科としてのICTの効果的な活用方法や道德科での学びをいかに展開していくかなど、これからの取り組むべき課題は多々ある。今後も、改訂された学習指導要領の更なる具現化を目指し研究を深めていく。



＜オンラインを視聴する来校された参観者＞

令和3年度 関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会  
埼玉大会

第71回関東甲信越地区放送教育研究大会  
第68回関東甲信越学校視聴覚教育研究大会  
第25回埼玉県メディア活用研究大会  
(第50回埼玉県視聴覚・放送教育合同大会)

### 1 研究会主題

「心豊かに、自ら学び、主体的に活動する力を育む教育メディアの活用を目指して」

～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～

### 2 期 日

令和3年11月12日(金) ※ オンライン開催

### 3 会 場

#### 【全体会場】

蓮田市総合文化会館

#### 【分科会会場】

〈幼稚園・保育園・保育所部会〉

とねの会はすだ保育園

〈小学校部会〉

蓮田市立黒浜西小学校

〈中学校部会〉

蓮田市立黒浜中学校

〈高等学校部会〉

埼玉県立蓮田松韻高等学校

〈特別支援学校部会〉

埼玉県立蓮田特別支援学校



【写真① 分科会 小学校部会】

### 4 大会の概要

現在、国際化、情報化、グローバル化がこれまで以上に加速度的に進展し、高度情報通信社会からSociety5.0に示される経済社会の実現が具体的に見えてきた状況になっている。将来、「仮想空間と現実世界を高度に融合させ、地域・年齢・性別・言語等に

よる格差なく、多様なニーズや潜在的なニーズへきめ細かく対応したモノやサービスの提供によって経済的な発展と社会的課題の解決を両立し、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる人間中心の社会」を生きることとなる子供たちには、情報を適切に収集・選択して、自らの目的達成に活用したり、新たな情報を生み出して発信したりする情報リテラシーが求められている。同時に情報の役割や影響を正しく理解し、適切に活用できる能力や態度の育成も重要な課題となっている。

そこで、本大会では、教育メディアを積極的に活用した学習を研究・展開することで、子供たちに『自ら学ぶ力』と『主体的に問題を解決する力』を身に付けさせ、生きる力を育成することを方針とし、これまで継続してきた研究の成果を基に「心豊かに、自ら学び、主体的に活動する力を育む教育メディアの活用を目指して ～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～」を研究主題とし、他の研究団体とも連携して県内全域で研究・検証の実践にあたった。

なお、記念講演では、元NHKエグゼクティブアナウンサーの宮田 修 氏より、「“伝える”を考える」をテーマに講演をいただいた。

### 5 成果と課題

現在の社会では、多くの情報が飛び交い流れ去る中から、自分の必要なものをつかみ取り精査して活用する能力が求められている。また、遠隔地で情報をやり取りするためにGIGAスクール構想によって整備された環境が大変有用であるということから、個別最適化された多様な学びへ効果的に対応するためのツールとしてその活用について研究を深める必要がある。

今後も、オンラインによる会議や録画資料を用いた授業研究会の増加が予想されるが、著作権・肖像権等に関わる配慮事項を含め、オンラインにおけるメリットをより広く共有し、デメリットやリスク等を事前に回避する策を講じる等、効果的な利用について研究を推進することで、子供たちの学力向上を目指すとともに、安心安全に学べる環境の構築を進める必要がある。



【写真② 記念講演】

第37回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会  
埼玉大会  
第57回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会

## 1 研究主題

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育  
～学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと  
工夫し実践する児童の育成～」

## 2 期 日

令和3年11月30日(火)

## 3 会 場

新座市民会館 大ホール  
(会場よりオンライン配信)

## 4 大会の概要

今回の学習指導要領の改訂では、今後の社会の急激な変化に対応することができる資質・能力を、教育課程全体を通して育成することとなった。

家庭科においては、今後の社会の急激な変化に主体的に対応できる資質・能力の育成を目指し、育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱とし、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指した。

令和2年11月に児童・保護者・教員に向けて実態調査を行った。その結果、学習意欲は高いが技能等に関する自己評価が低い傾向にあり、教員の不安や苦手な項目としても布を用いた製作が挙げられた。また、学習を生かして家庭で取り組んでいる内容については、地域の人々との関わりや製作、洗濯の項目が低い割合となった。「地域の人々との関わり」については、第5学年までに家庭で経験している割合も低く、学んだことを生かしていると感じている割合も低かった。

そこで、本大会では、これらの実態を踏まえ、学習指導要領の中で新設された内容「地域の人々との関わり」「家族・家庭生活についての課題と実践」「生活を豊かにするための布を用いた製作」に課題があると考え、授業改善への研究を行い、学習指導要領の趣旨と児童・保護者・教員の実態から、四つの視点から学びをつなぐことで家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成にせまることとし、主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育～学びをつなぎ、家庭生活をよりよくしようと工夫し実践する児童の育成～」とした。

この主題の基、埼玉県では、実態から明らかとなった学びをつなぐ四つの視点

- ①「系統的・横断的な学びをつなぐ指導計画の工夫」
- ②「個と全体の学習をつなぎ、主体的・対話的で深い学びを実現する学習過程の工夫」
- ③「評価と指導をつなぎ、児童の実践力を高める評価の工夫」
- ④「家庭・地域の生活と学びをつなぐ連携の工夫」から授業研究を進めた。

本大会は、感染症拡大予防の観点から事前に授業の様子をオンラインでの公開とし、研究発表や記念講演を会場からオンラインで配信した。

## 5 研究の成果と課題

### <成果>

- 他教科等との関連を年間指導計画に位置付けたことで、「学びをつなぐ」という視点が明確になり、他教科等とのねらいの違いも踏まえた上で、横断的な学習を進める意識付けができた。
- 地域との関わりについて、2年間で取り組む指導計画を作成し研究を進めたことで、家庭や地域の方から賞賛され認められる経験を積み重ね、実践する喜びを味わい自信をもって取り組むことにつながった。
- 題材を貫く課題を設定したことで、生活に関わる見方・考え方の視点も加わり、新たな課題を考えることに効果的であった。
- 全体・個・グループの課題を明確にし、常に解決すべき項目を意識できるよう課題シートを作成し、自分の学習や課題解決の状況を把握しながら学習が進められるよう教師が意識して声掛けを行ったことで、児童も課題解決に向けて粘り強く取り組む姿が見られ、学習カードやポートフォリオの記述からも見取ることができた。
- 主体的に取り組む態度の評価においては、適切な評価場面を設定し、ポートフォリオに具体的に記入することを説明したことで、達成状況を踏まえて自分の学習を把握でき、自分の学習を様々な支援ツールを活用し調整しようとする姿が見られた。

### <課題>

- 家庭科の特徴でもある「生活を工夫し実践していく」ことを目指し、さらに実生活で生かせる家庭科の授業改善に取り組む必要があること、題材の指導計画、授業の指導過程と評価を合わせてPDCAサイクルで見直すことが挙げられる。

また、主体的に学習に取り組む態度の評価場面の選定や学習カード・ポートフォリオの工夫、長期的な時間軸での見取り方、ICTの活用と学び合いや個別最適な学習への効果的な活用方法を研究し、広めていくことも課題である。

令和3年度

# 研究集録

## Ⅲ 地域教育研究団体の研究

1	戸田市教育研究会	96
2	和光市教育研究会	98
3	上尾市教育研究会	100
4	川越市教育研究会	102
5	富士見市教育研究会	104
6	坂戸市教育研究会	106
7	三芳町教育研究会	108
8	小川班教育研究会	110
9	菅谷班教育研究会	112
10	秩父教育研究会	114
11	児玉郡本庄市教育研究会	116
12	深谷市教育研究会	118
13	行田市教育研究会	120
14	久喜市教育研究会	122
15	幸手市教育研究会	124
16	杉戸町教育研究会	126



# 1 戸田市教育研究会

## I はじめに

本会は、戸田市立小学校12校、中学校6校に在籍する教職員を会員として組織されている教育研究会である。本会では、日頃の教育活動の充実を図るとともに、教職員の資質・指導力の向上、教育課題を解決することを目的としている。

上記の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- ・小・中学校授業研究会
- ・資質向上研修会
- ・実技研修会
- ・戸田市児童生徒作品展覧会
- ・講演会
- ・その他本会目的達成に必要な行事

## II 本会の組織

### 1 本会の構成会員と事業内容

- ・会員の所属する研究部は、会員の希望を原則とする。
- ・研究部は、専門領域の研究、部会事業の計画的実施、記録、研究物の保管、その他必要な事業を行う。

### 2 役員

代表（会長）1名 研究部長1名、副部長1名

### 3 本会の会計（令和3年度）

研究部補助金 250,000円

## III 本年の重点施策と主な事業

### 1 重点施策

- (1) アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックを使った授業改善
- (2) 教職員の資質向上

### 2 主な事業

- (1) 事業内容  
5月にオンラインによる全体会を行った上、各教科部会を開催した。それ以降は、主にはオンライン開催であったが、会議や授業公開、英語弁論大会等教科等による行事を開催した。
- (2) 教科等研究部会
  - ①国語教育研究部会
  - ②書写教育研究部会

③社会教育研究部会

④算数・数学教育研究部会

⑤理科教育研究部会

⑥生活・総合的な学習教育研究部会

⑦音楽教育研究部会

⑧図工・美術教育研究部会

⑨小学校家庭科教育研究部会

⑩技術・家庭科教育研究部会

⑪小学校保健体育教育研究部会

⑫中学校保健体育教育研究部会

⑬外国語活動・外国語教育研究部会

⑭道徳教育研究部会

⑮特別活動教育研究部会

⑯人権教育研究部会

⑰特別支援教育研究部会

⑱学校図書館教育研究部会

⑲国際理解教育研究部会

⑳情報教育研究部会

㉑環境教育研究部会

㉒ボランティア・福祉教育研究部会

㉓進路指導・キャリア教育研究部会

㉔養護部会・学校保健部会

㉕学校教育相談部会

㉖安全教育部会

㉗学校食育部会

㉘特別支援教育担当者連絡会

㉙学校事務部会

## IV 戸田市指導の重点・主な施策

### 1 市の指導の重点・主な施策にのっとった各教科等部会の計画、運営実施、評価

- (1) アクティブ・ラーニング指導用ルーブリックの活用
- (2) 指導用ルーブリックに基づく授業づくりのポイント～エビデンスに基づくグッドプラクティスの活用～
- (3) 戸田型PBL（Project Based Learning）
- (4) リーディングスキルテストの視点に基づく授業改善
- (5) 一人一台PC端末の普段使い～ハイブリッド学習の推進～
- (6) 新しい生活様式における考え、議論する道徳
- (7) 国際的な調査からみるエビデンスに基づいた授業改善の視点
- (8) ポジティブな行動支援（PBS）

## 2 「特色ある学校づくり」

戸田市教育委員会委嘱事業 令和3年度本発表

- (1) 笹目小学校：全教科等  
「自ら学びに向かう児童の育成～リーディングスキル向上を目指した指導法の工夫・改善～」
- (2) 戸田東小学校：生活・総合的な学習の時間  
「グローバル社会でたくましく生き抜き、活躍できる児童生徒の育成～課題発見・解決能力と論理的思考を育成するPBLの推進～」
- (3) 喜沢小学校：全教科  
「児童と共に創る未来の学校～PBL×PBS～」
- (4) 笹目東小学校：国語・生活科・総合的な学習の時間  
「実社会で生きて働く力（コンピテンシー）の育成～インプットからアウトプットへ～」
- (5) 戸田中学校：全教科等  
「気づき・考え・深める 特別支援教育～特別支援教育を科学する～」
- (6) 戸田東中学校：全教科等  
「グローバル社会でたくましく生き抜き、活躍できる児童生徒の育成～課題発見・解決能力と論理的思考を育成するPBLの推進～」
- (7) 新曽中学校：総合的な学習の時間  
「自ら課題を見つけ、考察する生徒の育成～PBLを取り入れた実践を通して～」
- (8) 笹目中学校：全教科等  
「主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～学習過程の質的改善～」

## V コロナ禍における活動

新型コロナウイルス感染症予防のため、本部事業及び各研究部事業は、オンラインで開催することになったり、中止になったりしたものが多い。

環境は変われども、研究部長を中心にできることを模索し、研究を進めてきた。

また、授業公開が減る中、学校課題研究本発表のオンライン授業公開を通して、各校の取組を知り、自校や担当教科等に生かした。

コロナ禍の取組の抜粋は、以下のとおりである。

### 1 教育活動や行事

- (1) 密にならぬよう、始業式、終業式、集会等をGoogle MeetやZoomを使い、各学級に配信。
- (2) 人数制限をして教室が密にならないように、予約制の授業参観やオンライン授業参観の実施。
- (3) 入学式、卒業式の人数制限と時間制限を行い、内容の精選。
- (4) 対策をとっても実施が厳しいものについては、市内統一で議論し実施の有無を決定。
- (5) オンライン学習に向けた議論と実施。
- (6) 全校運動会・体育祭を学年ごとに行う等工夫。

## 2 新型コロナウイルス感染症予防

- (1) グループ活動、対話活動の制限とそれに代わる一人一台PC端末の活用。
- (2) 毎日の健康観察、健康観察カードへの記入、提出、手洗い等の励行。
- (3) サーモカメラの活用。
- (4) 第二保健室の整備と活用。
- (5) 消毒、清掃セットの常備と活用。
- (6) シールドの設置。

## VI 今後の課題

### 1 指導方法の工夫・改善

学習指導要領に対応した年間指導計画の作成と指導方法の工夫・改善を教職員が共有し、主体的・対話的で深い学びにつながる優れた指導方法を市全体に広めていく。

### 2 授業研究会、学力向上推進担当訪問時の授業公開への積極的な参加

教員の指導力向上が、児童生徒の学力向上につながることを確認し、ハイブリッド型授業研究会やオンライン授業研究会へ積極的に参加する。研究協議会では、充実した研究会、活発な意見交換の場となるよう努める。

### 3 研修会の充実

コロナ禍であっても、会員相互の意識、意欲を高め教育実践を深め、教職員の資質向上を図るため、各事業、研修会等の実施方法と時期を再検討し、教育課題解決に即した内容となるよう努める。

### 4 想像力と創造性

予期せぬことが起こるかもしれない未来に向け、不安になるのではなく、会員全員で協力し、創造力をもって、児童生徒のためにできることを増やしていく。

## 2 和光市教育研究会

### I 和光市教育研究会の概要

#### 1 はじめに

本会は、和光市小・中学校12校（小学校9校、中学校3校）会員数299人の研究会である。任意団体ではあるが、長い歴史を有し、昭和42年発足で、永年にわたり和光市の教育の発展に大きく貢献してきた。授業研究会や教育講演会等、具体的な事業は和光市教育委員会とも連携しながら進めている。

#### 2 基本理念

和光市教育研究会の基本理念

- (1) 「子どもから出発して、子どもに還る教育研究」を進める。
- (2) 会員の総意に基づいて、会の運営にあたる。
- (3) 事業の内容について検討しつつ、一つ一つの事業を充実させる。

この理念に基づいて、「授業研究会、講演会、実技講習会の開催」「教育に関する視察、調査、研究」「その他必要と認めた事項」の三つの活動を実施。

#### 3 専門部

本年度は、下記の16の研究部が研究テーマを設定し、計画に沿った活動を展開。各研究部が理念を基に研究主題を設定し、研修会・授業研究会・実技研修会を実施している。

国語部	社会科部	算数・数学部	理科部
音楽部	図工・美術部	保健体育部	外国語部
道徳部	特別活動部	特別支援教育部	情報教育部
学校図書館部	学校保健部	学校事務部	食育部

#### 4 主な活動

##### 【全体研修会】

- ・総会及び一斉研究部会（5月）
- ・教育講演会（8月）※今年度は中止
- ・一斉授業研究会（11月）
- ・実践報告会及び一斉研究部会（2月）

##### 【諸会議】

- ・評議員会（年2回） ・運営委員会（年3回）
- ・研究部長会議（年2回） ・事務局会議（年4回）
- ・研究紀要作成委員会（年3回）
- ・会計監査（年1回） ・役員選考委員会（年2回）

### II コロナ禍での活動

#### 1 活動方針

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、これまでに経験したことのない臨時休業措置がとられ、本研究会も1年間休会となった。

休会後の再スタートのため、実施できないものもあるが、令和3年度は、下記の七つの活動方針の下、活動に取り組んだ。

- (1) より多くの市内教職員の参加を求め、研究活動の充実を図る。特に「一斉授業研究会」を研究部員が一体となって取り組み成功させる。
- (2) 研究の足跡を記した「研究紀要」及び、「市教研会則・内規」に目を通し、市教研会員としての自覚を高め、研究活動各事業に積極的に参加するよう呼びかける。
- (3) 運営委員会を会員の意思が反映する場として充実させる。必要に応じて評議員会を開催する。
- (4) 研究部は実践交流、講座など魅力ある内容を工夫する。
- (5) 教育講演会、教育実践報告会を会員の要望に沿って実施する。
- (6) 「わこうの教育」により、広く情報を提供する。
- (7) 会費が研究活動に効果的に還元され、市教研がより自立した研究団体として活動ができるように執行する。

また、今年度再開するに当たり、さまざまな制限のある中での活動となるため、各部で行ってきた一斉授業研究会については通常どおりの授業研究会をせず、各部で方法等を検討し、できる範囲での取組とした。

#### 2 リモートワーク・コラボレーションツールの活用

今回の新型コロナウイルス感染症拡大は、教育研究会の学び方を加速させた。とりわけテレワーク（リモートワーク）の普及には眼を見張るものがあった。本研究会では、Microsoft社のリモートワーク・コラボレーションツール「Teams」を活用した。

チャット・通話機能の他、ビデオ会議機能、ファイル共有機能、Word、Excel、Powerpointといった指導案作成や教材作成で使い慣れてきたソフトウェアとの連携、ファイルの閲覧だけでなく共同編集も可能となった。

これまで出張をすることで行ってきた研究活動が学校間で、それぞれの会員が意思疎通を図り、スムーズに研修等を遂行、出張で学校を空けることなく、ビデオ会議やチャットなどネットを通じたコミュニケーションをとることで、指導案検討会や各種の研修会を行えるようになった。

#### 3 コロナ禍での研究部の活動

これまでは、現地研修会を行ったり、講演会を行ったりと各部ごとに特色ある活動が行われていた。しか

し、今年度は、集まり合う活動が制限されたり、毎年各部で行ってきた一斉授業研究は通常どおりの授業研究会ができなかったりしたこと、各部でこれまで行ってきた研修方法等を検討し、様々な方法での取組が見られた。その中で五つの部を紹介する。

### (1) 国語部

国語部では、事前に研究授業の指導案や教材をTeams上にアップロード、集合型の授業研究会ではなく、動画を撮影しTeams上で公開する形での配信を行った。また、授業の感想や意見等をoffice365の機能でアンケート、テスト、投票を作成でき、集計結果を簡単に表示することができる「Forms」を活用し収集できるようにした。研究を深めるため、授業は和光市教育研究会の全員が閲覧し、Formsを通して授業者へコメントを書き込めることができるようになっている。



### (2) 算数部

算数部でも、同じように授業の映像と、指導者による指導の様子をTeamsにアップロードし開催した。授業研究協議会は、研究授業者のいる所属校の部員で行い、意見や感想については、指定されたWord形式のテンプレートに入力していくことで、部員が情報を共有できるようにしている。



### (3) 体育部

体育部では、小学1年生の「鬼遊び」の単元の授業研究を実施した。体育の授業は、活動の場が広いので、オンラインによる参観ではわかりにくい部分があるが、全体の様子が見える定点設置のカメラと子供の様子が見える移動式のカメラの2台を用いて、体育館の中で子供たちの動きや様子が、会場に来ることができない参観者にも、画面を通して伝わりやすい工夫を行うことができた。

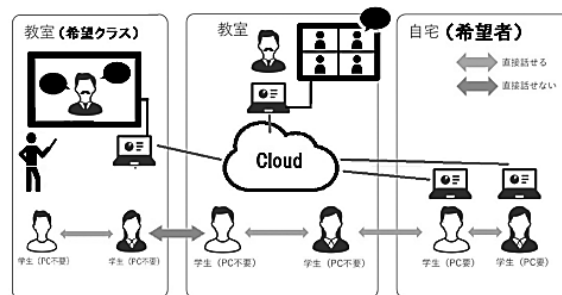
### (4) 理科部



理科部では、オンライン上で理科授業の実践交流会を実施した。普段の授業、分散オンライン授業、全員オンライン授業等で行った実践や、実験の工夫等、情報交換・交流を行った。実践発表では、各校の理科専科が中心になって、日頃の実践内容を発表した。活用した写真資料や教材などの電子データは、共有フォルダ上に保存され教育研究会の誰もがアクセスできるようになっている。

### (5) 情報教育部

情報教育部では、登校ができない児童生徒、出勤ができない担任がいたとしても、学びを止めないオンライン授業を工夫した。休んだ子の机にタブレット置いて、授業を中継、担任が休んだ場合や担任が希望する場合は、隣のクラスの授業を配信（配信授業）、授業のために学年内で教科担任制をとる「教科担任制ハイフレックス型学年一斉授業」を提案、実践した。



## III 今後の活動について

令和3年度の活動については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な制限があった。しかし、そのことで、ICTを活用した研修が一般的なものとなった1年間であった。デジタル上では、距離と時間の概念がほとんどないため、すぐに、いつでも学び合うことができる。この学び方は、これからの子供たちが学ぶ学び方であるため、この経験を一過性のものにせず、今後も、このような形での教育研究を続けていくことで、「子供に還る教育研究」を進めていく。

# 3 上尾市教育研究会

## I はじめに

本研究会は、上尾市教育研究会と称し、小学校22校、中学校11校に在職する教職員928名を会員として組織されている。本会は会員相互の研修により資質の向上を図り、もって市内小・中学校の教育の充実に資することを目的に「教育実践を深める市教研」～生きる力をはぐくむ教育活動をめざして～というテーマの基、以下の事業を行っている。

- ・資質向上のための連絡提携
- ・他教育研究機関との連絡提携
- ・その他本会の目的達成のために必要な事業

## II 本会の組織

### 1 役員

会長1名、副会長2名、幹事4名、監事2名

### 2 研究部

- (1)国語科 (2)書写 (3)社会科 (4)算数・数学科  
(5)理科 (6)音楽科 (7)図画工作科、美術科  
(8)家庭科、技術・家庭科 (9)体育科、保健体育科  
(10)外国語活動・英語科 (11)道徳科  
(12)生活科・総合的な学習の時間 (13)特別活動  
(14)生徒指導 (15)進路指導・キャリア教育  
(16)健康教育 (17)人権教育 (18)特別支援教育  
(19)情報教育 (20)学校図書館教育 (21)教育相談  
(22)食育 (23)学校事務

## III 主な事業

### 1 本部関係

- ・所属研究部の決定 (4月)
- ・会計監査会 (4月)
- ・新旧事務局会議 (4月)
- ・運営委員会 (4月) 書面のみ
- ・研究部会 (4月) オンライン開催
- ・運営委員・研究部長合同会議 (5月、10月、1月、2月)
- ・定期総会 (5月) 書面決議

### 2 各研究部の活動

#### (1) 国語科

「主体的・対話的で深い学びを実現する国語科学習指導の工夫」

- ・研究部会
- ・研修会「令和3年度埼玉県小・中学校国語教育研究発表大会」

- ・授業研究会

#### (2) 書写

「主体的に学び合う書写指導の工夫」

- ・研究部会
- ・授業研究会
- ・書きぞめ実技講習会

#### (3) 社会科

「基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と、それらを活用して考える授業展開の工夫」

- ・夏季実技講習会
- ・授業研究会

#### (4) 算数・数学科

「数学的活動の充実と、算数・数学を学ぶことの楽しさや意義を実感できる学習展開の工夫」

- ・研究部会
- ・夏季実技講習会
- ・授業研究会

#### (5) 理科

「理科の見方・考え方を働かせる学習活動を通じて、資質・能力を育てる指導法の研究」

- ・研究部会
- ・授業研究会
- ・上尾市科学教育振興展覧会

#### (6) 音楽科

「思いや意図をもって表現する活動と観賞との関連を図った学習指導の工夫」

- ・研究部会
- ・授業研究会 (小・中学校)

#### (7) 図画工作科、美術科

「子どもの心を見つめ、確かな力を育てる図工・美術」

- ・授業研究会
- ・研究部会

#### (8) 家庭科、技術・家庭科

「日常の生活から問題を見だし、科学的な理解に基づいて学び合い、工夫し解決を図る態度の育成」

- ・研究部会
- ・夏季実技講習会
- ・技術分野授業研究会
- ・家庭分野授業研究会
- ・埼玉県産業教育振興会北足立支部北部班発明創意くふう展覧会及び児童生徒研究発表会

- (9) 体育科、保健体育科  
「児童生徒が主体的に取り組む授業を目指して」  
・授業研究会（小・中学校）
- (10) 外国語活動・英語科  
「児童生徒が主体的・対話的に取り組む授業の創造～生き生きと伝え合うことを目指して～」  
・研究部会  
・夏季実技講習会  
・上尾市中学生英語弁論大会 大会運営の協力  
・授業研究会（小・中学校）
- (11) 道徳科  
「人間としての生き方を考える道徳の授業～他者と関わりながら、自己を深く見つめるための発達に応じた話合い活動～」  
・授業研究会（小・中学校）
- (12) 生活科・総合的な学習の時間  
「子どもたち一人一人に『生きる力』の育成をめざして」  
生活科 ～気付きの質を高める授業の育成～  
総合 ～探究的な学習を生かした授業の展開～  
・夏季実技講習会  
・研究発表会
- (13) 特別活動  
「互いのよさを認め合い、信じ合い、共に豊かな未来を築くことのできる確かな資質、能力をはぐくむ特別活動」  
・研究部会  
・授業研究会
- (14) 生徒指導  
「いじめの根絶を目指した生徒指導体制の充実」  
・研究部会  
・ネットトラブル防止研修会  
・実践取組発表  
・研究集録作成
- (15) 進路指導・キャリア教育  
「児童生徒理解に基づく進路指導・キャリア教育の推進」  
・講習会  
・授業研究会
- (16) 健康教育  
「元気はつらつ、上尾っ子の育成をめざして」  
・研究部会  
・夏季実技講習会  
・授業研究会
- (17) 人権教育  
「人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を理解しようとする児童生徒の育成」  
・研究部会  
・研修会「人権感覚育成プログラム（学校教育編第2集）」の活用  
・授業研究会
- (18) 特別支援教育  
「発達障害など障害のある児童生徒の教育的ニーズに的確に答える指導の充実を目指して」  
～早期からの一貫した支援と連続性のある「多様な学び場」を通じて～  
・研究部会  
・研修会（2回）  
・上特連「児童生徒合同美術展」協力
- (19) 情報教育  
「GIGAスクール構想下の教育実践に生かせる学校ICTの効果的な活用を目指して」  
・授業研修会
- (20) 学校図書館教育  
「探究的な学習を充実させる学校図書館教育」  
・読書感想文指導研究会  
・夏季実技講習会  
・読書感想文コンクール上尾支部審査会  
・研究集録の原稿作成  
・全国読書感想文コンクール結果発表
- (21) 教育相談  
「小中連携をふまえた教育相談の在り方」  
・不登校対応に関する研修  
・教育相談に係わる研修
- (22) 食育  
「児童生徒の生きる力をはぐくむ食育の実践」  
・夏季実技講習会  
・授業研究会
- (23) 学校事務  
「子ども・教職員・地域とともに創造する学校事務の研究」  
・研究部会（5回）  
・夏季実技講習会

#### IV おわりに

各研究部の部長が中心となり、コロナ禍における事業計画を立案し、活動を工夫して推進することができた。

来年度も本研究会が推進役となり、学校相互の連携や会員の資質向上に努め、本市の教育の充実に寄与していきたい。

# 4 川越市教育研究会

## I 川越市教育研究会の概要

川越市教育研究会は、「川越市立小・中・特別支援学校の教育の振興と職能の向上を図る」ことを目的に、小学校32校、中学校22校、特別支援学校1校計55校、会員数約1,400名の研究会である。

本会では、目的を達成するために「教育に関する研究及び調査」「小・中・特別支援学校児童生徒の文化活動の研究」「講演会、講習会、研究協議会などの開催」「各種団体との連絡提携」などを行っている。

## II 主な活動

- ・評議員会（5月）
- ・本部役員研修会（4月、6月、7月、9月、1月）
- ・理事・部長研修会（6月、9月、10月、1月）
- ・各研究部会（随時）
- ・教育講演会（8月）
- ・教育研究協議会（11月）

## III 感染症拡大への対応

### 1 感染症拡大防止への取組

#### (1) 活動方針

感染症拡大防止のため、令和2年度は予定された活動がほとんど実施できない状況であった。そこで令和3年度に向け、開催時期は変更せず、その時期に実施可能な方法で行うという活動方針を策定した。

実施方法としては、下記2点を参考として示した。

- ・集会形式活動規模の縮小
- ・文書協議、オンライン活動の推進

また、9月には以後実施する事業について、原則オンラインで行うよう依頼した。

#### (2) 具体的な取組

##### ① 評議員会

本会の総会となる会である。令和2年度は9月開催となった。本年度は、予定どおり5月に実施した。会場に集まらず文書協議とした。議事等承認の可否については、メールでの回答とした。

##### ② 本部役員研修会

4月は、通常どおり集会形式で実施した。6月以降はオンライン会議とした。また、資料は事前送付とした。

##### ③ 理事・部長研修会

本年度は文書協議とした。協議内容の質問・承認等については、グループウェアのアンケート機

能、オンライン学習システムの課題機能等を試験的に用いて実施した。

## ④ 各研究部会

### ア 文化活動

児童生徒の作品を選考により上位団体に推薦する活動は、2学期当初までは密を避けながら従来どおり集会形式で実施した。9月下旬以降は規模を縮小し、各部の代表や審査担当者のみとしたり、各学校に選考を依頼したりして実施した。

### イ 授業研究会

2学期後半から予定されていた各研究部の授業研究会は、研究部ごとの対応となった。授業者が指導者及び部長と行った授業を映像に記録し映像を視聴して研修する形式、オンライン学習システムを用いてオンライン授業形式で実施する形式等で実施した。

### ウ 主任会

年度当初の主任会は、令和元年度まで25研究部すべてが市内3校を会場として一斉に開催していた。本年度は原則、文書協議による実施とした。集会形式が必要な8研究部は、川越運動公園総合体育館を会場とし、密にならないよう配慮して実施した。

各部で予定されていた主任会は、実施方法を工夫しながら、ほぼ予定どおり実施した。

### エ 予算

令和2年度の活動状況を基に、各部から要求のあった本年度予算額は、全体で約2割減少した。増額の要求はなく、同額が8部会、減額が17部会であった。

## ⑤ 教育講演会



【教育講演会 演題「北野家の教育」】

日本教育公務員弘済会埼玉支部の助成を受け、秋草学園短期大学学長、北野 大 氏を招いて、予定どおり8月19日(木)に実施した。ウエスタ川越大ホールでの開催から、オンライン学習システムでの配信に変更した。

## ⑥ 教育研究協議会

令和元年度までは、市内3校を会場に20本後半のレポート発表を実施していた。

令和2年度は開催できなかった。



本年度は、オンライン発表と教育センターをお借りした集会形式の発表を、発表者が選択できる形で11月に計画した。8月に入り、集会形式での開催を取りやめ、オンライン発表のみとした。発表者の所属校から各校に向け配信した。

発表、協議、指導という三つの活動の中で、協議については、オンライン学習システムの付箋やチャット機能の活用、全体会と分科会二つの接続先設定等、発表ごとに工夫して実施した。

## (2) 成果と課題

### ① 成果

- ・年度当初主任会や教育研究協議会の開催に当たり、学校をお借りせずに、予定された活動を実施することができた。事前準備や駐車場対応など会場校の負担をなくすことができた。
- ・教育研究協議会の開催に当たり、会員約1,400名の参加が可能な会場とレポート数の確保が必要なくなり、活動への負担を軽減することができた。
- ・オンライン学習システムやグループウェア、メール等を活用することで、会員が所属校にしながら活動をすることができた。移動時間がなくなり、余裕をもって活動に参加することができた。また、移動時間を授業に充てることができ、会員が児童生徒と接する時間を増やすことができた。
- ・活動を通して、会員のICT技能の向上を図ることができた。
- ・有料施設を借りての活動がなくなり、施設使用料を研修活動に充てることができた。

### ② 課題

- ・オンライン学習システムの仕様により、一つの発信に対し接続できる台数が100台という条件の中で講演会や研修会を実施した。市内全55校が2台接続できない状況である。講演会や教育研究協議会参加は、自宅勤務での視聴も想定していたが、仕様により不可能であることがわかった。接続を1校1台とし、電子黒板を活用して視聴した。

また、やはり仕様により、電子黒板1台で多数が視聴する際の画質や音質が十分なものではなかった。勤務校からの中継等、参加の自由度や配信の質を高める工夫を検討していく。

- ・児童生徒の作品選考を伴う活動は、従来、集会形式で行われており、急な予定変更が難しかった。従来の活動を検証し、緊急対応時でも実施できるよう集会形式に変わる活動も検討し、予定された時期に活動できるよう準備を進めていく。

### (3) 今後の活動

前述の成果を生かし、令和4年度は感染症の有無に関係なくオンライン学習システムやグループウェアを活用した活動に切り替えていく。集会活動は、年度当初の本部役員研修会及び集会を必要とする主任会、教育講演会に限定する予定である。

なお、議事や協議事項の承認が必要な集会はオンライン、連絡等中心の集会は文書協議としていく。

## IV 特色ある活動

令和2年度より、川越市教育委員会と川越市教育研究会は、それぞれが行う事業について以下の確認をした。

- ・川越市教育委員会が主催する授業研究会と川越市教育研究会の各研究部が主催する授業研究会は共催を可とする。
  - ・川越市教育研究会が主催する教育研究協議会において、川越市教育研究会の会員が川越市教育委員会主催の授業研究や研究発表を行えることとする。
- また、川越市教育委員会が委嘱する研究校が研究発表会を行うことも可とする。

令和2・3年度は感染症拡大防止による活動制限のため実現していない。今後、事業の目的を達成するために、双方協議の上、調整を図っていく。



# 5 富士見市教育研究会

## I はじめに

本会は、富士見市立小・中・特別支援学校18校に在職する教職員510名を会員として、組織された教育団体である。

本会は、富士見市の教職員による自主的・組織的な研究活動を推進し、職能の向上と富士見市教育の推進を図ることを目的としている。

上記の目的を達成するために、例年次の事業を行っている。

- 1 会員の研究活動
- 2 研究会・講演会・講習会などの開催
- 3 教育に関する研究・調査並びに刊行物の刊行
- 4 各種教育団体との連絡提携
- 5 その他必要事項

## II 本会の組織

### 1 研究部

国語、書写、社会、算数・数学、理科、音楽、図工・美術、技術・家庭（小家を含む）、保健体育、生活、英語、道徳、特別活動、生徒指導、特別支援教育、学校図書館、視聴覚、安全教育、学校給食、学校保健、養護、人権教育、進路指導・キャリア教育、学校事務、国際理解、総合的な学習。（26部）

各校から1人ずつ研究部に所属する。

また、会員が自主的・組織的に専門領域について研究を行う目的で、研究班を組織している。

### 2 役員

会長1名、副会長2名、庶務幹事2名、会計幹事2名、監事3名が本部会を構成する。  
理事は各校2名。  
各研究部に、部長、副部长、主任各1名。

## III 主な活動

### 1 本部の活動

- (1) 一斉主任会・会計監査会 (4月)
- (2) 定期総会 (5月)
- (3) 本部会 (年5回)
- (4) 理事会 (年3回)
- (5) 研究部長・研究班長会議 (年2回)
- (6) 教育講演会 (1月)

演題 「一人一台時代の学びのかたち」

講師 フューチャーインスティテュート(株)

為田 裕行 先生

(7) 研究発表会（2月）※予定していたが中止

## 2 各研究部の活動

新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、例年に比べ、活動を限定して行った。研究協議会については、オンライン会議も活用し、活動を進めた。

### (1) 書写

- ①研究協議会 硬筆展搬入・審査 (6月)
- ②毛筆展搬入・地区審査会 (1月)

### (2) 理科

- ①研究協議会 (9月)

### (3) 音楽

- ①研究協議会 (6月)
- ②研究協議会 (9月)

### (4) 図工・美術

- ①作品評価研修会 (12月)

### (5) 技術・家庭

- ①研究協議会 (9月)

### (6) 英語

- ①市内中学校英語弁論大会打合せ (6月)
- ②市内英語弁論大会（市民体育館） (9月)

### (7) 学校図書

- ①研究協議会（読書感想文審査） (9月)

### (8) 養護

- ①研究協議会 (7月)

### (9) 学校事務

- ①研究協議会 (2月)

### (10) 総合的な学習

- ①研究協議会 (11月)
- ②授業研究会 (12月)

### (11) 保健室経営班

- ①研究協議会 (11月)

## IV コロナ禍における活動

### 1 オンラインでの各種会議の開催

（本部役員会、理事会、研究部長・研究班長会議）

本市の教職員のパソコンには、共通でMicrosoft Teams（以下Teams）がインストールされている。



# 6 坂戸市教育研究会

## I 坂戸市教育研究会の概要

坂戸市教育研究会は、「会員の職能を向上し、教育の振興を図る」ことを目的に、小学校13校、中学校7校、（うち1校は施設一体型小中一貫教育校）の計20校、会員数は約460名の研究会である。

本会では、上記の目的を達成するために、次の五つを主な事業として活動を展開している。

- 1 教育に関する研究及び調査
- 2 講演会、講習会、研修会等の開催
- 3 研修視察
- 4 各種教育団体との連絡連携
- 5 そのほか必要な事項

## II 本研究会の組織

本研究会は、以下の29部会を置き、それぞれの部会で研究テーマを設定し、計画に沿って活動を展開している。

- |        |         |        |
|--------|---------|--------|
| ①国語    | ②書写     | ③社会    |
| ④算数・数学 | ⑤理科     | ⑥生活・総合 |
| ⑦音楽    | ⑧図工・美術  | ⑨小学体育  |
| ⑩中学体育  | ⑪小学家庭   | ⑫技術・家庭 |
| ⑬外国語   | ⑭道徳     | ⑮特別活動  |
| ⑯進路指導  | ⑰生徒指導   | ⑱学校図書館 |
| ⑲情報教育  | ⑳特別支援教育 | ㉑人権教育  |
| ㉒安全教育  | ㉓保健     | ㉔養護    |
| ㉕学校給食  | ㉖栄養     | ㉗学校事務  |
| ㉘教育相談  | ㉙国際理解教育 |        |

## III 本会の活動

### 1 本部主催の主な活動

- ・教科領域等一斉主任研修会 (4月)
- ・教育研究会総会 (5月)
- ・坂戸市一斉授業研究会 (11月)
- ・理事研修会 (年3回：4月、5月、1月)
- ・部長研修会 (年2回：5月、1月)
- ・あゆみ編集委員会 (随時：校務システム)

### 2 各部会の主な活動

- ・主任研修会
- ・授業研究会
- ・実践報告会

- ・講演会
- ・各種教育団体主催の研修会への参加
- ・各種展覧会  
硬筆展、書きぞめ展（書写）  
科学振興展（理科）  
美術作品展（図工・美術）  
けやき作品展（特別支援教育）  
発明創意くふう展（技術・家庭）
- ・少年の主張大会審査（国語）
- ・スピーチコンテスト（外国語）
- ・坂戸市小・中学校音楽会（音楽）
- ・実技研修会（音楽）
- ・実技伝達講習会（小学体育）
- ・連合運動会（小学体育）
- ・読書感想文コンクール（学校図書館）

## IV 今年度の活動

コロナ禍の影響で、今年度も活動の多くが制限され、実施方法の見直しや、実施の見送りなどの対応を余儀なくされた。各部会で行われている市教研主催の授業研究会は、集合での実施は見送った。また、例年11月に実施している一斉授業研究会も、各発表校で工夫し、開催方法を変更して行った。

### 1 坂戸市一斉授業研究会

坂戸市一斉授業研究会は、市内を三つのブロックに分け、それぞれのブロック内の小・中学校を中心に授業公開及び研究発表を行っている。本年度は、以下の3校が研究発表を行った。

#### (1) 千代田中学校 (SDGs)

研究授業

1年：クラスで取り組むSDGs発表会

2年：SDGs自分たちの取組を見直そう

3年：SDGs自分たちでできることを考え実践しよう

指導者 JICA 矢田部 建佑 氏

校内研究発表会として実施した。3クラスで研究授業を行い、授業動画及び指導者による指導講評の動画ファイルを、市内共有フォルダに後日アップロードすることで、研究成果を市内で共有した。

(2) 大家小学校（外国語）

研究授業

4年：What do you want?

指導者 千葉大学 西垣 知佳子 氏

校内研究発表会として実施した。4年生のクラスで研究授業を行い、授業動画及び指導者による指導講評の動画ファイルを、市内共有フォルダに後日アップロードすることで、研究成果を市内で共有した。

(3) 浅羽野小学校（算数）

研究授業

2年：新しい計算を考えよう

3年：小数の表し方やしくみを知ろう

5年：比べ方を考えよう

指導者 十文字学園女子大学

日出間 均 氏

鶴ヶ島市立長久保小学校

星野 浩弥 氏

坂戸市立教育センター

大澤 裕美 氏

講演 十文字学園女子大学

日出間 均 氏

感染症対策の観点から、参加者の人数を制限し、会場校での研究発表とオンラインでの配信のハイブリッドで行った。オンラインでの参加については、教室に複数の端末を設置し、ビデオ会議を活用して配信した。複数のカメラで配信することで、角度を変えながら授業を参観することができるようにした。授業後の協議についてもオンライン配信を行った。講演も同様にライブ配信を行い、各勤務校から参加できるようにした。

## 2 部会の活動から

感染症対策として、集合型の授業研究会は中止とした。制限のある中で、各部会で開催方法の変更等を行いながら事業を進めた。感染症対策の観点から、従来から開催方法を変更して行った事業の一部を紹介する。

(1) ビデオ録画による授業研究

- ・算数・数学（授業研究会）

(2) ビデオ録画による審査等

- ・国語（少年の主張大会審査）
- ・外国語（スピーチコンテスト）

(3) 誌面開催

- ・技術家庭（備品等の実態把握）
- ・特別活動（レポート交換による実践報告研修）
- ・保健（学校保健委員会についての情報交換）
- ・養護（感染症対策についての情報交換）
- ・栄養（食育指導に関する情報交換）
- ・安全教育（安全教育行事についての情報交換）

(4) オンライン会議

- ・小学校家庭（年間事業計画の検討会）
- ・道徳（今年度の事業のまとめ）
- ・情報教育（GIGAスクール実践報告会）
- ・養護（情報交換）



## V 今後の活動について

コロナ禍により、昨年度から集合型の研修等の開催が困難な状況が続いている。このような状況下で、市内のネットワークやGIGA端末の活用等により、様々な開催方法により各部会等での事業が進められた。同時に、事業の見直しや精選に結びついたという一面もあると考えられる。

事業の内容によって、従来の開催方法を継続するもの、端末等の活用によって、更に充実したものになるもの、開催方法を置き換える必要があるものなどの視点を与えられたと考えることもできる。

働き方改革が叫ばれる中で、研究活動の充実とより効率的な開催方法の両立を考える機会となった1年間であると前向きに考えたい。様々な開催方法の成果と課題を共有することで、研究活動の充実につながるものと期待している。

# 7 三芳町教育研究会

## I 本研究会の概要

### 1 目的

三芳町教育研究会は、会員の資質の向上と親睦を図り、三芳町教育の振興に寄与することを目的としている。この目的を達成するため、三芳町教育研究会総会資料の表紙には、下記の文言が示されている。

- (1) 知性と感性をみがき合ひましょう。
- (2) 児童生徒の知性と感性をはぐくみましょう。
- (3) 各学校の教育活動の公開や、情報交換を積極的に行いましょう。

会員は、本研究会の目的を達成するため日々研究と修養に努めている。

### 2 学校数・会員数

小学校5校、中学校3校 計8校 会員数 169名

### 3 組織

#### (1) 役員

会長1名、副会長2名、監事7名、  
理事14名、幹事2名

#### (2) 研究部

- ①国語部 ②書写部 ③社会科部
- ④算数・数学部 ⑤理科部 ⑥音楽部
- ⑦図工・美術部 ⑧小学校・体育部
- ⑨中学校・体育部 ⑩小学校家庭科部
- ⑪技術・家庭部 ⑫英語部 ⑬生活・総合部
- ⑭道徳部 ⑮外国語活動部 ⑯特別活動部
- ⑰特別支援教育部 ⑱教育心理・教育相談部
- ⑲学校図書部 ⑳学校食育部
- ㉑視聴覚・情報教育部 ㉒生徒指導部
- ㉓学校安全部 ㉔人権教育部 ㉕保健部
- ㉖養護教諭部 ㉗学校事務部
- ㉘進路指導・キャリア教育部 ㉙学校運営部

## II 主な活動

### 1 令和3年度の活動

#### (1) 事務局の活動

本年度は、感染症拡大の渦中にあり、年度当初計画していた活動や事業は、開催を見合わせるが多かった。

年度当初の一斉主任会は、各部一斉には開催せず、対面での打ち合わせが必要な部のみ行った。また、オンラインを活用して、夏季休業中に計画した

「教育講演会」の実施に向け、計画を推進し実施した。

- ・一斉主任会⇒文書での開催（4月）  
対面での開催が必要な部のみ  
短時間で開催。
- ・新・旧理事研修会 ⇒実施（4月）
- ・総会 ⇒紙面開催（4月）
- ・教育講演会⇒会場への参加または、オンラインでの参加8月18日(水)
- ・会計監査会⇒実施（3月実施予定）

#### (2) 研究部の主な活動

- ・書写部  
6月 硬筆地区審査  
1月 書きぞめ審査会
- ・理科部  
9月 理科主任研修会  
科学振興展覧会審査会
- ・音楽部  
8月 音楽主任研修会
- ・小学校・体育部  
5月 小学校体育部会
- ・小学校家庭科部  
9月 小学校家庭科主任研修会
- ・技術・家庭科部  
10月 町内児童・生徒発明創意くふう展実施  
(小学校家庭科部との合同開催)
- ・英語部  
9月 英語暗唱弁論大会 実施
- ・学校図書部  
9月 学校図書主任研修会  
2月 学校図書主任研修会
- ・養護教諭部  
6月 養護教諭研修会  
8月 養護教諭研修会  
11月 養護教諭研修会  
12月 養護教諭研修会  
2月 養護教諭研修会
- ・学校事務部  
6月 学校事務研究部研修会  
11月 学校事務部研修会
- ・学校運営部

## 2 令和3年度の各研究部の活動内容

### (1) 事務局の活動

#### ① 新旧理事研修会

例年、各校から新・旧理事が参加し、開催している。令和2年度は、感染症拡大防止のため開催を見合わせたが、令和3年度は、感染対策を講じ、各校からの参加者を代表1名に限定し、短時間で開催した。

#### ② 一斉主任会

原則、開催を見合わせた。しかし、年間の活動計画等を進める関係で紙面での開催では難しい場合は、オンライン会議または、短時間での協議を行った。

(令和3年度の各部の部長校にて実施)

#### ③ 定期総会

感染拡大防止を考慮し、紙面開催とした。

文書配付 4月23日(金)

疑義事項受付期間 4月23日(金)～5月6日(木)

※ 特に疑義事項はなく承認された。

#### ④ 教育講演会

前年度、教育講演会を見送ったため、本年度は開催方法を考え、実施した。

・実施日時 令和3年8月18日(水)

14:20～16:20

・講師 富士見市立富士見特別支援学校

校長 阿部 和彦 氏

・演題 「共生社会ホストタウンの実現に向けて」

～教室で何ができるか～

各校に配備されているタブレットを活用し、オンラインを通しての講演会参加という方法も取り入れた。

事前準備として、主に下記のことを実施した。

・会場の責任者との事前打ち合わせ

・三芳町教育委員会との事前打ち合わせ

・各校校長へオンラインでも参加が可能であることの相談・周知

・実施会場担当者や三芳町教育委員会教育総務課職員への協力要請

・自校職員の役割分担

・町内各小・中学校に会員の参加方法を確認

感染症拡大防止を念頭に置き、会場への入場人数にも配慮した。

当日は、各校から多くの職員が講演会会場での

参加あるいは、オンラインでの視聴を通して参加することができた。実施後は、アンケートフォームで感想を即時回収した。



【教育講演会会場】



【タブレットでの参加】



【実施後のアンケート】

### (2) 研究部の主な事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動方法を変更したり、中止したり、感染症防止対策を十分に行った上で開催したりするなど、どのようにしたらできるかを考え、各研究部で事業を進めた。

#### ①作品の審査を行うにとどめた事業

・硬筆展覧会・書きぞめ展覧会

・科学振興展覧会・美術展覧会

#### ②感染対策を十分に講じ、開催した事業

・発明創意くふう展・英語暗唱弁論大会

#### ③開催を見合わせた事業

・町内音楽会

## Ⅲ おわりに

本年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年度当初に予定していた活動や事業を実施することに多くの制約があった。

しかし、この状況を前向きにとらえ、今までと違った見方ができたり、新しい方法の実施に向け知恵を絞ったりすることができた。さらに、町内の教職員の知恵を集結し、どのようにしたらできるか関係者と相談をしながら活動を進めてきた。

その中で、プラス面も見えてきた。

今後、活動や事業の見直しを更に図っていくことが働き方改革を推進する一歩となる。教員の資質向上と未来を担う子供たちのために有意義な活動を推進していきたい。

# 8 小川班教育研究会

## 1 はじめに

小川班教育研究会は、小川町と東秩父村の小・中学校合わせて11校、教職員182名の会員で組織されている教育研究団体である。

本研究会は、小川町と東秩父村の小・中学校の教育の進展を図ることを目的とし、その目的を達成させるために、教育に関する研究会や講演会、講習会や音楽会等の開催、また、教育に関する調査や研究に委嘱助成、各種団体との連携などを行い、専門的な指導力向上に努めている。本年度は、コロナ禍ではあるが、オンライン会議なども活用し会員相互の情報交換などを行って、会員の資質向上を図っている。

## II 本会の組織及び運営

### 1 役員

会長1名、副会長2名 理事各校2名、  
監事3名、幹事2名

2 組合員数 182名

3 会費 1人年間 1,000円

4 研究助成費 227,500円

5 研究部会 33研究部会で構成

次の研究部会を置き、部の構成は各校の主任をもってする。

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| (1)国語      | (2)書写      | (3)社会      |
| (4)算数・数学   | (5)理科      | (6)生活      |
| (7)音楽      | (8)図工・美術   | (9)保健体育    |
| (10)家庭・小   | (11)技術・家庭  | (12)英語     |
| (13)道徳     | (14)特別活動   | (15)総合的な学習 |
| (16)特別支援   | (17)教育心理相談 | (18)視聴覚    |
| (19)学校図書館  | (20)給食     | (21)進路指導   |
| (22)人権教育   | (23)安全教育   | (24)生徒指導   |
| (25)国際理解教育 | (26)環境教育   | (27)教務     |
| (28)情報教育   | (29)保健     | (30)養護     |
| (31)学校事務   | (32)学校経営   | (33)学校行事   |

各研究部会には、部の事業を執行するための部長及び副部長を置く。部長・副部長は、各主任会で選出し、各校は、研究部ごとに主任を置く。

役員は任期は1年間とする。

## III 本年度の主な事業

### 1 本部の活動

- |  |       |
|--|-------|
| (1) 第1回理事会                                     | (4月)  |
| (2) 専門部会<教科・教科外>                               | (4月)  |
| (3) 総会(紙面にて)                                   | (5月)  |
| (4) 第1回理事・部長会                                  | (6月)  |
| ※全員研修会、第2回理事会、小・中学校音楽会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止。 |       |
| (5) 理科教育研究発表会                                  | (11月) |
| 小川班小中11校の代表児童による動画(事前に撮影)形式の発表会                |       |
| (6) 第2回理事・部長会                                  | (1月)  |

### 2 各専門部の活動

- |  |                |
|--|----------------|
| (1) 国語   |                |
| ・主任研修会   | (4月)           |
| (2) 書写   |                |
| ・主任研修会   | (4月・6月・10月・1月) |
| ・比企地区硬筆展審査会                                      | (6月)           |
| ・比企地区書きぞめ展審査会                                    | (1月)           |
| (3) 社会   |                |
| ・主任研修会   | (4月)           |
| (4) 算数・数学  |                |
| ・主任研修会   | (4月)           |
| ・比企地区算数・数学教育研究協議会                                |                |
| (5) 理科   |                |
| ・主任研修会   | (4月・9月・10月)    |
| ・児童生徒理科研究発表会                                     | (11月)          |
| (6) 生活   |                |
| ・主任研修会   | (4月・2月)        |
| (7) 音楽   |                |
| ・主任研修会   | (4月・12月)       |
| ※新型コロナウイルス感染症拡大防止により音楽会は中止。音楽授業の進め方について紙面による情報交換 |                |
| (8) 図工・美術  |                |
| ・主任研修会   | (4月・8月・12月)    |
| ・七夕祭り作品展   | (7月)           |
| ・身体障害者福祉のために美術展地区審査会                             | (7月)           |
| ・造形大会授業研究会                                       | (8月) オンライン     |
| ・郷土を描く児童生徒美術展地区審査                                | (10月)          |
| ・児童生徒美術展地区審査会                                    | (1月)           |

- (9) 保健体育  
 ・主任研修会 (4月)  
 ・授業研究会 (11月)
- (10) 家庭・小  
 ・主任研修会 (4月)  
 ・比企地区小学校家庭科研究会 (6月)  
 ・比企地区児童生徒発明創意くふう展 (9月)  
 ・授業研究会・・・紙面報告
- (11) 技術・家庭  
 ・主任研修会 (4月)  
 ・比企地区小学校家庭科研究会 (6月)  
 ・比企地区児童生徒発明創意くふう展 (9月)  
 ・授業研究会 (12月)
- (12) 英語  
 ・主任研修会 (4月)
- (13) 道徳  
 ・主任研修会 (4月)
- (14) 特別活動  
 ・主任研修会 (4月)
- (15) 総合的な学習  
 ・主任研修会 (4月)
- (16) 特別支援  
 ・主任研修会 (4月・3月)  
 ※小学校交流会、中学校交流遠足は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
- (17) 教育心理相談  
 ・主任研修会 (4月)  
 ・理事研究協議会・冬季講演会 (11月)  
 ・理事研究協議会 (2月)  
 ※西部地区理事研修会、夏季研修会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
- (18) 視聴覚  
 ・主任研修会 (4月)
- (19) 学校図書館  
 ・主任研修会 (4月)  
 ・読書男感想文コンクール審査会 (9月)
- (20) 給食  
 ・主任研修会 (毎月)
- (21) 進路指導  
 ・主任研修会 (4月)  
 ・比企地区進路指導研究協議会 (5月・7月・9月3月)
- (22) 人権教育  
 ・主任研修会 (4月)  
 ・人権作文賞状作成 (8月)

- (23) 安全教育  
 ・主任研修会 (4月)
- (24) 生徒指導  
 ・主任研修会 (4月)
- (25) 国際理解教育  
 ・主任研修会 (4月)
- (26) 環境教育  
 ・主任研修会 (4月)  
 ※書面(データ)による情報交換 (2月)
- (27) 教務  
 ・主任研修会 (4月・2月)  
 ※2月はオンライン開催
- (28) 情報教育  
 ・主任研修会 (4月)
- (29) 保健  
 ・主任研修会 (4月)
- (30) 養護  
 ・主任研修会 (4月・7月・12月・3月)  
 ※12月はオンライン開催
- (31) 学校事務  
 ・主任研修会 (4月・8月・2月)  
 ※2月はオンライン開催

#### IV おわりに

本研究会の活動ではないが、小川町立小・中学校及び埼玉県小川高等学校の児童生徒が小川町の地域資源を題材として地域の文化や歴史、産業等について理解を深め、各教科と関連付けた探究的で協調的な学びへと段階的に深めていきながら、地域活動への参画や地域課題の解決に取り組むことを目的とする「おがわ学」に取り組んでいる。

令和元年度から始まり、今年度で3年目を迎えた。昨年度と今年度は、「おがわ学フォーラム」を実施し、「おがわ学」の取組について地域社会や県内外の関係者に向け広く発信した。

地元の町村に対する愛着や誇り、地域課題の解決に取り組む能力を育むとともに、大人自身の学びにもつなげていくことを目指している。班内の東秩父村でも生かせるような取組を今後検討して広めていきたい。



# 9 菅谷班教育研究会

## I はじめに

本会は、埼玉県比企郡菅谷班教育研究会といい、事務所を会長所在の学校に置く。

本会は、菅谷班内（嵐山町と滑川町）の小・中学校に籍を置く教職員が会員となって組織されている教育研究団体である。

学校数は、小学校6校、中学校3校の計9校で、教職員193名である。

本会は、班内の教職員が主体となって、職能の向上、教育の振興を図り、地域社会の文化発展に貢献することを目的とする。

この会は、上記の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 学校教育に関する調査研究
- 2 青少年文化活動の研究とその振興
- 3 社会教育の普及徹底
- 4 研究会、講演会、研究発表会、展覧会、体育祭、音楽会等の開催
- 5 会員の研究に対する研究助成
- 6 P T A及び各種団体との連絡提携
- 7 その他必要な事項

## II 本研究会の組織

### 1 役員

会長1名、副会長2名、理事若干名、  
常任理事若干名、監事3名、幹事若干名

### 2 会員

正会員（班内各学校教職員）、賛助会員（この会の趣旨に賛同する個人または団体）

### 3 会議

会議を分けて、総会、理事会とする。ただし、必要により専門部会を開くことができる。

総会は、毎年1回開催し、会長が招集する。

ただし、必要があるときは臨時総会を開くことができる。なお、総会及び臨時総会は、理事会をもってかえることができる。

### 4 研究会

この会は、次の研究会をおき、部の構成は、各校の主任をもってする。

- (1) 国語
- (2) 書写
- (3) 社会
- (4) 算数・数学

- (5) 理科
- (6) 音楽
- (7) 図工・美術
- (8) 保健体育
- (9) 技術家庭
- (10) 家庭
- (11) 英語・国際理解
- (12) 生活・総合
- (13) 道徳
- (14) 特別活動
- (15) 教育心理・教育相談
- (16) 特別支援教育
- (17) 学校図書館教育
- (18) 進路指導・キャリア教育
- (19) 生徒指導
- (20) 教務
- (21) 養護
- (22) 事務
- (23) 学校食育
- (24) 人権教育
- (25) 安全教育
- (26) 保健主事
- (27) 環境教育
- (28) 情報教育

各研究部は、部の事業を執行するための部長及び副部長を置く。

部長及び副部長は、主任会で選出する。

各校は、研究部ごとに主任を置く。

## III 主な事業

### 1 本部の活動

- ・新旧理事会兼総会 4月  
※総会については、理事会をもってかえる。
- ・全体研修会 7月
- ・理事研修会 3月
- ・会計監査 3月

### 2 各教科研究部の活動計画（一部抜粋）

- (1) 書写 主任研修会 4月・11月  
比企地区硬筆展審査会 6月  
比企地区書きぞめ展審査会 1月
- (2) 社会 第1回理事研修会 6月  
第2回理事研修会 2月
- (3) 算数・数学比企地区算数・数学教育研修協議会 10月
- (4) 理科 主任研修会 4月・10月  
県科学教育振興展覧会比企地区展 9月  
県科学教育振興展覧会県展 11月  
比企地区理科研究発表会 1月
- (5) 音楽 主任研修会 7月・2月  
菅谷班音楽会 10月
- (6) 図工・美術 主任研修会 4月・11月

	身障者福祉のための児童生徒美術展	
	地区審査会	8月
	郷土を描く児童生徒美術展地区審査会	10月
	県小・中学校児童生徒美術展比企地区	
	審査会	1月
(7)	保健体育	
	主任研修会	4月
	班授業研究会	10月
(8)	家庭	
	主任研修会	4月
	比企地区児童生徒発明創意くふう展	9月
	比企地区小学校家庭科教育研究会授業研究会	2月
(9)	技術・家庭	
	技術・家庭科実技研修会	8月
	比企地区児童生徒研究発表及び	
	発明創意くふう展	9月
(10)	英語・国際理解	
	英語科授業研究会	10月
(11)	特別支援	
	主任研修会	4月・7月・2月
	班特別支援学級交流学習会	10月
(12)	学校図書館	
	主任研修会	4月
	読書作文コンクール審査会	9月
(13)	生徒指導	
	主任研修会	4月・10月
(14)	教務	
	主任研修会	4月
(15)	養護	
	主任研修会	4月・7月・12月・2月
(16)	事務	
	主任研修会	4月・8月・1月
(17)	保健主事	
	比企地区学校保健会理事会・評議員会	5月
	県学校保健主事会研修会	6月
	比企地区学校保健会保健主事・養護教諭	
	合同研修会	11月
	比企地区学校保健委員会	1月
(18)	情報教育	
	主任研修会	4月

### 3 令和3年度の活動

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本部事業及び各研究部の事業は中止や活動方法を工夫して実施した。そのため、当初予定していた研修費等を各学校に助成金として配分し、研修の充実を図った。

#### (1) 教科等主任会

全体一斉での主任会を実施せず、必要な部のみ実

施した。また、年間の事業計画や研修の進め方等については、部長・副部長で協議し、担当校長の指導・助言の下に決定した。

#### (2) 総会

会員が一堂に会して行うことはせず、理事会をもってこれに代えて、書面にて全会員に知らせた。意見交換や質疑等は事前に各校理事が集約し幹事校に連絡した。

#### (3) 全体研修会

例年、講師を招聘し会員全員参加での研修を行ってきたが、感染拡大防止のため中止とした。

#### (4) 各研究部

当初予定していた諸事業が、中止せざるを得ない状況となった。音楽会や研修会の中止や展覧会の縮小等、児童生徒の活躍の場がなくなってしまったことはとても残念である。

そのような中でも、Webを利用しながら実施した事業もあった。例えば理科の研究発表会では児童生徒が各校にいながらブ



レゼンソフトを活用した発表会を実施した。

また、助成金を各校に配分することで、それぞれの学校での研修を充実することにもなった。例えばそれぞれの学校で企画した研修会や校内授業研究会の内容や日時を他校に知らせ、人数を制限した中で参加を促した。自校での研究を班内に広げることができた。

## IV 今後の活動について

今後も、引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら各事業に取り組んでいく。

本年度、予定の事業が中止せざるを得ない状況下でも、工夫を凝らすことで新たな方向性を見出すことができた。例えばリモートによる会議や研修会の有用性にも気付くことができた。リモートを導入することで、移動時間がなくなったことによる授業時間や校務時間の確保、交通費の削減、業務の効率化などの利点もあった。また、児童生徒の理科の研究発表会では新しい形での取組を提案することができた。

Afterコロナの時代を期待して待つより、Withコロナとして、知恵を出し合い、工夫を凝らして、本研究会の活動を充実する方法を模索していくことが大切だと考える。

# 10 秩父教育研究会

## I はじめに

本会は、秩父教育研究会と称し、事務局を会長所属の学校に置く。

本会は、秩父市、横瀬町、小鹿野町、皆野町、長瀬町1市4町の小・中学校の教職員をもって組織されている教育研究団体である。教職員の資質向上と地域教育の振興に寄与することを目的としている。

学校数は、小学校23校、中学校12校の計35校、教職員会員数は625名である。

本会は、上記の目的を達成するために、教育関係機関及び諸団体と連携し、次の事業を行う。

- 1 教育に関する研究会・講習会・発表会・展覧会等の開催
- 2 教育に関する研究調査
- 3 教育に関する実践的研究の委嘱
- 4 教育に関する図書雑誌の編集刊行幹旋
- 5 その他、教育に必要な事項

## II 本教育研究会の組織

### 1 役員

会長1名、副会長2名、理事（代議員）各校1名、監事3名、幹事若干名

### 2 任務

本会の役員の仕事は次のとおりとする。

- (1) 会長は本会を代表し、会務を掌理し各種会議を招集し、その議長となる。
- (2) 副会長は会長を助け、会長に事故あるときはその職務を代理する。
- (3) 理事は理事会を組織し、本会事業の企画運営に関して審議し、会務の執行にあたる。また、代議員として学校を代表し総会に出席する。
- (4) 監事は、本会の会計を監査する。
- (5) 幹事は、会長の命を受け、本会の庶務会計にあたる。

### 3 任期

役員の仕事は2か年間とする。しかし、再任を妨げない。補欠役員の仕事は前任者の残任期間とする。

### 4 会議

毎年1回総会を開催し、会務の報告、会長・副会長・監事の選出、予算決算、その他重要事項につき審議決定する。

会長が必要と認めた場合、または会員の3分の1以上の要求がある場合は、臨時に総会を開くことができ

る。

総会は、代議員による総会とする。各種会議の議決は、出席人数の過半数の賛成を必要とする。

## 5 経費

本会の経費は、会費及び補助金、その他をもってこれにあてる。会費は、1人年額1,000円とし、6月に全額納入する。

補助金は、1市4町より500円×学級数分をいただいている。

## 6 研究部

研究部は次のとおりとする。

- (1)国語 (2)社会 (3)算数・数学 (4)理科
- (5)生活 (6)音楽 (7)図工・美術 (8)保健体育
- (9)技術・家庭 (10)家庭 (11)外国語
- (12)書写 (13)総合学習 (14)道徳教育
- (15)生徒指導 (16)教育心理・教育相談
- (17)学校図書館教育 (18)放送・視聴覚教育
- (19)特別支援教育 (20)学校経営 (21)学校事務
- (22)特別活動 (23)学校給食
- (24)進路指導・キャリア教育 (25)養護
- (26)人権教育 (27)教務 (28)安全教育

各研究部には部長・副部長を置く。部長は本採者から選出する。役員の仕事は1か年とする。

しかし、再任を妨げない。また、部長は次年度第1回の研究部会を主催する。

## III 本年度の主な事業

### 1 事務局主催の活動

- (1) 第1回理事研修会  
4月14日(水) 小鹿野中学校
- (2) 総会  
5月7日(金) 長瀬第一小学校
- (3) 第1回研究部（教科）研修会  
5月25日(火) 一部実施
- (4) 第1回研究部（教科外）研修会  
6月3日(木) 一部実施
- (5) 第2回理事研修会 [中止]  
7月9日(金) 長瀬第一小学校
- (6) 教育講演会 [中止]
- (7) 第3回理事研修会 書面による実施  
3月1日(火) 事務局から各学校へ通知

## 2 各研究部主催の活動

- (1) 国語 講演会 [中止]
- (2) 社会  
社会科研究作品審査会 久那小学校  
10月19日(火) (審査のみ)  
授業研究協議会 荒川中学校 [中止]
- (3) 算数・数学  
授業研究会 2月3日(木) [中止]
- (4) 理科  
①科学教育振興展覧会 皆野町文化会館  
10月8日(金) 審査のみ実施  
②理科研究発表会 影森公民館  
1月14日(金)
- (5) 生活  
生活科指導力のための研修会 [中止]  
8月 秩父市文化伝承館
- (6) 音楽  
音楽実技研究会 (オンライン開催)  
10月26日(火) 「授業におけるICTの効果的な活用  
について」  
指導者：県立総合教育センター  
主任指導主事 佐藤 太一 氏
- (7) 図工・美術  
小・中学校児童生徒美術展 吉田取方体育館  
1月27日(木) 審査のみ実施
- (8) 保健体育  
①小学校授業研究会 横瀬小学校 [中止]  
10月27日(水)  
②中学校授業研究会 高篠中学校 [中止]  
11月16日(火)
- (9) 技術・家庭  
秩父地区小・中学校児童生徒発明創意くふう展及  
び研究発表会 荒川農村改善センター  
9月28日(火)
- (10) 家庭  
研修会 尾田蒔小学校 7月30日(金)
- (11) 外国語  
外国語授業研究会 影森中学校 [中止]
- (12) 書写  
① 秩父地区硬筆展覧会 長瀬第一小学校  
6月17日(木) 審査のみ実施  
② 秩父地区書きぞめ展覧会 長瀬第一小学校  
1月20日(木) 審査のみ実施
- (13) 総合的な学習  
研修会 尾田蒔小学校 [中止]
- (14) 道徳  
道徳研究部研修会 長瀬中学校 [中止]
- (15) 生徒指導 全体会 [中止]
- (16) 教育心理・教育相談

- 研修会 原谷小学校 [中止]
- (17) 学校図書館教育  
研修会 荒川中学校 9月15日(水)  
研修会 荒川中学校 9月29日(水)
- (18) 放送・視聴覚教育 本年度の活動はなし
- (19) 特別支援教育  
研修会・講演会  
2月15日(火) 秩父特別支援学校  
「今後の特別支援教育充実のために」  
埼玉県総合教育センター  
指導主事 金子 美里 氏
- (20) 学校経営 研修・講演会 [中止]
- (21) 学校事務 研修会 [中止]
- (22) 特別活動  
① 全員研究協議会 [中止]  
② 研究発表会 荒川西小学校・大田中学校  
[中止]
- (23) 学校給食 研修会 [中止]
- (24) 進路指導・キャリア教育  
進路指導・キャリア教育研究協議会  
長瀬中学校 11月9日(火)
- (25) 養護  
研修会・講演会  
7月9日(金) 横瀬町民会館  
「性に関する指導を学ぶ」  
埼玉医科大学医療人育支援センター  
高橋 幸子 氏
- (26) 人権教育 研修会 [中止]
- (27) 教務 研修会 [中止]
- (28) 安全教育 研修会 [中止]

## IV 成果と今後の課題

本年度も、新型コロナウイルス感染症による様々な配慮が求められるなか、本研究会は感染症拡大防止対策を講じた上で、できる活動の継続を目指した。5月の総会は、参集して行うことができ、昨年度の決算報告・行事報告・役員・年間行事計画・予算について承認をいただいたものの、緊急事態宣言の発出などにより、計画どおりに実施することはできなかった。教育講演会についても、昨年に続き [中止] とし、各部会によって計画された活動の多くも、残念ながら中止とせざるを得なかった。

来年度は、新型コロナウイルス感染症が終息し、より一層充実した本研究会の活動を通じ、教職員の資質向上と地域教育の振興に寄与することができるよう願っている。

# 11 児玉郡本庄市教育研究会

## I はじめに

本研究会は、児玉郡・本庄市内の小・中学校32校、30の教科等研究会をもって組織する。

## II 活動概要

各研究会は、授業研究会や講演会を通して、指導力の向上を目指している。

### 1 国語教育研究会

- ①授業研究会 本庄市立中央小学校 11月17日(水)  
授業者 同校 黒田 俊之 教諭  
指導者 北部教育事務所指導主事 中原 美智子 氏

### 2 書写教育研究会

- ①第59回硬筆展地区審査会  
上里町立七本木小学校 6月11日(金)  
②実技研修会  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止  
③第74回児玉郡本庄市書きぞめ審査会  
上里町立七本木小学校 1月19日(水)

### 3 社会科教育研究会

- ①夏季研修会 7月30日(金)  
講師 塙保 己一先生遺徳顕彰会 荒井 一夫 氏  
②授業研究会 美里町立美里中学校 11月17日(水)  
授業者 美里町立美里中学校 西村 佑介 教諭  
指導者 本庄市教育委員会指導主事 栗原 完 氏

### 4 算数・数学教育研究会

- ①授業研究会 美里町立美里中学校 10月26日(火)  
授業者 羽太 爾 教諭  
指導者 北部教育事務所指導主事 中田 朋絵 氏  
埼玉大学教育学部附属中学校 師岡 洋輔 氏  
②授業研究会 上里町立上里東小学校  
11月24日(水)  
授業者 林 香菜子 教諭  
指導者 北部教育事務所指導主事 中田 朋絵 氏  
長瀬町立長瀬第二小学校長 神田 卓也 氏  
③算数教育研究発表会 1月21日(金)  
会場 本庄市立本庄西小学校  
発表者 本庄市立北泉小学校 飯野 稚枝 教諭  
指導者 本庄市教育委員会指導主事 栗原 完 氏

### 5 理科教育研究会

- ①埼玉県小・中学校科学コンクール児玉地区  
審査会 9月28日(火)  
上里町立賀美小学校(小学校の部)  
本庄市立児玉中学校(中学校の部)  
出品点数 小学校58点 中学校24点 合計82点  
県中央コンクール作品 小・中学校各1点を選考

### 6 音楽教育研究会

- ①実技研修会 美里町立大沢小学校 8月4日(水)  
「箏の奏法について」  
講師 みさとことの会 原田 淳子 氏 他  
②埼玉県小・中学校北部西地区音楽会  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

### 7 図工・美術教育研究会

- ①夏季実技研修会 8月6日(金)  
講師 本庄市立北泉小学校長 岡村 和美 氏  
②図工・美術授業研究会 9月17日(金)  
授業者 上里町立神保原小学校  
高坂 亜希子 教諭  
指導者 北部教育事務所指導主事 星野 哲郎 氏

### 8 保健体育教育研究会

- ①小学校体育実技講習会 8月3日(火)  
②小学校体育授業研究会 6月8日(火)  
③小学校体育研究協議会 2月4日(金)  
④中学校体育授業研究会 11月9日(火)  
⑤中学校体育研究協議会 2月10日(水)

### 9 技術・家庭科教育研究会

- ①授業研究会  
本庄市立本庄南中学校 10月21日(水)  
本庄市立本庄南中学校 11月4日(水)  
神川町立青柳小学校 1月27日(水)  
②指導者 北部教育事務所指導主事 笠原 浩史 氏  
本庄市立本庄西中教頭 櫻井 久美子 氏  
北部教育事務所指導主事 笠原 浩史 氏

### 10 生活科・総合的な学習の時間研究会

- ①授業研究会 美里町立東児玉小学校 11月12日(金)  
授業者 美里町立東児玉小学校 近藤 一輝 教諭  
指導者 熊谷市立妻沼南小学校長 栗原 敏枝 氏

### 11 外国語活動・英語教育研究会

- ①授業研究会 本庄市立本庄東小学校 11月26日(金)  
授業者 本庄市立本庄東小学校 吉永 佳代 教諭  
指導者 東京家政大学教授 太田 洋 氏

## 12 道徳教育研究会

- ①埼玉県道徳教育研究会 第32回夏季研修会  
鴻巣市文化センタークレアこうのす 8月5日(火)  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

## 13 特別活動教育研究会

- ①授業研究会 美里町立美里中学校 10月28日(木)  
授業者 美里町立美里中学校 大川 裕史 教諭  
指導者 北部教育事務所指導主事 藤村 敬一郎 氏
- ②授業研究会 上里町立神保原小学校 12月7日(火)  
授業者 上里町立神保原小学校 杉崎 航也 教諭  
指導者 北部教育事務所指導主事 藤村 敬一郎 氏

## 14 生徒指導教育研究会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

## 15 教育相談教育研究会

- ①講演会 熊谷市立江南北小学校 7月30日(金)  
【オンライン開催】  
講師 開善塾教育相談研究所長 藤崎 育子 氏  
演題 「不登校児童生徒への理解と保護者の支援の実際」

## 16 進路指導・キャリア教育研究会

- ①授業研究会 本庄市立本庄南小学校 12月7日(火)  
授業者 本庄市立本庄南小学校 小林 純夏 教諭  
指導者 北部教育事務所指導主事 中田 朋絵 氏
- ②授業研究会 上里町立上里中学校 1月27日(木)  
授業者 上里町立上里中学校 浅岡 勇輝 教諭  
指導者 北部教育事務所指導主事 中田 朋絵 氏

## 17 学校視聴覚・情報教育研究会

- ①授業研究会 美里町立美里中学校 10月20日(火)  
授業者 新井 靖広 教諭  
指導者 神川町立青柳小学校長 山崎 育樹 氏

## 18 学校図書館教育研究会

- ①講演会  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
- ②読書感想文コンクール  
・読書感想文コンクール審査会  
上里町男女共同参画センター 9月28日(火)

## 19 学校緑化教育研究会

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定されていた活動は中止した。

## 20 学校食育研究会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

## 21 保健主事教育研究会

- ①研修会（動画視聴による養護教諭との合同研修会）  
演題 「コロナ禍における学校の対応について」  
講師 北部教育事務所指導主事 阿久津 広真 氏

## 22 養護教諭研究会

- ①夏季研修会（動画視聴）  
8月5日(火)～9月30日(木)  
演題 「コロナ禍における学校の対応について」  
講師 北部教育事務所指導主事 阿久津 広真 氏

## 23 学校安全教育研究会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

## 24 特別支援教育研究会

- ①第60回埼玉県特別支援教育研究協議会本庄大会  
会期 8月24日(火)～9月10日(金)  
【オンライン開催】
- ②第21回児玉郡本庄市特別支援教育児童生徒作品展  
会期 12月4日(土)～5日(日)  
会場 本庄市児玉総合文化会館 「セルディ」

## 25 学校事務研究会

- ①研究発表会 本庄A班 12月8日(火)  
会場 本庄早稲田リサーチパーク  
内容 「コロナ」時代のICT活用ガイド  
～共同実施版ICT活用レシピ～

## 26 人権教育研究会

- ①郡市人権教育夏季研修会（動画配信）
- ②授業研究会 本庄市立金屋小学校 11月10日(火)  
授業者 吉田 遼平 教諭 平賀 涼子 教諭  
指導者 北部教育事務所指導主事 藤村 敬一郎 氏

## 27 主幹教諭・教務主任研究会

- ①郡市教育研究会主幹教諭・教務主任研修会  
日時 12月1日(火) 15:00  
会場 上里町立男女共同参画推進センター  
講師 北部教育事務所副所長 宮本 典行 氏  
題名 「主幹教諭・教務主任に期待すること」

## 28 学校栄養教諭研究会

- ①第1回研修会 6月25日(金)  
会場 本庄上里学校給食センター  
内容 各校のICT機器の確認
- ②第2回研修会 7月26日(月)  
会場 本庄上里学校給食センター  
内容 ICT機器を活用した食育指導の資料作成

## 29 環境教育研究会

- ①夏季研修会 8月3日(火)  
内容 エネワンソーラーパーク寄居の視察  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

## 30 国際理解教育研究会

- ①研修会 8月  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

# 12 深谷市教育研究会

## I はじめに

本研究会は小学校19校、中学校10校の計29校、会員数667名、48の研究部で組織されている。

学校教育各般の研究を行い、深谷市教育の振興を図ることを目的とし、「ふるさとを愛し、心豊かに、たくましく生きる児童生徒の育成をめざした学校教育の推進」が研究主題である。

また、主な事業として次のことを行う。

### 1 定期総会

### 2 各研究会・主任会

各研究部会は、原則年度3回の開催として、主任会を開催する。その他、小学校親善運動会、小・中学校音楽会、各種作品展、特別支援学級の合同学習会等を開催する。

### 3 教育講演会

### 4 研究紀要の発行

## II 活動概要

### ○ 定期総会

- ・開催日 4月13日(火)
- ・会場 各市内小・中学校でオンライン参加

### ○ 教育講演会

- ・開催日 8月20日(金)
- ・会場 深谷市立教育研究所  
各市内小・中学校でオンライン参加
- ・講師 水谷青少年問題研究所 水谷 修 氏
- ・演題 「壊されゆく子どもたち～今、私たちにできること、しなければならないこと」

### ○各研究部の活動

#### 1 国語科研究部（小学校）

- ・主任会 6月・8月・2月  
講演 国語科の指導と評価の一体化について  
講師 所沢市立泉小学校長 中田 利明 氏
- ・けやき審査会 7月6日(火)
- ・合同授業研究会 11月5日(金)【中止】

#### 2 社会科研究部（小学校）

- ・主任会 7月・8月・1月 オンライン

#### 3 算数科研究部（小学校）

- ・主任会 5月・8月・12月  
講演 「数学的な見方・考え方を働かせる算数指導」  
講師 深谷市教育委員会  
指導主事 荻野 貴弘 氏

#### 4 理科研究部（小学校）

- ・主任会 6月・8月【中止】、2月
- ・深谷市科学展審査会 9月28日(火)

#### 5 音楽科研究部（小学校）

- ・主任会 4月・8月・1月オンライン
- ・市内音楽会 10月19日(火)【中止】

#### 6 図画工作科研究部（小学校）

- ・主任会 6月・7月オンライン、11月

#### 7 体育科研究部（小学校）

- ・主任会 6月・8月・10月オンライン

#### 8 生活科研究部（小学校）

- ・主任会 6月オンライン・8月【中止】、2月

#### 9 家庭科研究部（小学校）

- ・主任会 8月・1月【中止】  
12月8日(水) 指導案検討

#### 10 外国語研究部（小学校）

- ・主任会 8月・10月【中止】、2月

#### 11 道徳科研究部（小学校）

- ・主任会 6月オンライン、8月 1月26日(水)  
講義 特別の教科道徳の動向について  
講師 北部教育事務所教育支援担当  
指導主事 芳賀 一行 氏

#### 12 総合的な学習の時間研究部（小学校）

- ・主任会 10月【中止】、2月

#### 13 教務主任研究部（小学校）

- ・主任会 7月オンライン、12月

#### 14 特別活動研究部（小学校）

- ・主任会 4月・10月・1月オンライン

#### 15 生徒指導研究部（小学校）

- ・主任会 8月・1月【中止】

#### 16 特別支援教育研究部（小学校）

- ・主任会 5月・7月・2月【中止】
- ・夢・きらきらアート展をクラウド上で開催

#### 17 人権教育研究部（小学校）

- ・主任会 8月オンライン、10月・2月【中止】  
講話 「学校における人権教育の推進」  
講師 上柴東小学校長 持田 倫武 氏

#### 18 教育相談研究部（小学校）

- ・主任会 6月【中止】、7月オンライン、2月  
講演 不登校児童生徒への理解と保護者支援の実際  
講師 元埼玉県教育委員長  
開善塾教育相談研究所長 藤崎 育子 氏

#### 19 図書館教育研究部（小学校）

- ・主任会 8月【中止】、9月、2月

#### 20 情報（視放）教育研究部（小学校）

- ・主任会 6月・7月【中止】、1月オンライン

#### 21 国語科研究部（中学校）

- ・主任会 7月、8月【中止】、8月

- 22 社会科研究部（中学校）**  
・主任会 8月、10月・1月【中止】
- 23 数学科研究部（中学校）**  
・主任会 8月、10月【中止】、1月オンライン
- 24 理科学研究部（中学校）**  
・主任会 4月・6月オンライン、2月
- 25 音楽科研究部（中学校）**  
・主任会 4月オンライン、6月【中止】、  
8月・2月  
講師 大寄小学校長 齋藤 直美 氏  
・中学校音楽会準備10月【中止】  
・深谷市中学校音楽会・研修会 11月4日(木)  
【中止】
- 26 美術科研究部（中学校）**  
・主任会 7月、11月
- 27 保健体育研究部（中学校）**  
・主任会 6月、8月【中止】、2月
- 28 女子体育研究部（中学校）**  
・主任会 6月、8月【中止】、2月
- 29 技術科研究部（中学校）**  
・主任会 9月、1月
- 30 家庭科研究部（中学校）**  
・主任会 9月、1月
- 31 英語研究部（中学校）**  
・主任会 6月、8月、9月
- 32 道徳研究部（中学校）**  
・主任会 8月・2月オンライン、11月【中止】
- 33 総合的な学習の時間研究部（中学校）**  
・主任会 4月オンライン、8月【中止】
- 34 教務主任研究部（中学校）**  
・主任会 6月オンライン、2月
- 35 特別活動教育研究部（中学校）**  
・主任会 4月オンライン、7月  
・生徒協議会  
8月3日(火)【中止】
- 36 進路指導・キャリア教育研究部（中学校）**  
・主任会 8月【中止】、2月オンライン
- 37 生徒指導研究部（中学校）**  
・主任会 6月、8月【中止】、2月
- 38 特別支援教育研究部（中学校）**  
・主任会 5月・7月・2月【中止】
- 39 人権教育研究部（中学校）**  
・主任会 4月オンライン、8月書面開催
- 40 教育相談研究部（中学校）**  
・主任会 7月オンラインで講演、8月、1月  
講演 不登校児童生徒への理解と保護者支援の実際  
講師 開善塾教育相談研究所  
所長 藤崎 育子 氏
- 41 図書館教育研究部（中学校）**  
・主任会 4月・8月・9月オンライン
- 42 情報（視放）教育研究部（中学校）**  
・主任会 8月【中止】、2月
- 43 書写研究部（小・中合同）**  
・主任会 5月オンライン、6月、11月、1月  
講師 埼玉県書道連盟元顧問 森 誠治 氏  
埼玉県立総合教育センター  
主任指導主事 中山 幸男 氏  
・深谷市書きぞめ展 1月22日(土)～23日(日)【中止】
- 44 保健主事研究部（小・中合同）**  
・主任会 6月・7月オンライン、1月  
保健主任会との合同研修  
講演 保健室での救急処置  
講師 埼玉医科大学総合医療センター  
救急科医師 浅野 祥孝 氏  
看護部看護師小児アレルギー  
エドゥケーター 佐藤 栄美子 氏
- 45 保健主任会（小・中合同）**  
・主任会 6月・7月・オンライン、2月  
講師 （公財）川野小児医学奨学財団ドクター  
演題 「保健室での救急処置」
- 46 安全教育研究部（小・中合同）**  
・主任会 8月【中止】、2月
- 47 学校食育（給食）研究部（小・中合同）**  
・主任会 8月、11月、2月
- 48 栄養士会（小・中合同）**  
・主任会 5月、8月、2月

### Ⅲ おわりに

2年間に及ぶコロナ禍で、予定していた活動の多くが変更を余儀なくされた。昨年度延期していた教育講演会は、オンラインで実施するなど工夫しながらの活動となった。

各研究部の活動においては、来年度に向けて、活動の見直しや工夫が更に必要となる。長期にわたる活動制限によって、今まで培ってきた市内研究部の横のつながりや学校同士の連携が希薄になっていくことが心配される。

何より子供たちへの教育の質の低下は避けなければならない。コロナ禍にあってもなお、子供たちへの教育の前進を図りたい。



# 13 行田市教育研究会

## I はじめに

本研究会は、小学校16校、中学校8校の教職員426名を会員とし、28の教科等研究部で組織された教育研究団体である。行田市内小・中学校の教育研究活動を促進するとともに相互の連絡を緊密にし、行田市教育の振興を図ることを目的とする。

また、この目的達成のため、次の事業を行う。

- 1 教育の研究に関すること
- 2 教育の調査に関すること
- 3 研究成果並びに資料等の作成刊行に関すること
- 4 教員の研修に関すること
- 5 県・市・地域の教育研究団体の連絡提携に関すること
- 6 その他、目的達成に必要な事業

## II 本会の組織

### 1 役員

会長1名、副会長2名、理事33名、監事2名、幹事1名

### 2 会計（令和3年度予算）

負担金 81,015円 助成金 300,000円  
繰越金 54,347円

### 3 教科等研究部

- (1)校長会 (2)教頭会 (3)教務主任 (4)養護  
(5)学校事務 (6)国語 (7)書写 (8)社会  
(9)算数数学 (10)理科 (11)生活・総合  
(12)音楽 (13)図工美術 (14)保健体育  
(15)家庭 (16)技術・家庭  
(17)外国語活動・外国語 (18)道徳  
(19)特別活動 (20)学校図書館  
(21)視聴覚・情報教育 (22)教育心理・教育相談  
(23)特別支援教育 (24)食育 (25)生徒指導  
(26)進路指導・キャリア教育 (27)幼年教育  
(28)人権教育

## III 本年度の活動方針と重点

### 1 活動方針

- (1) 未来を切り拓く教育の創造を目指して、着実な教育研究活動を継続し、行田市公立小・中学校教育の充実と発展に努める。
- (2) 学習指導要領と埼玉県及び行田市の教育行政重点

施策を踏まえて、関係諸機関・団体との連携を密にして、真摯に教育研究活動を進め、教育諸課題の解決に努める。

- (3) 郷土を愛し、地域社会の発展や国際社会の進展に貢献する人間の育成を目指して、質の高い教育研究活動を進め、その実現に努める。

## 2 重点

- (1) 確かな学力の向上を図るため、小・中学校9年間の連続性を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教育研究活動を推進する。
- (2) 豊かな心と健やかな体を育て、たくましく生きるための力を育む教育研究活動を一層推進する。
- (3) キャリアステージに応じた教員の資質・能力の向上を図るため、組織的・継続的な教育研究活動を一層推進する。

## IV 本年度の活動概要と各教科等の研究主題

### 1 活動概要

- (1) 理事会 (年2回)
- (2) 各教科等主任研究協議会 (年2～3回)  
・授業研究会、実技研修、作品審査会、講演 等も実施
- (3) 行田市教育研修大会（全職員参加の全体研修）  
令和3年7月20日(火)、7月21日(水)
- (4) 研究委嘱・研究発表  
・研究発表会 令和3年11月17日(水)  
西小学校、泉小学校、西中学校（小中一貫教育）  
・研究委嘱 令和4年度発表  
南小学校、下忍小学校、行田中学校  
(小中一貫教育)

### 2 各教科等の研究主題

- (1) 校長 学習指導要領の具現化を目指した学校経営
- (2) 教頭 学校課題に正対し、課題解決できる学校力の向上と教頭の職務～『行田 うきしろの教育』の実践を通して～
- (3) 教務主任 学習指導要領の趣旨を生かした創意工夫ある教育課程の編成・実施
- (4) 養護 養護教諭の職務上の諸課題とその対応  
「新型コロナウイルス感染症対策を中心に」
- (5) 学校事務 年度末・年度当初の事務処理について
- (6) 国語 生活に活用できる言語能力の定着を図るた

めの指導過程の工夫

- (7) 書写 基礎・基本を身に付け、主体的に書写を楽しむ児童生徒の育成
- (8) 社会 ICTを効果的に活用した社会科授業の実践  
社会科における指導と評価の一体化
- (9) 算数数学 指導内容の系統や関連を踏まえ、児童一人一人を確実に伸ばす指導の充実
- (10) 理科 学習指導要領の確実な実施と授業改善のための指導・評価サイクルの確立
- (11) 生活・総合 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す学習活動の展開と評価の工夫
- (12) 音楽 音楽的な「見方・考え方」を働かせることができるよう指導のねらいや手立てを明確にし、思考・判断し、表現する一連の過程を大切に学習指導の工夫
- (13) 図工美術 (小・中) 一人一人の資質や能力を高める指導と評価の計画を活用し、その改善と充実を図る (小) 学習環境を整備し、つくりだす喜びを十分に味わい、造形的な創造活動の基礎的な能力を培う授業展開の工夫に努める (中) 学習環境を整備し、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育て、美術の基礎的な能力を伸ばす授業展開の工夫に努める
- (14) 保健体育 運動の特性や魅力を味わわせ、体力と運動の技能を高める授業の実践
- (15) 家庭 自分の生活を見つめ、家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成
- (16) 技術・家庭 教科及び分野の目標を踏まえた「指導と評価の一体化」
- (17) 外国語・外国語活動 指導と評価サイクルの確立に向けた授業実践
- (18) 道徳 心に響く道徳の時間の指導方法の工夫  
・年間指導計画の活用  
・自己の生き方についての考えを深める指導法の工夫
- (19) 特別活動 新学習指導要領における特別活動の展開
- (20) 学校図書館 学校図書館の効率的な運用と計画的な読書指導の推進
- (21) 視聴覚・情報教育 ICTを効果的に活用した、個別最適な学び・協働的な学びの実現
- (22) 教育心理・教育相談 学校教育相談体制の充実と実践
- (23) 特別支援教育 児童生徒一人一人の障害の状況及び特性に応じて、ICTを活用した指導・支

援の充実を図る

- (24) 食育 望ましい食習慣の形成と食事環境の充実
- (25) 生徒指導  
(小) 心豊かな児童の育成を目指す生徒指導  
(中) 生徒一人一人の自己指導能力の育成を図る生徒指導
- (26) 進路指導・キャリア教育 自らの生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう進路指導・キャリア教育の充実を図る
- (27) 幼年教育 生きる力を育むための保幼小の連携
- (28) 人権教育 人権教育を正しく理解し、人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする児童生徒を育成する

## V 特色ある活動

行田市教育研修大会（オンラインによる全体研修）

・第一部 令和3年7月20日(火)

行田市教育行政の方針、教育研究会活動方針の説明

・第二部 令和3年7月21日(水)

(1) 講義・演習

授業で活用できるタブレットの機能

(2) ワークショップ型研究協議

学習場面（導入、展開、終末）に応じたICT機器の活用



〈オンラインによる講義〉 〈ワークショップ型研究協議〉

ICTを効果的に活用し、密を避けながら、教職員の研修を深めることができた。

## VI おわりに

本研究会では、行田市の教育大綱に則り、「郷土に誇りを持ち 未来を切り拓く人材を育む」教育を目指し、教育研究活動を継続してきた。本年度も、感染症拡大防止のため、変更・中止等を余儀なくされた活動が多い。しかし、今、できる対策を取りながら、会員の知恵と努力により、活動を続けてきた。

今後も、組織的・継続的に各部の研究活動を推進し、行田市の教育の充実と発展のために力を尽くしていく。

# 14 久喜市教育研究会

## I はじめに

新型コロナウイルス感染症防止対策として、令和2年度には、年度当初予定していた全員研究協議会・総会・研修会が中止となった。全員研究協議会に替わって各教科等の顧問が中心となり、組織、重点目標、及び活動計画の調整を行い、その後に会員による紙面決議を得て、およそ10月よりの活動が開始された。しかし、多くの行事が、新型コロナウイルス感染症防止対策により、縮小・中止等が余儀なくされた。できるだけ集合型の研修会は避け、実施する場合も三密の回避ができるように、大きな会場の確保やオンラインでの実施を工夫して実施した。GIGAスクールの構築による環境整備が実施され、各学校での研修等も推進されたことから、オンラインを活用しての会議が、円滑に行えるようになった。そのため、令和2年度末には、理事・部長研究協議会をオンラインで実施することができた。令和3年度は、オンラインを有効活用し、全員研究協議会、総会及び研修会を実施することになり、本年度の活動がスタートすることとなった。

本年度の事業を進めるにあたって、久喜市教育委員会より、主催行事、各教科等行事を実施する上でのコロナ禍での集会となることから、総会資料を基にした集会の一括申請（許可）は行わないとの指導があった。時期や内容に応じたコロナ対策を、個々の事業において明記して申請することが必要となった。手続きが増えた分、申請にあたっては、電子メールを活用することで、速やかに連携がとれるように体制を整えた。同時に開催通知も各校へ電子メールで送付することとした。

## II 久喜市教育研究会の概要

### 1 会員と専門部

久喜市教育研究会は、「久喜市立小・中学校教職員の職能向上と教育の振興を図る」ことを目的に、小学校22校、中学校11校、計33校、会員数は約720人の研究会である。

本会では、目的を達成するために、「学校教育に関する研究及び調整」「講演会、研究会及び会員の研修に関する事業」「久喜市立小・中学校の児童生徒の文化的・体育的行事の開催」「他教育団体との連絡提携」「その他目的達成に必要な事業」を実施している。

## 2 主な活動

- 全員協議会
- 総会・研修会（5月）
- 理事・部長研究協議会（4月、3月）
- 部長研究協議会（6月、1月）
- 主催事業
  - ・久喜市小学校陸上競技大会
  - ・久喜市小・中学校硬筆審査会
  - ・久喜市小学校発明創意くふう展
  - ・久喜市中学校発明創意くふう展
  - ・久喜市中学校英語弁論大会
  - ・学校図書館教育研究部読書感想文審査会
  - ・久喜市小・中学校科学教育振興展覧会
  - ・久喜市小・中学校音楽会
  - ・久喜市小・中学校児童生徒美術展覧会
  - ・久喜市書きぞめ展覧会

### ○各教科等事業

- ・国語、書写、社会、算数・数学、理科、音楽、図工・美術、保健体育、外国語活動・外国語、総合的な学習の時間、道徳、特別活動、特別支援教育、教育心理・教育相談、情報教育、学校図書館、生徒指導、進路指導・キャリア教育、人権教育、学校安全教育、学校食育、学校保健、養護教員、学校事務、教務（以上小中共通）、生活、家庭（小のみ）、技術・家庭（中のみ）
- 各教科、原則年1回の実施を基本とする。

## III コロナ禍での活動

### 1 全員協議会

令和3年4月14日(水) 実施  
Google Classroom Meetを使用

- (1) 学校代表アカウントで、「久喜市教育研究会」のGoogle Classroomに入る。
- (2) スプレッドシートに、各教科研究部の会議室（Google Meet URL）を貼り付けて置き、そこから各教科部会に参加する。
- (3) 部会を半分に分け、前後半に分けて実施した。
- (4) 役員、重点目標、事業計画を協議し、部長は久喜市教育研究会の共有ファイルに保存する。
  - ・比較的混乱なく協議を進めることができたが、一部の教科部会でURLが開かず、対応として使用していなかった他部会のURLを使用することで協議を進めることができた。

## 2 理事・部長研究協議会 令和3年4月21日(水)

Google Classroomで各校を繋いで実施  
(協議会資料については、研究協議会共有フォルダーに保存して配付)

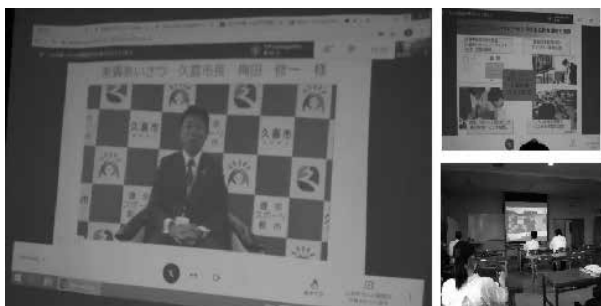
- (1) 事務局から事業の進め方について説明し、質疑応答を行った。(同時に録画)
- (2) 録画したものを、久喜市教育研究会のGoogle Classroomに貼り付け、後日でも視聴することができるように配慮した。校内行事や機器不良により視聴できなかった場合は、後日確認してもらった。

## 3 総会、全体研修会等

- (1) 総会(紙面表決、5月6日(木)までに回答)  
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一堂に会しての総会は実施せず書面表決とした。
  - ① 総会資料を共有フォルダーから確認する。
  - ② 個人アカウントでネットに接続し、Gmailを開く。
  - ③ 「書面表決について」をクリックし、画面URLからGoogleフォームに進み、「賛成(承認)」か「反対」を選択し、回答する。
  - ④ 最後に送信ボタンを押す。  
表決方法の説明資料の配付、各校における呼び掛けや支援が必要であったが、概ね順調に実施することができた。

### (2) 全体研修会

昨年度、新型コロナ禍で、研修会において講演していただく予定であった、梅田 修一久喜市長に、「久喜市の教育に期待するもの」との演題により、オンラインで講演をしていただいた。久喜市役所市長応接室に、市教研前年度・今年度の会長・副会長のみが参加し、会員は各学校で視聴する形で行った。配信にあたっては、久喜市教育委員会指導主事の先生方の支援をいただき円滑に実施できた。



講演を通して、市政と学校教育の結び付きを改めて確認できた。

### (3) 主催行事

多くの展覧会や協議会等を予定していたが、コロナ禍で、通常実施することは困難となった。作品の審査会のみ行ったり、公開を参加者の保護者のみとしたりと、変更を余技なくされた。中でも音楽会

は、感染対策により練習も充分に行えないことから中止となった。通常のとおりできなかったものの、工夫して開催できた主催行事を2つ紹介したい。

### ① 久喜市小学校陸上大会

例年5月下旬に予定されている大会であるが、昨年度は休校下であることから、秋に各校での開催へと変更になった。行事調整が難しいことから、期間を約一か月間とって各校での実施となった。本年度も、同一会場での開催は行わず、各校で開催して記録を集計して競う形となった。日程は、当初の計画どおり6月1日(火)とし、予備日を翌日に設けた。また、クラス全員リレーは、50M走の記録の平均で競った。



### ② 久喜市小・中学校児童生徒美術展覧会

本年度は、毎日興業アリーナでの開催は行わず、作品を各校のHPで公開する形に変更した。直接鑑賞することはできないものの、多くの方が安心して作品を鑑賞できるメリットがあった。各校のHPをリンクすることで、他校の作品も容易に鑑賞することが可能となった。作品の運搬で作品を壊す心配もないのもメリットだった。ただ、ネット上の個人情報保護の観点から、出品者名は匿名としての公開となった。

### (4) 各教科等事業

各教科の部会において、工夫して研究授業を実施した。部長・副部長のみ現地に行き、教師カメラや児童カメラとして撮影して配信し、オンラインで協議したり、授業の撮影動画を久喜市教育研究会のClassroomに掲載し、会員に視聴後、意見や感想を送付する形にしたり、小学校や中学校のみや中学校区のみと参加者を限定したりと、様々な工夫の中、事業を進めた。

## IV 今後の活動について

新型コロナウイルス感染症収束の見通しが見えない中、更なる工夫や改善が必要となっている。同時にコロナ禍だからこそ、新たな挑戦により効率化が図れたこともあり、コロナ終息後もよい取組を生かしながら事業を進めていく予定である。

# 15 幸手市教育研究会

## I 幸手市教育研究会の概要

### 1 会員と専門部

幸手市教育研究会は「市内小・中学校職員の連携を密にするとともに、会員相互の研究活動を盛んにし、市教育の振興を図ることを目的にし、小学校9校、中学校3校、会員数は256名の研究会である。

## II 主な活動

- ・ 4月 新理事研究協議会 総務委員会  
新日本部役員研究協議会  
教科等専門部研究協議会
- ・ 5月 総会並びに全員協議会 教育講演会
- ・ 11月 市教育委員会・市教育研究会委嘱研究発表会
- ・ 2月 本部役員研究協議会 ・ 3月 会計監査
- ・ 年間を通して各部会（27部会）や委員会（3委員会）の事業（授業研究会や講演会など）が行われている。

## III 特色ある活動

### 1 幸手市教育研究会総会並びに全員協議会

令和3年5月7日(金)に、リモートによる総会、講演会を実施した。総会は、各学校で資料を読み合わせし、事業報告や計画案、決算報告や予算案、新役員の審議や承認を行った。また、市内の3校に新たに研究委嘱をし、委嘱状を交付した。

講演会は、岐阜大学の巽 徹 先生のお話をZoomで何うことができた。テーマは、『「小・中学校の英語教育」～今どきの英語の授業の様子～』とし、イギリスの学校教育との違いや、実際の授業の様子に触れながら、学習指導要領の目標で小・中学校の外国語や英語でどんなことが求められているのかをご講演いただいた。

### 2 幸手市教育委員会・幸手市教育研究会委嘱研究発表会

令和3年11月5日(金)に、市内委嘱を受けている3校一斉に研究発表会が開催された。

#### (1) 幸手市立権現堂川小学校（学力向上）

- ・ 自ら学び、考え、表現できる児童の育成

～学びあい、支えあう授業づくりを通して～

課題意識をもって学級づくり・授業づくりの改善を図り、児童の学力向上・体力向上を目指すことと児童が主人公である授業を作り続けることを目的とし研究を進めた。

確かな学力を身に付けることができる課題のある授業や児童が挑戦したくなる課題のある授業など、目指す授業や授業参観、研究協議の視点を明らかにして研究を進めた。



【グループでの学び合いの様子】

#### (2) 幸手市立長倉小学校（学力向上）

- ・ 自らの学びを「実感」できる授業の創造

～「わかった」「できた」「またやりたい」を実感できる算数科の学習を通して～

伝え合いの場面で、互いの考えを効果的に伝え合い、自分の考えを深めることで、基礎的な知識・技能を身に付け、論理的に考える児童、学習の成果を生かして、新たな課題に意欲的に取り組むことができる児童、学習を楽しむ児童の育成を図った。

学習過程の分かる板書やノートの使い方を校内で統一するとともに、児童同士の効果的な交流にも着目し、自力解決の充実や思考力と表現力の向上を目指した。



【4年 算数 「計算のやくそくを調べよう」】

タブレットに示されたドットの並び方やまとまりに着目して、早く、簡単に、正確に数える方法について試行錯誤している場面

#### (3) 幸手市立さくら小学校（体力向上）

- ・ 生き生きと学び、主体的に取り組む児童の育成

～一人一人が自己の体力の伸びを実感できる実践を通して～

運動能力の向上、精神面（気持ち）の向上、よりよい生活習慣の追求を図り、バランスよく融合させ、継続的に運動をすることで自らの運動能力の伸びを実感できる児童、自らのよりよい生活習慣を追求できる児童の育成を図った。

授業研究会では、運動はもちろん、健康な体作りにも焦点を当て、研究を進めた。授業だけでなく、コロナ禍における家庭での取組や各種教室や大会を開催し、体力の向上を図った。



【6年 体育 「ハーフバスケットボール」】  
【フリースペースを生かしてシュートにつながる動きを試技している様子】

### 3 主な各部会の活動

#### (1) 教務部会

- ・学力向上推進協議会 (10月・11月・2月)

学力向上推進協議会では、幸手市の学力テスト（県学力学習状況調査や全国学力・学習状況調査、業者テスト）を分析し、弱点克服に向けたワークシートや確認テストづくりを行っている。今までに小学校全学年の算数、中学校の数学と英語については1学期用（ワークシートは7月から確認テストAは9月）、2学期用（ワークシートは12月から、確認テストBは1月）と作成している。

本年度は、小・中学校とも国語のワークシート、確認テストづくりにも着手し、幸手市内全体の学力向上に取り組んでいる。

#### (2) 特別支援教育部会

- ・手をつなぐ子らの交歓会 2月18日(金)

各学校の特別支援学級に在籍している児童生徒の交流、発表の場として、年に1回一堂に会し、交歓会を行っている。本年度はリモート発表の学校と、会場発表の学校に分かれて、日頃の学習の成果を発表した。一人一人に活躍の場が数多く設定され、発表を通して、自信を深める機会となっ

ている。

#### (3) 人権教育部会

- ・幸手市人権作文発表会 12月5日(日)

各学校で書かれた人権作文について、優秀なものを冊子にし、その中でも特に優秀なものについては、市内各学校から1名ずつ選ばれ、幸手市北公民館のホールで、本年度は中学校区ごとに時間をずらして発表会を行った。幸手市教育委員会や市の人権課の協力も得て、多くの方々の参加を得、市民の人権啓発にも生かされている。



#### (4) 図工・美術部会

- ・授業研究会 12月1日(水) 1年生 図工

幸手市立上高野小学校を会場にし、リモートで授業研究会を行った。指導者と部長、副部長が会場に集まり、部員は各学校で授業を参観し、協議し、指導を受けた。授業の様子は部長、副部長でカメラを分担し、研究協議は市内で共有しているTeamsを活用した。



### IV 今後の活動について

コロナ禍において協議会を中止したり縮小したりする部会も多くあった。その中でも、感染症対策をして部会を開催したり、リモートで授業研究会を開催したりと工夫して取り組めることも多かった。

今後も一人一人に配られたタブレットパソコンや電子機器などを駆使し、幸手市の子供たちの力になるような活動を推進していく。

# 16 杉戸町教育研究会

## I はじめに

本研究会は、杉戸町内の小学校6校、中学校3校からなる教育研究会である。令和3年度の総会員数は201名である。埼玉連合教育研究会に属している。

## II 本年度の基本方針と重点

### 1 運営方針

関係機関、団体との綿密な連携の下に、会員相互の連携を深め、教職員の資質の向上と人間性豊かな児童生徒の育成に努め、杉戸町教育の充実を図る

### 2 重点目標

- (1) 学習指導要領の着実な実践と心の教育の充実を図る。
- (2) 豊かな心を育てる生徒指導の充実を図る。
- (3) 基礎・基本の確実な定着と学ぶ喜びが味わえる授業の創造を図る。
- (4) 各種教育関係機関及び諸団体との交流に努める。

## III 本研究会の取組

### 1 杉戸町教育研究会全体事業

#### (1) 総会に向けての取組

年度当初の感染状況を鑑み、常任理事会において、下記の運営にて本会を進めることとした。

総会については、事前に常任理事会で検討した総会資料を基に、書面決議とした。総会に合わせて行う予定だった講演会は中止とした。

#### (2) 年度当初専門部研究協議会

年度当初の専門部研究協議会は、感染状況を考え中止とした。

本年度の部長等の役職及び年間計画については、前年度部長が中心となり新会員と連絡調整をしながら決定した。

#### (3) AED講習会

専門部事業として杉戸町消防署にて行われている新会員に向けたAED講習会については、昨年度に引き続き中止とした。

#### (4) 展覧会、発表会等

各種展覧会、発表会については、その目的や内容等について改めて検討し、精選を図ることとした。

また、開催の可否については、開催時期の感染状況を基に判断することとした。

なお、小学校町内陸上大会は、学校規模の格差が大きくなり、選手の編成も含めて、本来の目的を達成することが難しくなったため、今年度より廃止とした。

## 2 各部会の活動

各教科等においては、本町教育委員会「学力向上プロジェクト」と連携を図りながら、「主体的・対話的で深い学びの視点に立って、授業改善を行い質の高い学びを実現する」ための授業改革を推進している。

### (1) 国語

10月26日(火) 杉戸中学校

- ・授業研究会 3年 「自らの考えを」
- ・学力向上プロジェクトとの共同研究

### (2) 書写

5月13日(木) 東中学校

6月4日(金) 西公民館

- ・硬筆展準備及び審査・県展準備

11月10日(水) 東中学校

- ・書きぞめ実技研修

1月14日(金) カルスタすぎと

- ・書きぞめ展審査会

上記 指導者 県書写書道連盟顧問

荻田 哲男 氏

### (3) 算数・数学

7月9日(金) 杉戸中学校

- ・授業研究会 2年 「連立方程式」
- ・指導者 前原中学校校長 長井 勝利 氏

### (4) 理科

9月22日(水) 杉戸小学校

- ・埼玉県小・中学生科学コンクール
- 埼玉連合杉戸支部予選審査会

### (5) 音楽

6月16日(水) 高野台小学校

- ・授業研究会 6年
- 「いろいろな音色を感じ取ろう」
- ・指導者 宮川小学校校長 田矢 真理 氏

### (6) 図工

12月3日(金) 杉戸中学校

- ・県小・中学校児童生徒美術展埼玉地区展
- 杉戸町内小中学校美術展

- (7) 家庭  
9月14日(火) 杉戸第三小学校  
・発明創意くふう展及び研究協議会
- (8) 外国語  
11月19日(金) 杉戸第二小学校  
・授業研究会 5年  
「When is your birthday?」  
・指導者 武蔵野中学校長 原田 肇子 氏  
9月10日(金) アスカル幸手  
・英語弁論大会(幸手・杉戸)
- (9) 道徳科  
9月14日(火) 高野台小学校  
・授業研究会 1年 「くりのみ」  
・指導者 杉戸第二小学校長 関本 由美 氏
- (10) 特別活動  
1月25日(火) 杉戸第三小学校  
・授業研究会 6年  
・「自信をもって中学に行くために」  
・指導者 杉戸中学校教諭 阿久津 勇人 氏
- (11) 特別支援  
10月22日(金) オンラインにて  
・「みんな幸せ・共生社会 県民のつどい」  
及びレク大会事前打合せ  
12月2日(木) 作品搬入  
12月6日(月) 作品搬出  
・「みんな幸せ・共生社会 県民のつどい」  
12月24日(金) オンラインにて  
・なかよし記念集会の事前打合  
1月25日(火) オンラインにて  
・なかよし記念集会
- (12) 学校教育相談部研究協議会  
10月20日(水) 杉戸中学校  
・事例研修会  
・指導者 県スクールカウンセラー  
小松 裕子 氏
- (13) 学校図書館教育  
9月8日(水) 西小学校  
・町内読書感想文審査  
・県読書作文コンクール出品作品の審査
- (14) 生徒指導  
12月10日(金) 宮代町立須賀中学校  
・生徒指導上の諸問題に対する研究協議会
- (15) 学校給食  
6月10日(木) 学校給食センター  
・実践報告会及び研究協議会
- ・食育の取組実践報告・研究協議会  
「望ましい食習慣について」
- (16) 養護  
7月16日(金) 東中学校  
○研究協議会  
・新型コロナウイルス感染症防止対策  
・学校環境衛生検査について  
・就学時健康診断について  
・研究課題  
9月15日(水) 広島中学校  
○研究協議会及び講話  
姿勢に関するアンケート結果  
・講話「児童生徒の姿勢の大切さについて」  
・講師 グローバル・オリエンタル・メディ  
シン代表取締役 馬場 茂明 氏  
12月22日(水) 泉小学校  
○協議  
・今年度の研究課題について  
・健康カードの必要部数等の確認  
・来年度の就学時健康診断について  
・新型コロナウイルス感染症・救急処置等の  
情報交換
- (17) 事務  
7月21日(水) 西小学校  
○協議  
・学校予算の手引き  
・重点目標の達成状況

#### IV おわりに

昨年度は、ほとんどの活動が中止となってしまったが、本年度は、感染防止を十分に行いながらオンラインを活用した研修等、工夫して活動できた部会が多かった。

今後も、オンラインによる協議や「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにICTを活用した学習がますます増えてくることが予想される。杉戸町教育研究会も、さらに研究を深め、次世代を担う児童生徒の育成のための取組を邁進していく。





令和3年度

# 研究論文集

I 令和3年度研究論文入賞者・応募者等一覧	130
< 入 選 > 《個人研究》	
器械運動の楽しさを味わい、主体的に運動に取り組む児童を育成する体育科授業の事例的研究 ～「評価」を助ける観察的評価法の開発と学習カード、ICTの活用に焦点を当てて～【体育】	132
三郷市立早稲田小学校 教諭 中嶋 圭一郎	
< 入 選 > 《個人研究》	
自尊感情・学級集団意識を向上させる体育授業の研究 ～「ゲーム修正論」「戦術アプローチ」を基にした「陣取り型ゲーム」の 系統的指導に関する検討と実践～【体育】	138
さいたま市立善前小学校 教諭 中村 直紀	
< 入 選 > 《個人研究》	
自らが主体的にいのちを守る力を育む防災教育をめざして ～中学校社会科地理的分野「地域調査の手法」の単元開発を通して～【社会】	144
久喜市立栗橋西中学校 教諭 青柳 慎一	
< 佳 作 > 《個人研究》	
入院中の生徒へのICTを活用した校外学習の取組 ～コロナ禍でもできる！ 体験的活動への試み～【総合的な学習の時間】	150
埼玉県立けやき特別支援学校 教諭 橋本 幹征	
< 新人奨励賞 > 《個人研究》	
外国語科における「話すこと」の思考力、判断力、表現力の育成 ～3ヒントクイズを通じて宣言的知識と手続きの知識を統合、活用する児童を目指して～【外国語科】	156
さいたま市立下落合小学校 教諭 有江 聖	
II 令和4年度研究論文募集要領等	162

# I 令和3年度研究論文入賞者・応募者一覧

## 1 入賞者

### (1) 入 選 【3名】

【敬称略】

No.	氏 名	所 属 校 名	職 名	教科等	形 態
		研究テーマ			
1	中嶋圭一郎	三郷市立早稲田小学校	教 諭	体 育	個人研究
		器械運動の楽しさを味わい、主体的に運動に取り組む児童を育成する体育科授業の事例的研究 ～「評価」を助ける観察的評価法の開発と学習カード、ICTの活用に焦点を当てて～			
2	中村 直紀	さいたま市立善前小学校	教 諭	体 育	個人研究
		自尊感情・学級集団意識を向上させる体育授業の研究 ～「ゲーム修正論」「戦術アプローチ」を基にした「陣取り型ゲーム」の 系統的指導に関する検討と実践～			
3	青柳 慎一	久喜立立栗橋西中学校	教 諭	社会科	個人研究
		自らが主体的にいのちを守る力を育む防災教育をめざして ～中学校社会科地理的分野「地域調査の手法」の単元開発を通して～			

### (2) 佳 作 【1名】

【敬称略】

No.	氏 名	所 蔵 校 名	職 名	教科等	形 態
		研究テーマ			
1	橋本 幹征	埼玉県立けやき特別支援学校	教 諭	総合的な学習の時間	個人研究
		入院中の生徒へのICTを活用した校外学習の取組 ～コロナ禍でもできる！ 体験的活動への試み～			

### (3) 新人奨励賞 【1名】

【敬称略】

No.	氏 名	所 蔵 校 名	職 名	教科等	形 態
		研究テーマ			
1	有江 聖	さいたま市立下落合小学校	教 諭	外国語科	個人研究
		外国語科における「話すこと」の思考力、判断力、表現力の育成 ～3ヒントクイズを通じて宣言的知識と手続き的知識を統合、活用する児童を目指して～			

## 2 応募者 【入賞者を除く6名】

【敬称略】

No.	氏名	所属校名	職名	教科等	形態
1	森脇 瑞貴	戸田市立戸田第二小学校	教諭	理科	個人研究
		研究テーマ 小学校高学年における性教育プログラムの開発 ～国際セクシュアリティ教育ガイダンスに基づく包括的性教育の実践研究～			
2	小川祐太郎	熊谷市立新堀小学校	教諭	国語	個人研究
		生きて働く言語能力「言葉を通じて伝え合う力」の育成 ～国語科における「深い学び」を要とした教科等横断的な指導を通して～			
3	川野辺昌史	秩父市立花の木小学校	教諭	体育	個人研究
		学び合いの活性化で「楽しく、できた!」と思える体育授業の実践 ～児童が学び合い、全員が成功体験を味わえる授業を目指して～			
4	恩田 ルイ	毛呂山町立毛呂山中学校	教諭	道徳科	個人研究
		道徳科の充実を図る授業づくりと体制づくり			
5	鈴木 慎一	越谷市立富士中学校	教諭	社会科	個人研究
		公民的資質を効率よく高める学習法 ～模擬裁判の実践を通じて～			
6	中村 久恵	川越市立川越第一小学校	教諭	学級経営	個人研究
		対話的な学びの実践と教育的効果 ～「フリー発言」を通じた学級づくり～			

## 3 辞退者 【1名】

# 器械運動の楽しさを味わい、主体的に運動に取り組む 児童を育成する体育科授業の事例的研究

～「評価」を助ける観察的評価法の開発と学習カード、ICTの活用に焦点を当てて～

三郷市立早稲田小学校 教諭 中嶋圭一郎

## I 研究の目的

<sup>1)</sup> 埼玉県教育委員会（2021）埼玉県指導の重点では、総論の中で、「新たな学びを創造するためのICTの活用」の推進が示された。また、体育科においては、「運動の特性や魅力を味わうことのできる授業実践」が継続して課題として挙げられ、指導内容が確実に身に付くような指導方法の工夫や指導内容の定着を確実に評価する方法と、評価を次の指導に生かす方法を工夫し、指導と評価の一体化を図ることが求められている。筆者は、上に示された「評価」に目を向け、評価の改善の必要性を強く感じている。

学習評価の改善の方向性については、<sup>2)</sup> 文部科学省（2020）に、①児童生徒の学習改善につながるもの、②教師の指導改善につながるもの、③これまで慣行として行われてきたことの見直しの3点が示されている。しかしながら、「評価の改善」に目を向けた実践はこれまで多く行われていない。

そこで本研究では、授業改善の視点を「評価」に向け、上の①児童生徒の学習改善につながるもの、②教師の指導改善につながるものに視点を当てながら、学習カードやICTの効果的な活用を行うことで資質・能力を身に付けるのに効果があるか検証していく。

## II 研究の方法

### 1 研究対象

三郷市立早稲田小学校4年2組 26名

三郷市立早稲田小学校4年3組 26名

### 2 調査方法及び手順

(1) 主体的に運動に取り組めたかどうかを示すために、全8時間<sup>3)</sup> 高橋（2003）の形成的授業評価「意欲・関心」の次元の推移分析を行う。

(2) 児童が器械運動を楽しんだかを示すためには、<sup>4)</sup> 文部科学省（2015）に「器械運動は『できない動き方』を『できる』ようにする運動学習」と示されていることから、本研究の器械運動の楽しさを「できる」と「わかる」に焦点を当てていく。

①「できる」においては、【図1】のように<sup>5)</sup> 土谷（2014）や<sup>6)</sup> 金子（1987）を参考に体育系大学教授2名とトライアングレーションを重ね、技能を六

つに細分化し、それぞれ3点満点を配点した観察的評価法を作成し点数の推移の分析をした。

【図1 「できる」における観察的評価法】

内容	註	基準
第一踏切り	3	第一踏切りから大きく空間をとり、両足で力強く踏み切っている。
	2	両足で踏み切っている。
	1	2に至らない
第二踏切り	3	踏み切った直後に、膝をそろえまっすぐ伸ばしている。
	2	踏み切った直後に膝を伸ばしている。
	1	2に至らない
着手	3	跳び箱手前に着手し、腰を高く保ち体を支持している。
	2	跳び箱手前に着手している。
	1	2に至らない
回転(膝)	3	膝をそろえてまっすぐ伸ばし、足を投げ出して回転している。
	2	膝を伸ばして回転している。
	1	2に至らない
回転(腰)	3	腰を高く保ち、腰角を広く保ちながら回転している。
	2	腰を高く保ち回転している。
	1	2に至らない
着地	3	足の速度を上半身に伝え、体を起こし、膝を柔らかく曲げ安定して着地している。
	2	足の速度を上半身に伝え、体を起こし、着地している。
	1	2に至らない

②「わかる」においては、<sup>7)</sup> 木村（2000）、<sup>8)</sup> 大後戸（2017）<sup>9)</sup> 杉原（2008）を参考に技の行い方に関わる知識的な「わかる」【図2】と課題解決につながる、課題を見付ける、課題解決の活動を選ぶ、自分の考えを友達に伝えるといった課題解決に関わる「わかる」【図3】に分け観察的評価法を作成し点数の推移の分析を行った。

【図2 知識的な「わかる」の観察的評価法】

ポイント	学習内容(本時のめあて)	註	基準
「膝を伸ばすこと」について	第2時 「台上前転と伸膝台上前転の違いやコツを見付けよう」	3	跳び箱上の前転において、膝を伸ばすことやどのように伸ばすか具体的に言ったり書いたりしている。
		2	跳び箱上の前転において、膝を伸ばすことに違いがあることを言ったり書いたりしている。
		1	記述なし、又は上記の内容以外
	第3時 「膝を伸ばすタイミングとコツを見付けよう」	3	跳び箱上の前転において、踏み切った直後に膝を伸ばすことについて具体的に言ったり書いたりしている。
		2	跳び箱上の前転において、踏み切った直後に膝を伸ばすことを言ったり書いたりしている。
		1	記述なし、又は上記の内容以外
「肘を高く保つこと」について	第4時 「技をダイナミックにするための着手のコツを見付けよう」	3	跳び箱上の前転において、肘を伸ばし着手することで腰が高くなることや、回転時には肘を曲げることに具体的に言ったり書いたりしている。
		2	跳び箱上の前転において、肘を伸ばし着手することで腰が高くなることや、回転時肘を曲げることに言ったり書いたりしている。
		1	記述なし、又は上記の内容以外
	第8時 伸膝台上前転のコツを振り返る	3	跳び箱上の前転において、膝を伸ばすことや腰を高くすることについて具体的に言ったり書いたりしている。
		2	跳び箱上の前転において、膝を伸ばすことや腰を高くすることについて言ったり書いたりしている。
		1	記述なし、又は上記の内容以外

【図2】の基準の中にある「具体的」とはポイントとコツの両方について言ったり、書いたりしている児童を指す。ポイントとコツの違いは、ポイント

は全員共通で学ぶ技能の内容（例：膝を伸ばす等）であり、コツはポイントを行うための自分特有のもの（例：太ももに力を入れて膝をピンと伸ばす等）であるとし、第1時に全体に指導し共通理解を図った。

【図3 課題解決に関わる「わかる」の観察的評価法】

学習内容(本時のめあて)	記	基準
第5時(第6時) 「課題を見付け場を選ぶことができる」	3	跳び箱上の前転において課題を見付け適切な場を選び活動の理由を書くことができる。
	2	跳び箱上の前転において課題を見付け適切な場を選ぶことができる。
	1	記述なし、又は上記の内容以外、場の選び方が不適切である。
第7時 「課題解決方法や技のできばえについて友達と伝え合うことができる」	3	伸膝台上前転の技のできばえやアドバイス、自身の課題解決の仕方を具体的に友達に伝えたりそれらの内容を書いたりしている。
	2	伸膝台上前転の技のできばえやアドバイス、自身の課題解決の仕方を友達に伝えたりそれらの内容を書いたりしている。
	1	記述なし、又は上記の内容以外

(3) 授業が効果的だったかどうかを示すために、単元前後において、<sup>3)</sup>高橋(2003)の体育授業評価方法(診断的・総括的授業評価)を実施する。

本研究における「評価の改善」については、<sup>2)</sup>文部科学省(2020)の①児童生徒の学習改善につながるもの、②教師の指導改善につながるものの視点を当て実践していく。評価のための授業にならぬよう、あくまで児童に資質・能力を身に付けさせるための重要な視点として捉えていく。

本研究は、(1)(2)(3)のような調査を用い、「評価」の視点を交えながら、伸膝台上前転の技の上達により運動の楽しさを味わわせることに特化した研究を行っていく。

### Ⅲ 研究の仮説と手立てと実践内容

仮説「評価」の効果的な活用により、児童は運動の楽しさを味わい、主体的に運動に取り組むだろう。

<手立て①>学習過程の工夫 【図4 単元計画】

単元の流れ 「しんしつ台上前転で目指せ金メダル！」							
1	2	3	4	5	6	7	8
オリエンテーション	集合 挨拶 健康観察、挨拶 準備運動・補強運動						
	知識及び技能思考力、判断力、表現力等						
	前時の振り返り			本時のねらいの確認			
	ディスカバリータイムI あがき タイミング 膝の高さ			ディスカバリータイムII 後半オリエンテーション			
パワーアップタイム							早稲田オリンピック
チャレンジタイム							
振り返り・片付け・挨拶				振り返り・片付け・挨拶			

第2～4時は「知識及び技能」の育成を目指し「伸膝台上前転」の行い方を知り、練習する時間とした。技のポイントはグループで課題を解決していく中で習得できるようにした。(ディスカバリータイム)本単元では「膝を伸ばすこと」「腰を高く保つこと」にしばらく技能指導を行った。台上前転ができない児童がク

ラスに数名いたが、膝を伸ばしたり、腰を高く保ったりする場を用意することで、グループで一緒に活動できるようにした。第5時は後半のオリエンテーションの時間とし、オリンピックに向け自分の課題の見付け方や、練習方法を指導した。第5時を含め、第6時、第7時は自分の課題を解決する時間とした。単元後半は主に「思考力、判断力、表現力等」の育成に力を注ぐ学習過程となっている。

【図5 毎時間のねらいと指導内容】

時	本時のねらい	指導内容
1	学習の進め方を知り、安全に技を付けて臨んで運動しよう。	学習の進め方・約束・グループペアの構成・場の設定について話し・安全指導
2	伸膝台上前転と台上前転の違いを見付け練習しよう。	伸膝台上前転の行い方・課題解決学習の進め方
3	技を裏にするためにはいつ膝を伸ばせばよいか見付け練習しよう。	膝を伸ばすタイミング・技の裏さ
4	技がイマイチにするポイントを見付け練習しよう。	着手・腰の高さ・技の進入
5	自分の課題を見付け、解決の場を選び技が上手になるポイントをペアに伝えよう。	自己の課題発見の仕方と解決に向けた練習方法・場の選択の仕方
6	自分の課題の解決に向けて練習に取り組みよう。	自己の課題解決のための練習の仕方・自分の課題を解決しようとする態度
7	技が上手になるポイントや技のできばえを友達に伝えよう。	課題解決のための練習の仕方・できばえの伝え方
8	自分史上最高の演技をし、早稲田オリンピックを祝えよう。	自分に合った技での発表(伸膝台上前転)・運動に取り組む態度・友達を認める態度

<手立て②> 教師の指導改善を助け、児童の学習改善を促す学習カード

【図6 本研究で使用した学習カード】



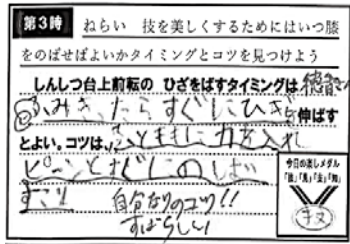
<sup>10)</sup>堀(2019)のOPPA理論の「必要最低限の情報」を最大限に活用する」や構成要素を参考に作成した。以下、カードの工夫や活用事例を記す。

(ア)「何ができるようになったか」を明確にする問い

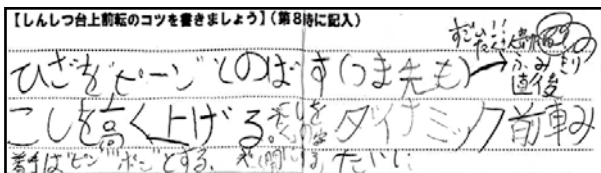
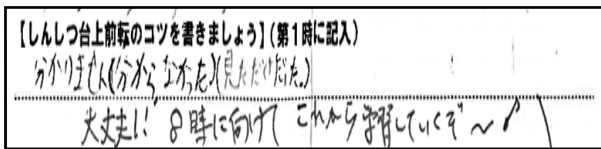
(知識及び技能における評価)

指導内容を明確にし、本時の学びのみを記入させた。第3時は「技の行い方」について学んだので、学習カードでは行い方に関わるポイントやコツを記入させた。技のポイント・コツの違いに関しては、全体で共通に学んだ技能がポイントで、ポイントを行うための自分特有なものをコツとし、第1時に確認をした。

教師は記載内容を基にどの児童が分かっている、どの児童が分かっているのか明確に分かり、次時の指導改善に役立てることができる。一方、知識的な「わかるにおいては「言ったり、書いたりしている」ことを評価規準に定めていることから記述以外にも、発言内容も本時の評価に加味した。さらに、単元を貫く問い（しんしつ台上前転のコツを書きましょう）を設け、自己の成長を感じられるようにした。



【図7 第3時学習カード】



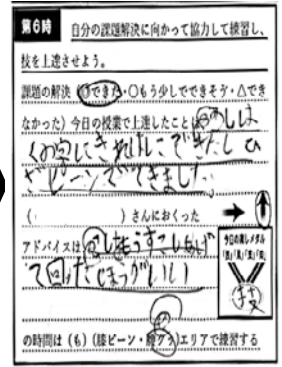
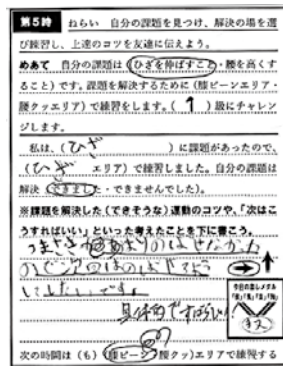
【図8 単元前後での児童手記】

- (イ) 「どのように学ぶか」を助ける課題解決  
 (思考力、判断力、表現力等における評価)  
 体育科目標の中にも資質・能力の育成には「課題を見つけ、その解決に向けた学習過程を通して」と示されている。中でも筆者は「適切な課題を見つけること」が大変重要であると考えている。本単元における「課題」は単元前半の指導内容となる。つまり、「膝を伸ばすこと」「腰を高く保つこと」である。課題を焦点化することで児童は課題を選びやすくなる。また、児童の記述を基に適切に課題を見つけれられているかを教師が把握でき、間違った課題を選択している児童には次時に声を掛け、課題を修正できるといった指導改善に役立てることができる。

単元前半に技のポイントを知り「わかった」ものすぐに「わかる」と「できる」がつながる児童は多くない。だからこそ、単元後半に向け、その二つをつなぐ活動が器械運動における課題解決学習であると筆者は考える。

以下は、一連の活動の中で課題を解決した児童の手記である。

【図9 一連活動の中で課題を解決した児童の手記】



＜第5時＞「膝を伸ばすこと」に課題をもっており、第5時の時点で解決はしたものの、「つま先まで伸ばしたい」と次時につながる課題を設定した。＜第6時＞膝ピーンができるようになり、第6時後半は課題を「膝」から「腰」に変更したことが分かる。友達からは「もう少し腰を上げて回ったほうが良い」とアドバイスを受けている。＜第7時＞腰を高くすることを課題に○を付けながらも、腰角の開きに着目し練習をした様子が伺える。「くの字」にするためには「大きくおなかに力を入れて回る」というコツを見つけ課題を解決した。児童がどの課題でどの場で練習するかを教師が事前に把握し、教師の声掛けの質も高めることができる。

- 本単元の「思考力、判断力、表現力等」を育成する活動を「課題を見つける」「課題を解決する活動を選ぶ」「課題解決のために考えたことを伝える」に主眼を置いたため、以上の内容のみを記入させ、記述内容や発言から観察的評価法を基に点数化し、児童の評価に役立てるようにした。一方で課題解決の仕方が「わかる」ことをゴールに置くのではなく、児童一人一人の活動がどうであったかを授業内に見取るよう心掛けた。
- (ウ) 学びの実感や調整を促す  
 (学びに向かう力、人間性等における評価)

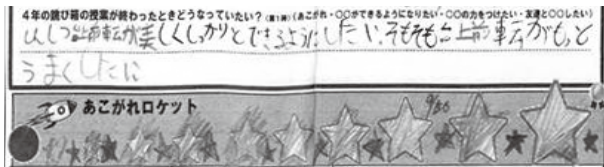
【図10 単元最終時児童手記】

本単元においては安全への配慮や協力はもちろんのこと、新学習指導要領に示された「友達の考えを認める」活動に主眼を置き取り組んだ。友達の考えを認めるとはどのようなことか単元冒頭に示し、単元を通して育成するとともに個人内評価を繰り返しながら



ら、最終時（発表会時）に記述をさせ単元の評価とした。【図10】

さらに、単元当初に自分のゴール像を描きながら、そのゴールに向かってどれくらい進んでいるか視覚化（あこがれロケット）させ意欲付けと調整力の育成を図った。【図11 あこがれロケット児童手記】



(エ) 多様な運動への関わりを考える「楽しメダル」「する・みる・支える・知る」といった運動の楽しさについて考えさせた。「技・見・支・知」の漢字一字を今日の楽しメダルとして選ばせ、色分けをし、クラス掲示をした。単元最終日にたくさん色で輝くメダルをクラスに示すことで運動の多様な楽しみ方の視点を与えるようにした。技能低位児童が抱きがちな「できないから体育・運動は嫌い」という考えを少しでも変えるきっかけを作った。



【図12 楽しメダル】

【図12】

(オ) ステップアップカードの活用

第5時以降は自分の課題解決の時間として学習が進んでいく。そこで「ステップアップカード」を作成した。【図13 ステップアップカード】



上の【図13】は掲示物用の学習カードで、攻略のヒントが記載されている。このカードのねらいは、①児童が意欲的に技能を伸ばすのに役立つ、②カードの内容と学習を関連付けさせる、③友達とのかかわりを活性化させるである。児童が自らの課題解決の役に立てる一つのツールである。「ステップアップカード」以外にも「腰を高く保つこと」を課題とした「腰クッ!カード」を作成した。

(カ) 児童の学びの様子を把握し指導に生かす工夫

学習カードの第5時～第7時に矢印マークを用意し、自分は本時にどちらで（↑→）で活動したのか○を付けさせる。



【図14 楽しメダル】

↑矢印・ステップアップカードの昇級をねらいと

横→矢印・今自分ができる場所で繰り返し技の練習を行い楽しんだ。

児童の学びの様子を知るための記述としているため、↑だから良い、→だから悪いということはない。あくまで教師の指導改善を図る実態把握である。昇級だけでなく、できるようになった場で何度も繰り返し楽しむ児童がいることを教師が把握することで、技能低位の児童が意欲的に学ぶきっかけとした。【図14】

<手立て③> ICTの効果的活用

動き方がわかり、自分の頭の中のイメージを基に運動を行ったとしても、その運動の出来栄を見ながら見ることはできない。そこで、体育におけるICTの活用は大変有効であろう。学習指導要領総則には「視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」とある。ICT活用の効果について<sup>11)</sup> 賀川（2012）は「①自己認識能力の向上、②情報処理能力、教え合い活動の増加が期待できる。」と述べている。さらに、<sup>12)</sup> 鈴木（2016）は「課題把握場面ではICTの活用は効果的である」と述べられているように本研究においても、「わかる」と「できる」をつなげるための動きの可視化をICT機器で補っていき

たい。一方で、ICT機器の使用による弊害もある。<sup>12)</sup> 鈴木（2016）は情報端末の活用方法を変えた二つの検証授業を実施し、情報端末の活用方法の違い（活用群：頻繁にICTを活用、非活用群：限られた場面でICTを活用）による学習効果の差異を検討した。

診断的・総括的授業評価の結果、活用群の「できる」次元の



評価が学習前よりも下がった。学びが煩雑化したことが原因であると報告していた。以上を踏【写真1 ICTの活用】

まえた上で、効果的に活用したことを以下記す。

(キ) 映像のポートフォリオとして活用

単元前半（第1時～第4時）は、タブレットの使用を「チャレンジタイム」のみと限定し1時間のまとめ演技の撮影として使用した。映像を撮りためておくことで第5時の「課題を見つける」に役立てた。





【写真2 チャレンジタイムで 【写真3 撮りためた映像】  
のタブレットの活用】

撮りためた映像を教師と共有することで、技能における評価も容易になる。

単元前半に「知識及び技能」を指導し評価する学習計画であるが、この時間はあくまで技能C児童の把握に重きを置いた教師の指導改善の意味での評価である。児童の伸びを十分に確認した上で、映像を確認し単元の技能の総括的な評価を行うことができる。

(ク) ゴールの姿を示すモデリングとしてのICT活用

「動き」はもちろんのこと、「学び方」についても映像で示した。具体的には、よい授業の振り返りの記述や協力して課題を解決する姿を示した。どのような姿になれば本時は



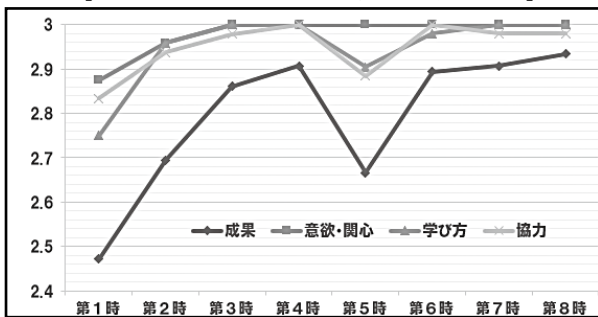
【写真4 映像による  
モデリング】

良いのかを具体的な姿として分かることで、教師の評価方法・方針を児童と共有することができた。4年生児童には、ABCなどは言わずに「○○のようにできれば今日は花丸だよ」と声を掛けた。

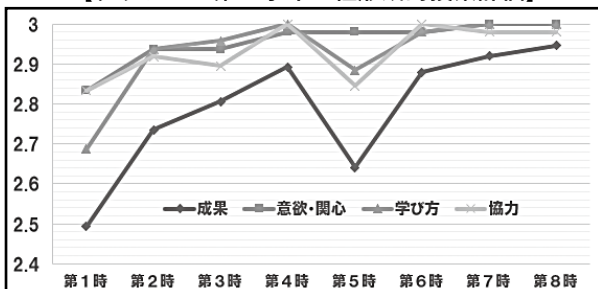
IV 研究結果と考察

1 「主体的に運動の取り組めたか」の検証

【グラフ1 第4学年2組形成的授業評価】



【グラフ2 第4学年3組形成的授業評価】



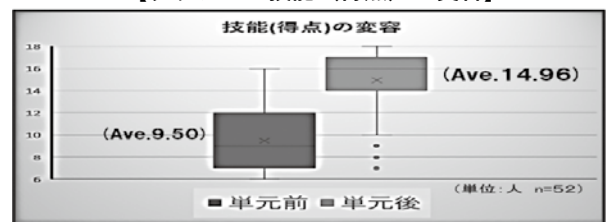
上の【グラフ1】【グラフ2】より、「意欲・関心」の次元は単元を通し高く推移した。児童は本授業を高く評価し、主体的に取り組めたと考察できる。一方、

どちらのクラスも「第5時の後半オリエンテーション」の時間に「成果」の次元が低下している。この時間は前時までに撮りためた映像から自分の課題を見つけ、課題を解決するための活動を工夫したり、場を選んだりする時間でどうしても活動（試技回数）が少なかった。このことが児童の「成果」の低下につながったと推察できる。第5時に「成果」の低下があったものの、最終時に向け向上していることから、第5時の活動を否定することは難しく、むしろ自分の課題をじっくりと捉えさせる時間は単元後半に向け効果があったと考察できる。

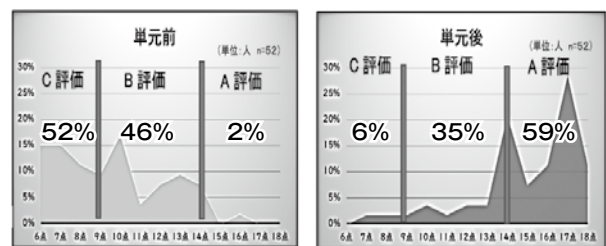
2 「児童は楽しさを味わったか」の検証

(1) 児童は「できる」ようになったか

【グラフ3 技能(得点)の変容】



【グラフ4 単元前後における技能得点の分布】

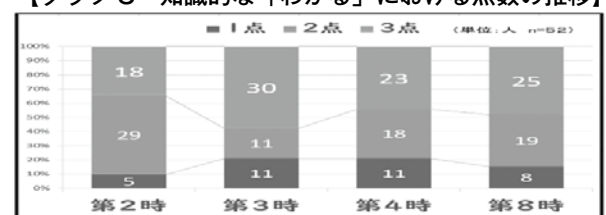


【グラフ3】より、開発した観察的評価法を用いた点数化したところ、平均5.46点の伸びがあり、多くの児童が技能を向上させたといえる。【グラフ4】のグラフ得点の分布の得点の評価については6～9点をC評価、10点から14点をB評価、15点以上をA評価と定めた。単元前後においてA、B評価の児童は48%から94%に向上していることから上位児童はもちろんのこと、技能低位の児童も技能を伸ばせたと考察できる。多くの児童が技能を高めたことが数値化され、教師の授業の効果を検証できたので、「できる」における観察的評価法は有効であった。

(2) 児童は「わかる」ようになったか

① 知識的な「わかる」

【グラフ5 知識的な「わかる」における点数の推移】



【表1 知識的な「わかる」の変容】

	単元前		単元後		t(51)	有意確率
	M	SD	M	SD		
①「わかる」得点	1.40	0.53	2.36	0.65	-9.72	***

n=52, M=平均値, SD=標準偏差, \*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

【グラフ5】から、単元を通して約90%の児童はA、B評価となり、児童は知識的に「わかった」と考察でき、与えた「知識」の内容も4学年の児童に適していたことを示唆している。

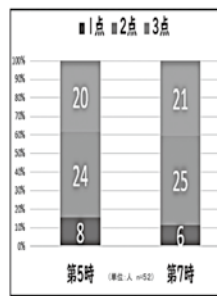
【表1】は単元前後で共通の問い「しんしつ台上前転のコツは何ですか」に対する児童の記述を得点化したものである。検証の結果、有意差の認められる向上があった。

技能の指導ポイントを「膝を伸ばすこと」と「腰を高く保つこと」の2点に絞り指導したことが効果的であったと推察できる。また、児童の「知識及び技能」を点数化することで評価の助けになった。

② 課題解決的な「わかる」

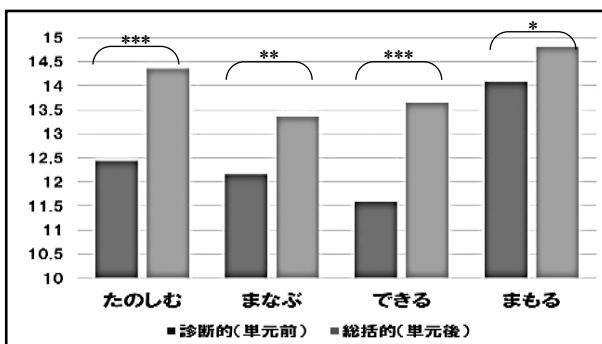
【グラフ6 課題解決的な「わかる」における点数の推移】

【グラフ6】から90%の児童が単元を通して、課題解決に関わる内容が「わかった」と考察できる。曖昧になりがちな器械運動における「思考力、判断力、表現力等」を評価する助けになり観察的評価法による数値化は有効であった。



3 授業は効果があったか

【グラフ7 診断的総括的授業評価の変容】



n = 26 有意確率 \*: p < .05, \*\*: p < .01, \*\*\*: p < .001

【グラフ7】は、第4学年3組の変容を抽出した。診断的・総括的授業評価の全4因子で有意差が認められた。特に「楽しむ」と「できる」において高まりが顕著であることから、本研究で検証をしている、運動の楽しさを味わわせ、主体的に運動に取り組む児童の育成を目指した評価方法の工夫や学習カード、ICTの活用が効果的であったと考察できる。

V 研究のまとめ

器械運動においては「技能」の出来栄に目が行きがちだが、それぞれ評価規準に対応させた観察的評価法を作成し基準の基、数値化することで、教師の指導の効果を確認することができ有効性を確かめられた。手立てを講じた学習カードにおいては、1枚にまとまっているからこそ教師も児童も単元の学習の軌跡を俯瞰して見ることができ、「評価の改善」に示された児童の学びの改善を促したり、児童の記述から教師の指導改善に役立てることができたりし、本事例的研究は意義があった。また、GIGA スクール構想が進む中、体育科におけるICTにおいては使用する時間を限定することが運動時間を確保することにつながり、ひいては児童の運動への満足感につながったことから効果的な活用について検証したことは意義があった。児童への事後アンケートにおいても「学習カード」と「タブレット」が役立ったと全員回答し、好意的に受け止められた。

一方、児童の「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を数値化した観察的評価法は妥当性と信頼性にやや欠けた。例えば運動における「わかった」は記述や児童の発言から見取ったが、身体知的な「わかった」かは判断が難しかった。理論と実践をつなげ、現場も活用できる尺度を検討していく必要がある。

本研究が、日々の授業改善の一助となることを願い、自身も児童の資質・能力の育成のために今後も省察的に研鑽を積み重ねていきたい。

VI 参考文献

- 1) 埼玉県教育委員会 (2021) 令和3年度指導の重点
- 2) 文部科学省 (2020) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- 3) 高橋健夫 (2003) 体育授業を観察評価する、明和出版。
- 4) 文部科学省 (2015) 学校体育実技指導資料第10集器械運動の指導の手引き
- 5) 土谷純 (2014) スポーツ科学研究、マット運動における「前転ファミリー」の技の評価に関する研究、早稲田大学スポーツ科学学術院
- 6) 金子明友 (1987) 教師のための器械運動指導法シリーズ跳び箱・平均台運動、大修館書店
- 7) 木村典克 (2000) スポーツ科学研究「わかる」と「できる」の統一を志向した体育授業への実践的試み
- 8) 大後戸一樹 (2017) 小学校体育科の思考力・判断力を評価するための動画テストの開発、学校教育実践研究、第24巻
- 9) 杉原隆 (2008) 新版運動指導の心理学、大修館書店
- 10) 堀哲夫 (2019) 新訂一枚ポートフォリオ評価OPPA、東洋出版
- 11) 賀川昌明 (2012) 体育におけるICTの活用とその課題、体育科教育5月号、大修館書店
- 12) 鈴木健一 (2016) 小学校体育マット運動における協同学習のための情報端末機器の効果的な活用方法、2016年度笹川スポーツ研究助成

# 自尊感情・学級集団意識を向上させる体育授業の研究

## ～「ゲーム修正論」「戦術アプローチ」を基にした 「陣取り型ゲーム」の系統的指導に関する検討と実践～

さいたま市立善前小学校 教諭 中村直紀

### I 研究の動機

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新等を受け、社会は今後ますます予測困難なものになっていくといわれている。このような状況を受け、令和2年度より全面実施の新学習指導要領では、「生きる力」の理念をより具体化した「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の「資質・能力の三つの柱」が明示された。

私は、これまでの教職経験、とりわけ10年間の体育主任経験を通し、「生きる力」すなわち「知・徳・体」は、よい体育授業を通して実現できると確信している。それは、体育が「知・徳・体」の「体」だけを意味するのではなく、よい体育授業の中には、運動の行い方や練習の仕方、運動の意義や価値についての「知」や、公正・公平・協力・責任・参画・共生等の「徳」が内包されているためである。よい体育授業を通し、児童の「知・徳・体」をバランスよく育てていくことは、今後の体育科教育に求められる大きな責務となるだろう。

また、よい体育授業を通し、「やればできる。」「練習をしたら上手になった。」「友達と協力したり、競い合ったりすることは楽しい。」といった経験を多く積み重ねることは、児童の自尊感情や学級集団意識にも好影響を与えるに違いない。そして、自己を信じ、他者と協働して課題を解決していく力は、予測困難な未来を、自らの力で切り拓いていくために、必要不可欠なものとなるであろう。

以上の理由から、研究主題を「自尊感情・学級集団意識を向上させる体育授業の研究」と設定し、数年間研究に励んでいる。

新学習指導要領において、中学年で「陣地を取り合うゲーム」（以下「陣取り型ゲーム」と呼称）が必修化された。必修化の理由は、「指導要領の理念を具現化する上で適した教材であるため」と推察されるが、「陣取り型ゲーム」は実践事例がまだまだ少なく、学年を超えた単元の系統性についても研究が深められているとは言い難い。そこで、副題を「『陣取り型ゲーム』

の系統的指導」と設定し、研究と実践を行った。

### II 理論研究

#### 1 「陣取り型ゲーム」及び「タグラグビー」について

学習指導要領には、「陣取り型ゲーム」として「タグラグビー」及び「フラッグフットボール」の2教材が例示されている。

「タグラグビー」は、1990年代にイギリスで考案された比較的新しいゲームである。先行研究により、技能的易しさや作戦遂行の容易さ、低学年からの学習の系統性等について明らかにされている。例えば鈴木ら(2008)の整理によると、「守備を突破して」「的入れをする」課題混在型のサッカーやバスケットボールとは異なり、タグラグビーやフラッグフットボール等「課題分離型」の競争課題は「突破」の一つだけであり、比較的易しいとされる。また、接触プレイがないため、児童にとって恐怖感が少ないともされている(吉野ら、2002 鈴木ら、2004 後藤、2005 佐藤、2006 吉永、2006)。また、文科省「体育実技指導資料」(2011)によると、「鬼遊び」を活かして行える易しいゲームであること、経験差や技能差が小さいこと、ドリブルがないため中学年でも攻防の楽しさに触れやすいこと等が、その特長として挙げられている。

作戦遂行の面においても、「技能差にとらわれず、ルールの工夫や作戦が立てやすい教材」として実践されてきた(紺野、1997 黒川、1999)。ボールを保持したまま移動することが認められているため戦術的状況判断を学習しやすく(吉永、2011)、「鬼遊びとの系統性」「個人差の解消」「豊富な運動量」「得点獲得の容易さ」「作戦遂行の容易さ」なども魅力であるとされる(佐藤、2011)。フラッグフットボールにも同様の特長がいくつか見られるが、本市においては長期研修教員(持木、2011 大澤、2015)が研究を深めたり、全国学校体育研究会(2019)において、さいたま市立常盤小学校が実践発表を行ったりと、優れた先行研究が多い。一方のタグラグビーは、本市において先行研究が充実しているとは言い難い。また、「指導方法が体系化されていない」とする指摘もある(木内、2020)。

## 2 「ゲーム修正論」とは

体育授業において「ゲーム」を扱うにあたり、児童がその魅力を存分に味わい、楽しみながら資質・能力を向上させていくためには、公式ルールのまま授業で取り扱うことは現実的ではない。そこで、本来の魅力や特性を損なうことなく、児童が技術的・身体的に未熟なために出会う問題を軽減するとともに、戦術的課題は誇張して学習効果を高めようとする教材づくりの考え方が「ゲーム修正論」(Thorpeら、1986)である。

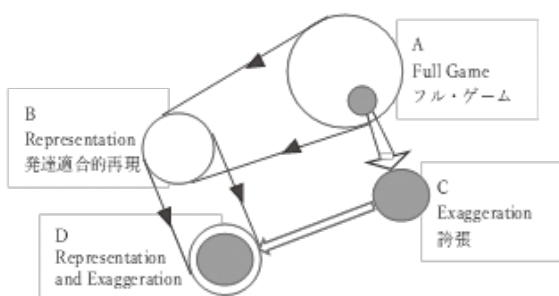


図1：ゲーム修正論

上図A「Full Game」=公式ルールを、発達に適合して簡易に再現(B)するとともに、公式ルールの魅力・特性は誇張(C)し、それらを融合することで上図Dのように、児童の発達の段階に合った教育的価値の高い魅力的なゲームを創り出す、という考え方である。

各学校が体育授業を計画するにあたり、ルールや場を工夫・検討する「教材・教具づくり」を行っているが、その実態は「過去にこうやったから」と踏襲するだけのものであったり、「副読本に載っているから」と例示をなぞるだけになってしまったりすることが多い。しかし、児童の発達の段階と学習の意図、目指す児童像に照らし合わせて効果的に教材・教具づくりを行うには、「ゲーム修正論」の考え方に立脚することが必要であると考えられる。

## 3 「戦術アプローチ」とは

体育授業において、ゲーム領域の技能指導は「パス練習」「ドリブル練習」「シュート練習」等の基礎技能練習中心で展開されることが多い。しかしそのような授業においては、練習の必要性を児童が実感することが難しいうえ、技能の伸びも芳しくはなく、さらに身に付けた技能を他のゲームに転移することが難しい。

そこでGriffinらは「Tactical Games Approach」を提唱し、日本においては「戦術アプローチ」と邦訳された(高橋、岡出ら1999)。「戦術アプローチ」モデルの授業においては、従来のような基礎技能練習は行わず、ゲーム(ドリルゲーム、タスクゲーム等のミニゲームも含む)を楽しむ中で戦術的な課題に気づき、

技能的課題の克服を意図した練習ゲームを提供し、その成果をゲームの中で発揮する、というものである。

学習の中心にゲームがあるため児童のモチベーションを維持しやすく、ゲームを通して練習の必要性に気づき、練習の成果をゲームに発揮することができる。また、教材限定(サッカーならサッカー、バレーボールならバレーボール等)でしか生かせない技能ではなく、ゲームの型に共通の戦術や考え方、動き、練習方法を学ぶことができることから、教育的価値も高い。

## III 調査研究

### 1 調査研究の概要

#### (1)調査対象

さいたま市立小学校抽出12校202名の教職員及びさいたま市立小学校抽出49校の体育主任

#### (2)調査実施時期…令和2年6月

#### (3)調査のねらい

本市における「陣取り型ゲーム」の年間指導計画への位置付けの実態、及び指導にあたり感じる難しさの実態を把握し、自身の研究に生かすため。

### 2 結果概要

#### (1)「陣取り型ゲーム」年間指導計画位置付けの実態

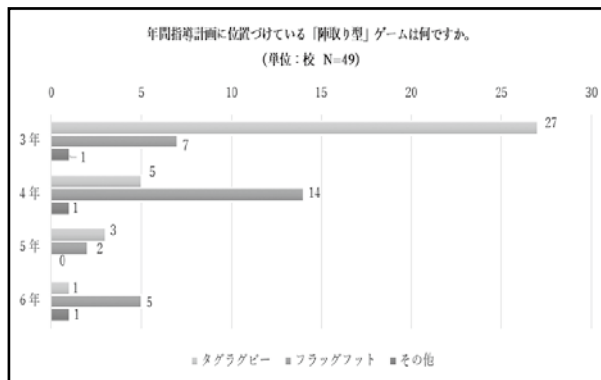


図2：「陣取り型ゲーム」年間指導計画の位置付け

- ・3年生では、タグラグビーを年間指導計画に位置付けている学校が最も多い(27校)が、4年生ではフラッグフットボールの方が多くなる(タグ=5校、フラッグ=14校)。また、高学年になると「陣取り型」自体を位置付けていない学校が多い。その理由は、本市では高学年においてサッカー大会、バスケットボール大会を行う学校が多いため、他のゴール型ゲームを位置付ける時間的余裕がないためである。
- ・「その他」は「アルティメット」であった。

## (2) 「陣取り型ゲーム」の指導経験

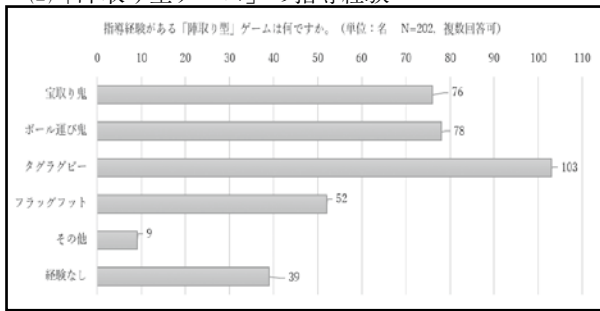


図3：指導経験のある「陣取り型ゲーム」

- ・最も指導経験の多い「陣取り型ゲーム」は「タグラグビー」(103名)であったが、約51%に過ぎない。
- ・「陣取り型ゲーム」の指導経験自体がない教職員が、39名(約20%)もいる。
- ・「タグラグビー」を中心に、「陣取り型ゲーム」の指導方法をパッケージ化し、周知・共有することが急務であると言える。

## (3) 「陣取り型ゲーム」指導の難しさ

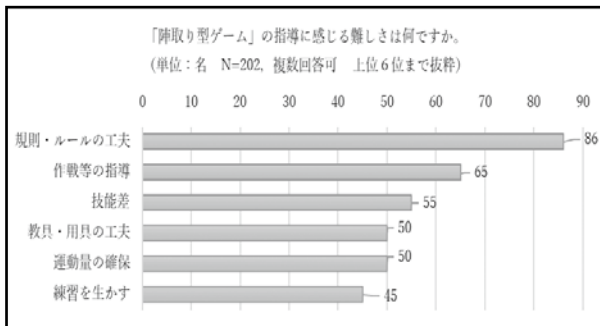


図4：「陣取り型ゲーム」指導の難しさ

- ・陣取り型ゲームの指導に感じる難しさは、上表のような結果となった。「規則・ルール」「指導方法」「技能差への配慮」「教材・教具」「運動量確保」等は、単元計画の工夫や指導方法の確立、45分間の指導計画の精選と、その周知・共有によって解消できるものと考えられる。
- ・「規則・ルール」「教材・教具」「練習を生かす」については、先述の「ゲーム修正論」「戦術アプローチ」の導入により、解消できるものと考えられる。

## IV 研究の仮説及び手立て

「理論研究」と「調査研究」を受け、「ゲーム修正論」及び「戦術アプローチ」に基づき「タグラグビー」の系統的な単元計画、授業モデルを作成することが、本市において新学習指導要領体育科の理念を具現化する上で重要であると考えた。そこで、自身の研究主題である「基礎の定着」と「学び合いの充実」の両輪による「自尊感情・学級集団意識を向上させる体育授業」と関連付け、仮説及び手立てを以下のように設定した。

仮説：体育の学習において、以下の手立てをふまえて「陣取り型ゲーム」の授業を実践すれば、子どもの自尊感情と学級集団意識を向上させることができるだろう。

- 手立て1 「ゲーム修正論」に基づく教材づくり(1)  
子ども一人ひとりが活躍でき、自尊感情が高まるゲームの工夫
- 手立て2 「ゲーム修正論」に基づく教材づくり(2)  
仲間との協働の必要性を感じ、学級集団意識が向上するゲームの工夫
- 手立て3 基礎の向上に資するドリルゲーム等の工夫
- 手立て4 「戦術アプローチ」を取り入れた、学び合いを生み出す授業展開の工夫
- 手立て5 基礎の定着と学び合いの充実を促進する教具、掲示物、ワークシート、声かけ、発問等の工夫

## V 実践研究の概要

### 1 研究期間 令和2年7月～令和3年3月

### 2 研究対象 ※本市の実態に応じ、第1～4学年までの実践とした。

- さいたま市立西浦和小学校(前任教) 第1～4学年  
1年A組(中村実践) 男子14名 女子13名 計27名  
2年A組(中村実践) 男子17名 女子18名 計35名  
3年A組(中村実践) 男子17名 女子15名 計32名  
3年B組(担任実践) 男子16名 女子16名 計32名  
4年A組(中村実践) 男子22名 女子16名 計38名  
4年B組(中村実践) 男子20名 女子17名 計37名  
4年C組(担任実践) 男子21名 女子17名 計38名

※どの教師が実践しても同様の成果が得られるか検証するため、3年生以上は中村と担任の、複数年級における実践とした。

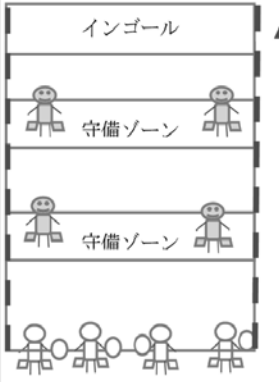
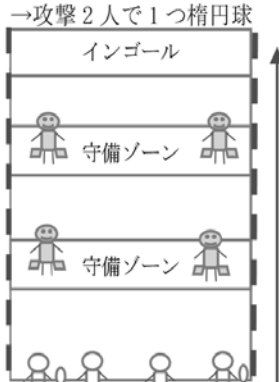
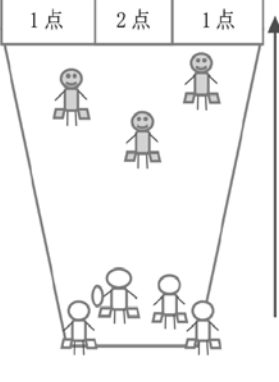
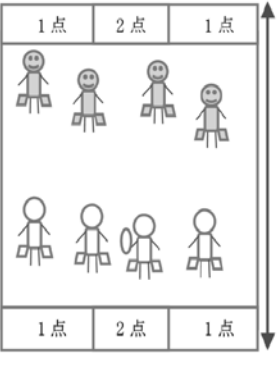
### 3 実践単元

- 1年 = 「宝運びゲーム」 2年 = 「宝運びゲームⅡ」  
3年 = 「タグラグビー」 4年 = 「タグラグビーⅡ」

### 4 検証方法

- (1) 体育授業態度の変容…「診断的授業評価」「総括的授業評価」(高田・高橋ら、2000)で検証
- (2) 単元実施中の児童の実態、思い…「形成的授業評価」(高橋・長谷川ら、2003)で検証
- (3) 児童の動きの変容…全コートにビデオを設置し、「ゲームパフォーマンス評価法」(Griffinら、1994)を参考に分析
- (4) 運動有能感の変容…「運動有能感調査」(岡澤、1996)で検証
- (5) 自尊感情、学級集団意識の変容…「心と生活のアンケート」(さいたま市教委、2010)で検証

VI 単元計画（「ゲーム修正論」に基づく単元配列表）

学年	1年	2年	3年	4年
人数	27人 4~5人×6チーム	35人 4~5人×8チーム	32人 4人×8チーム	38人 4~5人×8チーム
ねらい	さまざまな鬼遊びや宝運びゲームを通して、「走る」「曲がる」「タグを取る」「広い視野で見る」「簡単な連携をする」等の運動経験を蓄積する。	宝運びゲームを通して、「状況判断」「連携」の基礎を経験、習得する。	簡易化されたタグラグビーを通して、陣取り型の技能を身に付け、「作戦」を選んだり考えたりして、遂行し、ふり返り、次時につなげる。	タグラグビーを通して、陣取り型の技能を身に付け、「作戦」を選んだり考えたりして、遂行し、ふり返り、次時につなげる。
ドリブルゲーム	1vs1 タグ取り 子取り鬼 ネコ・ネズミ鬼 通り抜け鬼 タグ取り鬼	単元前半（全員お手玉） 1vs1 タグ取り 通り抜け鬼 単元後半（2人で1つボール） タグ取り鬼 円陣パス	準備運動後 1vs1 タグ取り 単元前半（タグ後にパス） ブラックとプロッサム ダイヤモンドパス 単元後半（パス解禁） タグ取りバトルロイヤル ランニングダイヤモンドパス	準備運動後 1vs1 タグ取り 単元前半（タグ後にパス） タグ取りバトルロイヤル ダイヤモンドパス 単元後半（パス解禁） ボールかタグか ランニングダイヤモンドパス
ゲーム	メインゲームと同様のゲームを、自チーム内で行う。	メインゲームと同様のゲームや守備なしのゲームを、自チーム内（もしくは兄弟チームと）行う。	メインゲームと同様のゲームや守備なしのゲームを、自チーム内（もしくは兄弟チームと）行う。	メインゲームと同様のゲームや守備なしのゲームを、自チーム内（もしくは兄弟チームと）行う。
メインゲーム	宝運びゲーム 4vs4 (各守備ゾーンでは 4vs2) 攻撃 1人 1つお手玉 	宝運びゲームⅡ 4vs4 (各守備ゾーンでは 4vs2) 攻撃 1人 1つお手玉 →攻撃 2人で 1つ楕円球 	タグラグビー 4vs3 攻撃チームで 1つ楕円球 	タグラグビー 4vs4 攻守入り交じり 楕円球 1つ 
	3分交代 全12分 前攻→前守→後攻→後守 攻守交代制(攻守タイム制)	3分交代 全12分 前攻→前守→後攻→後守 攻守交代制(攻守タイム制)	3分交代 全12分 前攻→前守→後攻→後守 攻守交代制(攻守タイム制)	4分交代 全8分 前半→後半 プレイの流れで攻守交代
	1人 1つお手玉を持っているので、パスは起こりえない タグを 2 つとも取られたら、スタート地点から攻め直し	4人で同時攻撃、ボールは 2人で 1つ。タグを取られたらペア間で後方パス タグを 2人とも 2つ(計4つ)取られたら、スタート地点から攻め直し	スローフォワード禁止 単元はじめはタグを取られるまで後方パスなし タグ 4回で、スタート地点から攻め直し	スローフォワード禁止 単元はじめはタグを取られるまで後方パスなし タグ 4回で、その場で攻守交代
			ノックオン…なし オフサイド…厳密にはとらない。タグ後は守備がその場で止まる インターセプト ルーズボールのゲット… スタート地点から攻め直し	ノックオン…なし オフサイド…厳密にはとらない。タグ後は守備がその場で止まる インターセプト ルーズボールのゲット… 攻守交代

- ・1年生は1人一つお手玉を持ち、2ヶ所の守備ゾーンを走り抜けてゴールを目指す宝運び鬼。2年生は1年生と同様の規則だが、2人で一つのボールを持ち、パス解禁となる。3年生は攻め上がるに伴い広がる台形型コートにて、攻守を時間で交代するタグラグビー。4年生は、公式規則を一部簡易化した、攻守入り交じり式のタグラグビーである。
- ・発達の段階に応じて多少の差異はあるが、いずれの学年も単元の進行と学習内容は概ね以下のとおりである。

単元序盤	・オリエンテーション ・基礎技能の習得 ・得点することの重要性 ・得点するための基本的な動きの約束
単元中盤	・仲間と協力することの重要性 ・新規則の追加（仲間の協力の必要性が求められるような規則） ・協力した動きの練習、発揮
単元終盤	・作戦の工夫、遂行 ・学習のまとめ ・学習成果の認め合い

表1：単元の進行と主な学習内容

- ・また、発達の段階に応じて多少の差異はあるが、「戦術アプローチ」に基づき、いずれの学年も45分間の授業の流れは概ね以下のとおりに計画した。

はじめ	・準備体操 ・パワーアップタイム、ドリルゲーム等 ・課題の確認
中	・作戦タイム ・タスクゲーム or メインゲーム① （・課題に対する答えの確認）
おわり	・メインゲーム（②） ・課題に対する答えの確認 ・振り返りと新たな課題の確認

表2：1時間の授業の流れ



実際の授業風景

## Ⅶ 成果検証

※第1学年は発達の段階を考慮し、授業終盤の口頭での感想発表及び感想記述以外の成果検証は行わなかったため、ここでは割愛する。

### 1 診断的授業評価→総括的授業評価の変容

※診断的・総括的授業評価とは、単元のはじめ及びまとめの段階で児童の自己評価によるデータを収集し、成果を評価する方法である。「情意」「運動」「認識」「社会的行動」の4因子各5項目、計20項目。回答形式は3段階、「はい」=3点、「どちらでもない」=2点、「いいえ」=1点として算出する。ここでは合計得点（60点満点）の結果のみを示す。

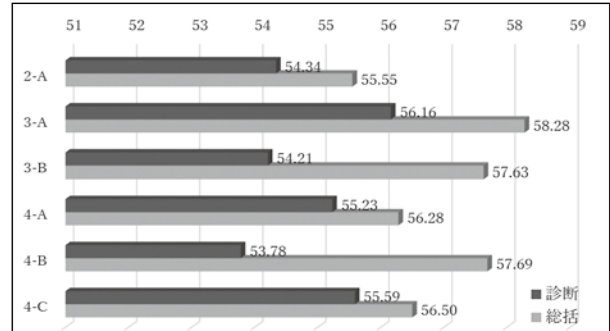


図5：診断的→総括的授業評価合計得点の変容（60点満点）

○全学級、診断（単元前）と比べ総括（単元後）が向上。

### 2 形成的授業評価の推移

※形成的授業評価とは、各時間の実践を児童のふり返りによって形成的に評価し、計画を修正したり、実態を把握したりするために開発された評価方法である。「成果」3項目、「意欲・関心」「学び方」「協力」各2項目の計4次元9項目。回答形式及び算出方法は、診断的・総括的授業評価と同様。ここでは9項目の平均点（3点満点）のみを示す。

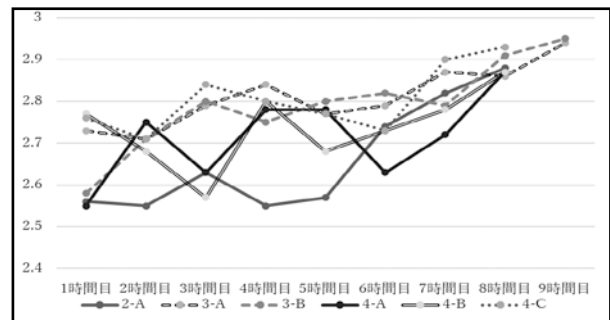


図6：形成的授業評価平均点の推移（3点満点）

○全学級、単元後半にかけて高水準に収斂。

### 3 児童の動きの変容（ゲームパフォーマンス評価法）

※ゲームパフォーマンス評価法とは、パフォーマンス行動を観察・コード化する道具として生み出されたものである。ここでは、3年生「ラン」「トライ」の、単元序盤・中盤・終盤の比較のみを示す。

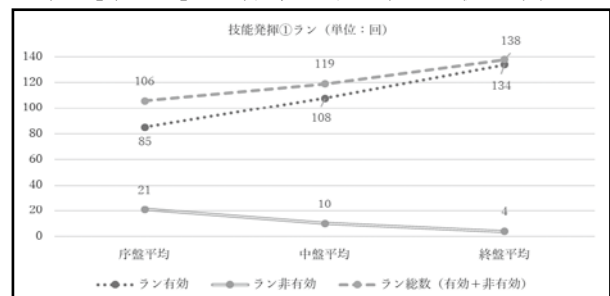


図7：3年生技能発揮 ラン総数と、有効/非有効数の推移（単位：回）

○ランの総数、有効数が増加。非有効数は減少。

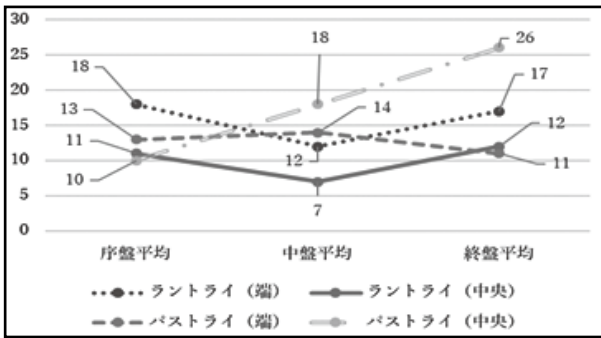


図8：3年生技能発揮 トライ総数とトライ内容内訳（単位：回）

- 中央へのパストライ（協働による高得点）が増加。端へのラントライ（独力による低得点）は減少。

#### 4 運動有能感の変容

※運動有能感調査とは、児童の運動有能感の変化を測定し、授業効果の検討を行うために開発された調査法である。「身体的有能さの認知」「統制感」「受容感」の3因子各3項目、計9項目から構成。回答形式は5段階で、「よくあてはまる」= 5点、「ややあてはまる」= 4点、「どちらとも言えない」= 3点、「あまりあてはまらない」= 2点、「あてはまらない」= 1点として算出。ここでは、総合平均点（5点満点）のみを示す。

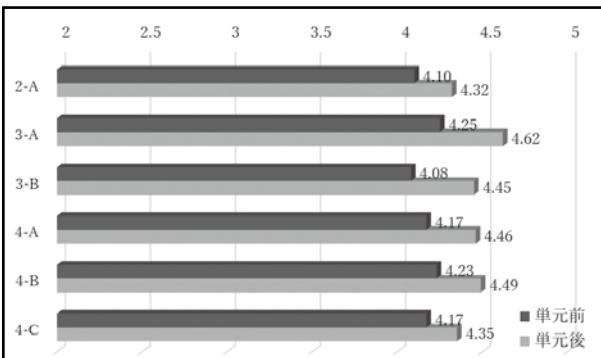


図9：運動有能感総合平均点の変容（5点満点）

- 全学級、運動有能感が向上。

#### 5 自尊感情、学級集団意識の変容

※さいたま市教委作成「心と生活のアンケート」を参考に検証。「信頼自己」5項目を「自尊感情」、「信頼他者」4項目を「学級集団意識」とした。回答形式は4段階、「全くそのとおりだと思う」= 4点、「どちらかと言えばそう思う」= 3点、「どちらかと言えばちがうと思う」= 2点、「全くちがうと思う」= 1点として算出。ここでは両項目とも平均点（4点満点）の結果のみを示す。

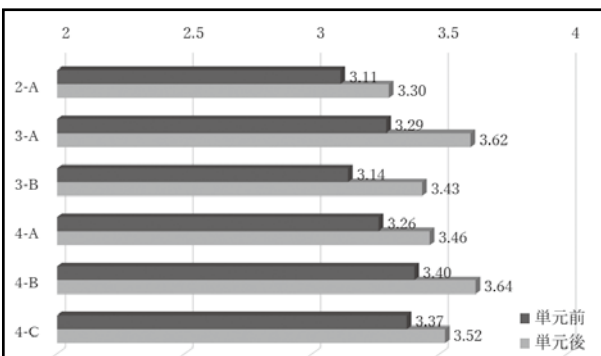


図10：自尊感情平均点の変容（4点満点）

- 全学級、自尊感情が向上。

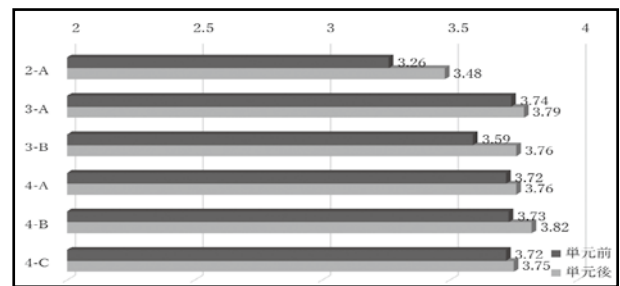


図11：学級集団意識平均点の変容（4点満点）

- 全学級、学級集団意識が向上。

### Ⅷ 成果(○)と課題(●)～成果検証を受けて～

- 三つの学年、全6学級で、診断的授業評価と比べ総合的授業評価において向上が見られた。児童は、楽しく協力しながら学習に取り組むとともに、単元の学習を通して技能が向上したことを自覚していた。また、形成的授業評価は、単元終盤に向けて高値に収斂されていった。満足度の高い単元であった。
- ランの総数や有効数、トライ回数等を中心に、児童の動きに上達が見られた。
- 運動有能感も、全学級において向上が見られた。児童に身体能力の向上や、練習の意義、仲間との協力の大切さ等を実感させることができた。
- 全学級において、究極の目標である「自尊感情・学級集団意識の向上」を達成することができた。
- 「ゲーム修正論」「戦術アプローチ」をはじめとした五つの手立ては、主題の達成に効果的であった。
- 児童のゲームパフォーマンスと運動有能感、自尊感情、学級集団意識間の正の相関関係が示唆された。
- 1～4年生まで系統立てた、「陣取り型ゲーム」の単元モデル及び授業モデルを示すことができた。
- 成果検証において、1年生からも客観的な評価をとるための方法を確立しなくてはならない。
- 校内事情により、1・2年生は中村による1学級実践となった。どの教員でも同様の成果が得られるか検証するため、今後複数学級において実践を試みる。
- 1～4年生までの系統立てた単元計画の真価が現れるのは、本実践の1年生が全単元を学習する3年後である。研究を継続し、成果を検証していく。
- 今回は1～4年生までの実践であったが、高学年ではどのように「陣取り型ゲーム」を計画し学習するのが効果的か、小中連携の観点からも検討していく。

### Ⅸ 主要参考文献

- 1 「小学校学習指導要領解説体育編」 文部科学省 2017 東洋館出版社
- 2 「新版 体育科教育学入門」 高橋 健夫 2010 大修館書店
- 3 「体育授業を観察評価する」 高橋 健夫 2003 大修館書店
- 4 「ボール運動の指導プログラム」 高橋 健夫 1999 大修館書店
- 5 「『資質・能力』を育むボール運動の授業づくり」 岩田 靖 2018 大修館書店
- 6 「ボール運動の教材を創る」 岩田 靖 2016 大修館書店



# 自らが主体的にいのちを守る力を育む 防災教育をめざして

～中学校社会科地理的分野「地域調査の手法」の単元開発を通して～

久喜市立栗橋西中学校 教諭 青柳 慎一

## I 問題の所在

### 1 地域の事情を踏まえた学校防災教育の必要性

令和元年東日本台風は、全国各地に大きな被害をもたらした。久喜市立栗橋西中学校（以下、本校と表記する）が位置する久喜市栗橋地区では、隣接する利根川の水位が深夜の0時40分頃に氾濫危険水位に達したため、午前1時に避難準備と高齢者等避難開始が、午前2時に避難勧告が発令された<sup>1)</sup>。当時の生徒の避難行動を見ると、家庭により判断が大きく異なっていたことが分かった（表1）。

表1 令和元年東日本台風での生徒の避難行動

避難先	人数 (%)
ア 栗橋地区の指定避難所に避難した	23 (39.7)
イ 栗橋地区以外の指定避難所に避難した	1 (1.7)
ウ 知人や親せきの家などに避難した	2 (3.4)
エ 自宅の2階に避難した	12 (20.7)
オ 避難しなかった	20 (34.5)

避難せず自宅にとどまった理由	人数 (%)
避難しなくても大丈夫だと思った	14 (43.8)
いつ避難すればよいか分からず様子を見た	9 (28.1)
避難する途中が危険だと思った	8 (25.0)
避難所が満員で入れなかった	2 (6.3)
寝ていた	3 (9.4)

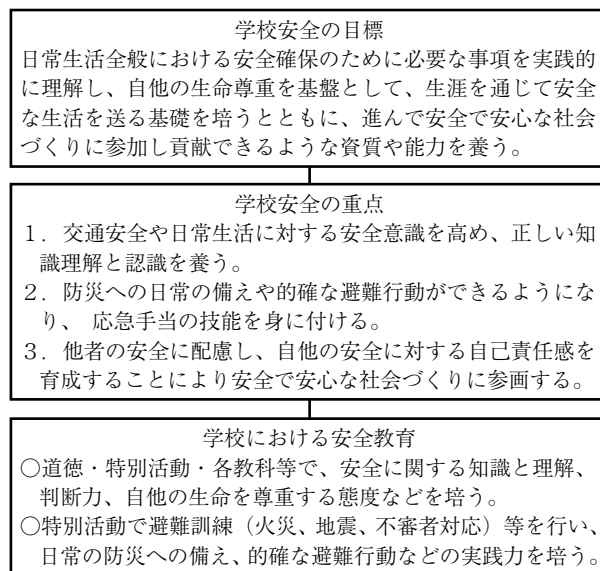
注) 令和2年度本校の第2学年生徒に行った質問紙調査の回答を集計した。(回答者数58人)  
・下の表は、上の表でエ、オと回答した生徒32名が回答した。複数回答した生徒がいるため合計が回答者数と一致しない。 単位：人 (%)

令和元年東日本台風では、1947年のカスリーン台風を上回る雨量を記録した。利根川の堤防が決壊していたら想定以上の被害を被っていたかもしれない。この経験を振り返り、地域の事情を踏まえた学校防災教育の構築が、喫緊の課題になると考えた。

### 2 本校の防災教育の課題

学校教育における防災教育は、学校安全教育の中に位置付けられている。本校では、中学校学習指導要領総則の「第2 教育課程の編成」2(2)を踏まえ教科等横断的な視点を基に推進している<sup>2)</sup>。本校は、避難訓練を特別活動の学校行事に位置付けて、火災、地震、不審者対応を想定し実施している。いずれも生徒が学校にいて集団で避難することを前提としている。地域で発生する自然災害である水害を想定した防災指導については明記されていない（図1）。

図1 本校の学校安全教育の枠組



曾川剛志<sup>3)</sup>は、先進的な津波避難訓練の事例を分析する中で、不確実な事象を設定して児童生徒が個別に意思決定する避難訓練は困難であること、学校と家庭や地域が連携しての訓練実施を繰り返し設定するのは現実的に困難であること、先進的な取組をそのまま自分の学校に転用することは難しく地域の実態に合わせて再構築していく必要のあることなどの課題を指摘している。この指摘は、水害を想定した本校の防災教育の現状にも当てはまると考える。

大西宏治<sup>4)</sup>は、地図を活用した防災教育の有効性を指摘している。その中でハザードマップを利用した図上防災訓練により、災害時の避難行動の迅速化を促す効果が期待でき、地図上で学んだことを踏まえて実際に地域を歩くことで防災に対する認識を高めることができるとしている。井田仁康<sup>5)</sup>は、地域を観察し、自分もっている地域の認知とハザードマップなどの情報を一体化させておくことが、瞬時の判断の最適な判断材料になるとし、防災教育に対する地図の活用や野外調査の有用性を指摘している。

以上の先行研究での知見から、ハザードマップなどの地図の活用、観察や野外調査を取り入れた防災学習が、家庭や地域においても適切な避難行動をとる力の育成に有効であり、現実的に導入しやすい方法であると考えられる。地図の活用や観察、野外調査は、中学校社会科地理的分野の「地域調査の手法」の内容に位置付

けられている。本研究では、地域の事情を踏まえた学校防災教育を構築する方策の一つとして、「地域調査の手法」の単元開発に着目することとした。

## II 本研究の目的と研究仮説、研究の進め方

### 1 目的

「地域調査の手法」の単元開発を通して、自らが主体的にいのちを守るための適切な避難行動ができる生徒の育成に有効な学習指導の工夫改善を図ることを、本研究の目的とする。

### 2 研究仮説

防災を視点に、生徒の身近な地域の調査を位置付けた学習単元を開発し、観察や野外調査などの作業的・体験的な学習活動を工夫して取り組むことで、自らが主体的にいのちを守るための適切な避難行動ができる力を高められるであろう。

### 3 研究の進め方

本研究を、次の手順で進めることとした。

- (1)「地域調査の手法」の単元開発で留意する事項を教科学習と防災教育の二つの視点から検討し、防災教育を位置付ける方策を設定する。
- (2)研究仮説と(1)の方策を踏まえ、学習指導を改善する具体的手立てを検討し、防災を主題に設定した「地域調査の手法」の指導計画を作成する。
- (3)授業実践を行い、研究仮説を検証する。

## III 研究の実際

### 1 単元開発の留意点と方策

教科等横断的な視点で防災教育に取り組む上で、教科学習と防災教育双方の視点から、学習のねらいと内容を明確にし、その整合性に留意して単元開発を進める必要がある。

#### (1)「地域調査の手法」の単元開発で留意する事項

「地域調査の手法」は、主題を設定して地域調査を行い、地理的な調査の技能や多面的・多角的に考察する力、調査結果を表現する力などの育成を主なねらいとする。学習指導要領の内容の取扱いに「主題は学校所在地の事情を踏まえて、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定」、「課題の追究に当たり、例えば防災に関わり危険を予測し」と、防災教育と関連付けた取扱いが可能であることを明確に示している。学習指導要領の内容と内容の取扱いの記述を基に、単元の指導計画を作成する上で留意すべき事項を表2に整理した。

次に、「地域調査の手法」で育成する資質・能力について、学習指導要領の内容と解説社会編の記述<sup>6)</sup>から抽出して表3にまとめた。

表2 「地域調査の手法」で留意すべき事項

項目	留意すべき事項
主題の設定	○主題は、「学校所在地の事情」を踏まえて設定する。
学習の過程	○「課題を追究したり解決したりする活動」を踏まえ、課題を追究する学習の過程を組む。その際、社会事象の地理的な見方・考え方として「場所」などに着目して追究していく。
作業的・体験的	○主題の追究については、指導する事項を踏まえ、観察や野外調査、文献調査を位置付け、作業的・体験的な学習活動を工夫する。 ○調査結果のまとめは、「地図の作成などの地理的技能を身に付けること」を踏まえ、地図を活用した表現活動を工夫する。

表3 「地域調査の手法」で育成する資質・能力

観点	資質・能力	記号
知識・技能	・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法の理解	A 1
	・地理的なまとめ方の基礎の理解	A 2
	・地図の読図や作図などの地理的技能	A 3
	・資料を収集する技能	A 4
	・資料を読み取る技能	A 5
	・情報をまとめる技能	A 6
思考・判断・表現	・調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察する力	B 1
	・考察した家庭や結果を表現する力	B 2
主体的に学習に取り組む態度	・よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究する態度	C 1

注) 表中の「記号」は、本研究を進める上で便宜上付与した。

#### (2) 防災教育を位置付ける視点と方策

防災教育の視点で高めたい資質・能力を「学校防災のための参考資料」の防災教育の目標の記述<sup>7)</sup>から抽出し表4を作成した。本研究で目指す「自らが主体的にいのちを守るための適切な避難行動ができる生徒」を育てるには、実際に災害に直面した時に迅速に自らのいのちを守る行動がとれるよう、災害に直面した時に危険を予測する能力(表4のイ3)、危険を回避する能力(同イ4)、率先して避難行動ができる行動力(同イ5)を培うことが中核になると考える。

表4 防災教育の視点で整理した資質・能力

観点	資質・能力	記号
ア 知識、 思考・判断	・災害発生のメカニズムの理解	ア1
	・地域で起こりやすい災害の理解	ア2
	・諸地域の災害例に基づく危険の理解	ア3
	・災害についての備えの必要性の理解	ア4
	・災害に関する情報を活用して考え、安全な行動をとるために判断する力	ア5
イ 危険予測・ 主体的な行動	・日常生活において知識を基に正しく判断し、主体的に安全な行動をとる態度	イ1
	・被害の軽減を考え備える思考力と態度	イ2
	・災害時に危険予測する思考力・判断力	イ3
	・災害時に危険回避する思考力・判断力	イ4
	・災害時に率先して避難行動をとる力	イ5
ウ 社会貢献、 支援者の基盤	・自他の生命を尊重する態度	ウ1
	・地域の防災や災害時の助け合いの重要性の理解	ウ2
	・主体的に助け合う活動に参加する態度	ウ3

注) 表中の「記号」は、本研究を進める上で便宜上付与した。

危険予測や危険回避の能力の育成について、渡邊正樹<sup>8)</sup>は、危険や回避方法についての「知識の習得」と危険や回避方法についての「的確な判断」の二つの段階があり、迅速に行動できるよう日常から主体的に行動する態度を培っていくことが必要であると指摘している。危険予測や危険回避の判断力を的確なものとするためには、災害発生メカニズムの理解、地域で起こる自然災害、地域に潜む危険の理解などに基づく防災に関する知識を身に付ける必要があると考える。

避難行動にかかわる行動力の育成については、教科学習の中で、的確な避難行動の意識化を図ることを考えた。例えば観察や野外調査で、実際に災害が発生した状態や避難行動をイメージして、危険予測や危険回避の視点をもって学習活動に取り組みさせることで、避難行動をとる必要性を認識させ、その意識を高めるのである。その際、実際に観察した景観と地図などの情報を照らし合わせることで、防災を視点とした地域認識を高めることも期待できる。

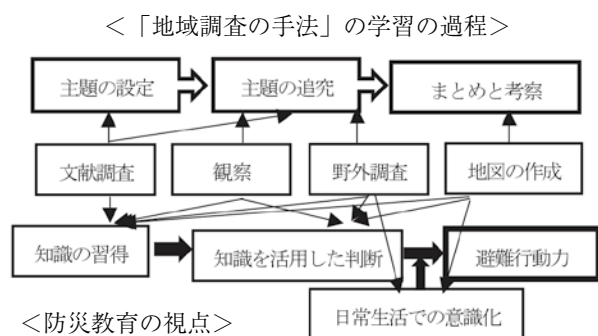
以上の検討を踏まえ、防災教育を位置付けるための方策を二つ設定した。

<p><b>方策1：自校にフィットする防災教育の推進</b> 身近な地域の防災に関する教材開発や、地域の防災に関する理解を深める調査活動を工夫する。</p> <p><b>方策2：知識を活用して思考・判断する調査活動</b> 地域の災害や防災の知識を活用して危険予測や危険回避について考える視点を調査活動に組み込む。</p>
---

### (3) 単元の指導計画の構想

これまでの検討を基に「地域調査の手法」の学習の過程に防災教育の視点を位置付け、単元の指導計画の構想を練る。本研究では、主題を設定して追究する学習の過程を組むこととし、作業的・体験的な学習を設定し、防災教育の視点と関連付けることで、知識を活用した判断や日常生活での意識化に寄与し、避難行動力の向上につなげようと考えた(図2)。

図2「地域調査の手法」の単元の指導計画の構想



## 2 学習指導を工夫改善する具体的手立て

### (1) 方策1を受けて

#### ① 主題の設定について

本研究は、本校の防災教育の課題を踏まえること、地域で発生する自然災害であること、地図などを使っ

た調査の主題として適していること、小学校の学習でも取扱っていることなどを勘案して、水害を取り上げることとした。生徒がこの学習を「自分ごと」としてとらえられるよう「水害から自分たちのいのちを守るために」と、避難行動を関連付けた主題を設定した。

#### ② 身近な地域の防災に関する教材について

防災教育の視点を踏まえて「地域調査の手法」で活用する教材(資料)を表5のとおり準備した。「小学校副読本」<sup>9)</sup>は、小学校社会科学習との連携を図るとともに、年表の利用により歴史的な視点を働かせることを意図した。地図帳の「関東地方」については、利根川流域の広がり、渡良瀬川との合流地点に近い栗橋地区の地理的位置を理解させることを意図した。新旧の地形図や空中写真の利用については、水田から住宅地等への変容を読み取り、防災の視点から土地の脆弱性をとらえることを意図した。GIS(地理情報システム)の利用について、「利根川洪水シミュレーション」は国土交通省利根川上流河川事務所の、「ハザードマップ」は久喜市の、「地理院地図」<sup>10)</sup>は国土地理院のWebページ上で公開しているものをそれぞれ活用した。ICTの利活用は、生徒が日常行っている情報収集の手段であり、授業で利活用することで防災情報を収集する能力の育成にも寄与すると考える。

表5「地域調査の手法」で利活用する資料

＜防災教育の視点＞・資料名	文献	観察	野外
＜地域で発生する自然災害の理解＞			
・小学校副読本の久喜市年表	○		
・広報くきのカスリーン台風の記事	○		
・台風の時に冠水した地域の写真	○		
＜災害のメカニズムの理解＞			
・地図帳「関東地方」	○		
・利根川洪水シミュレーション	○		
＜災害の危険性の理解＞			
・新旧の地形図の比較	○		○
・新旧の空中写真の比較	○		○
・ハザードマップ	○		○
＜地域の現状の理解＞			
・地形図	○	○	○
・地理院地図	○	○	○

注) 表中の「文献」は文献調査を、「野外」は野外調査を表す。表中の○は、該当する調査活動での利活用を表す。

#### ③ 学校周辺の観察コースの設定

観察の技能を身に付け、学校周辺地域の特色をとらえることをねらい野外観察を実施する。その際、防災の視点からの観察や調査の仕方を示し、野外調査での学習活動に結び付けていく。観察コースは授業時間内(50分)で学習活動が収まるように設定した(図3)。

#### ④ 野外調査の設定

野外調査については、生徒個々の通学路または最寄りの指定避難所までの通路を調査することとし、家庭学習の課題とした。通学路を調査対象としたのは、中

図3 学校周辺の観察コース



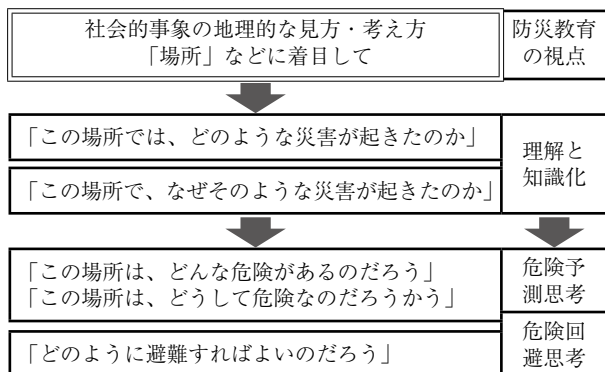
学校が避難所に指定されていること、登下校を利用した調査が可能であることに留意したためである。

(2) 方策2を受けて

①問いの構造化

「地域調査の手法」では、「場所」などの社会事象の地理的な見方・考え方を働かせて、主体的に主題を追究する。この見方・考え方に防災の視点を組み合わせ、問いを構造化した。これにより、地域の自然災害や防災についての理解から危険予測、危険回避についての思考・判断へと至る学習の段階を明確にすることができると考えた(図4)。

図4 防災を視点にした問いの構造化



②避難行動を意識させる野外調査の視点

調査のテーマを、「台風による大雨や強風で避難するとき危険な場所を調べよう」とし、避難行動をイメージして次の調査の視点を生徒に意識させた。

- a. 状況を想定して危険を予測する
- b. 立場を想定して危険を予測する

aは昼、夜といった時間帯、徒歩、自動車といった避難時の移動手段等を想定させ、実際の避難行動をイメージさせることで、避難行動の意識化につなげることを意図した。bは、高齢者、幼児など多様な立場から多面的に考察させることで、自助だけでなく共助の意識をもたせようと考えた。

③個人の調査結果を1枚の地図に集約する

個人の調査は点、あるいは線の状態であるが、個々の調査結果を1枚の地図に集約することで、ある程度、面的な把握が可能となる(写真2を参照)。「避難する

ときに、回避した方がよい場所はどこだろう?」といった問いを立て、地域を俯瞰して危険を回避して避難する経路を考えるなど、危険回避の思考・判断を迫る学習展開が可能になると考えた。

3 「地域調査の手法」の単元の指導計画

単元の指導計画を、本校の年間指導計画に基づき6時間を配当して、防災を主題として、主題の設定→追究→まとめと考察といった学習の過程を踏まえ設計した。その学習展開の概略を表6に示す。

表6 「地域調査の手法」の学習展開の概略

時	「主な問い」 <主な学習内容> ・学習活動	※1	※2
1	「この場所ではどのような災害が起きたのか」 <地域に発生する自然災害> ・台風で冠水した地域の写真、年表で調べる ・広報くきの記事からカスリーン台風による洪水の様子を調べる <単元を貫く主題の設定> 「水害から自分たちのいのちを守るために、どのように行動すればよいのだろうか」	A5 A5 C1	ア2 ア2 ア3 ア4 イ1
2	「この場所はどのような特色があるのか」 <学区の地域的特色> ・地理院地図(又は地形図)を利用して調べる	A3	ア1
3	「この場所ではなぜ水害が起きるのか」 <学校周辺地域の観察> ・地図を持って学校周辺を観察する	A1	ア1 イ3
4	<観察結果のまとめと文献調査> ・観察結果をルートマップに整理する ・新旧の空中写真を比較し変容を調べる ・利根川流域の広がりを見ながら地図帳で調べる 「この場所はどんな危険があるのだろうか」 ・ハザードマップで調べる	A2 A6 A5 C1 A5	ア1 ア1 ア4 ア3
課題	<野外調査> ・家庭学習の課題として野外調査を行う	C1 A4	イ3 イ4
5	「この場所はどのようにして危険なのだろうか」 <野外調査の結果のまとめ> ・調査結果を1枚の地図にまとめる	A2 A6 B2	ア5 イ1 ウ2
6	「どのように避難すればよいのだろうか」 <避難行動についての考察> ・洪水シミュレーションを見ながら考察する	B1 C1	イ2 イ5

注) 表中の※1は表3の、※2は表4で付した記号で、学習活動に関連する資質・能力を示す。

4 検証授業の実践と生徒の反応

(1) 検証授業の実施時期と対象

研究仮説に基づく授業を、令和3年3月に、本校第2学年2学級を対象として実施した。令和2年度は、新学習指導要領への移行措置最終年度に当たり、本実践は、旧学習指導要領の「身近な地域の調査」の学習の一部を「地域調査の手法」の内容と内容の取扱いを踏まえて実施した。

(2) 「土地の高さ」に着目した生徒の反応

生徒の反応を、冠水や内水氾濫が発生しやすい地域の事情を踏まえ、「土地の高さ」にかかわる発言や記述を抽出して表7に整理した。

第1時では、多くの生徒は栗橋地区の特色を「田が広がる平坦な土地」と認識していた。第2時から第4時までの観察や文献調査を通して、微妙な土地の高低差があり、冠水や内水氾濫と関連することなどに気付いていた。野外調査を経て、第5時から第6時では、ほとんどの生徒が豪雨等に伴う危険予測や避難行動と関連付け考察していた。生徒は、地理的な見方を働かせて課題を適切に追究し、地域の災害や防災に対する認識を質的に高めることができていたと考える。

表7 「土地の高さ」に着目した生徒の発言や記述

時	教師の問い(「 」)と生徒の発言、記述(・)
1	<p>「栗橋地区は、どのような特色がある場所なのでしょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田んぼが多い ・何も特長がない ・高い建物がない</li> <li>・田んぼしかない ・平地が広がる ・たいらな土地</li> </ul> <p>「学校周辺は、本当にたいらなのでしょうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神社の社は土が盛ってある上に建っている</li> <li>・学校の隣の田は校庭より高い</li> </ul>
2	<p>「地図で学校周辺の標高の数値を探してみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10mから11m</li> </ul> <p>「住宅地はどのように広がっているか地図で調べましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校周辺は道沿いに細長く広がっている</li> <li>・南栗橋地区は広い範囲に住宅地がまとまっている</li> </ul>
3	<p>「(学校の隣の田を観察して)大雨が降るとどうなるでしょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田から水があふれる</li> </ul> <p>「皆さんのひざ下位まで水がたまっていると、避難時、誰が特に危険な状態になるだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい子ども ・車いすを使う人 ・お年寄りは歩きにくい</li> </ul> <p>「(神社の社の盛土を観察して)どれくらいの高さがあるか、自分たちの身長と比較してみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身長より高い</li> </ul> <p>「道の左右の土地の高さを比べてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅は道より高い所にある・(写真1右側の)田は1m位深い</li> </ul> <p><b>写真1</b> 学校周辺の観察</p>  <p>「台風の大雨で、この道沿いの家では、敷地の入り口に土嚢を積んだそうです。どうしてでしょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・微妙に道が坂になっている</li> <li>・家の前がわずかに低く、水がたまって敷地内に浸水する</li> </ul>
4	<p>「学校周辺を観察してどんなことに気づきましたか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田の高さが場所により違う ・家は比較的高い所にある</li> </ul> <p>「新旧の空中写真を比べ、地域の変化を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南栗橋地区は、50年前は田だった。</li> <li>・道路沿いに細長く広がる住宅地は、50年前も住宅地だった</li> <li>・比較的高い所に集落ができ、低い所を田に利用した</li> <li>・新しい住宅地は、田を埋めて宅地になっている</li> </ul> <p>「利根川が決壊する前に、大雨により冠水する場所が発生します。どんな場所が危険でしょうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りより低くなっている場所 ・用水路の近く</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地の低いところがあって、避難経路が冠水する危険がある</li> <li>・水がたまると(道路の)段差に気付かず危ない</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難のとき、低い田や側溝などに落ちる危険がある</li> <li>・土地の高さを見ることが大切だと分かった</li> </ul>

注) 生徒の発言についての教師の記録、生徒のワークシートの記述から抽出、整理した。

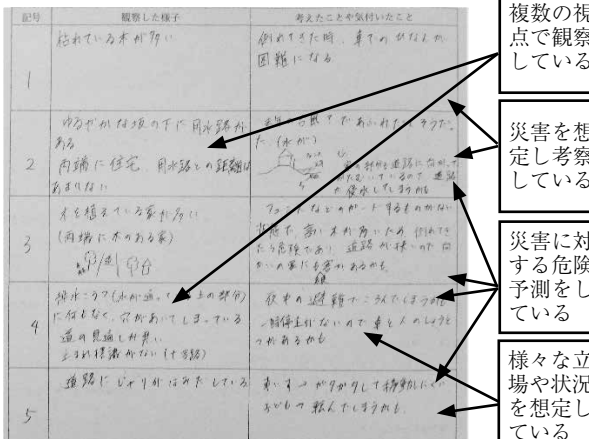
### (3) 野外調査での生徒のパフォーマンス

野外調査は、避難時の危険予測、危険回避について習得した知識を活用し避難行動の仕方と結び付けて思考・判断できるかが鍵となる。本研究では、表8の評価基準を設定し野外調査の記述内容と照らし合わせ、主題を追究する野外調査になっているかを評価して生徒のパフォーマンスをとらえた(資料1)。

表8 野外調査の評価基準

評価	生徒のパフォーマンス
S	複数の視点で観察し、その結果をもとに災害の発生状況を想定し、多面的・多角的に危険予測し記述している
A	観察した結果をもとに災害状況を想定し、多面的・多角的に危険予測し記述している
B	観察した結果と結び付けて危険予測を記述している
C	観察した様子のみ記録している 危険予測が不十分

資料1 生徒のワークシートの評価例



複数の視点で観察している

災害を想定し考察している

災害に対する危険予測をしている

様々な立場や状況を想定している

この事例では表8の基準に照らし、Sと評価する

野外調査における生徒のパフォーマンスの状況を評価した結果(表9)、生徒は主題の追究に適切な事象に着目して調査しており、おおむね満足できる学習状況であったと判断できる(表10)。

調査方法として、単に観察するだけでなく、歩測や目測をして数値を付したり、自分の体験やハザードマップの情報と関連付けて観察したりと、主体的に課題を追究する姿勢が見られた(資料2)。

表9 野外調査の生徒のパフォーマンスの状況

教師の評価	S	A	B	C
人数	4人	18人	30人	1人
割合	7.5%	34.0%	56.6%	1.9%

注) 「地域調査の手法」の授業を1回以上欠席した生徒を分析対象から除いた。

表10 主題に迫る事象に着目した生徒の割合

観察した事象	人(%)
土地の高低差や形状に関連すること	33人(62.3%)
川や用水路に関連すること	35人(66.0%)
道路(避難経路)の状態に関連すること	39人(73.6%)
土地利用(田、畑、住宅地等)と関連すること	17人(32.1%)
避難所、避難できる場所に関連すること	6人(11.3%)

注) 表中の項目は、生徒の記述を基に筆者が分類、整理した。

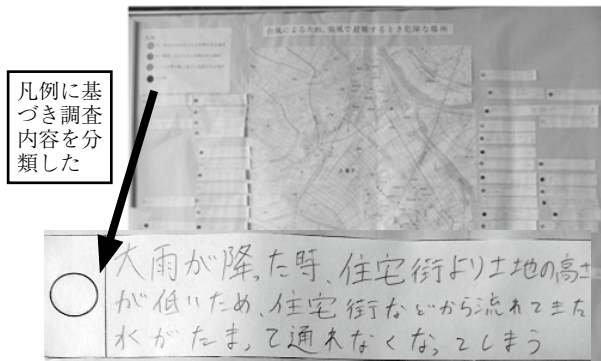
## 資料2 生徒のワークシートの記述

＜歩測や目測を取り入れている例＞  
 ・狭い道で横が田→道幅が3～4歩の距離でフェンスがない  
 ＜自分の経験と関連付けている例＞  
 ・低くなっている土地→4年前の大雨で15cmほど浸水していた  
 ・街灯がない道→西小に避難したとき暗かった  
 ＜ハザードマップの情報と関連付けている例＞  
 ・近くの住宅地に比べ土地の高さが低い  
 →ハザードマップで見ると3～5m水没が予想されている

### (4) 調査結果の共有化が生み出す協調的な学び

まず、個人の調査結果を調査地点ごとに1枚のカードにまとめた。次に小グループで発表し合い、調査結果を分類したり、有用な情報を選択して地図に貼り付けたりした(写真2)。互いの調査結果を共有して話し合う中で、協調的な学びとなったことがうかがえた(資料3)。

#### 写真2 調査結果を集約した地図とカード例



### 資料3 協調的な学びがとらえられる生徒の記述

・自分の身近なところにも、いろいろな危険のあることが分かった。自分が知らないところも友達と教え合い知ることができ、学べることもできました。  
 ・災害時の避難経路にどのような危険があつてどう気を付けなければならないのか、みんなの考えも聞いて考えられた。  
 (注) 第6時の「学習の振り返り」での自由記述から抽出した。

## IV 成果と課題

学習後の生徒の自己評価を表11に整理した。「調査の仕方の理解や技能」と「身近な地域の特色の理解」について、全ての生徒が肯定的な評価をしている。表7、資料3・4の生徒の反応からも身近な地域の自然災害や防災について理解や関心を高めている様子が認められる。このことから、本研究の方策1に基づく手立ては、有効であったと考える。

表9から、ほぼ全ての生徒が、災害時の危険予測と絡めて考察していることが読み取れる。資料4の生徒の記述からも危険予測にかかわる気付きのあったことが分かる。避難場所や避難経路の選択など危険回避にかかわる記述も認められた。また、日常生活の中で防災を意識したり、家族を巻き込んで防災を考えたりするなど防災意識の広がりを読み取ることができ、方策2に基づく手立ては、有効であったと考える。

表11で「ハザードマップ活用の技能」等について

あまり高まらなかったと感じる生徒がおり、ハザードマップの利活用について指導法の改善が課題となる。

表11 学習後の生徒の自己評価 (単位:人)

自己評価の項目	ア	イ	ウ	エ
野外調査の仕方の理解や技能	47	5	0	0
身近な地域の特色の理解	43	9	0	0
防災に対する関心	46	6	0	0
ハザードマップ活用の技能	17	29	10	2
災害時の危険を予測する力	26	25	7	0
地域の災害に対する理解	30	22	5	1

注) ア:高まった イ:やや高まった ウ:あまり高まらなかった エ:高まらなかった を表す。

### 資料4 学習の振り返りの生徒の自由記述

＜防災の視点で地域を見直す＞  
 ・野外調査を行ってから、日頃から周りの様子を細かく見られるようになった。安全だと思っていた場所も細かく観察してみると危ない場所があることに驚いた。  
 ＜避難行動について思考し判断に生かす＞  
 ・避難場所が高校か文化会館か決まっていませんでしたが、避難場所に行くまでの道で安全なのは高校だとわかりました。気を付けたほうがよいところも知ることができたので注意したいです。  
 ＜災害時の危険についての認識を深める＞  
 ・ハザードマップを見たときに、自分の家まで普通に水が流れてくることを知り、とてもびっくりした。災害が起きても大丈夫のように家で家族と話し合いたいです。

以上の考察から、観察や野外調査などの作業的・体験的な学習活動の工夫が、自らが主体的にいのちを守るための適切な避難行動ができる力を高める上で有効であったと結論付ける。特に危険な個所が身近な地域にあるという認識を高めたことは、地域の防災意識を高める上で意味があると考え。今後、本研究の成果を活かし、社会参画や教科等横断的な視点を働かせて防災教育の工夫改善に取り組んでいきたい。

### 【注及び参考文献】

- 久喜市(2020)『令和元年台風19号検証報告』
- 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編』
- 曾川剛志(2020)「リスクテイクな連続的意思決定を個別に行わせる地図活用型防災学習の開発」新地理68-3. pp.1-26
- 大西宏治(2012)「地図を活用した防災教育の有用性」新地理60-1. pp.30-36
- 井田仁康(2016)「防災教育についての地理教育からのコメント」E-journalGEO11-2. pp.558-559
- 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』
- 文部科学省(2013)『学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開』pp.8-10
- 渡邊正樹(2016)「防災教育の新たな視点」消防防災の科学No.125. pp.11-14
- 久喜市教育委員会(2015)『久喜市小学校地域学習副読本 わたしたちの久喜市』
- 本研究で使用した学校周辺地域の地図及び新旧の空中写真は、地理院地図の提供するデータを利用した。図3は地理院地図を利用し作成した。

# 入院中の生徒への ICT を活用した校外学習の取組

## ～コロナ禍でもできる！ 体験的活動への試み～

埼玉県立けやき特別支援学校 教諭 橋本 幹 征

### I はじめに

本校は、埼玉県立小児医療センター（以下、病院）に入院している小・中学生が通学する病弱特別支援学校である。本校の児童生徒は、治療や感染防止の観点から生活や活動の制限が多く、受け身になりやすい傾向にある。そのため本校では、以前から教材教具の工夫や ICT 機器の活用を進め、児童生徒が主体的に学習に取り組めるように努めてきた。修学旅行などの実体験ができる校外学習も計画し、医師の許可が下りた児童生徒が参加できるようにもしてきた。

平成 30 年度から 3 年間、本校は文部科学省及び埼玉県教育委員会の委嘱を受け、ICT 機器を活用した主体的・対話的で深い学びに向かう実践研究を進めた。この研究では Web 会議システムで学校と病室などを繋いで合同の授業を実施したり、VR ゴーグルを用いて疑似体験をさせたりするなどの実践を積み重ねた。現行の学習指導要領改訂のポイントとして、病弱教育では「間接体験、疑似体験などを取り入れた指導方法の工夫」が挙げられる中、本研究は入院中であっても体験的学習を保障するための取組となった。

このような状況下、新型コロナウイルスの感染症拡大が起こった。その影響は大きく、本校では感染防止対策として校外学習はすべて中止、教員も自身の感染予防のため教材用の写真や動画を撮るための遠出は必要最小限にするなどの対応を取ることになり、体験的学習の機会が一層減ってしまった。

そこで、先行研究を踏まえ、児童生徒が主体的に操作できるテレプレゼンスロボット（以下、ロボット）を積極的に活用し、児童生徒の健康・安全を確保しつつ、コロナ禍でも体験的な学習を実施するための方法を研究したいと考えた。ロボットを校外行事で活用する試みは全国的にも少なく、GIGA スクール構想において事例の蓄積が望まれるといえる。この状況下でも学びを止めず、入院中の児童生徒でも主体的に参加できる校外行事や体験的学習ができる方法を探りたい。

小・中学校には、入院はしていないが自宅療養が続いている、あるいは不登校といった児童生徒もいる。そのため本研究では、病弱教育の範囲を超えて、教育活動においてロボットを活用する上で押さえるべき事項についても考察したい。

### II 研究仮説

ロボットを中心とした ICT 機器を、それぞれの特徴を生かして活用することができれば、コロナ禍において外出が叶わない状況にある児童生徒の安全を確保した上で、疑似体験を含めた体験的な校外学習を実施できるのではないかと。

### III 研究方法・研究計画

本研究における校外学習先としては、本校と同じく病院内にあるドナルド・マクドナルド・ハウス さいたま様（入院中の子どもやその家族が一時的に滞在、宿泊できる施設。以下、ハウス）、及びハウスを介してハンバーガー店のマクドナルド様（以下、マクドナルド店舗）の見学を依頼し、協力を得た。対象は、中学部 1～3 年生で、総合的な学習の時間のロボットを活用したオンラインによる校外学習を計画した。

#### 1 研究方法

- (1) ICT 機器としては、ロボット（OriHime、kubi）を中心に、タブレット端末、Web 会議システム（Zoom）などを使用した。これらの機器を活用し、校外学習及び疑似を含めた体験的学習を実施した。

#### OriHime（読み：オリヒメ）

見学先に OriHime 本体を持っていき、学校からタブレット端末を使ってインターネット経由で遠隔操作を行う。声や手、顔の向きで操作者が意思表示をすることができる。また、首の向きを変えて見たい場所を見ることができる。自走式ではない。



#### kubi（読み：クビ）

操作の原理は OriHime と同じであるが、kubi 本体側にもタブレット端末を取り付けるため、本体の向きを操作することに加えて kubi 側のタブレットのカメラを切り替えば 360 度を自由に見ることができる。OriHime と同じく自走式ではない。



- (2) 事前の打合せでも可能な限り ICT 機器を活用し、感染防止対策を徹底した。
- (3) 先方の状況を踏まえ、マクドナルド店舗の見学は Zoom、ハウスの見学はロボットと Zoom を用いた。
- (4) 生徒がロボットの扱いに慣れるために操作を練習する機会を設け、当日は操作に自信をもって意欲的に活動できるようにした。

## 2 研究計画（実施までの流れ）

時期	内容
11月	・ハウスに校外学習への協力を依頼。併せてマクドナルドのフランチャイズ店オーナーである株式会社山全フーズ様を御紹介いただき、依頼。双方の承諾を得た。
12月	・各機器の操作方法、特徴の把握 ・事前学習の準備
1月15日	・ハウスとの打合せ（概要、ねらい、当日の流れ、実施方法などを確認） ※対面
1月下旬～ 2月中旬	・事前学習（目的・学習内容の確認、ハウスとマクドナルド店舗の概要の理解、調べ学習、質問事項の検討、ロボットの操作練習など） ※全部で6時間（2時間×3回）実施
2月9日	・ハウスとの打合せ（ロボットの仕組みや操作方法を伝授） ※対面
2月12日	・ハウス、マクドナルド店舗と本校の三者で最終打合せ（当日の流れの確認） ※ Zoom
2月15日	・マクドナルド店舗の見学を実施 ※ Zoom ・終了後、事後学習、お礼の手紙
2月18日	・ハウスの見学を実施 ※ロボット・Zoom ・終了後、事後学習、お礼の手紙

※その他、メールと電話で適宜、打合せを実施

## IV 実践1 マクドナルド店舗の見学

### 1 当日までの準備

#### (1) 打合せ・準備

- ① 打合せの結果、当日は Zoom で店舗の方と生徒が直接やり取りできる時間を設ける一方、見学は以下の理由から事前に店舗スタッフに撮影、編集していただいた動画を観る形に決定した。

ア Zoom で中継する場合、特に場所を移動する際にインターネット回線が切れてしまう心配があること

イ 場所を移動する際にロスタイムが生じること

ウ 想定外に店が混雑した場合、予定どおりの実施が難しくなること

エ 飲食店のため衛生面への十分な配慮が必要なこと

オ 万が一、当日に Zoom が使えなくなった時の代替手段がないこと

- ② ハンバーガーの各材料（バンズやハンバーグ、野菜

など）を、どの順番で重ねて作っているのかを体験的に学習できるようにするため、ハンバーガーの組立模型をお借りできることになった。

- ③ 最終的な打合せも Zoom で実施し、当日の流れを以下のように決定した

ア Zoom を繋ぎ、始めの挨拶

イ 店舗が撮影した動画を視聴

ウ 再び Zoom を繋ぎ、ハンバーガー模型の組立体験

エ 質疑応答、終わりの挨拶

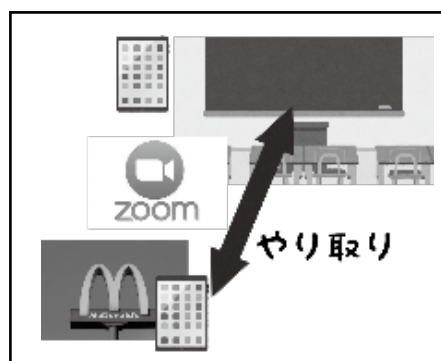
- (2) 事前学習における工夫

- ① 治療により病室にいる場合でも事前学習に参加できるように、事前学習でも Zoom を活用し、教室と病室を繋いで一緒に授業が受けられるようにした。

- ② 多くの生徒がマクドナルドを好きであることは把握していたが、同時に「入院中のために食べたくても食べられない」というストレスがある状態にあることも感じられた。そのため、メニューなどの提示を極力減らして配慮するとともに、生徒が知らないと思われる分野（社会貢献活動など）を多く扱い、企業の活動に幅広く眼を向けられるようにした。

- ③ 見学予定の店舗の場所をインターネット上にある 3D 映像を活用して確認し、実感を伴って見学ができるようにした。

- ④ 遠隔で繋ぐことをイメージできるように、接続の仕組みを図にして説明し、生徒が仕組みを理解した状態で見学ができるようにした。



【接続のイメージ図】

- ⑤ インターネットを使って調べ学習を行い、調べたことを基に質問を考える際は、『調べ学習のコツ（インターネット検索の際の「-」「”」記号の上手な使い方など）』及び『上手な質問のコツ（自分で調べれば分かることではなく、調べても分からなかったことや、回答をしていただく方の思いや考えを聞くような質問を心掛けるなど』について扱い、他教科の学習でも活用できるようにした。



## 2 当日の授業の様子

当日は在籍7名のうち4名が参加でき、病室から参加する生徒はいなかった。教室及び店舗側の複数箇所の計6カ所を Zoom で繋いで実施した。

### (1) 動画視聴

ハンバーガーやポテトなどの作り方を順序良く紹介していただいたことに加え、レジの仕組みや普段は入れない冷凍室なども紹介していただいた。丁寧な編集がなされ、かつタイトルやテロップも入って手間を掛けて作っていただいた分かりやすい内容であった。生徒たちは、普段目にしない場所を食い入るように視聴していた。

### (2) ハンバーガー模型組立体験

一人ずつ組立体験を行い、Zoom で店長様に様子を見ていただいた。生徒が組立てたハンバーガーの模型を採点していただき、マクドナルドで働きたいと言う生徒には「採用！」と言っていたなど、楽しいやりとりを混ぜながら体験を行うことができた。



【動画の冒頭部分】

【果たして正解かな…】

### (3) 質疑応答

調べ学習を行って質問を考えていたこともあり、「朝と昼でメニューを変えている理由は何ですか?」「テイクアウトで持ち帰ったポテトを、家でも揚げたてのように食べられる方法はありますか?」などの質問を出し、「よい質問ですね」と言っていたきながら進めることができた。

## 3 生徒の感想 (抜粋)

お店の裏側に大きな冷凍庫があることを初めて知ることができた。また、チキンナゲットには4種類の形があることも知らなかったなので、今度食べる時には形を意識して見てみたい。これからもマクドナルドを食べ続けたい。

マクドナルドのおいしさの秘密を学ぶことができた。商品の一つ一つにたくさんの工夫が詰まっていて、「お客さんにおいしいものを食べてほしい」という優しさを感じられてうれしかった。

いつもは見られないお店の裏側や、ハンバーガーやチキンナゲットの作り方まで見せてもらい、貴重な体験をすることができた。機会があれば、今回見せていただいたお店に行ってみたい。

色々なところでおいしく食べてもらうための工夫がしてあり、びっくりしました。一番印象に残っているのは、大きな冷凍庫があったことです。

## V 実践2 『ドナルド・マクドナルド・ハウス さいたま』の見学

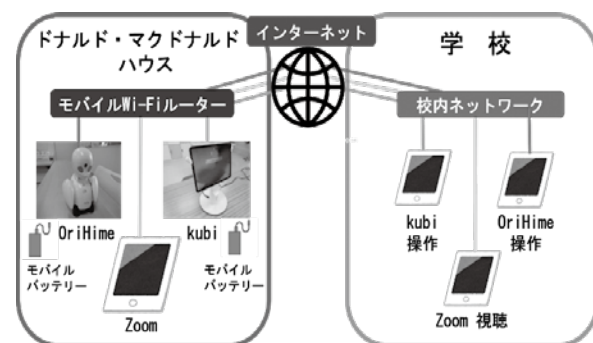
### 1 当日までの準備

#### (1) 打合せ・準備

① 本校とハウスの位置関係としては、病院内で階が異なるだけである。しかし、コロナ禍により双方で感染防止対策を取っており、本校側は生徒が校外に出られないことに加え、来訪者と生徒が接触しないようにしているため、ハウスの方が直接生徒へ話をすることができない。また、ハウス側も関係者以外の立入を中止しているため、教員がハウス内から Zoom など中継をすることができないことも判明した。

② この状況下でも体験的学習ができる方法として、学校から持って行ったロボットをハウス入口でスタッフに預け、スタッフがロボットをハウス内に入れて、学校から生徒が遠隔で操作して見学するという方法を提案し、了承を得た。

③ 以下は、ロボットなどの各機器の接続のイメージ図である。学校側は校内のネットワーク回線を使い、ハウス内にはロボットと一緒にモバイル Wi-Fi ルーターを持ち込んでインターネットに接続し、遠隔操作ができる環境を整えた。この接続方法は、特にロボットと Wi-Fi ルーターの接続に苦労したものの、テストを重ねることで安定した接続を確保できた。



【接続のイメージ図】

④ 実施の数日前に、直前に転入した生徒が参加できることが分かった。そのため、ロボットの操作ができなくても参加できるようにするため、急遽 Zoom を使った見学も行うことにした。

⑤ ハウスは多くのボランティアによって運用されていることから、新しいボランティアの方に向けて概要を説明する DVD を作成していた。内容は中学生でも十分に理解できるものであったことから、事前学習で活用させていただくことにした。

⑥ 当日の流れは以下のように決定した。

ア Zoom で繋ぎ、始めの挨拶

イ ロボットと Zoom を使った見学

ウ 質疑応答・終わりの挨拶

## (2) 事前学習

DVD はハウスの理念や運営方法、利用者の声などが丁寧にまとめられており、生徒は十分にハウスの概要を理解することができた。

見学に向けてロボットの操作を練習できる時間を、3回の事前学習で毎回設けた。これは治療や検査があることで毎回参加できる生徒ばかりではないためであり、全生徒が少なくとも1回は練習ができるようにして当日の操作に不安がないようにした。

## 2 当日の授業の様子

当日は在籍8名の中、5名（内2名は実施直前に転入）が参加でき、病室から参加する生徒はいなかった。直前に転入した2名はロボットの操作の練習ができなかったため、生徒本人の意志を確認し、1名は仲間に操作方法を教してもらいロボットを操作して見学、1名はZoomで見学することにした。

### ① ロボットを使った見学

特にロボットを操作して見学をすることに対して、生徒が非常に意欲的に取り組む姿が見られた。今回、使用したロボットは自走式ではないため、ロボットを台車に乗せ、スタッフに台車を動かしていただきながら見学を進めた。自分で見たい方向にカメラを向けたり、もう一度見たい場所があると「前の場所に戻っていただけますか？」などと頼んだりしながら、終始興味深く見学を進める様子が見られた。



【授業冒頭の様子】



【持ち込んだロボット】



【OriHime の操作画面】



【操作中の様子（左：kubi 右：OriHime）】



【ハウス内の見学の様子】

一般的に、画面に映る映像を視聴する場合、受け身の姿勢になる傾向にある。しかし、今回は自分で操作をして見たい場所を自由に見られたことで、生徒は能動的に、自ら進んで取り組む姿が見られた。

### ② 質疑応答

生徒からは「ハウスがまだない地域には今後建設の予定はありますか」「ハウスの支援方法として、募金以外に何か役に立てることはありますか」といった、インターネットで調べても答えが見つけない質問が出て、生徒が興味をもって調べ学習も行っていた様子が伝わった。

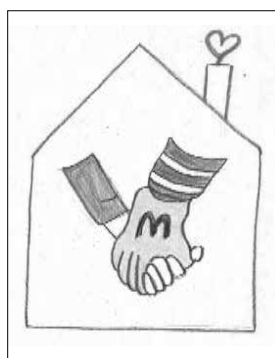
## 3 生徒の感想（抜粋）

ハウスには、いろいろな形の寄付が行われていて、人の思いやりの心でハウスが運営されているんだと感じられた。kubiを使ってハウスの中を見ていると、実際にハウスに行っているような感覚で見学をすることができた。

こんな場所が病院内にあるなんて、初めて知りました。多くの人は、マクドナルドのお店でやっている募金のお金がどこに行くか知らない聞いたので、今回の見学のことを周りに話したいと思いました。

kubi や OriHime を使って、自由にハウス内の見学をすることができました。わたしが思っていた以上に部屋一つ一つの大きさが結構あり、わたしたちがいる病棟とは景色が違うなと思いました。

ハウスの中を、OriHime を操作して見学させてもらいました。お皿など、たくさんの寄贈された物が使われているのを見て、「すごいなあ！」と思いました。



【終了後にお礼の手紙と一緒に生徒が描いた絵（ハウスのロゴマーク）】

## VI 成果と考察

### 1 成果

2回の校外学習において、生徒が終始、意欲的、能動的に取り組み、興味をもって参加している姿が見られた。その様子から、現状の中で最大限の活動を実施できたという手応えを感じた。特に、ロボットを操作して取り組む活動は初めての経験であったことで、興味をもって取り組めたことが感想にも表れていた。

以下、その成果をまとめる。

#### (1) 体験的学習の機会の確保

入院中であり本校に学籍があることから、生徒は前籍校の行事に参加することは難しく、かつ本校は現状では校外に出られない状況にある。そのような中、今回はオンラインによる校外学習が実施でき、学習の機会を確保することができた。校外に出られない状況にあっても、相手側の協力を得てICT機器を活用することで、実際の体験に近い活動を用意し、生徒が意欲的に取り組めるということは、本研究で示すことができたといえるだろう。

#### (2) ロボット操作による生徒の能動的な参加

本研究ではOriHimeとkubiのロボットとZoomを活用したが、特にロボットを使用した見学方法を取り入れたことで、生徒が見たい方向を自由に見るという主体的な行動を引き出したことは大きかった。ロボットの操作は決して難しくはなく、操作側のタブレット端末によって直観的な操作が可能である。

しかし、インターネット接続の特性として、操作の指示を出してからロボットが反応するまでに数秒程度の時間差が生じ、ロボットの機種によってもその時間差は異なる。自分が思うようにロボットが動かない場合は意欲を失ったり楽しめなかったりした可能性は高く、そうなるとロボットの導入が逆効果になりかねない。今回は、事前に練習する時間を十分に確保したことも、当日の意欲を引き出すためには大変有効であった。

#### (3) IT技術の進歩とその活用

特にZoomに関しては、コロナ禍により急速に世間に普及したことを実感した。オンラインでの見学を提案し相手からすぐに承諾を得られるようなことは、コロナ禍以前ではなかったであろう。見学に加え事前の打合せもオンラインで実施できたことは、非常に便利であり、有効な感染防止対策にもなった。

特にマクドナルド店舗の見学は、こちらが一度も先方に向くことなく実施ができ、本校としては、今までにはない形の校外学習の実施方法を確立することができた。感染症のリスクに加え移動の負担を考えると、特に本校のような学校ではコロナ禍以降も継続し、活用したい方法であると感じた。

### 2 考察

仮にコロナ禍ではなかったとしたら、今回の校外学習では、少なくとも同じ建物内にあるハウスは直接見学ができたはずである。しかし、本校の場合は治療により病室から出られない生徒が多いことから、参加が難しい生徒が出た可能性は高い。その場合は、やはりZoomやロボットで参加することになったであろう。その点を考えると、今回の取組は本校ではコロナ禍以降にも十分に活用できる実績になったといえる。

以下、今回の取組を振り返り、本校だけでなく小・中学校での活用も見据えて、ロボットなどを用いた校外学習、学習活動の在り方について考察する。

#### (1) 小・中学校での実施に向けて

小・中学校では、コロナ禍以降は通常の形での校外学習を再開できるだろう。しかし、食品・薬品・精密機器関連など、衛生面が理由で直接の見学が難しい場所は少なくない。また、大人数が一度に入ることが難しい地域の小規模な商店など、オンラインが望ましい場所もある。また、自宅療養や不登校などが理由で参加が難しい場合でも、オンラインであれば参加の可能性が開けると思われる。

そこで、今回の校外学習を通常の形で実施した場合を想定し、オンラインでの実施と比較することで、オンラインによる校外学習の在り方を考察する。

#### (2) マクドナルド店舗の見学

○見学 … 衛生面の問題、そして営業中であることで通常実施でも見学が難しかった可能性は高い。店舗外観は見学できた可能性はあるが、インターネット上にある3D映像である程度補うことができた。

○体験的学習 … 通常実施の見学ができた場合は、実物のハンバーガーを用いて作り方の説明を受けられた可能性は高い。今回は模型をお借りすることで、オンラインでも、ある程度の体験を補うことができた。試食体験はオンラインでは不可能であったが、通常実施では可能かも知れない。

○質疑応答 … オンラインでも通常実施でも、ほとんど変わらないと思われる。

#### (3) ハウスの見学

○見学 … 通常実施であれば、室内を含めて施設全体を直接見学できただろう。オンラインでも施設全体を見学できたが、部屋の広さの体感や雰囲気の実感などは、やはり通常実施が勝っていると思われる。

○体験的学習 … 通常実施の場合、ボランティアの方が普段やっている活動を体験させていただくことができた可能性がある。オンラインではその活動は難しかったが、今回はハウス側から「生徒が後日描いた絵を、ハウスを広く知ってもらうための活動の中で使いたい」と提案していただき、絵を提供できた。

○質疑応答 … オンラインでも通常実施でも、ほとんど変わらないと思われる。

(4) 通常実施のよさ

上記から、通常実施の場合のよさとしては「実感を伴う」点が挙げられる。言い換えると、オンラインの場合は、いかにこの点を克服、補完できるかが鍵となる。全く同じ活動を用意することは難しいとしても、それに代わる活動をいかに工夫できるかという点が、オンラインによる学習を成功させるポイントになる。

(5) オンラインでも遜色なく実施可能な点

質疑応答のように言葉でのやりとりを重ねる活動は、オンラインでも同じように実施することができた。オンラインのよさはどれだけ離れていても実施できることにあり、例えば海外在住の相手のように直接会うことが難しい相手とも可能であり、そのよさを生かすことで活動の幅も広がることが期待できる。

(6) オンラインが勝る点

オンラインの長所としては、実際に足を踏み入れることが難しい場所の見学ができる点が挙げられる。今回の取組では、店舗の冷凍庫などのバックヤードが当てはまる。衛生面の問題から、通常実施でも生徒が入ることはできなかった可能性が高い。他にも、先述のとおり小規模の店舗のような場所に大勢が入ることは難しいが、オンラインであれば全員で一緒に見学ができる。コロナ禍以降も通常の校外学習に加え、見学場所や内容によってはオンラインを組み合わせることで、学習の幅を一層広げることができるだろう。

(7) インターネット接続回線の確保

オンラインでの実施では、何よりインターネット接続の安定が不可欠である。今回は、マクドナルド店舗の見学時は店舗側の回線、ハウスの見学時はモバイルWi-Fiルーターを用いたが、どのような方法を用いるにしろ、安定した回線を確保しなければ実施は難しい。今回の取組でも事前の回線の確認は入念に行い、その重要性を実感した。また、予定していた回線が万が一使えない場合の代替手段（電話やチャットなど）も確保すると一層安心して臨める。

(8) オンラインによる校外学習成功のポイント

- ①体験的活動をいかに補完できるか  
→疑似体験を含めて代替の活動を確保できると学習は一層充実
- ②質疑応答の時間の設定  
→オンラインでも十分に質疑応答は可能  
有効な時間にするために調べ学習の充実を

③オンラインなら見学できる、オンラインでしか見学できないような場所の選定

→今までの校外学習先を再考することも必要

→通常とオンラインを上手に組み合わせると学習の幅が拡大

④インターネット接続の入念な確認と代替手段の確保

### 3 今後に向けて

今回の取組を通して、生徒が終始意欲的に楽しく取り組んでいる姿が印象に残った。こちらとしても最も嬉しい姿であった。

- (1) 本校の児童生徒は、多くが突然の発病と入院、本校への転学という予期せぬ辛い経験をしている。それはとても辛く厳しいものであるが、そのような日々だからこそ、何かに心が動く瞬間、「楽しい！嬉しい！」と思う時間を作りたい。そして、晴れて退院を迎える時に一つでも多くの楽しい思い出とともに、学習面でも遅れることなく、胸を張って前籍校に復学してほしいと願う。入院中であっても子供が子供として成長できるような取組、学びを止めない取組を、今後も工夫し続けたい。
- (2) 校外学習に関しては、本校は当面オンラインに頼らざるを得ない。協力をいただける場所を探すとともに、考察のとおり、体験的学習を補完できるような取組（VR技術などの疑似体験の活用）を一層工夫する必要がある。制限は多いが、それを逆手に取って本校でしか体験できないような学習活動を計画、実施し児童生徒の成長と発達を支えていきたい。
- (3) 本校は、ICT機器の整備が比較的進んでいることで、本研究にある取組を進めることができたが、GIGAスクール構想により、全国的に機器の普及は進んでいる。Web会議システムであれば、現在ほどの学校でも活用できるものとなっており、小・中学校でも自宅からオンラインで校外学習に参加できる条件は整ってきた。本研究で示した成果や考察が、わずかでもその後押しになれば幸いである。

## Ⅶ おわりに

本研究は、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン さいたまハウス様、株式会社山全フーズ様とその関係者様の多大な御協力があってこそ進めることができた。

心から感謝申し上げます。

# 外国語科における「話すこと」の思考力、判断力、表現力の育成

～3ヒントクイズを通じて宣言的知識と手続き的知識を統合、活用する児童を目指して～

さいたま市立下落合小学校 教諭 有江 聖

## I はじめに

“What is DORAYAKI?”

みなさんは、こう聞かれたらどう答えるだろうか。これは筆者が大学時代に、留学生から何気なく質問されたことである。しかし、筆者はこの時、英語で説明をすることができなかった。

平成29年度に新学習指導要領が告示され、令和2年度からは小学校での外国語科が全面実施された。そこで、児童の育てるべき資質・能力を①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等の涵養」の3要素とした。

### 1 外国語科について

また、数ある改訂点の中で、高学年での外国語科の導入は大きな話題となった。外国語科では、先の3要素の内容を以下のように示している。

表1 外国語科における3観点の内容(括弧は筆者が記入)

(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。(知識・技能)
(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。(思考力・判断力・表現力等)
(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

ここで、(2)と筆者の経験を重ねてみると、外国の友人との会話で、「どらやき」という身近な事柄を英語で説明することができなかったということになり、これはいわゆる「思考力、判断力、表現力」(以下、思考力等)が十分に働いていない状態であったと考えられる。

### 2 「思考力、判断力、表現力」を取り巻く現状

「思考力等」に関する課題は、令和元年度に中学3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査【中学校/英語】」でも指摘されている。①「聞くこと、

読むこと、書くこと」、②「話すこと」の問題で、「外国語表現の能力」に関する問題の平均正答率は、それぞれ①1.9%、②28.1%と他の項目に比べていずれも低い数値を示し、目的に対して即興で自分の考えを表現する能力への課題を明らかにした。

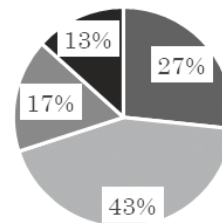
また、「話すこと」自体の平均正答率も30.8%と低く、4技能の中でも顕著な課題であると推察できる。本稿では②「話すこと」の調査結果を記載する(図1)。

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の領域	聞くこと		
	話すこと(参考値)	5	30.8
	読むこと		
	書くこと		
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0	
	外国語表現の能力	2	28.1
	外国語理解の能力	0	
	言語や文化についての知識・理解	3	32.6

図1 令和元年度学力・学習状況調査 英語「話すこと」結果(一部抜粋)

さらに、令和2年度に筆者が担任をした6年生の学級に調査した「英語学習に関するアンケート」では、「友達や先生との会話の中で、習った英語や表現が思い出せなくて困ったことがある」という項目に対して、7割の児童が「ある」と回答した(図2)。

友達や先生との会話の中で、習った英語や表現が思い出せなくて困ったことがある。



■ある ■まあまあある ■あまりない ■ない

図2 英語学習に関するアンケート n=31

以上を踏まえると、英語教育における「思考力、判断力、表現力」の育成は喫緊の課題であると言える。

とりわけ、本稿では「話すこと」の「思考力、判断力、表現力」の育成について取り上げる。

## II. 思考力、判断力、表現力について

中央教育審議会答申（2107）によると、「思考力、判断力、表現力」の内容は以下のように整理することができる。

表2 思考力、判断力、表現力の内容（筆者が表に整理）

思考	新たな情報と既存の知識を適切に組み合わせ、それらを活用しながら問題を解決したり、考えを形成したり、新たな価値を創造していくために必要となる思考 (比較、関連付け、分類など)
判断	必要な情報を選択し、解決の方向性や方法を比較・選択し、結論を決定していくために必要な判断や意思決定 (目的に基づく情報の比較・選択)
表現	伝える相手や状況に応じた表現 (目的に即した的確な情報の整理)

そして、角屋（2017）は思考力、判断力、表現力を育成するための「すべ」（p.12-14）について以下のように言及している（表3）。

表3 思考、判断、表現の「すべ」（角屋の著書を基に、筆者が表に整理）

思考の「すべ」	①違いの気付き、比較 ②対象と既存知識の関係付け
判断の「すべ」	①目的や見通しの明確化 ②目的や見通しと実行計画を関連付けて適切なものを選択 ③実行結果を目的や見通しと関連付けて適切なものを選択
表現の「すべ」	①目的や見通しのもとに実行し、表現する内容を獲得すること ②実行結果を目的や見通しなどと対比して的確に整理して表出する

さらに、田村（2021）は、『『思考力、判断力、表現力等』の資質・能力に関しては、「手続き的知識が宣言的知識とつながりハイブリット化する」こと（p.37）、「それらが一体となって統合的に獲得されていくことである」と定義した（p.147）。田村は、著書の中でそれぞれの知識について次のように定義している（表4）。

表4 宣言的知識と手続き的知識について（著書を参考に筆者が表に整理）

宣言的知識	事実に関する知識であり、測定しやすく認知しやすい言語系の知識、知っている知識。（知識）	
手続き的知識	方法に関する知識	繰り返し行ってきたことによって無意識のうちにできるようになったテクニック、手順が可能になる知識（使うことができる）。（技能）
	認識に関する知識	「比較する」「理由付け」するなど、知識や情報を処理し、認識するために活用する知識（思考ツールとも考えることができる）。

さらに、認識に関する知識について、著書の中で以下の19のスキルを挙げている（表5）。

表5 認識に関する知識一覧

①多角的に見る	②順序立てる	③焦点化する
④比較する	⑤分類する	⑥変化をとらえる
⑦関係付ける	⑧関連付ける	⑨変換する
⑩理由づける	⑪見通す	⑫抽象化する
⑬具体化する	⑭応用する	⑮推論する
⑯広げてみる	⑰構造化する	⑱要約する
⑲評価する		

つまり、思考力等は「知識・技能」（宣言的知識・方法に関する知識）を身に付け、活用するための認識に関する知識を獲得し、それらを統合する必要があるということである。認識に関する知識は田村（2018）で詳細が記載されている。本稿では、実践に関わる知識を抜粋して以下に掲載する（表6）。

表6 本稿に関わる認識に関する知識（筆者が整理）

多角的に見る	対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。
順序立てる	複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。
比較する	複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。
分類する	複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。
関連付ける	複数の対象がどのような関係にあるかを見つける。 ある対象に關係するものを見つけて増やしていく。

また、宣言的知識と方法に関する知識に似た理論として、第二言語学習の語彙習得の研究分野では、「需要語彙能力」と「発表語彙能力」がある。望月他（2003）によれば、需要語彙能力とは「わたしたちが一般にその単語を『知っている』もの」で、発表語彙能力とは「その単語を『使える』もの」である（p.84）。

そして、言語習得に必要な最低条件は「『インプット+アウトプットの必要性』である」と白井（2008）は述べている（p.102）。知識や技能を自動化するために広く用いられる方法として帯活動がある。本研究では、これらの理論を基に検証を行っていく。

## III 研究について

### 1 研究の仮説及び流れ

仮説：帯活動の3ヒントクイズを通じて「知識・技能」を習得するとともに、認識に関する知識を指導することで、それらを組み合わせながら身の回りの事柄について説明する思考力、判断力、表現力が育成されるのではないかと。

なお、本研究は令和2年度に筆者が担任した6年生での実践内容をまとめたものである。

「思考力等」の伸長については、具体的にどういった観点で伸びたと判断するかは議論の別れているところであるが、本稿では望月他（2003）の「手続き的知識」に類似する「発表語彙能力」を参考に、「表出した語彙数」を一つの判断基準とする。流れは、以下のとおりである（図3）。

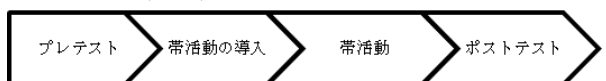


図3 研究の流れ

## 2 3 ヒントクイズについて

3 ヒントクイズとは、あるお題について英語でヒントを出すゲームである。例えば「りんご」がお題であれば、“fruits”, “red”, “round” とヒントを出し、相手に当ててもらおう活動である。

先の理論に倣うと、「赤は英語で“red”である」という宣言的知識（受容語彙）が帯活動によって自動化され（方法に関する手続き的知識、発表語彙）、「りんごを説明する」という目的に合わせて認識に関する知識（関連付けるなど）と統合して表出されるという行為であると整理できる。

## 3 テストの方法及び評価基準について

まず、プレテストの方法であるが、①別室に1人ずつ入室し、②裏返しにしてある3枚のカードを1枚ずつめくる。③描いてある絵（課題）について英語を使って説明するといった流れで行った。課題の内容は、学習指導要領を踏まえ、児童の身近なもの①野球（スポーツ）②キリン（動物）③柿（食べ物）を採用した。

評価基準に関して瀧沢（2020）は、思考力、判断力、表現力の評価のポイントは「正確さよりも、言語理解・使用の適切性を評価する」ことが大切であると述べている（p.14）。そこで、池田（2020）や瀧沢（2020）を参考に、評価基準を以下のように設定した（表7）。

表7 プレテスト及びポストテストの評価基準

	身の回りの事柄について 「話すこと」の思考力、判断力、表現力
A	外国の友達に説明するために、カテゴリー、色や形、大きさなど様々な特徴に注目しながら描写し（三つ以上）、足場がけなしで表現している。
B	外国の友達に説明するために、色や形、大きさなど（三つ程度）について教師からの足場がけがありながら表現している。
C	教師からの足場がけがあっても説明することが難しい。ほぼ日本語で説明してしまう。
AAA, AAB → A	右記、左記以外 → B
BCC, CCC → C	

## 4 プレテスト結果及び発話分析

表7を基に、7月末にプレテストを実施し、児童の課題①～③に対する評価を行った。その結果が表8のとおりである（パスをした解答は母数から除外している）。

表8 プレテスト結果（単位：人）n=30

	課題① （スポーツ）	課題②（動物）	課題③ （食べ物）	総合 評価
A	7	9	3	5
B	11	15	21	21
C	10	6	6	4

多くの児童が、担任からの足場がけがあれば表現できる段階であったが、自力で十分な表現をできる児童はほんのわずかであった。また、より客観的なデータを得るために藤森（2004）や申田他（2017）、望月他（2003）を参考に、録音をした児童の発話を以下の5項目から分析した（表9）。

\*なお、今回はポストテストの録音の際に数名分の発話が録音できていなかったため、どちらのテストでも録音ができている25名分の分析結果を掲載する。

表9 発話分析項目（ ）内は単位

①平均時間（秒）	課題解決までにかかった時間の平均
②発話開始（秒）	カードをめくってから最初の発話までの沈黙の長さ
③総ポーズ（秒）	課題終了までに発話がなかった沈黙の総時間数
④ポーズ割合（％）	③÷①をして算出された課題中の沈黙の割合
⑤語彙数（語）	児童が発話した語彙の数

表10 発話分析の結果（単位は表9を参照） n=25

	課題①	課題②	課題③	全体平均
①平均時間	44.39	39.39	50.25	44.87
②発話開始	24	15	16.8	18.6
③ポーズ	41.5	29.2	39.8	36.83
④ポーズ割合	93.4%	73%	79.23%	82%
⑤語彙数	4.05語	5.15語	5.15語	4.78語

表10を見ると、沈黙時間が非常に長く（①～③）、発話した語彙数も少ないことが読み取れる（④、⑤）。また、発話開始までかなりの時間を要していることが分かる（②）。この時の児童の認知段階をより詳細に把握するために、「テスト中の自分の頭の中の状態が一番近いものはどれか」という質問調査をした。質問項目は思考、判断、表現の段階に分けて設け（表11）、集計をした結果が以下のとおりである（図4）。

表11 プレテスト後の児童への質問項目

思考	何に注目すればいいかわからない
判断	なんとなく考えは出ているが、どれを言ったらいいかかわからない。
表現	言いたいことは決まっているが、それが英語で言えない。
困難なし	特に困るようなところがなかった。

テストで困難を感じたのはどの段階か

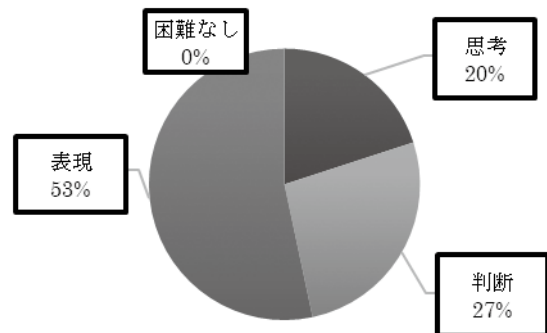


図4 表11のアンケートを集計した結果 n=31

アンケートの結果から、児童の半数近くが「何（またはどれ）を言えばいいかわからない」状態であり、もう半数は「言いたいけど言えない」状態であるということが読み取れる。これはいわゆる「関連付ける」等の認識に関する知識が不足し、対象物を構造的に見る力が不足している状態や、需要語彙が発表語彙の段階に至っていない状態であると推察できる。

これらの結果を受け、仮説実証の具体的手立てとして①「認識に関する知識獲得のための指導」、②「宣

言的知識（需要語彙）を方法に関する知識（発表語彙）につなげる継続的な場の設定」を設定した。

### 5 3ヒントクイズの導入（具体的手立て①）

まず、前述の①の指導のために、帯活動の導入の授業を行った。導入では、テストで出題した野球、キリンなどから連想される言葉をイメージマップに広げた。そして、それらの共通項を考え、「身の回りの物や事について説明するときはどんなことに注目すればよいか」を学習し、認識に関する知識の「多角的に見る」、「関連付ける」や「分類する」、「焦点化する」などの視点を児童に指導した。以下に児童の実際のワークシートの抜粋を記載する（図5、6）。

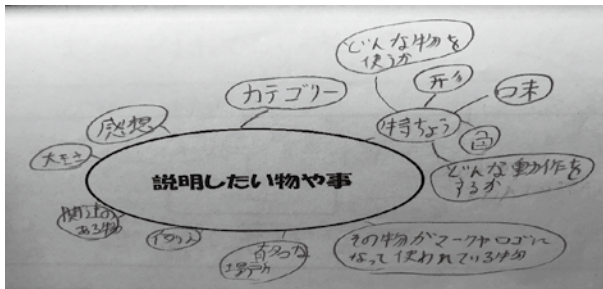


図5 説明したい物や事があった時、どんなことに注目すればいいか

今日の授業を通して感じたことや考えたこと、分かったことなどを書こう！  
伝わりなかつた時は、その物や事の特徴を伝えていけばいいかな  
いままでの思いと、伝わりなかつた時の対応もできるように、たのびで実際にやってみよう。

図6 学習に対する児童の感想（一部抜粋）

### 6 帯活動の実施（具体的手立て②）

導入を基に、具体的手立て②のために3ヒントクイズを週2回（水曜日、金曜日）の朝学習の時間に帯活動として行った。帯活動の流れは図7のとおりである。

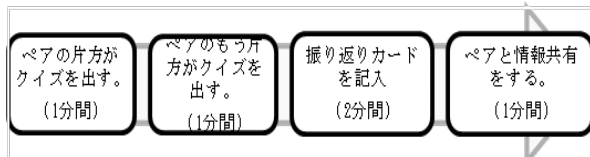


図7 3ヒントクイズの流れ

まず、ペアで交代にクイズを制限時間内に可能な限り出し合い、次に振り返りシート（図8）に工夫したことや気付いたことを記入する。なお、クイズのお題は、さいたま市が採用している検定教科書の“Blue Sky”の巻末にあるワードリストの中から児童が自由に選んで出題するようにした。

図8 3ヒントクイズ振り返りシート

振り返りシートには、クイズを出している時に「言いたかったけど言えなかった言葉」や「学習したけど思い出せなかった言葉」などをメモする Dilemma リストを設けた。振り返りシート記入の際に、該当する言葉があった際はこの欄に記入をするよう指導した。

振り返りカードに記入が終わったら、今回のクイズで Dilemma リストに記入した言葉や自分たちの発話について児童同士で交流する時間を取った。以下に児童が実際に記入したワークシートを掲載する（図9）。

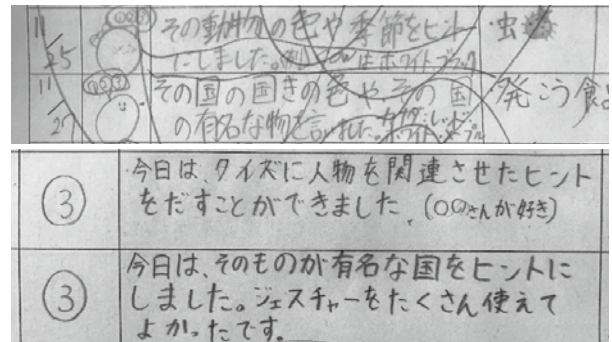


図9 振り返りシート（上：児童A 下：児童B）

児童AとBの記述から、それぞれ説明をする際に「関連付ける」や「多角的に見る」などの認識に関する知識を用いてクイズを考えていたことが読み取れる。

### 7 ポストテスト結果及び発話分析

上記の活動を2学期中に計30回ほど実施し、プレテストと同様の条件下で12月にポストテスト及び発話分析を行った（表12、13）。

表12 ポストテスト結果（単位：人） n=31

	課題① (スポーツ)	課題② (動物)	課題③ (食べ物)	総合評価
A	25	25	22	24
B	5	6	9	7
C	1	0	0	0

表13 発話分析結果 n=25（単位は表9を参照）

	課題①	課題②	課題③	全体平均
①平均時間	26.74	38.59	38.95	34.76
②発話開始	4.2	3.1	5.8	4.37
③ポーズ	17.3	21.21	22.09	20.2
④ポーズ割合	64.70%	54.96%	56.71%	59.20%
⑤語彙数	8.13 語	9.72 語	10.20 語	9.35 語

まず、評価に関しては、8割近くの児童が教師からの足場かけを必要とせず十分な表現ができる A 評価となった。

また、表13を表10（プレ）と比較すると①、②、③、④は大幅に短縮していることがわかる。さらに、⑤は倍近く増えていることが分かる。これらのことから、大きく二つの面での成長が考察できる。一つ目は、判断基準にもあるように、児童が短い時間の中で多くの発表語彙（手続き的知識）を表出できるようになったということである。二つ目は、発話開始までの時間が顕著に短くなり、瞬時に表現を組み立て、即興的な発話ができるようになったことである。

さらに、プレテストと同様のアンケート（図4）をポストテスト後にも実施した（図10）。



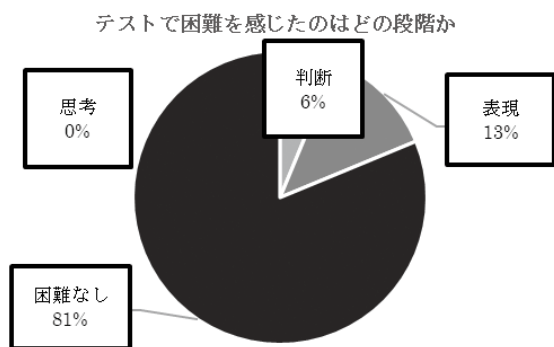


図 10 図 4 と同様のアンケートの集計結果 n=31

アンケートの結果から、児童の 8 割以上が「特に困難を感じなかった」と回答している。児童の実感としても、「どういったところに注目するといいか判断できた」言いたいことが英語で表現できた、という自己評価につながっている。これは未知の課題に対しても認識に関する知識を働かせ、継続的な帯活動の中で宣言的知識（需要語彙）が方法に関する知識（発表語彙）へと至り、それらを統合し、活用させながら取り組めるようになった結果ではないだろうか。

#### IV 児童の帯活動に対する自己評価と波及効果

今回の学習の総括として、2月に「この活動を通じて力がついたと思いますか」とアンケートを取ったところ 9 割近くの児童が「思う」「まあまあ思う」という肯定的な回答をした（図 11）。また、肯定的な回答をした児童に、「どんな力がついたと思うか」という自由記述欄を設けた。その分析の結果を下記に記載する（表 14）。自由記述には、①「説明力や語彙、表現」に関する記述が多く見られたほかに、②「相手意識」に関する記述が多く見られた。この「相手意識」に関して、ある児童 2 名の発話の変容から考察を行う（表 15、16）。

この活動を通じて力がついたと思いますか？

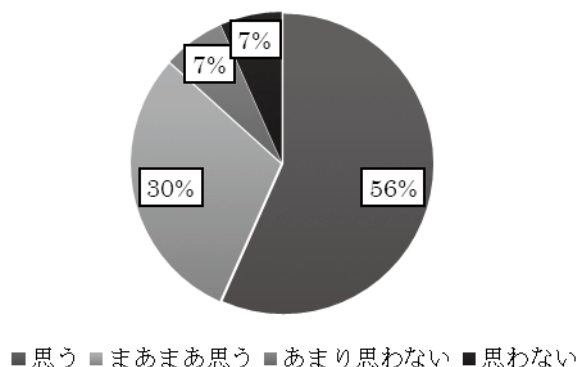


図 11 この活動を通じて力がついたと思いますか n=32

表 14 自由記述（一部抜粋） \* 重複回答あり

①説明力や語彙、表現に関する記述 (14人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人に説明する力がついた。</li> <li>・知らなかった単語が覚えられた</li> <li>・いろいろな表現の仕方が分かった。</li> <li>・習ったことの中で何が伝えられるか</li> <li>・言いたいことが英語で言えるようになった。</li> </ul>
③相手意識に関する記述 (9人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうやったら相手に伝わるか</li> <li>・どんな説明をしたら相手分かりやすかが分かった。</li> <li>・何について説明すれば相手分かりやすかが分かった。</li> <li>・伝わりやすく言う力が身についた。</li> </ul>
③瞬発性に関する記述 (4人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とっさにいろいろな表し方を思いつけるようになった。</li> </ul>

表 15 児童 A の発話比較表（発言のまま記載）

	児童 A	
	プレテスト	ポストテスト
課題① (スポーツ)	Ball, White, Black	<u>Category is sports.</u> ball
課題② (動物)	Yellow, <u>Animal</u> , Brown	<u>Category is animal.</u> Color is black and white. Ueno zoo
課題③ (食べ物)	<u>Fruit</u> Orange	<u>Category is food.</u> Prefecture is Osaka. Octopus

表 16 児童 B の発話比較表（発言のまま記載）

	児童 B	
	プレテスト	ポストテスト
課題① (スポーツ)	Use a ball. kick the ball	<u>It's a spot.</u> It use bat, small ball, cap. Run triangle base.
課題② (動物)	It's a tall. <u>It's a animal.</u> Yellow, cute.	<u>It's animal.</u> Black and white. It eat bamboo.
課題③ (食べ物)	<u>It's a fruit.</u> It's a orange. It's a sweet.	<u>It's food.</u> Small circle. Sause, mayonnaise. Osaka famous food.

太字下線部は、児童が課題の分類に言及した部分である。どちらの児童も、プレテストでは分類に関する発話の出現や順番が一定ではなかったが、ポストテストでは、どちらの児童も分類を始めに発話している。これは、日々の言語活動の中で、相手により伝わるように、「順序立てる」という新しい認識に関する知識を活用し、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えるなどを形成した」結果ではないかと推察する。

また、この観点から発話分析を行った結果、8 割程度の児童が同じような発話傾向にあった（表 17）。

表 17 分類を始めに発話した児童数 (単位:人)  
n=25

	課題① (スポーツ)	課題② (動物)	課題③ (食べ物)
プレ	10	11	17
ポスト	18	20	23

## VI 成果と課題

### 1 成果

「Ⅱ. 思考力、判断力、表現力について」で言及した理論を基に帯活動を実践した結果、判断基準である発表語彙の伸長に効果が見られた。また、課題に対して瞬時に発話を引き出す即興性や「順序立てる」という新たな認識に関する知識の獲得による発話の構造化などの波及効果も伺えた。

以上のことから、仮説の実証に一定の効果があるという示唆が得られた。しかし、今後に向けた課題も複数挙げられる。

### 2 課題

まず、外国語科における「思考力、判断力、表現力」の測定方法である。測定する際に何を具体的な観点に設定し、分析することで「思考力、判断力、表現力が育成された」と判断できるかは研究者の間でも議論が別れているところである。今回は望月他 (2003) の理論を判断基準としたが、今後、更なる研究が必要となるだろう。しかし、今回のように認識に関わる知識の獲得等は思考力、判断力、表現力育成の判断基準の一つになり得るのではない。

それに付随して、更なるデータの信頼性の確立が求められる。テスト内容や評価基準は著書や先行研究を基に設定したが、評価者は筆者であり、担当している学級のみで検証を行った。より高い信頼性獲得のために、複数教員による評価の実施や他学級の児童との比較を行い、仮説の実証をしていく必要がある。

また、今回の実践研究では、活動の純粋な効果を調査するため、系統立てた指導や単元との連携は行わなかった。しかし、着実な思考力等の育成のためには、系統立てた指導計画が必要不可欠である。例えば説明の中で児童の多くは“it is ~.”を頻繁に使用していたが、普段の授業では“You can ~.”や“I O O.”等の表現も学習している。それらと帯活動が結び付き、より豊かな表現力が身に付くような指導計画を作成していく必要がある。

さらに、「事実や事象に関する説明」は中学校・高等学校英語科の学習指導要領の言語活動にも位置付けがなされている。本実践を通じて身に付けた力を中学校・高等学校での資質・能力へと接続すること、加えて、中学校・高等学校への接続を意識した改善が必要である。

## VI 終わりと今後に向けて

本学級の児童が、3ヒントクイズについて「いつもやっていたゲームがこんなに英語を深められるゲームだとは思わなかった」と発言していた。また、ある児童は「今までは google 翻訳に頼っていたことが多かったけど、習ったことの中から自分の言いたいことが表現できるようになってよかった」と発言していた。筆者は、「学級担任にも実践がしやすい活動」を念頭に置き、馴染み深い活動にも理論を組み合わせることで教育的効果が出ることを立証したいという気持ちがある。

3ヒントクイズは、外国語活動の時代から、授業内のウォーミングアップ等で広く親しまれてきた活動である。これまでの英語教育の中で、諸先輩方が積み重ねてきた実践が、児童の思考力等を高める大きな手掛かりとなるかもしれない。そのような可能性を児童の姿から学ばせてもらった。今後は、どの先生方も活用しやすいよう、より汎用性の高い言語活動に改善し、授業との連携を図っていきたい。

そして、この実践が、この先の先生方の指導や児童の成長、英語教育の充実への一助になることを願って結びとさせていただきます。

## 引用・参考文献

- 中央教育審議会答申. (2015). 「教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チーム 参考資料『思考力・判断力・表現力等』についての整理のイメージ」. 文部科学省. (2017). 「小学校学習指導要領解説 外国語編」. 文部科学省. (2020). 「令和元年度学力・学習状況調査報告書【中学校/英語】」. 池田勝久 (編). (2020). 『小学校「5領域」評価事例集』 東京:教育開発研究所. 上田明子 (著). (2021). 『英語の会話とは-会話分析論から-』 東京:三省堂. 串田秀也・平本毅・林誠 (著). (2017). 『会話分析入門』 東京:勁草書房. 角屋重樹 (編). (2017). 『新学習指導要領における資質・能力と思考力・判断力・表現力』 東京:文溪堂. 白井泰弘 (著). (2008). 『外国語学習の科学-第二言語習得論とは何か』 東京:岩波書店. 瀧沢広人 (著) (2020). 『単元末テスト・パフォーマンステストの実例つき! 小学校外国語活動&外国語の新学習評価ハンドブック』 東京:明治図書. 田村学 (著). (2018). 『深い学び』 東京:東洋館. 田村学 (著). (2021). 『学習評価』 東京:東洋館. 林秀樹. (2017). 「第2章 必修教科等の研究 9 英語 B I に基づいた思考力、判断力、表現力向上のための授業案とその評価の開発」 『滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要』 第 59 集, 88-93. 藤森千尋. (2004). 「スピーチプロダクションの測定方法: 正確さ、流暢さ、複雑さ」 『関東甲信越英語教育学研究紀要』 第 18 卷, 41-52. 望月正道・相澤一美・投野由紀夫 (著). (2003). 『英語語彙の指導マニュアル』 東京:大修館. 望月正道・相澤一美・投野由紀夫 (著). (2003). 『英語語彙の指導マニュアル』 東京:大修館.

# Ⅱ 令和4年度研究論文募集要領

埼玉県連合教育研究会

研究論文を下記の要領で募集いたします。何とぞ奮ってご応募ください。

## 記

### 1 目的

日々の教育実践の中から生まれた研究を会員の皆様から募集し、これを広く発表することによって本県教育の振興に資する。

### 2 募集内容

教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動、進路指導・キャリア教育、視聴覚教育、教育心理・教育相談、特別支援教育、学校図書館教育等の児童生徒に直接かかわる実践的教育研究として、どのように計画し、仮説を立て実践し、さらに、その結果をどのように評価し、今後の教育実践にどう発展させるか等の研究であることとします。

### 3 応募資格

応募者は、県内の公立小・中・特別支援学校・義務教育学校等に勤務する教員（会員）の個人及びグループの研究（学校としての研究も含む）であることとします。

### 4 応募規程

- (1) 原稿の書式は、A4判縦長・横書き、横24字×縦46行×2段組で、パソコン入力（Word）により、4～6枚以内（写真・図表を含む）とし、文体は常体（「である」体）を原則とします。
- (2) 研究論文には「表紙」を付け、その上に「応募票」を添付してください。
- (3) 「表紙」には、①題名 ②教科等名前 ③勤務校 ④職名 ⑤氏名（グループ等代表者名）を記入してください。

### 5 応募票

- (1) 「応募票」は、ホームページの「研究論文応募要領等」からダウンロードしてください。
- (2) 「応募票」の電子データを希望される方は、下記電話・E-mailにて事務局までお申し出ください。
- (3) 「応募票」は、「個人研究」・「グループ研究」・「学校研究」別に「表紙」に添付してください。

### 6 応募上の留意点

- (1) 応募は、1人・1グループ・1学校1編とします。
- (2) 研究論文は、未発表・未応募のものに限ります。
- (3) 応募票の確約事項の順守をお願いします。
- (4) 応募された原稿は、返却しませんので、あらかじめご了承ください。

### 7 原稿等の提出

- (1) 提出期限 令和4年9月9日（金）まで
- (2) 「応募票」及び論文原稿等の提出については、事務局へ電子メールでの送信も併せてお願いします。

### 8 審査結果

審査結果は、令和4年12月中旬に各応募者に書面にて通知します。

### 9 表彰等

- (1) 最優秀賞・入選・佳作等に選ばれた研究論文は、令和4年度『研究集録付研究論文集』及びホームページへの掲載を行い、入賞者には、本会評議員会（総会）後の入賞者表彰式にて表彰を行います。
- (2) 研究資料費として入選論文には7万円（最優秀賞は10万円）、佳作論文には5万円、選外の応募者にも薄謝を進呈します。
- (3) 教職経験10年未満の方を対象に新人奨励賞（3万円）を設けています。

### 10 審査員

本部役員及び編集委員

### 11 応募先・問い合わせ先

〒330-0804 さいたま市大宮区堀の内町1-99 さいたま市立大宮東中学校内  
埼玉県連合教育研究会事務局 TEL 048-641-0808 FAX 048-645-1922

E-mail [saitamakenrengoukyouiku@jcom.home.ne.jp](mailto:saitamakenrengoukyouiku@jcom.home.ne.jp)

ホームページ URL <https://sairinkyoku.jp/>



## 令和4年度研究論文応募票

令和4年度研究論文応募票 【 個人研究用 】 ※は、未記入				
受付番号	※	※	教科名等	
題名				
勤務校	フリガナ			
職・氏名	職名	氏名(フリガナ)		
年齢		教職経験年数		
※ 確約事項	1 他のコンクール等に応募し、入賞された場合は、応募を自ら辞退することを確約します。 2 過去応募した同一または類似した内容の研究論文ではないことを確約します。			

埼玉県連合教育研究会

## 令和4年度研究論文応募票

令和4年度研究論文応募票 【 グループ研究・学校研究用 】 ※は、未記入						
受付番号	※	※	教科名等			
題名						
代表者 勤務校	フリガナ					
代表者 職・氏名	職名	氏名(フリガナ)			年齢	教職 経験 年数
研究者の構成						
※ 確約事項	1 他のコンクール等に応募し、入賞された場合は、応募を自ら辞退することを確約します。 2 過去応募した同一または類似した内容の研究論文ではないことを確約します。					

埼玉県連合教育研究会



令和 3 年度

○ 埼玉県連合教育研究会  
役員等名簿



## 令和3年度本部役員等

役 職	氏 名	勤 務 校	
会 長	田 中 民 雄	さいたま市立大宮東中学校	
副 会 長	高 後 仁	さいたま市立仲町小学校	
	川原田 一郎	上尾市立大谷中学校	
	中 島 秀 行	富士見市立勝瀬中学校	
	宇 野 聡 規	熊谷市立荒川中学校	
	坪 井 俊 治	吉川市立関小学校	
事 務 局 長	渡 辺 衛	さいたま市立大宮東中学校	
常任理事	さいたま	小林 正 美	さいたま市立大宮八幡中学校
	南 部	松 村 一 人	川口市立神根中学校
	南 部	嶋 田 弘 之	草加市立長栄小学校
	西部入間	五十嵐 和 彦	所沢市立宮前小学校
	西部比企	長 島 富 央	滑川町立月の輪小学校
	北部秩父	浅 見 博 美	長瀨町立長瀨第一小学校
	北部児玉	敷 地 昌 明	上里町立上里東小学校
	北部大里	荻 野 浩 和	深谷市立豊里中学校
	東部北埼玉	矢 島 司	加須市立原道小学校
	東部埼玉	鈴 木 恵 子	杉戸町立広島中学校
理 事	国 語	金 子 正	久喜市立太田小学校
	理 科	引 間 和 彦	さいたま市立尾間木小学校
	特別活動	樋 口 成 久	羽生市立須影小学校
	学校視聴覚	安 藤 義 仁	蓮田市立黒浜中学校
	中技術家庭科	安 藤 義 仁	蓮田市立黒浜中学校
監 事	藤 谷 健 二	富士見市立関沢小学校	
	森 田 健 二	熊谷市立籠原小学校	
	鈴 木 誠	杉戸町立泉小学校	
編 集 委 員 長	富 田 敦	さいたま市立土呂中学校	
編 集 委 員	吉 野 竜 一	埼玉大学教育学部附属小学校	
	三 浦 直 行	埼玉大学教育学部附属中学校	
	石 川 和 宏	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	
	小 代 美 智 子	さいたま市立道祖土小学校	
	大 島 綾 子	蕨市立南小学校	
幹 事	堀 昭 之	さいたま市立大宮東中学校	
	相 馬 兼 人	さいたま市立大宮東中学校	
	渡 辺 俊 行	さいたま市立大宮東中学校	

## 令和3年度教科等研究団体

No.	研 究 団 体 名	団 体 長 名	団 体 長 勤 務 校
		事 務 局 長 名	事 務 局 長 勤 務 校
1	埼 玉 県 国 語 教 育 研 究 会	金 子 正	久 喜 市 立 太 田 小 学 校
		吉 野 竜 一	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 小 学 校
2	埼 玉 県 書 写 教 育 研 究 会	柳 下 政 浩	さ い た ま 市 立 大 久 保 東 小 学 校
		秋 野 眞 由 美	さ い た ま 市 立 城 北 小 学 校
3	埼 玉 県 社 会 科 教 育 研 究 会	清 水 健 治	川 口 市 立 上 青 木 南 小 学 校
		及 川 恒 平	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 小 学 校
4	埼 玉 県 算 数 数 学 教 育 研 究 会	中 野 浩 義	川 越 市 立 初 雁 中 学 校
		神 谷 直 典	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 小 学 校
5	埼 玉 県 理 科 教 育 研 究 会	引 間 和 彦	さ い た ま 市 立 尾 間 木 小 学 校
		山 本 孔 紀	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 中 学 校
6	埼 玉 県 音 楽 教 育 連 盟	小 熊 利 明	川 越 市 立 川 越 第 一 中 学 校
		納 見 梢	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 小 学 校
7	埼 玉 県 美 術 教 育 連 盟	中 川 昇 次	さ い た ま 市 立 片 柳 中 学 校
		坂 井 貴 文	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 小 学 校
8	埼 玉 県 保 健 体 育 研 究 会	高 橋 利 明	新 座 市 立 新 座 中 学 校
		阿 部 健 作	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 中 学 校
9	埼 玉 県 英 語 教 育 研 究 会	青 野 保	蓮 田 市 立 黒 浜 西 中 学 校
		高 橋 太 一	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 中 学 校
10	埼 玉 県 道 徳 教 育 研 究 会	島 方 勝 弘	幸 手 市 立 幸 手 中 学 校
		正 籬 洋 子	春 日 部 市 立 八 木 崎 小 学 校
11	埼 玉 県 特 別 活 動 研 究 会	樋 口 成 久	羽 生 市 立 須 影 小 学 校
		吉 沢 猛	吉 見 町 立 西 が 丘 小 学 校
12	埼 玉 県 進 路 指 導 ・ キ ャ リ ア 教 育 研 究 会	堀 川 博 基	富 士 見 市 立 富 士 見 台 中 学 校
		根 本 博 樹	富 士 見 市 立 富 士 見 台 中 学 校
13	埼 玉 県 学 校 視 聴 覚 教 育 連 絡 協 議 会	安 藤 義 仁	蓮 田 市 立 黒 浜 中 学 校
		松 本 直 大	蓮 田 市 立 黒 浜 小 学 校
14	埼 玉 県 教 育 心 理 ・ 教 育 相 談 研 究 会	大 木 剛	東 松 山 市 立 南 中 学 校
		柿 沼 泰 之	東 松 山 市 立 南 中 学 校
15	埼 玉 県 特 別 支 援 教 育 研 究 会	小 山 悟	吉 川 市 立 吉 川 小 学 校
		石 川 和 宏	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 特 別 支 援 学 校
16	埼 玉 県 学 校 図 書 館 協 議 会	市 川 栄 子	鴻 巣 市 立 常 光 小 学 校
		中 井 美 穂	越 谷 市 立 大 相 模 中 学 校
17	埼 玉 県 中 学 校 技 術 ・ 家 庭 科 教 育 研 究 会	安 藤 義 仁	蓮 田 市 立 黒 浜 中 学 校
		柿 沼 幸 徳	蓮 田 市 立 黒 浜 西 中 学 校
18	埼 玉 県 小 学 校 家 庭 科 教 育 研 究 会	池 田 智 恵 子	吉 見 町 立 東 第 二 小 学 校
		渡 邊 は る か	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 小 学 校
19	埼 玉 県 生 活 科 ・ 総 合 的 な 学 習 の 時 間 教 育 研 究 会	中 居 武 司	行 田 市 立 泉 小 学 校
		横 田 典 久	埼 玉 大 学 教 育 学 部 附 属 小 学 校



## 令和3年度地域教育研究団体

旧事務所	No.	地 域 団 体 名	団 体 長 名 事務局長名	団 体 長 勤 務 校 事務局長勤務校
南 部	1	埼玉大学教育学部附属小学校	細川江利子 森田哲史	埼玉大学教育学部附属小学校 埼玉大学教育学部附属小学校
	2	埼玉大学教育学部附属中学校	安藤聡彦 高橋太一	埼玉大学教育学部附属中学校 埼玉大学教育学部附属中学校
	3	さいたま市教育研究会	高後仁 内田真人	さいたま市立仲町小学校 さいたま市立仲町小学校
	4	川口市教育研究会	松村一人 佐藤彰典	川口市立神根中学校 川口市立前川東小学校
	5	草加市教育研究会	嶋田弘之 長谷川淳	草加市立長栄小学校 草加市立長栄小学校
	6	蕨市教育研究会	平野雅代志 加藤清志	蕨市立中央東小学校 蕨市立中央東小学校
	7	戸田市教育研究会	鈴木研二 高田ひろみ	戸田市立戸田東中学校 戸田市立喜沢中学校
	8	志木市教育研究会	中平地仁 菊地雅和	志木市立宗岡第二中学校 志木市立宗岡第二中学校
	9	朝霞市教育研究会	嶋唐善人 松利明	朝霞市立朝霞第七小学校 朝霞市立朝霞第八小学校
	10	新座市教育研究会	若林南真 川南真一	新座市立新堀小学校 新座市立池田小学校
	11	和光市教育研究会	辻山英陽 丸山平	和光市立広沢小学校 和光市立広沢小学校
北 部	12	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	吉池川澤はる 池澤健	埼玉大学教育学部附属特別支援学校 埼玉大学教育学部附属特別支援学校
	13	鴻巣市教育研究会	荻野浩之 浦山拓之	鴻巣市立吹上小学校 鴻巣市立吹上小学校
	14	北本市教育研究会	安細井一也 細井貴弘	北本市立南小学校 北本市立南小学校
	15	上尾市教育研究会	佐々木智美 須田治茂	上尾市立西中学校 上尾市立西中学校
	16	桶川市教育研究会	杉田勝弘 恩田誠	桶川市立桶川東小学校 桶川市立桶川東小学校
	17	伊奈町教育研究会	関口育也 堀川均	伊奈町立小針小学校 伊奈町立小針小学校
入 間	18	川越市教育研究会	吉野和仁 御器谷宏志	川越市立古谷小学校 川越市立古谷小学校
	19	所沢市教育研究会	五十嵐和彦 瀬川英二	所沢市立宮前小学校 所沢市立三ヶ鳥小学校
	20	飯能市教育研究会	新井均 梅村亮	飯能市立加治中学校 飯能市立美杉台小学校
	21	日高市教育研究会	松崎努 藤倉義弘	日高市立武蔵台中学校 日高市立高麗川中学校
	22	狭山市教育研究会	中島敏也 島田大岳	狭山市立狭山台小学校 狭山市立狭山台小学校
	23	入間市教育研究会	富井弘 斉藤徹	入間市立黒須小学校 入間市立黒須小学校
	24	富士見市教育研究会	大小嶋仁 小澤雄一	富士見市立水谷小学校 富士見市立水谷小学校
	25	ふじみ野市教育研究会	星野和久子 小林美穂	ふじみ野市立元福小学校 ふじみ野市立元福小学校
	26	坂戸市教育研究会	田中孝次 贄田悠	坂戸市立浅羽野中学校 坂戸市立浅羽野中学校
	27	鶴ヶ島市教育研究会	竹本文男 立元亮	鶴ヶ島市立西中学校 鶴ヶ島市立西中学校
	28	越生班教育研究会	岩出晃 岩瀬和也	毛呂山町立毛呂山小学校 毛呂山町立毛呂山小学校

旧事務所	No.	地 域 団 体 名	団 体 長 名 事務局長名	団 体 長 勤 務 校 事務局長勤務校
入間	29	三 芳 町 教 育 研 究 会	間 中 千 恵 子 木 内 隆 光	三 芳 町 立 上 富 小 学 校 三 芳 町 立 上 富 小 学 校
	30	東 松 山 市 教 育 研 究 会	鈴 木 寿 実 秋 山	東 松 山 市 立 松 山 第 一 小 学 校 東 松 山 市 立 松 山 第 一 小 学 校
比 企	31	小 川 班 教 育 研 究 会	福 保 田 好 伸 保 泉 耕 司	小 川 町 立 み どり が 丘 小 学 校 小 川 町 立 み どり が 丘 小 学 校
	32	菅 谷 班 教 育 研 究 会	長 栗 島 富 央 栗 田 智 子	滑 川 町 立 月 の 輪 小 学 校 滑 川 町 立 月 の 輪 小 学 校
	33	玉 川 班 教 育 研 究 会	向 佐 藤 正 人 藤 英 一	鳩 山 町 立 今 宿 小 学 校 鳩 山 町 立 今 宿 小 学 校
	34	川 島 教 育 研 究 会	市 齊 川 俊 実 藤 均	川 島 町 立 川 島 中 学 校 川 島 町 立 川 島 中 学 校
	35	吉 見 教 育 研 究 会	池 栗 田 智 恵 子 栗 原 洋 人	吉 見 町 立 東 第 二 小 学 校 吉 見 町 立 東 第 二 小 学 校
秩父	36	秩 父 教 育 研 究 会	浅 坂 見 本 博 浩 坂 本 浩 朗	長 瀨 町 立 長 瀨 第 一 小 学 校 長 瀨 町 立 長 瀨 第 一 小 学 校
児玉	37	児 玉 郡 本 庄 市 教 育 研 究 会	敷 熊 地 谷 昌 明 熊 谷 隆 宏	上 里 町 立 上 里 東 小 学 校 上 里 町 立 上 里 東 小 学 校
大 里	38	熊 谷 市 教 育 研 究 会	宇 野 柳 聡 規 高 柳 明 子	熊 谷 市 立 荒 川 中 学 校 熊 谷 市 立 荒 川 中 学 校
	39	深 谷 市 教 育 研 究 会	荻 野 浩 和 川 村 達 也	深 谷 市 立 豊 里 中 学 校 深 谷 市 立 豊 里 中 学 校
	40	寄 居 町 教 育 研 究 会	小 柳 百 代 山 田 和 彦	寄 居 町 立 男 衾 小 学 校 寄 居 町 立 男 衾 小 学 校
北 埼	41	行 田 市 教 育 研 究 会	大 久 保 明 浩 森 田 美 智 子	行 田 市 立 須 加 小 学 校 行 田 市 立 中 央 小 学 校
	42	加 須 市 教 育 研 究 会	矢 吉 鳥 澤 三 千 男 吉 澤 三 千 男	加 須 市 立 原 道 小 学 校 加 須 市 立 原 道 小 学 校
	43	羽 生 市 教 育 研 究 会	小 五 十 峯 由 起 正 十 嵐 正	羽 生 市 立 羽 生 北 小 学 校 羽 生 市 立 羽 生 北 小 学 校
埼 葛	44	春 日 部 市 教 育 研 究 会	横 渡 崎 剛 志 渡 部 里 恵	春 日 部 市 立 武 里 西 小 学 校 春 日 部 市 立 武 里 西 小 学 校
	45	越 谷 市 教 育 研 究 会	木 下 崎 真 理 下 崎 敬 之	越 谷 市 立 千 間 台 小 学 校 越 谷 市 立 千 間 台 小 学 校
	46	久 喜 市 教 育 研 究 会	大 佐 藤 正 晃 平 佐 藤 晃 平	久 喜 市 立 本 町 小 学 校 久 喜 市 立 本 町 小 学 校
	47	三 郷 市 教 育 研 究 会	廣 石 木 友 和 昭 石 井 広 昭	三 郷 市 立 南 中 学 校 三 郷 市 立 南 中 学 校
	48	蓮 田 市 教 育 研 究 会	設 武 樂 博 文 武 井 理	蓮 田 市 立 蓮 田 南 中 学 校 蓮 田 市 立 蓮 田 南 中 学 校
	49	幸 手 市 教 育 研 究 会	樋 富 口 智 子 徳 富 永 一 徳	幸 手 市 立 上 高 野 小 学 校 幸 手 市 立 上 高 野 小 学 校
	50	八 潮 市 教 育 研 究 会	石 森 嶋 雅 和 樹 森 嶋 正 樹	八 潮 市 立 潮 止 小 学 校 八 潮 市 立 潮 止 小 学 校
	51	杉 戸 町 教 育 研 究 会	鈴 木 田 誠 士 小 田 岳 士	杉 戸 町 立 泉 小 学 校 杉 戸 町 立 泉 小 学 校
	52	吉 川 市 教 育 研 究 会	高 橋 島 始 誠 長 橋 誠	吉 川 市 立 東 中 学 校 吉 川 市 立 東 中 学 校
	53	松 伏 町 教 育 研 究 会	星 野 健 一 修 名 取 宏 修	松 伏 町 立 金 杉 小 学 校 松 伏 町 立 金 杉 小 学 校
	54	白 岡 市 教 育 研 究 会	高 黒 橋 川 浩 行 黒 川 昇 行	白 岡 市 立 西 小 学 校 白 岡 市 立 西 小 学 校
	55	宮 代 町 教 育 研 究 会	小 六 山 裕 之 巨 六 平 巨	宮 代 町 立 東 小 学 校 宮 代 町 立 東 小 学 校
入間地区連合教育研究会		石 井 伸 明 一 原 雅 一	所 沢 市 立 美 原 小 学 校 所 沢 市 立 牛 沼 小 学 校	
埼 葛 連 合 教 育 研 究 会		鈴 木 恵 子 秋 間 隆 司	杉 戸 町 立 広 島 中 学 校 杉 戸 町 立 広 島 中 学 校	



# あ と が き



ここに、令和3年度埼玉県連合教育研究会の「研究集録付研究論文集」をまとめることができました。原稿をお寄せくださいました各教科等研究団体及び地域研究団体並びに研究論文入賞者の皆様に、深く感謝申し上げます。

本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応に追われる毎日だったにもかかわらず、県内各研究団体が日ごろの教育活動を礎とした研究の取組について、原稿をお寄せくださり、県内に広く研究内容や成果を共有できますことは、本県の先生方の教育への情熱を感じるとともに、心強くもあり、頼もしい思いでいっぱいです。

本年度は、11編の研究論文が県下各地から寄せられました。(校種別では小学校7編、中学校3編、特別支援学校1編)応募者の教員経験年数は、3年目から35年目まででした。経験年数10年未満の新進気鋭の先生4名の応募があったことは、埼玉教育にとって本当に心強い思いでした。

また、研究に継続性のある論文も目立ちました。一つの研究課題を複数年、複数校で継続して研究を行うことにより、実践から得られるデータの信ぴょう性が高くなり、論文としての価値がより高まると編集委員会の中でも評価されました。

これらにより、本年度の研究論文集は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践や児童生徒・地域の実態を踏まえた特色ある教育活動などを主題として、各地域でこれからの埼玉県全体の教育を担っていく様々な年代の先生方による貴重な実践に基づく研究発表の場とすることができました。

編集委員会では慎重に審査を行い、この中から「入選論文」3編、「佳作論文」1編、「新人奨励賞論文」1編を入賞作といたしました。入賞された論文に共通した高い評価として、

- ① 実践に基づいた授業実践であること
- ② 研究動機や理論、仮説、手立てが明確で、筋の通った研究であること
- ③ データがよく取れていて、確かな情報に基づいた分析をしていること

などが挙げられます。

残念ながら選に漏れた研究論文につきましても、児童生徒の実態をよくとらえ、「児童生徒が生き生きと活動する授業にしたい」「ねらいや身に付けさせたい力を明確にした授業にしたい」という授業改善の意欲にあふれる論文やこれまで目が付けられなかった独自性や新鮮さが見られた創意に満ちた論文もあり、教育研究としての価値は高いものがあつたと全ての編集委員が認めるところです。

「研究集録付研究論文集」に付しました研究論文をお読みいただき、県内各会員の皆様の明日からの実践にお役立ていただければ幸いです。

結びに、今回応募くださいました先生方に深甚なる感謝を申し上げますとともに、願わくは次年度におきましても、これらの論文に触発され、確かな実践に裏打ちされた貴重な教育研究論文が幅広い年代の先生方から、また県内各地から結集されますことを期待しております。

編集委員長 冨田 敦 さいたま市立土呂中学校長

令和3年度 埼玉県連合教育研究会「研究集録付研究論文集」

---

令和4年3月16日 印刷

令和4年3月16日 発行

発行者 埼玉県連合教育研究会

会長 田中民雄

印刷所 関東図書株式会社

TEL 048 (862) 2901

---

# 埼玉県市町村マップ



- 越生班教育研究会【越生町・毛呂山町】
- 秩父教育研究会【秩父市・横瀬町・小鹿野町・皆野町・長瀨町】
- 児玉郡本庄市教育研究会【本庄市・上里町・美里町・神川町】
- 小川班教育研究会【小川町・東秩父村】
- 菅谷班教育研究会【滑川町・嵐山町】
- 玉川班教育研究会【鳩山町・ときがわ町】